

浪江町 住民意向調査 報 告 書

平成26年3月

復興庁
福島県
浪江町

浪江町 住民意向調査

報告書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	22
3-1-4 住居形態	32
3-1-5 自動車保有	38
3-1-6 ペットの有無	39
3-2 復興公営住宅の入居意向	40
3-2-1 復興公営住宅への入居希望	40
3-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由	44
3-2-3 入居を希望する地域と家族構成	45
3-2-4 分散して入居する場合の住居形態	50
3-2-5 分散して避難している家族との同居意向	51
3-2-6 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由	52
3-2-7 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能	56
3-2-8 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス	58
3-2-9 復興公営住宅以外の避難期間中の住居	60
3-2-10 現在の住居で継続して暮らしたい理由	62
3-2-11 避難期間中、転居を希望する自治体	65
3-2-12 避難期間中、転居する場合の住宅形態	67
3-2-13 避難期間中の住宅や居住環境についての意見	69
3-2-14 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること	71

3-3 将来の意向	73
3-3-1 今後の職業についての意向	73
3-3-2 職場を選ぶ際に重要視すること	83
3-3-3 浪江町への帰還意向	84
3-3-4 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報	89
3-3-5 帰還する場合の世帯構成・人数	93
3-3-6 帰還する場合の住居形態	95
3-3-7 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕	99
3-3-8 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	101
3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由	103
3-3-10 帰還しない場合に居住したい自治体	106
3-3-11 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態	111
3-3-12 帰還しない場合に今後の生活において求める支援	112
3-4 意見・要望	114
IV 参 考 資 料	127
4-1 使用調査票	129

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、浪江町住民の復興公営住宅の希望など、避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	浪江町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 9,656 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 25 年 8 月 9 日（金）～平成 25 年 8 月 23 日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、浪江町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 6,132 世帯（有効回収率 63.5%）

1-5 報告書の見方

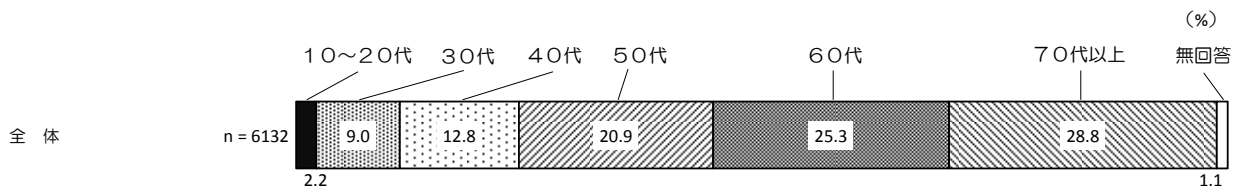
- ・調査数（ n = Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

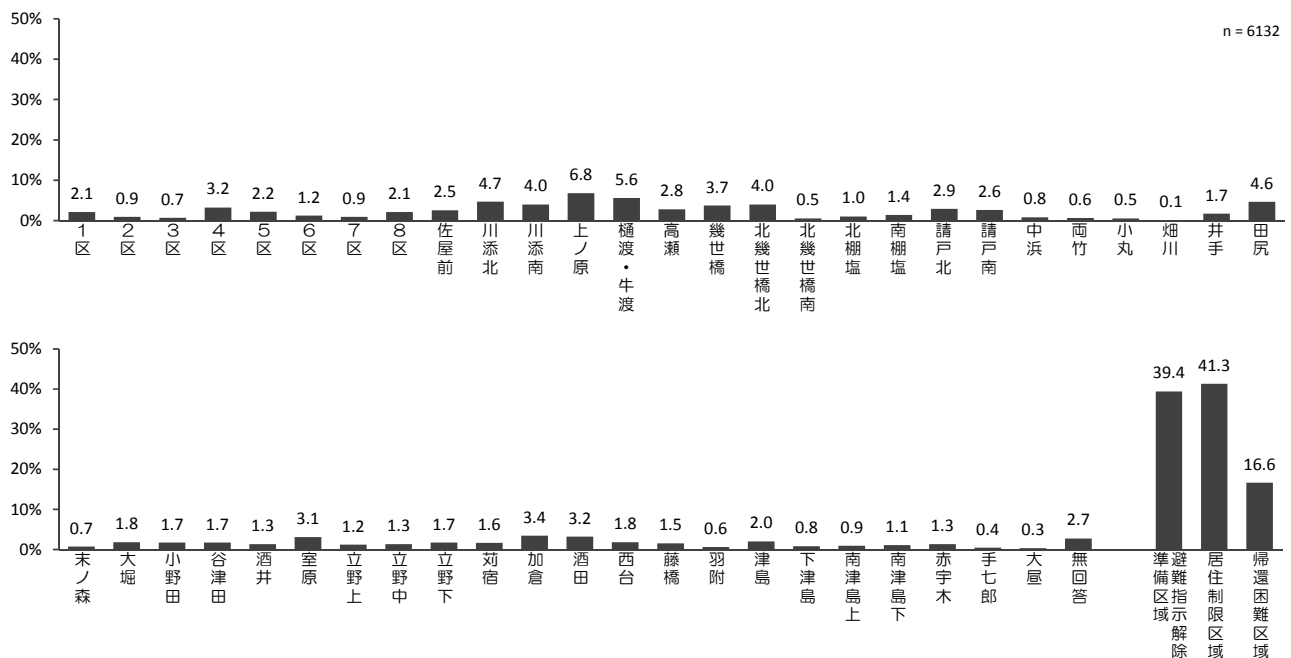
(1) 年齢

＜図表2-1-1 年齢＞



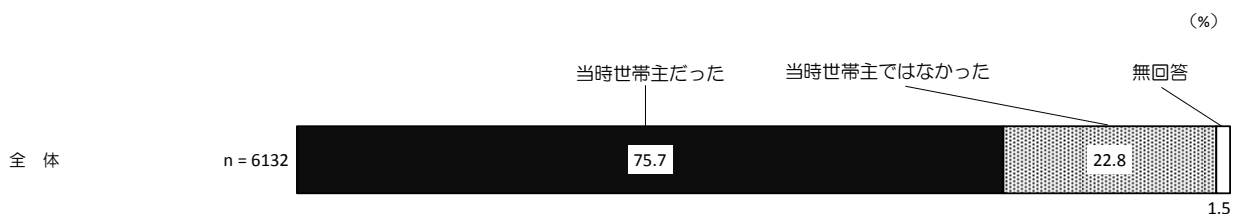
(2) 震災発生当時居住していた行政区

＜図表2-1-2 居住行政区＞



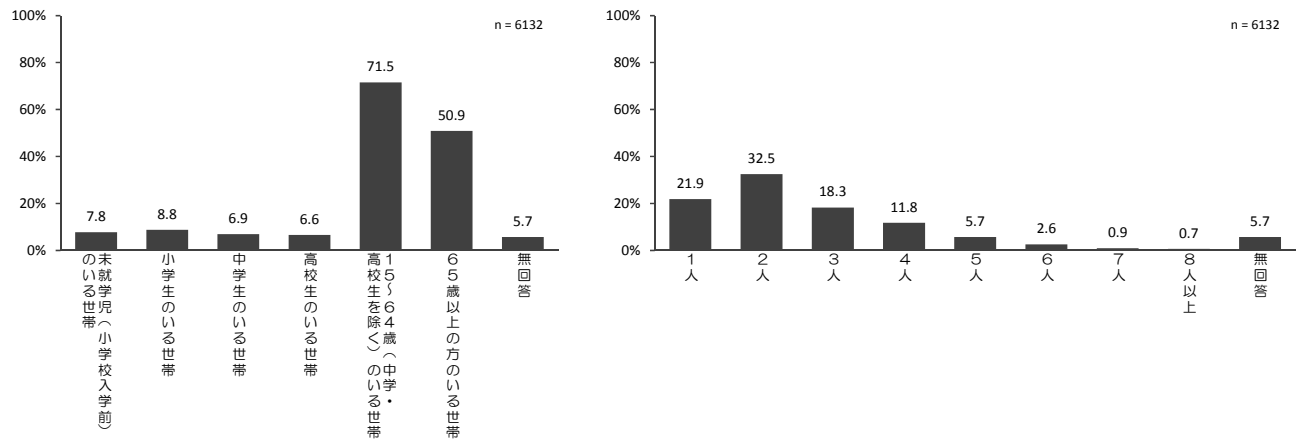
(3) 震災発生当時の世帯での立場

＜図表2-1-3 震災発生当時の世帯での立場＞

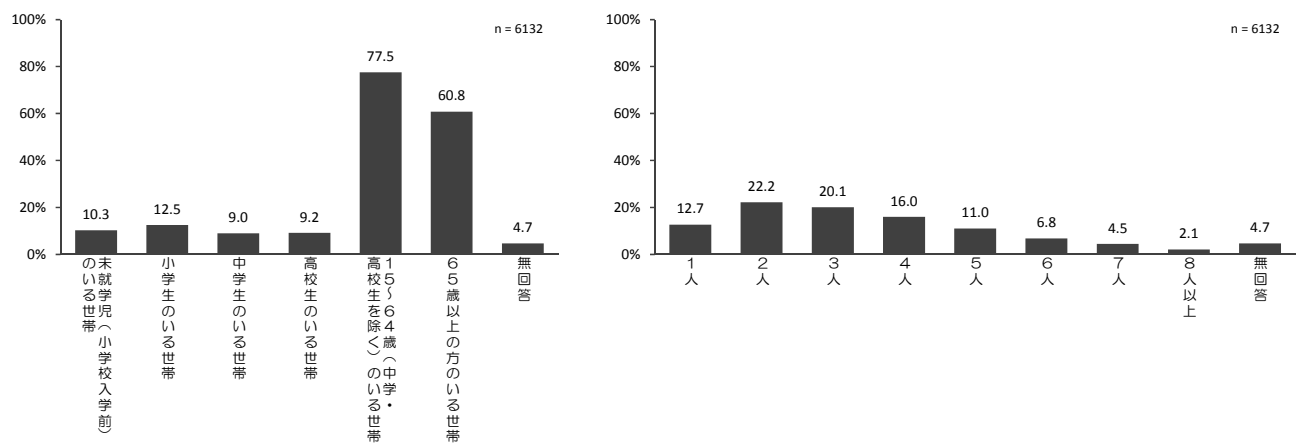


(4) 世帯構成・人数

＜図表2-1-4 現在の世帯構成・人数＞

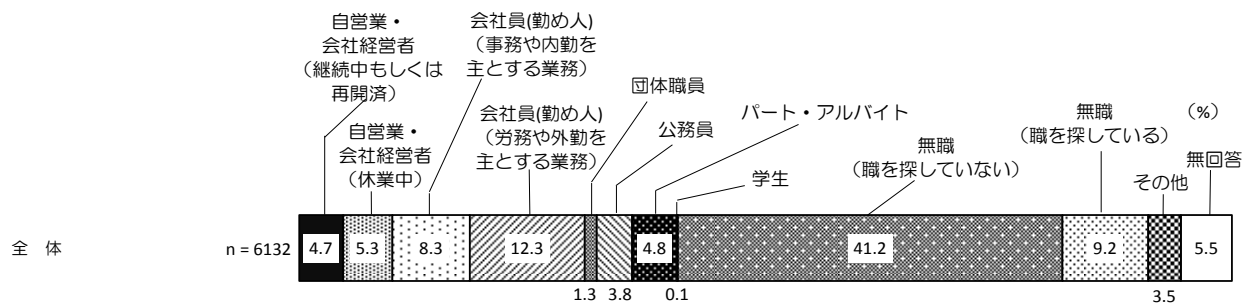


＜図表2-1-5 震災発生当時の世帯構成・人数＞

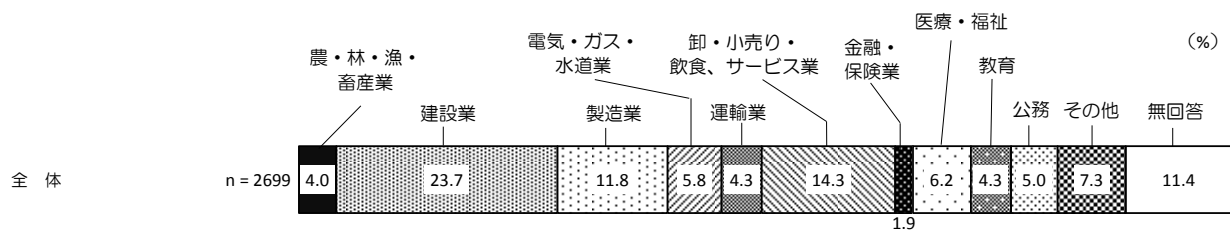


(5) 職業

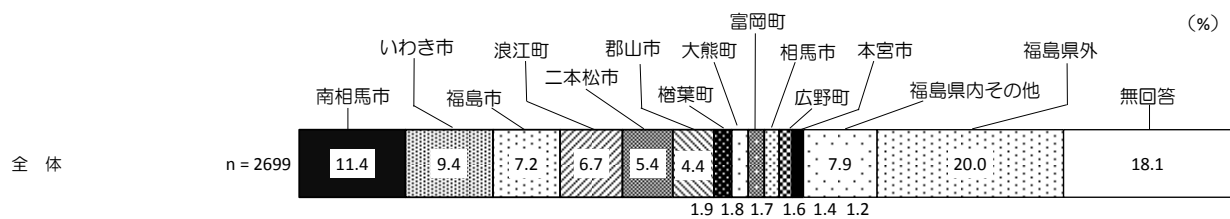
<図表2-1-6 現在の職業（就業形態別）>



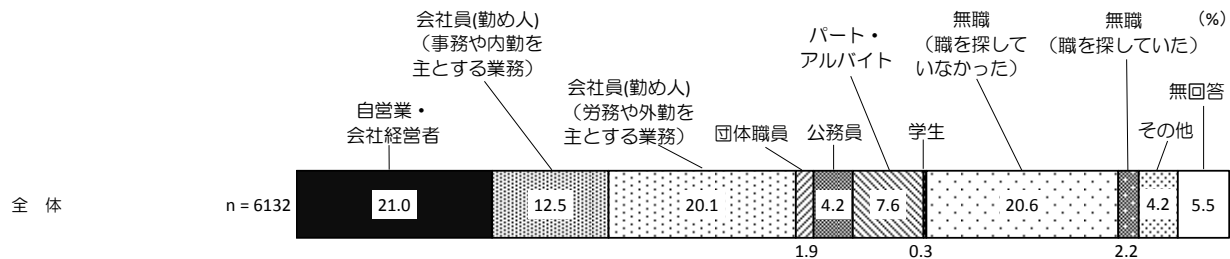
<図表2-1-7 現在の業種>



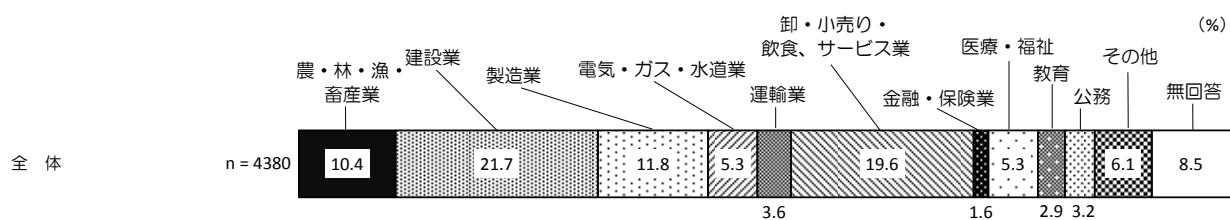
<図表2-1-8 現在の就業先>



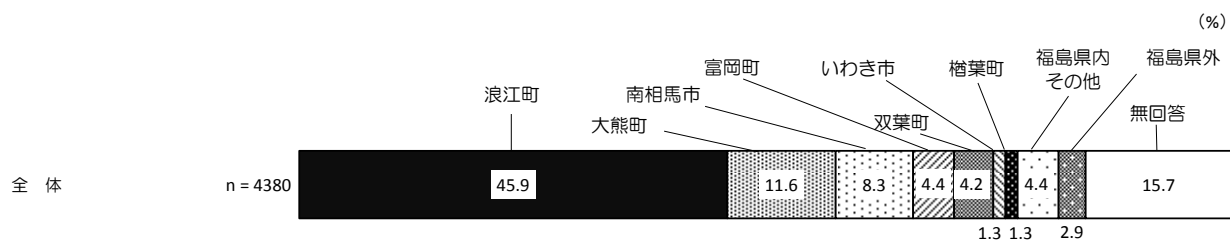
＜図表２－１－９ 震災発生当時の職業（就業形態別）＞



＜図表２－１－１０ 震災発生当時の業種＞

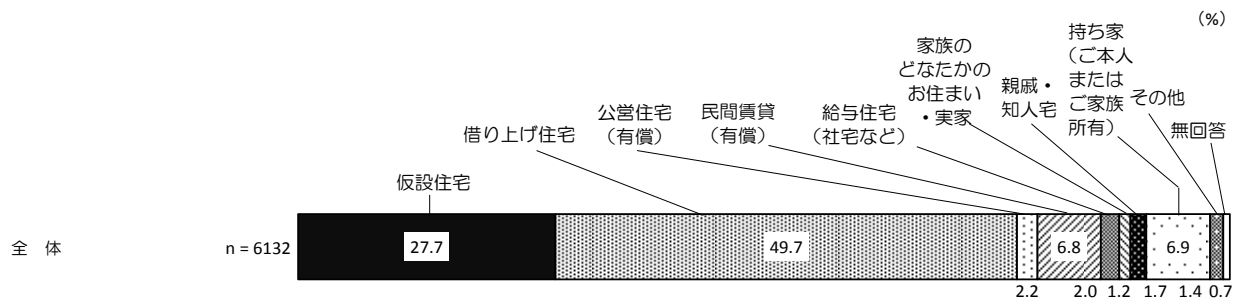


＜図表２－１－１１ 震災発生当時の就業先＞

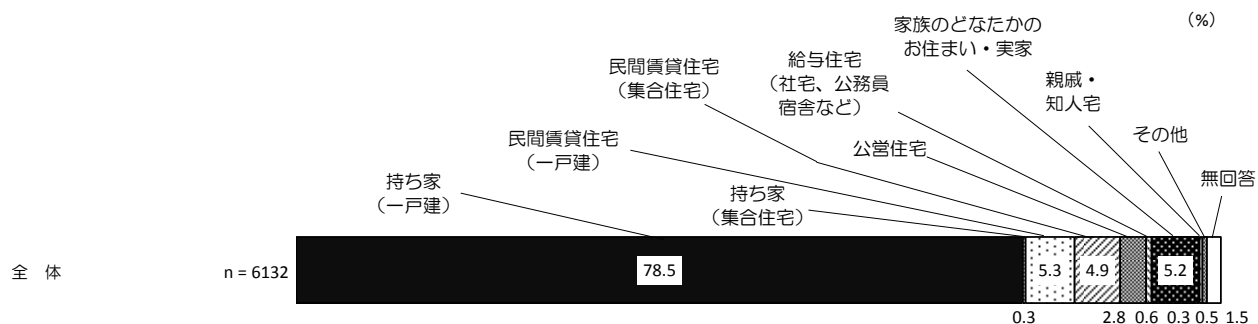


(6) 住居形態

＜図表２－１－１２ 現在の住居形態＞



＜図表２－１－１３ 震災発生当時の住居形態＞



Ⅲ 調査結果

3-1 現在の状況

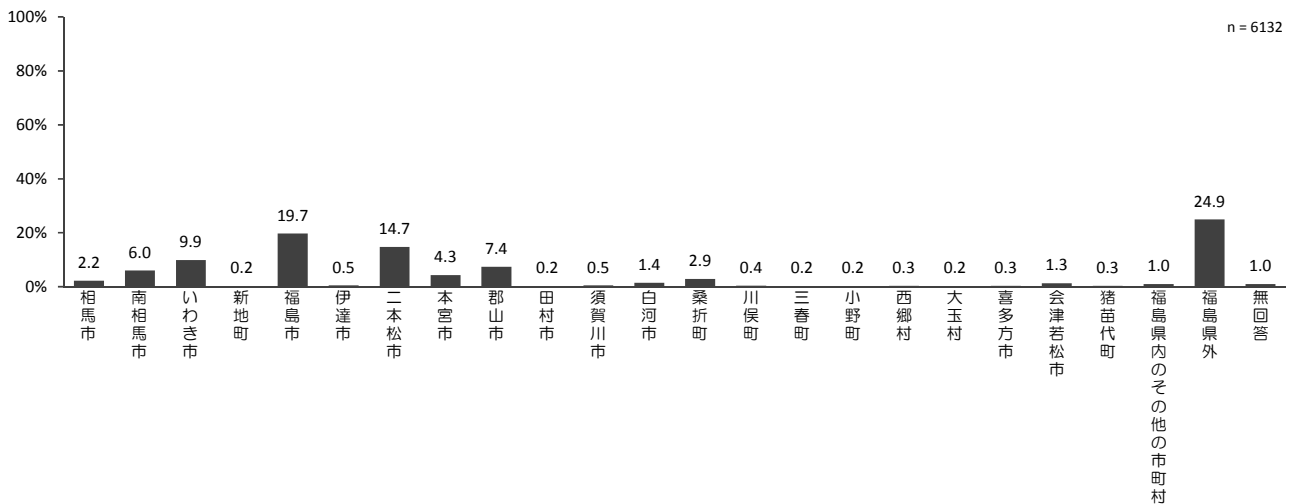
3-1-1 現在の避難先自治体

問7 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

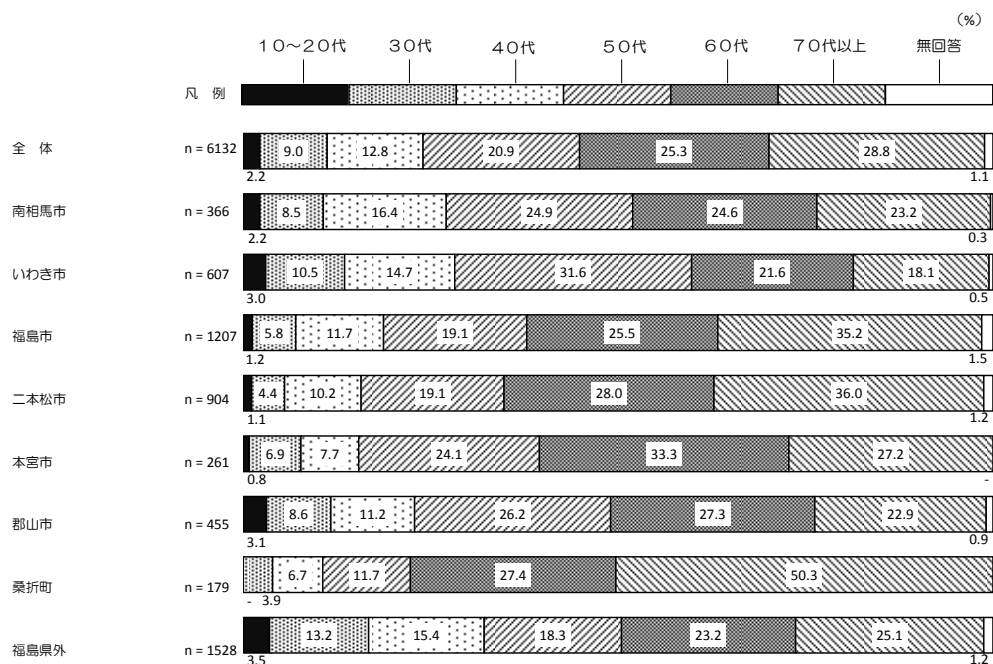
現在の避難先自治体については、福島県内では「福島市」が19.7%と最も高く、次いで「二本松市」が14.7%、「いわき市」が9.9%となっている。「福島県外」への避難も24.9%と高い。

避難先として主な自治体について、世帯主の年齢構成をみると、いずれの自治体でも「60代」以上の高齢層の割合が高く、桑折町では8割に近い。一方、南相馬市、いわき市、郡山市、福島県外では「30代」以下の若年層が1割を超えており、他の自治体と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-1-1 現在の避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の世帯主の年齢構成>



Ⅲ 調 査 結 果

震災発生時の居住行政区別にみると、「福島市」では、1区（31.0%）、6区（32.0%）、南棚塩（34.5%）、中浜（31.9%）、「二本松市」では、小丸（36.7%）、羽附（38.5%）、津島（33.3%）、下津島（32.6%）、赤宇木（31.6%）で3割を超え、割合が高くなっている。

また、「福島県外」は、5区（37.0%）、北棚塩（36.1%）、両竹（37.8%）では3割半ばを超え、割合が高くなっている。

なお、避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域別にみると、概ね全体と傾向が同じである。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（居住行政区別）>

		南 相 馬 市	い わ き 市	福 島 市	二 本 松 市	本 宮 市	郡 山 市	桑 折 町	福 島 県 外	(%)
	n									
全 体	6132	6.0	9.9	19.7	14.7	4.3	7.4	2.9	24.9	
1 区	129	3.9	7.8	31.0	10.9	3.1	4.7	3.1	24.8	
2 区	56	12.5	12.5	12.5	14.3	5.4	5.4	3.6	30.4	
3 区	44	6.8	9.1	27.3	2.3	4.5	6.8	4.5	31.8	
4 区	198	6.6	9.1	20.7	15.7	4.5	7.1	3.0	24.2	
5 区	135	7.4	5.2	22.2	11.1	2.2	6.7	4.4	37.0	
6 区	75	8.0	16.0	32.0	10.7	-	-	6.7	18.7	
7 区	53	3.8	11.3	28.3	7.5	3.8	7.5	1.9	28.3	
8 区	131	4.6	9.9	21.4	15.3	0.8	5.3	4.6	25.2	
佐屋前	154	1.9	7.1	21.4	16.9	1.3	5.8	3.2	31.8	
川添北	286	5.2	10.8	20.3	14.0	1.0	9.4	1.7	28.0	
川添南	246	6.9	9.3	15.4	11.4	2.4	12.2	6.1	30.1	
上ノ原	418	5.7	12.7	16.7	15.1	4.5	6.7	4.1	27.3	
樋渡・牛渡	341	7.0	11.1	20.5	17.0	2.9	3.8	1.2	25.5	
高瀬	169	10.7	13.6	16.0	13.0	3.6	10.7	4.1	20.1	
幾世橋	224	6.7	10.3	17.9	11.2	1.8	11.6	1.8	30.4	
北幾世橋北	247	7.3	8.9	16.6	11.3	7.3	8.9	2.4	24.3	
北幾世橋南	28	7.1	7.1	21.4	7.1	3.6	14.3	3.6	17.9	
北棚塩	61	4.9	16.4	19.7	3.3	8.2	6.6	1.6	36.1	
南棚塩	87	11.5	11.5	34.5	4.6	4.6	4.6	-	18.4	
請戸北	178	4.5	12.4	23.6	12.9	1.1	5.1	1.7	28.1	
請戸南	159	4.4	12.6	23.3	18.2	2.5	4.4	1.3	26.4	
中浜	47	4.3	19.1	31.9	14.9	2.1	10.6	-	14.9	
両竹	37	5.4	13.5	27.0	10.8	2.7	-	-	37.8	
小丸	30	6.7	13.3	16.7	36.7	3.3	3.3	-	13.3	
畑川	9	-	11.1	-	44.4	11.1	11.1	-	22.2	
井手	105	4.8	10.5	22.9	23.8	3.8	6.7	1.9	15.2	
田尻	282	7.4	9.6	12.1	13.8	4.3	11.0	3.5	28.0	
末ノ森	42	11.9	11.9	14.3	23.8	2.4	9.5	-	9.5	
大堀	112	7.1	10.7	15.2	6.3	10.7	10.7	0.9	26.8	
小野田	105	4.8	17.1	7.6	15.2	3.8	5.7	1.0	26.7	
谷津田	102	4.9	16.7	19.6	10.8	3.9	5.9	3.9	25.5	
酒井	80	5.0	15.0	18.8	6.3	1.3	20.0	1.3	25.0	
室原	189	7.9	9.5	20.1	12.2	5.8	7.9	4.8	22.8	
立野上	72	4.2	8.3	19.4	16.7	11.1	4.2	1.4	23.6	
立野中	78	6.4	3.8	17.9	15.4	10.3	9.0	1.3	23.1	
立野下	104	6.7	16.3	19.2	21.2	3.8	2.9	4.8	17.3	
刈宿	97	5.2	16.5	24.7	12.4	2.1	11.3	-	18.6	
加倉	206	3.4	8.7	20.9	16.5	3.4	6.8	1.9	26.2	
酒田	195	6.7	5.6	17.9	11.8	7.7	9.2	4.1	25.6	
西台	111	4.5	8.1	17.1	17.1	8.1	9.0	-	27.0	
藤橋	94	8.5	6.4	19.1	12.8	5.3	5.3	1.1	34.0	
羽附	39	2.6	2.6	23.1	38.5	7.7	5.1	-	2.6	
津島	123	1.6	1.6	25.2	33.3	7.3	3.3	3.3	10.6	
下津島	46	4.3	2.2	19.6	32.6	8.7	4.3	4.3	10.9	
南津島上	54	3.7	-	20.4	25.9	13.0	5.6	3.7	18.5	
南津島下	68	2.9	2.9	27.9	22.1	8.8	10.3	13.2	2.9	
赤宇木	79	6.3	1.3	24.1	31.6	6.3	6.3	6.3	11.4	
手七郎	25	4.0	-	28.0	28.0	8.0	8.0	-	8.0	
大屋	17	17.6	-	17.6	5.9	11.8	-	17.6	11.8	
避難指示解除 準備区域	2417	6.3	10.3	21.8	12.6	3.6	7.0	2.6	27.0	
居住制限区域	2532	6.0	11.0	17.7	14.6	4.0	7.8	3.0	26.2	
帰還困難区域	1018	5.6	6.9	20.9	21.4	6.8	8.0	3.7	16.0	

3-1-2 世帯構成・人数

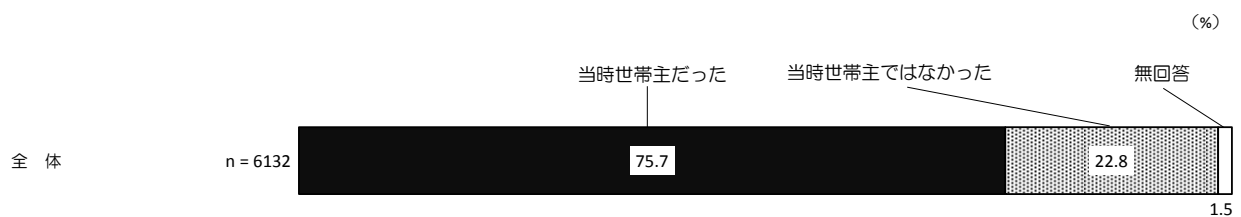
(1) 震災発生当時の世帯での立場

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

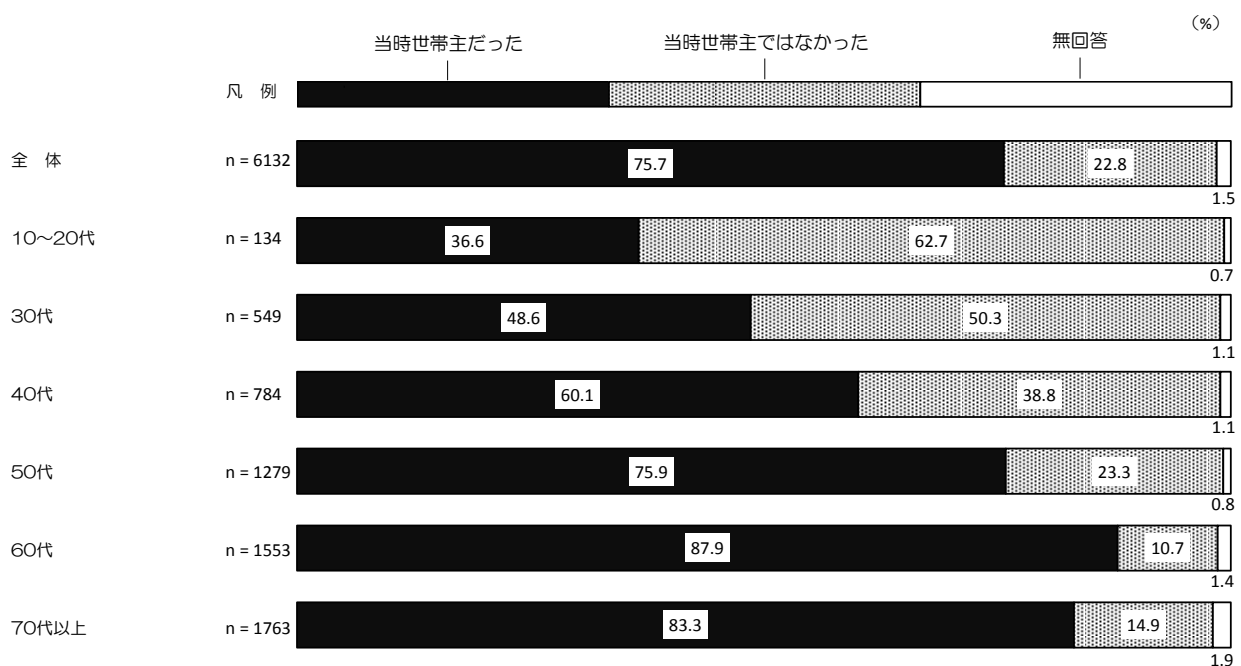
震災発生当時の世帯での立場については、「当時世帯主だった」が75.7%と7割を超えている。

世帯主の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるに従って、「当時世帯主だった」の割合が高くなっており、50代(75.9%)、60代(87.9%)、70代以上(83.3%)が約8割となっている。

＜図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯での立場＞



＜図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯での立場（世帯主の年齢別）＞



（２）現在の世帯構成・人数

問８ 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

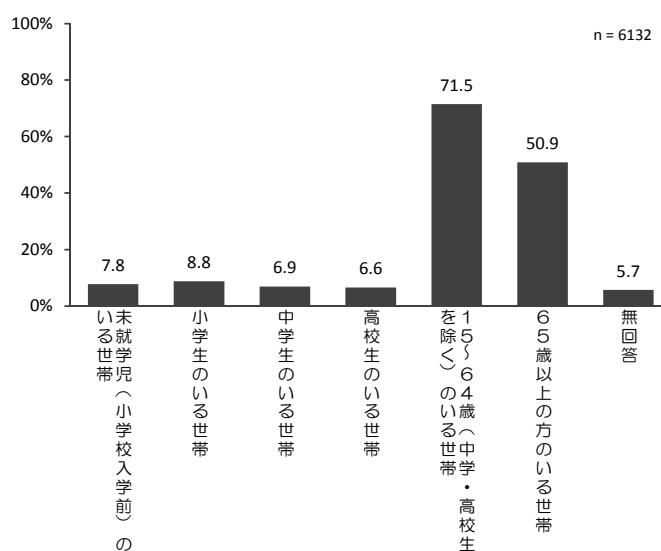
（１）現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

①現在の世帯構成

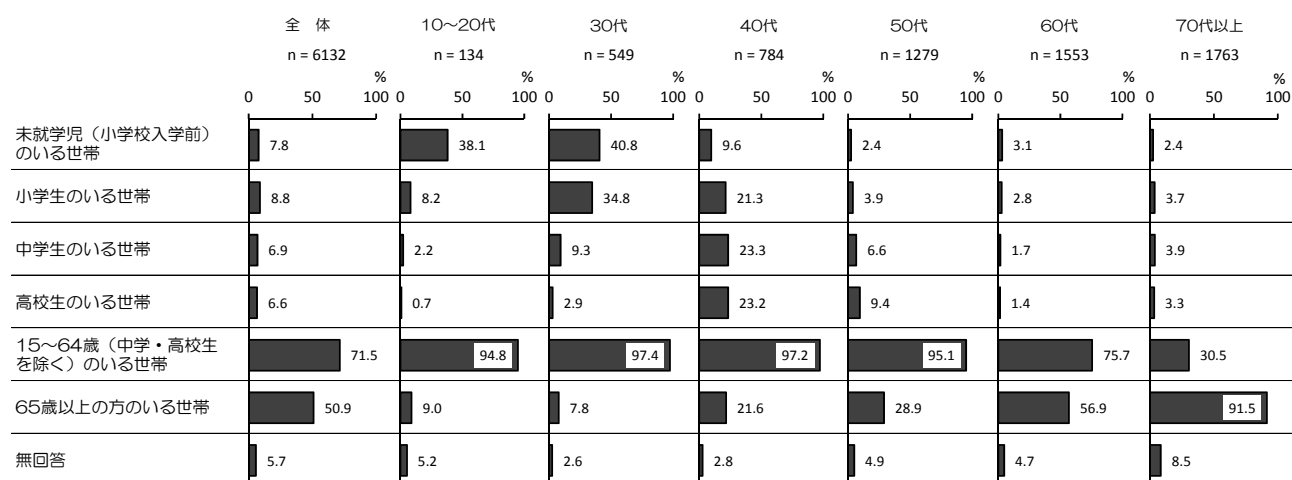
現在の世帯構成は、高校生以下（「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」）が同居する世帯はそれぞれ１割に満たない。一方で「65歳以上の方のいる世帯」は50.9%と５割を超えている。

世帯主の年齢別にみると、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」は、10～20代で38.1%、30代で40.8%と約４割となっている。

＜図表３－１－２－３ 現在の世帯構成＞



＜図表３－１－２－４ 現在の世帯構成（世帯主の年齢別）＞

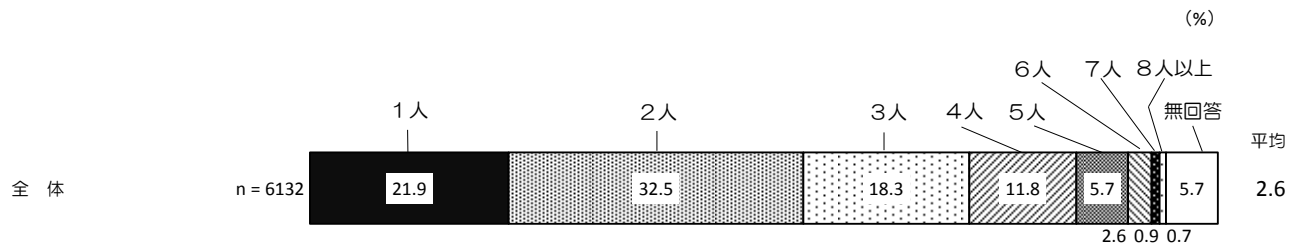


②現在の世帯人数

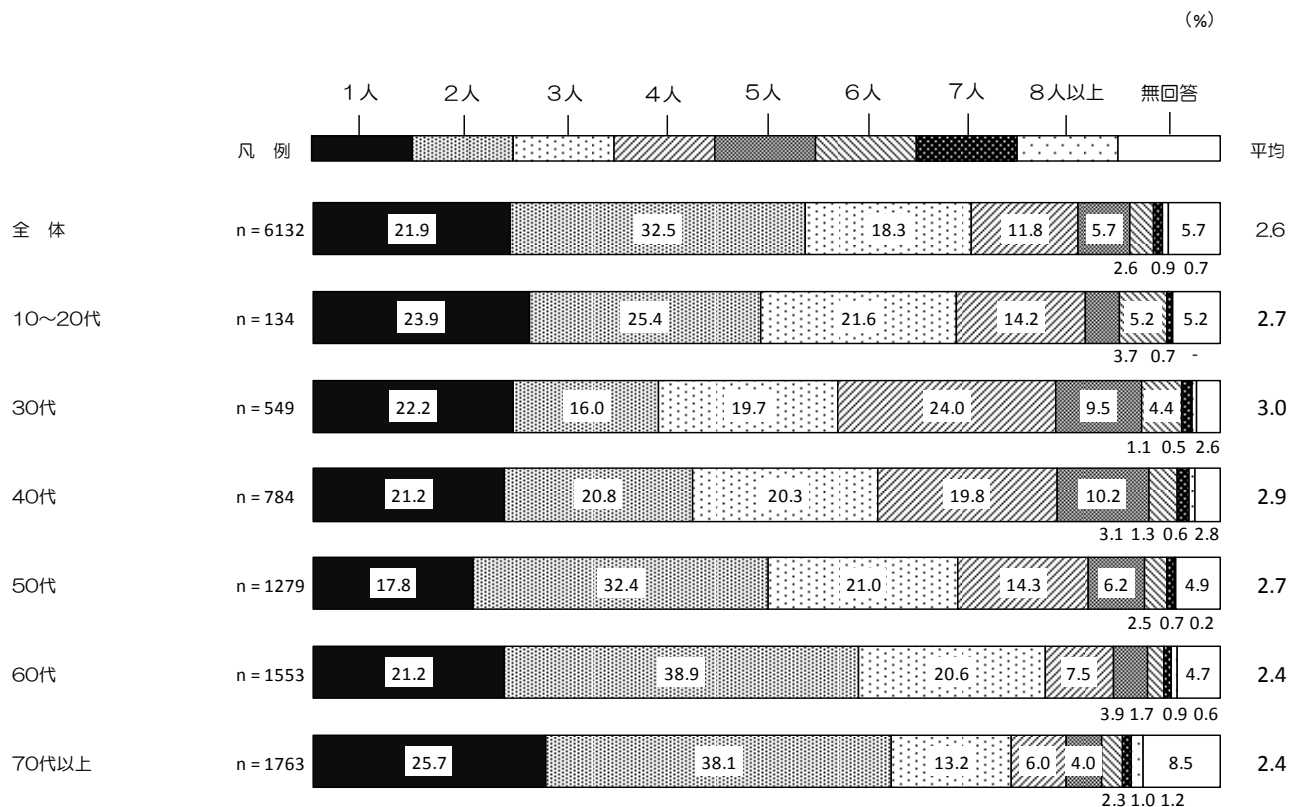
現在の世帯人数については、「2人」が32.5%と最も高く、次いで「1人」が21.9%、「3人」が18.3%となり、平均人数は2.6人となっている。

世帯主の年齢別にみると、「1人」は70代以上（25.7%）で最も高く、次いで10～20代で23.9%となっている。

＜図表3-1-2-5 現在の世帯人数＞



＜図表3-1-2-6 現在の世帯人数（世帯主の年齢別）＞



（３）震災発生当時の世帯構成・人数

問８ 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

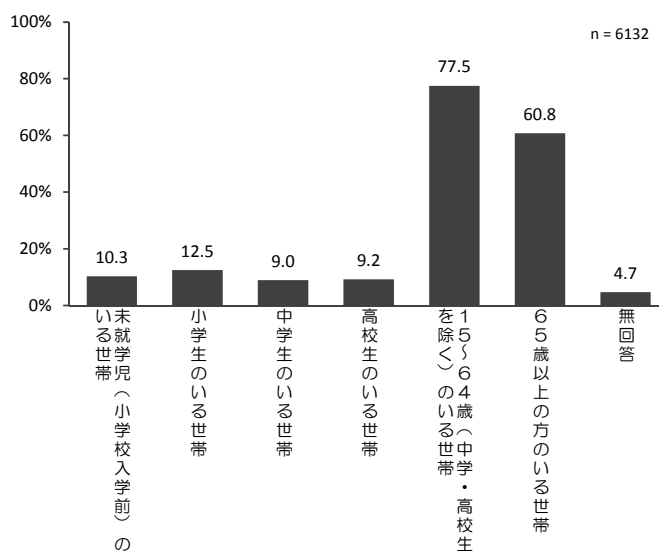
（２）震災発生ときに、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

①震災発生当時の世帯構成

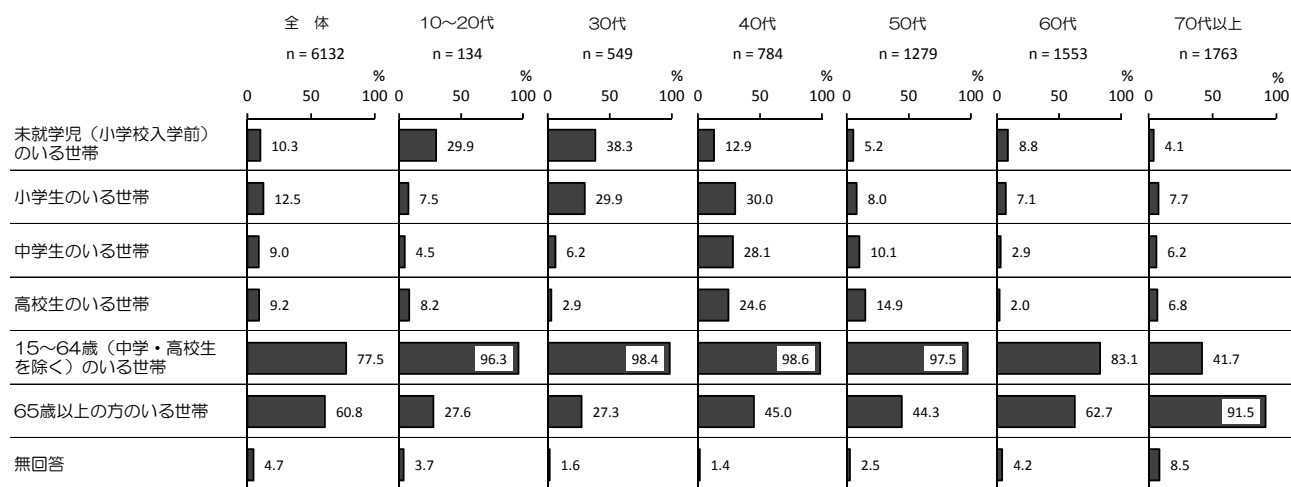
震災発生当時の世帯構成は、高校生以下（「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」）が同居する世帯はそれぞれ１割程度となっている。一方で「65歳以上の方のいる世帯」は60.8%と6割を超えている。

世帯主の年齢別にみると、30代では「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」（38.3%）が約4割となり、現在の世帯構成とほぼ同様の傾向となっている。

＜図表３－１－２－７ 震災発生当時の世帯構成＞



＜図表３－１－２－８ 震災発生当時の世帯構成（世帯主の年齢別）＞

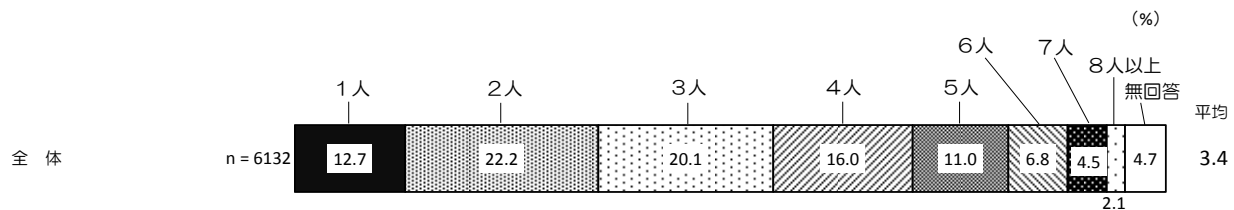


②震災発生当時の世帯人数

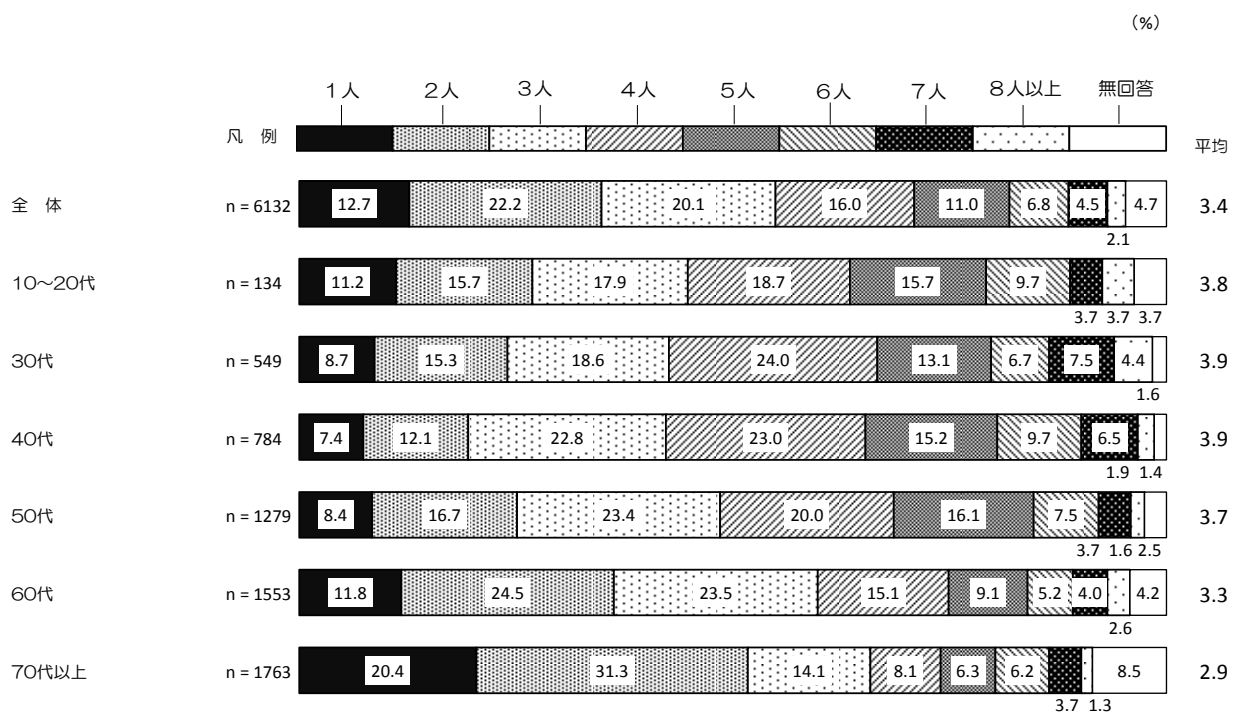
震災発生当時の世帯人数は、「2人」が22.2%と最も高く、次いで「3人」が20.1%、「4人」が16.0%となり、平均人数は3.4人となっている。

世帯主の年齢別にみると、「2人」は60代以上の高齢層で2割以上と高くなっており、60代では24.5%、70代以上では31.3%となっている。なお、「3人」はいずれの年齢層でも概ね2割程度となっている。

＜図表3-1-2-9 震災発生当時の世帯人数＞



＜図表3-1-2-10 震災発生当時の世帯構成（世帯主の年齢別）＞



(4) 世帯の分散状況

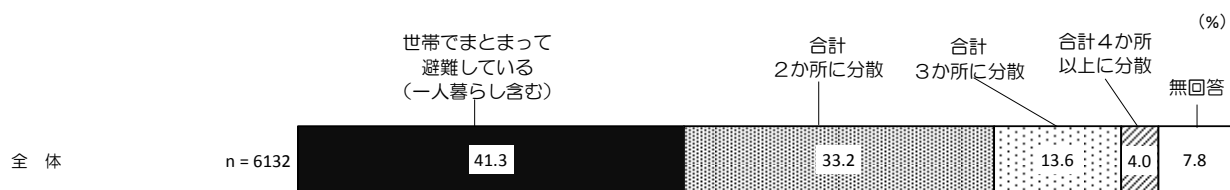
問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(3) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

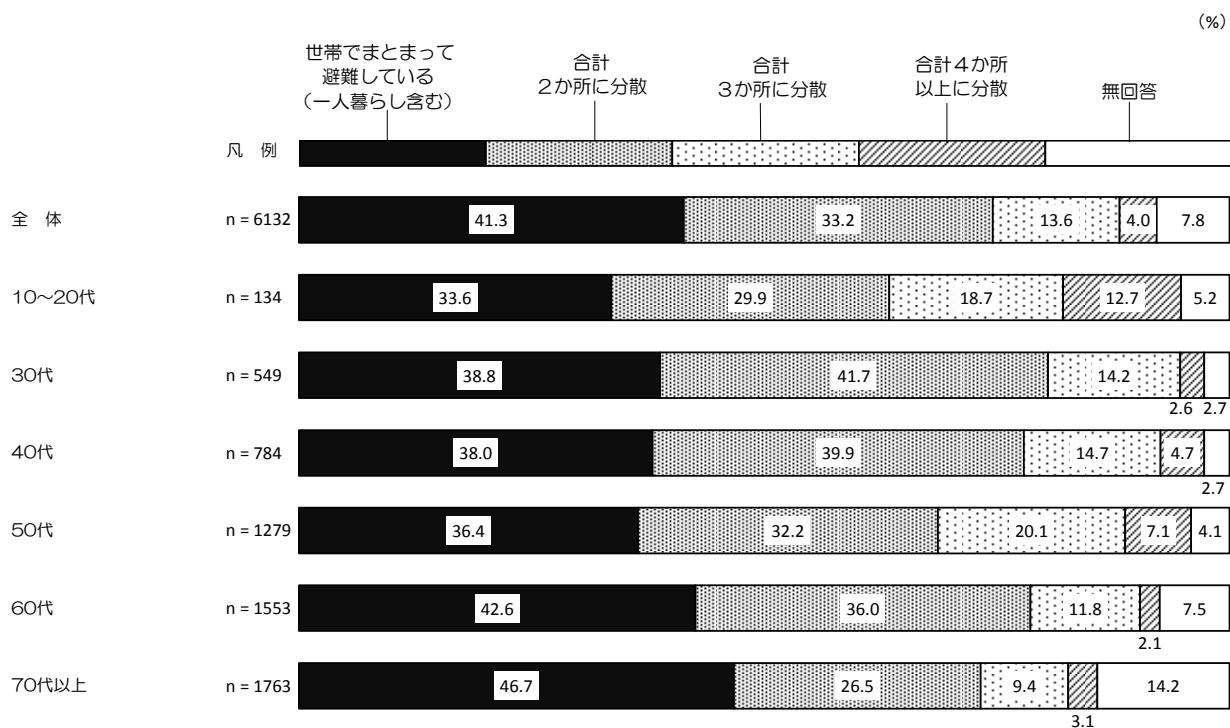
世帯の分散状況については、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」が41.3%と最も高く、次いで「合計2か所に分散」が33.2%、「合計3か所に分散」が13.6%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」がいずれの年齢層でも最も高くなっており、60代(42.6%)と70代以上(46.7%)では4割を超えている。

＜図表3-1-2-11 世帯の分散状況＞

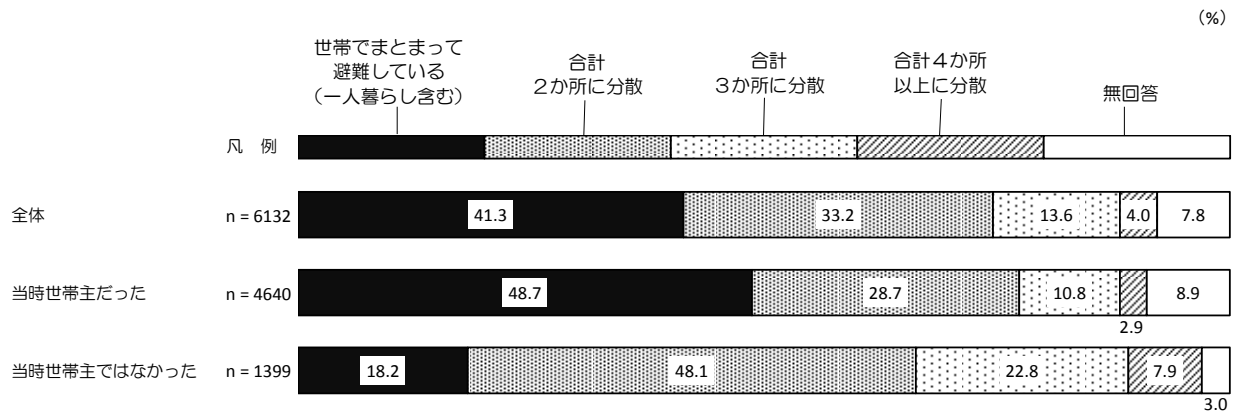


＜図表3-1-2-12 世帯の分散状況(世帯主の年齢別)＞



震災発生当時の世帯での立場別にみると、「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」は、当時世帯主だったという世帯（48.7%）では約5割となる一方、当時世帯主ではなかった世帯（18.2%）では2割弱にとどまっている。また、当時世帯主ではなかった世帯では、「合計2か所に分散」（48.1%）が約5割となっている。

＜図表3－1－2－13 世帯の分散状況（当時の世帯での立場別）＞



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

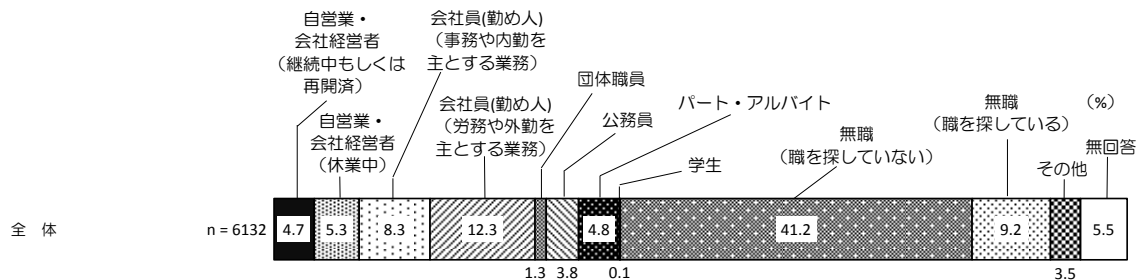
問 2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

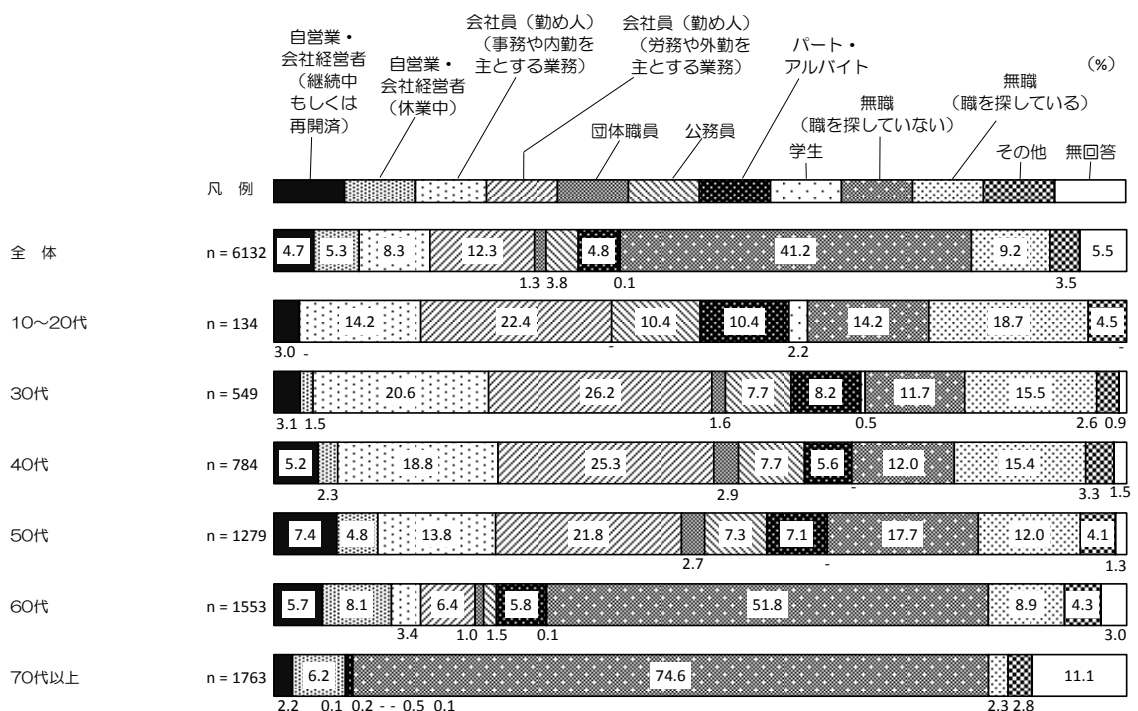
現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」が41.2%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が12.3%、「無職（職を探している）」が9.2%となっている。なお、「無職（職を探していない）」（41.2%）と「無職（職を探している）」（9.2%）を合わせた「無職」は、50.4%となり過半数を占める。

世帯主の年齢別にみると、「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」を合わせた「無職」は、10～20代（32.9%）、30代（27.2%）、40代（27.4%）、50代（29.7%）で概ね3割となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業>

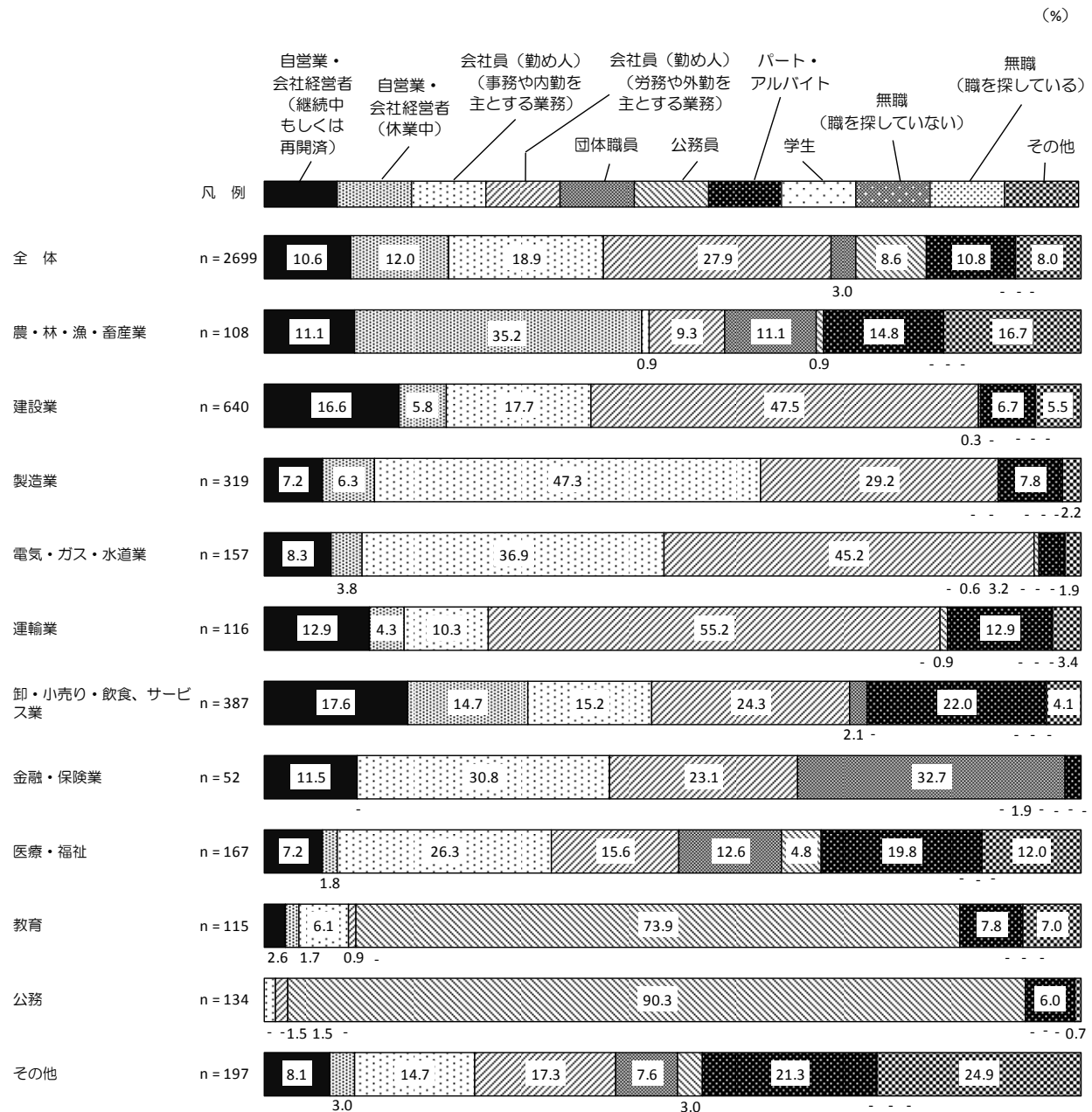


<図表3-1-3-2 現在の職業（世帯主の年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業の業種別にみると、農・林・漁・畜産業で「自営業・会社経営者（休業中）」が35.2%と、他の業種に比べて高くなっている。

＜図表3-1-3-3 現在の職業（現在の業種別）＞

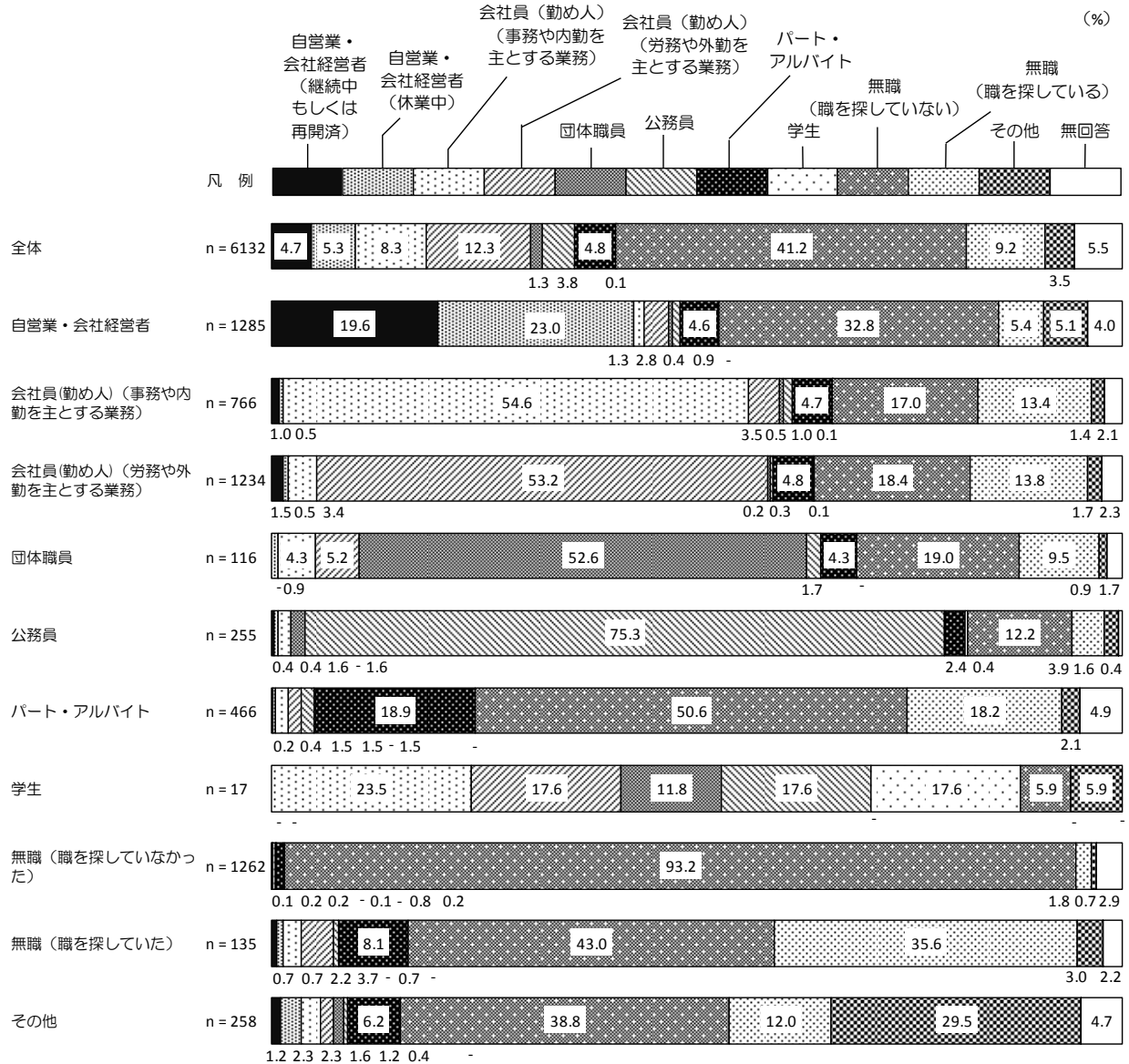


Ⅲ 調査結果

震災発生当時の職業別にみると、概ね現在も同じ職業である割合が高く、当時会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）、団体職員では5割程度、公務員では75.3%となり7割を超えている。

一方で、当時、パート・アルバイトでは半数近くが「無職（職を探していない）」（50.6%）となっており、他の職業に比べてその割合が高い。また、当時、無職（職を探していた）でも約4割が「無職（職を探していない）」に移行していることが分かる。

＜図表3-1-3-4 現在の職業（震災発生当時の職業別）＞



(2) 現在の業種

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

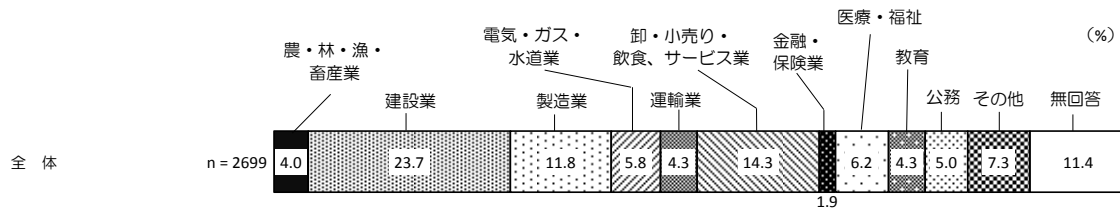
【仕事に就いている方（問2（1）で「1」から「7」、「11」と回答した方）にうかがいます。】

(2) 業種（〇は1つ）

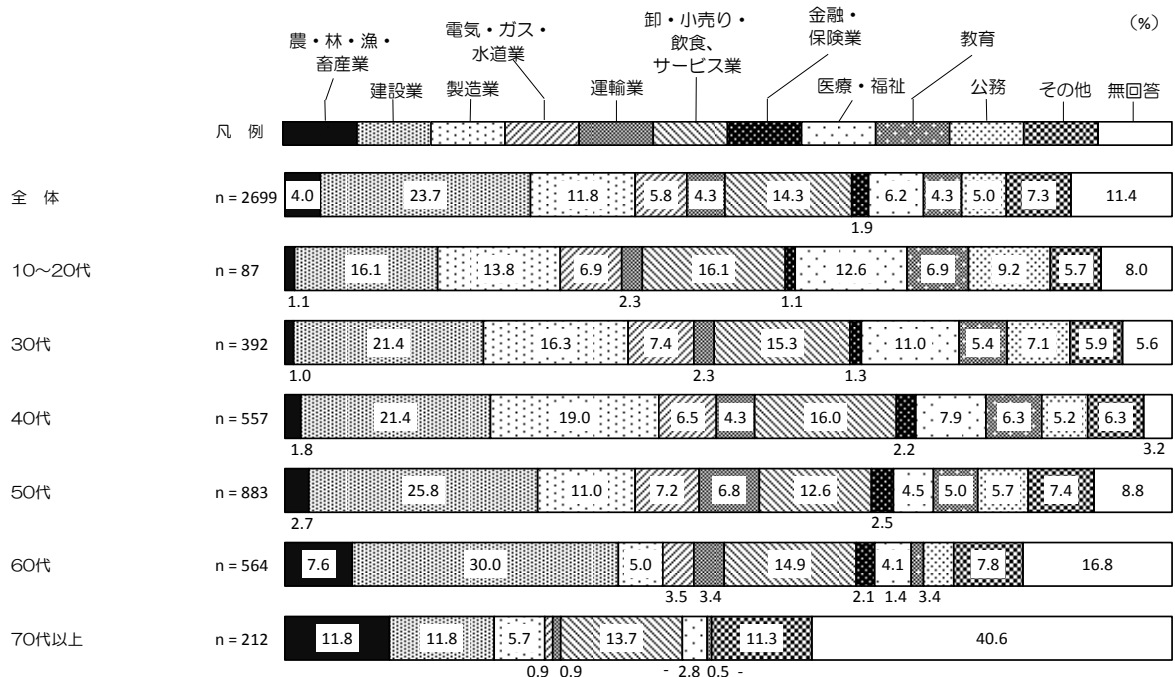
世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が23.7%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食・サービス業」が14.3%、「製造業」が11.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「建設業」は、60代（30.0%）で3割となっている。また、「卸・小売り・飲食・サービス業」はどの年齢層でも概ね1割半ばとなっている。

＜図表3-1-3-5 現在の業種＞



＜図表3-1-3-6 現在の業種（世帯主の年齢別）＞



(3) 現在の就業先

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

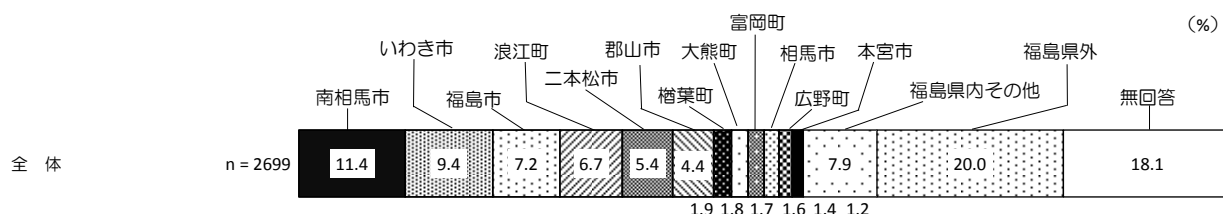
【仕事に就いている方（問2（1）で「1」から「7」、「11」と回答した方）にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

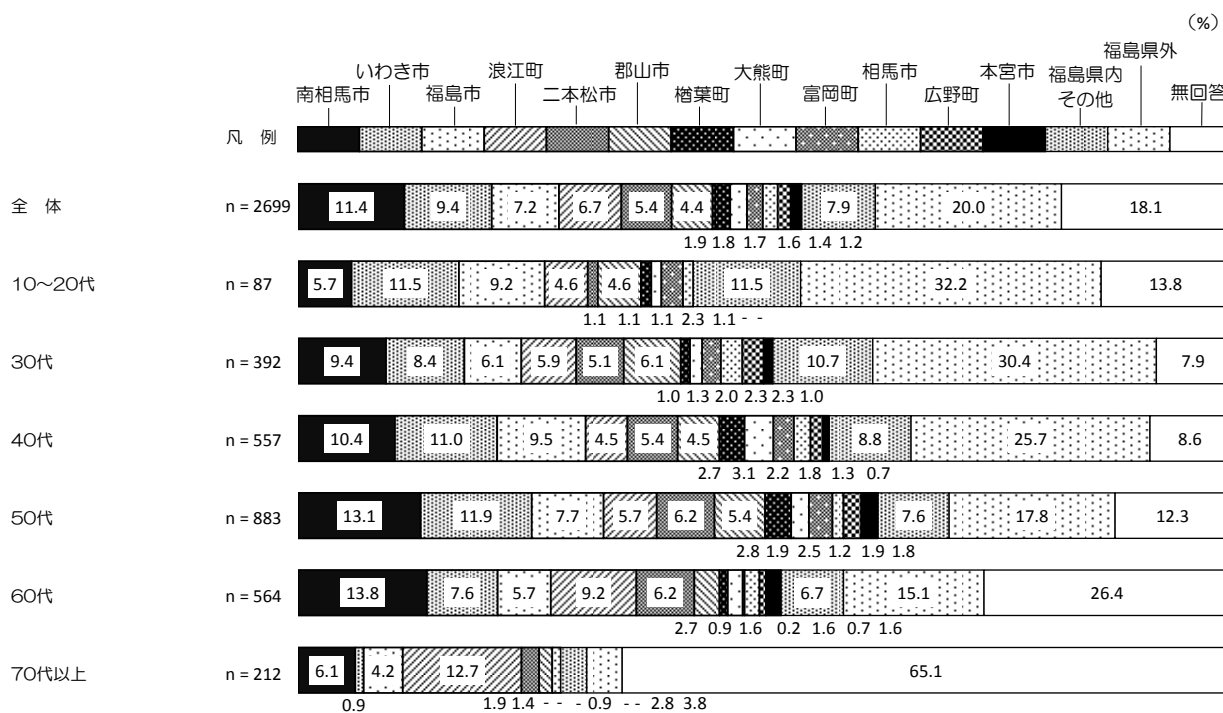
世帯主が就業しているとした世帯の就業先自治体については、「南相馬市」が11.4%と最も高く、次いで「いわき市」が9.4%、「福島市」が7.2%となっており、「福島県外」も20.0%と高い。

世帯主の年齢別にみると、「南相馬市」は、10～60代までの年齢層では、年齢が高くなるに従い割合が高くなっている。また、「福島県外」は、年齢が低くなるに従い割合が高くなり、10～20代（32.2%）、30代（30.4%）では3割を超えている。

<図表3-1-3-7 現在の就業先>



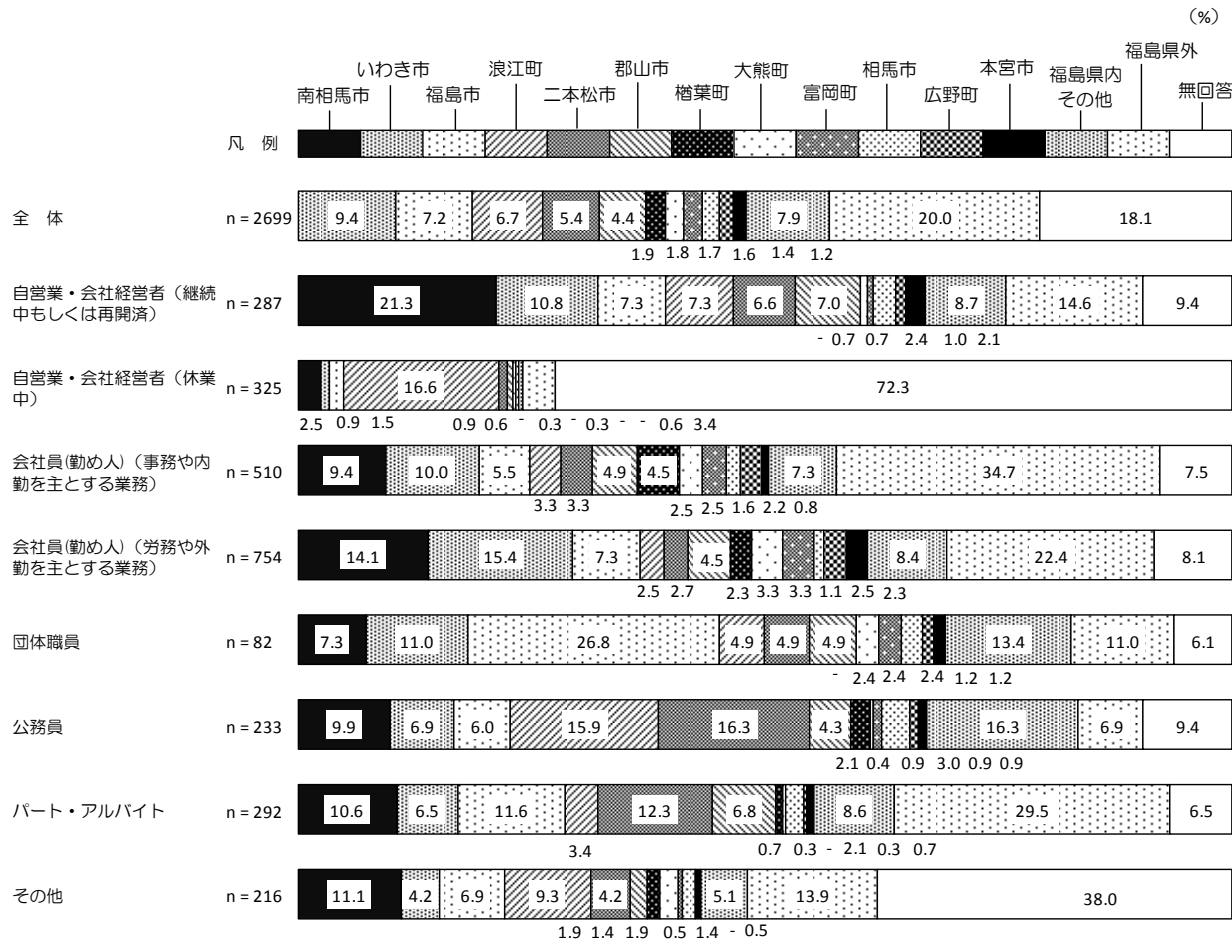
<図表3-1-3-8 現在の就業先（世帯主の年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業別にみると、「南相馬市」は、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）（21.3%）、「福島市」は、団体職員（26.8%）、「浪江町」は、自営業・会社経営者（休業中）（16.6%）、「二本松市」は、公務員（16.3%）が高くなっている。

また、「福島県外」は、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（34.7%）が3割を超え、パート・アルバイト（29.5%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（22.4%）で高くなっている。

＜図表3-1-3-9 現在の就業先（現在の職業別）＞

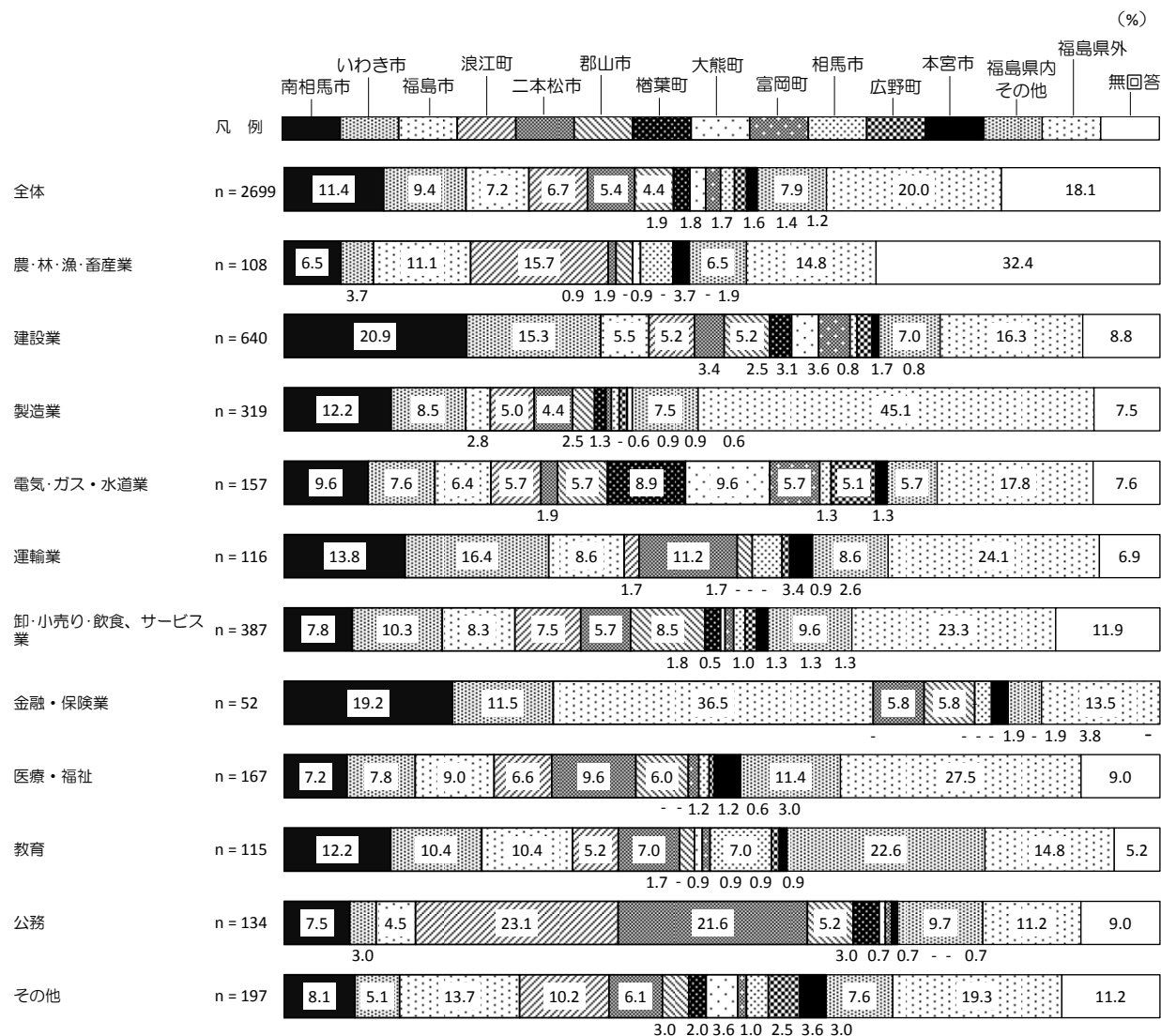


Ⅲ 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について、現在の業種別にみると、「南相馬市」は、建設業（20.9%）、金融・保険業（19.2%）、「いわき市」は、運輸業（16.4%）、「浪江町」は、公務（23.1%）、「二本松市」は、公務（21.6%）が高くなっている。

また、「福島県外」は、製造業（45.1%）、金融・保険業（36.5%）、医療・福祉（27.5%）、運輸業（24.1%）、卸・小売り・飲食、サービス業（23.3%）の割合が高くなっている。

＜図表３－１－３－１０ 現在の就業先（現在の業種別）＞



(4) 震災発生当時の職業（就業形態）

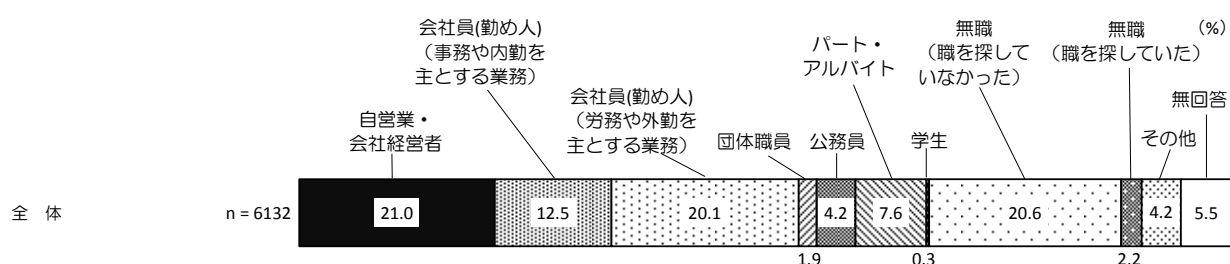
問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

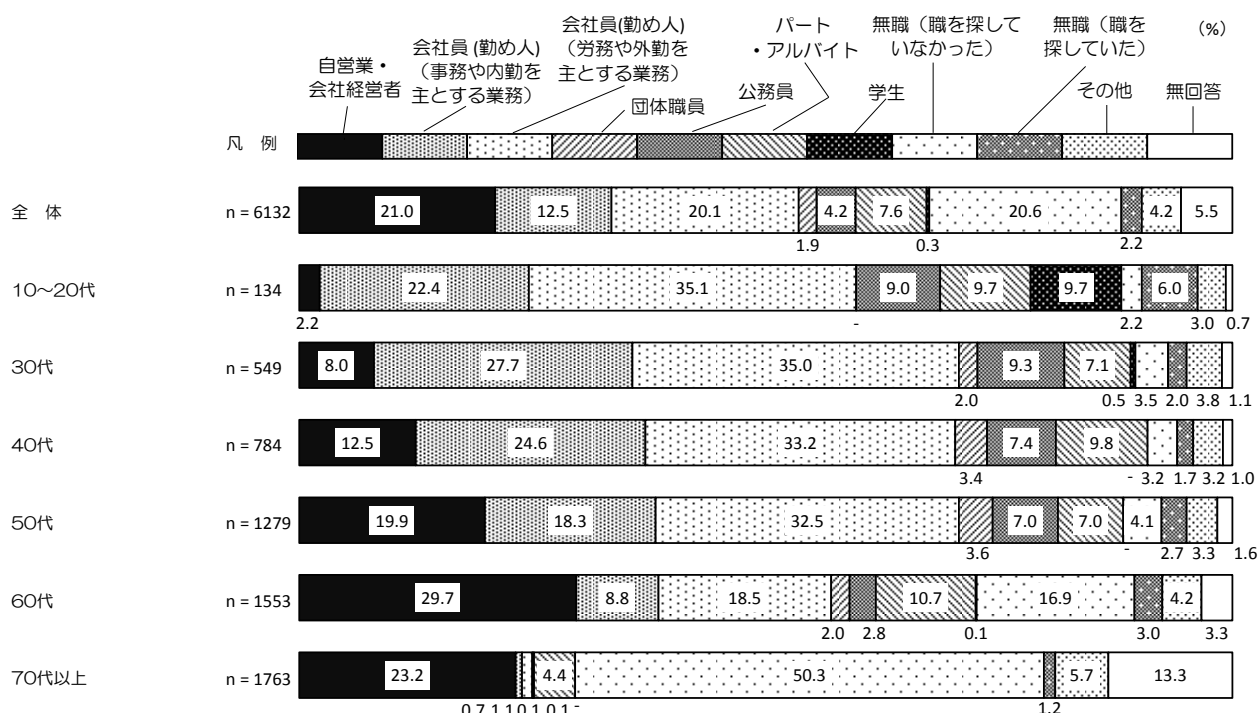
震災発生当時の職業については、「自営業・会社経営者」が21.0%と最も高く、次いで「無職（職を探していなかった）」が20.6%、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が20.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、60代までは年齢が高くなるに従って「自営業・会社経営者」の割合も高くなっている。

＜図表3-1-3-11 震災発生当時の職業＞



＜図表3-1-3-12 震災発生当時の職業（世帯主の年齢別）＞



(5) 震災発生当時の業種

問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

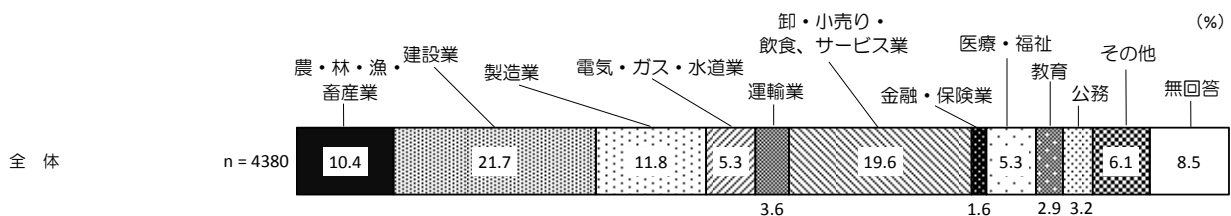
【仕事に就いていた方（問5（1）で「1」から「6」、「10」と回答した方）にうかがいます。】

(2) 業種（〇は1つ）

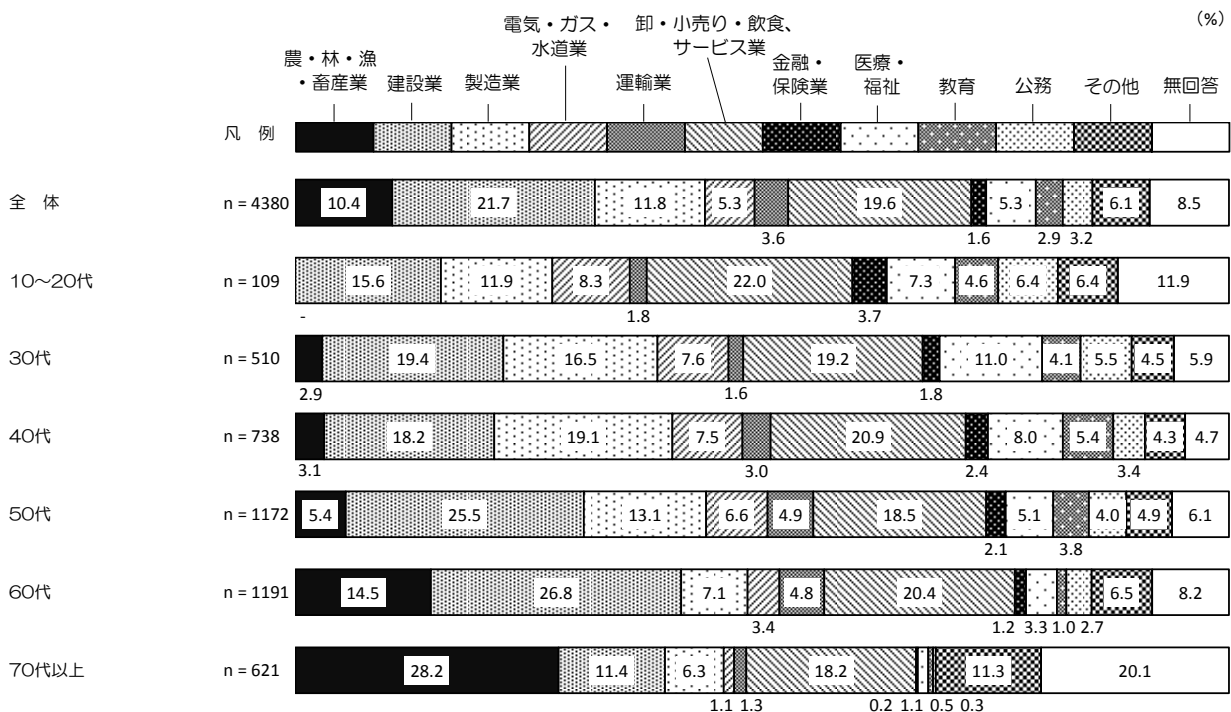
震災発生当時の業種については、「建設業」が21.7%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が19.6%、「製造業」が11.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は、年齢が高くなるに従ってその割合も高くなっており、「建設業」は、他の年齢層と比べて、50代（25.5%）、60代（26.8%）の割合が高くなっている。

<図表3-1-3-13 震災発生当時の業種>



<図表3-1-3-14 震災発生当時の業種（世帯主の年齢別）>



（６）震災発生当時の就業先

問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

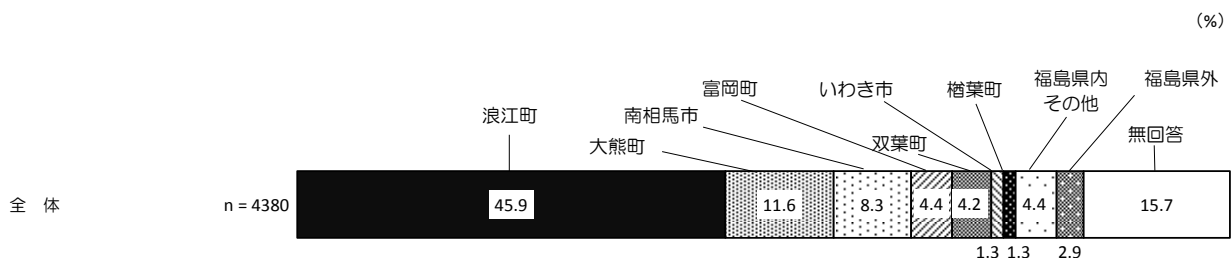
【仕事に就いていた方（問5（1）で「1」から「6」、「10」と回答した方）にうかがいます。】

（３）就業先の所在自治体

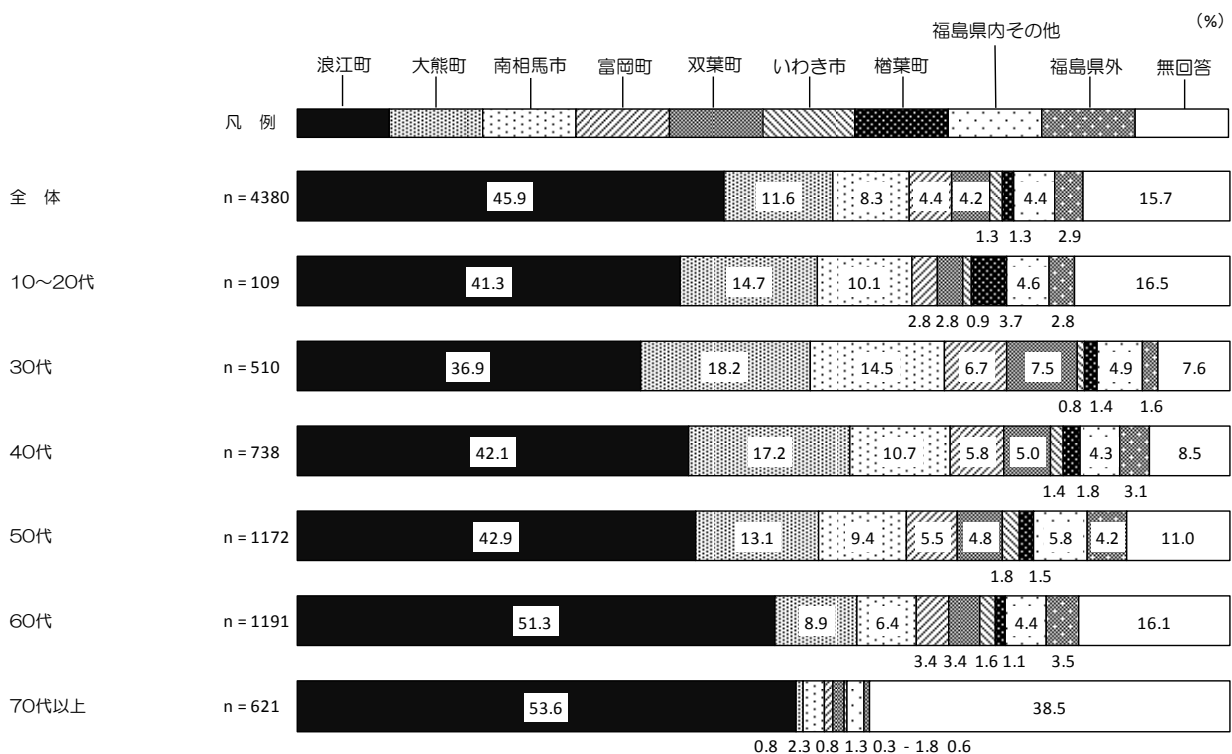
震災発生当時の就業先自治体については、「浪江町」が45.9%と最も高く、次いで「大熊町」が11.6%、「南相馬市」が8.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「浪江町」がいずれの年齢層でも最も高く、10～50代では約4割を占め、60代以上では過半数を占める。

＜図表3-1-3-15 震災発生当時の就業先＞



＜図表3-1-3-16 震災発生当時の就業先（世帯主の年齢別）＞



3-1-4 住居形態

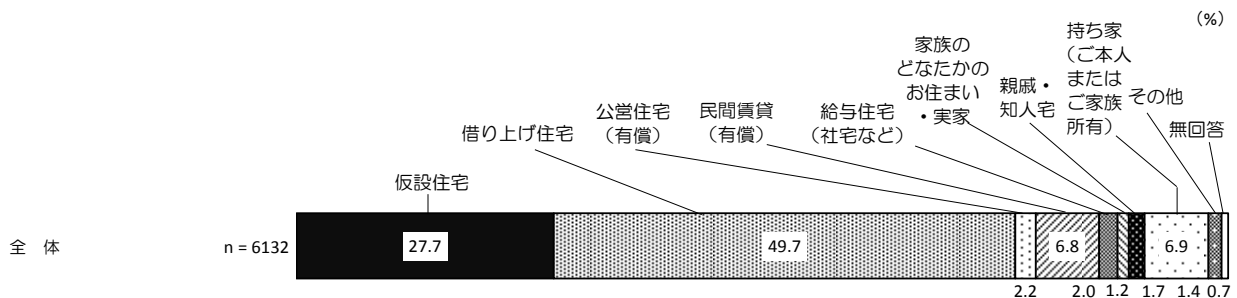
(1) 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

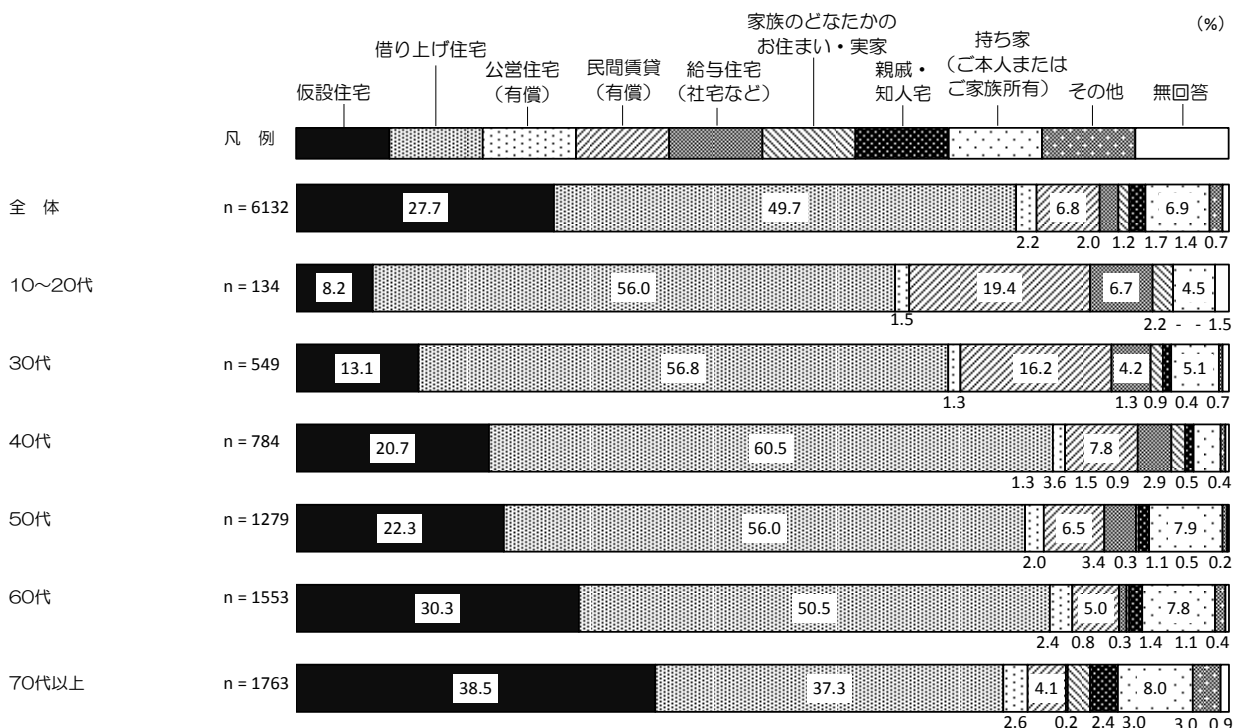
現在の住居形態については、「借り上げ住宅」が49.7%と最も高く、次いで「仮設住宅」が27.7%、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が6.9%、「民間賃貸（有償）」が6.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「借り上げ住宅」はどの年齢層でも概ね5割程度であり、「仮設住宅」は、年齢が高くなるに従って割合も高くなっている。

<図表3-1-4-1 現在の住居形態>

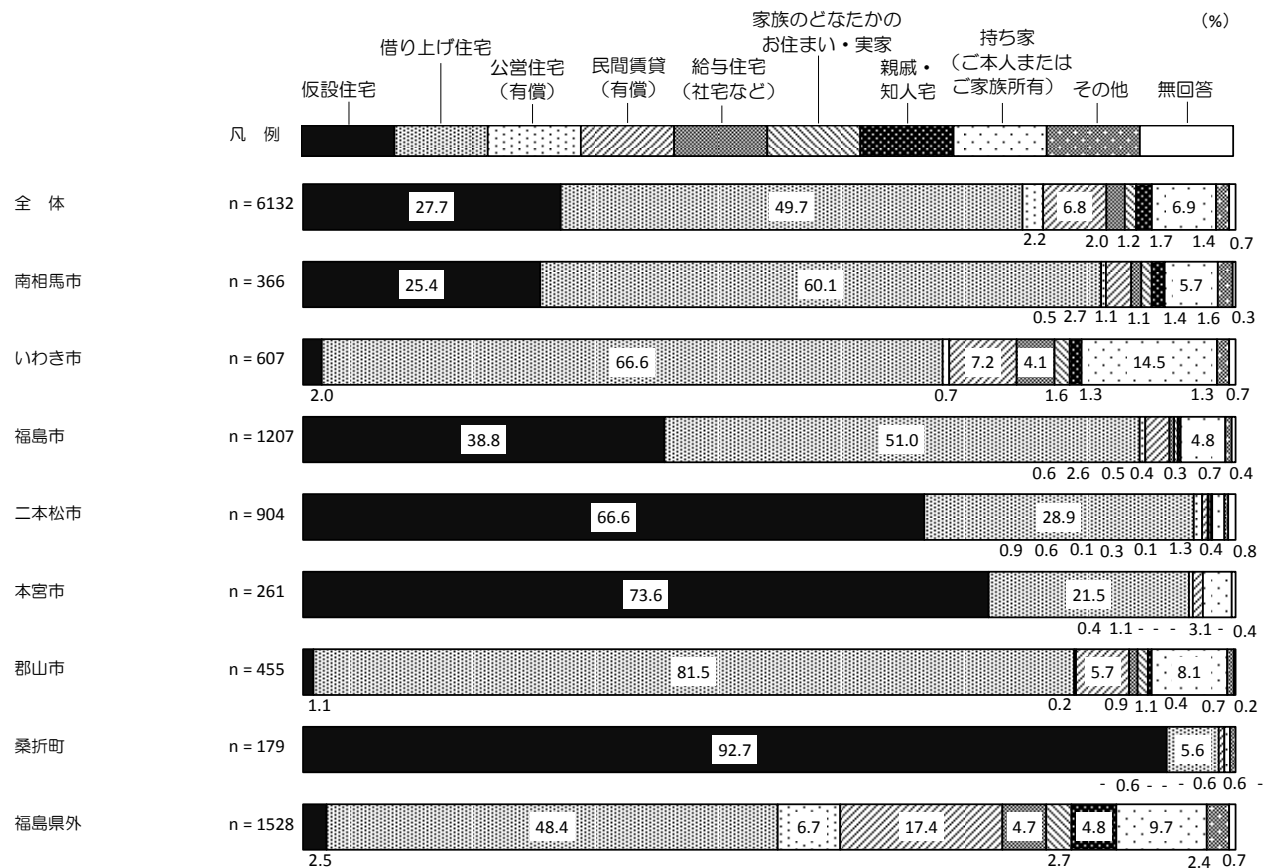


<図表3-1-4-2 現在の住居形態（世帯主の年齢別）>



主な避難先の自治体別にみると、「仮設住宅」は、桑折町では 92.7%を占め、本宮市（73.6%）、二本松市（66.6%）でも6割を超えている。また、「借り上げ住宅」は、郡山市では 81.5%を占めており、いわき市（66.6%）、南相馬市（60.1%）でも6割を超えている。

<図表3-1-4-3 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>

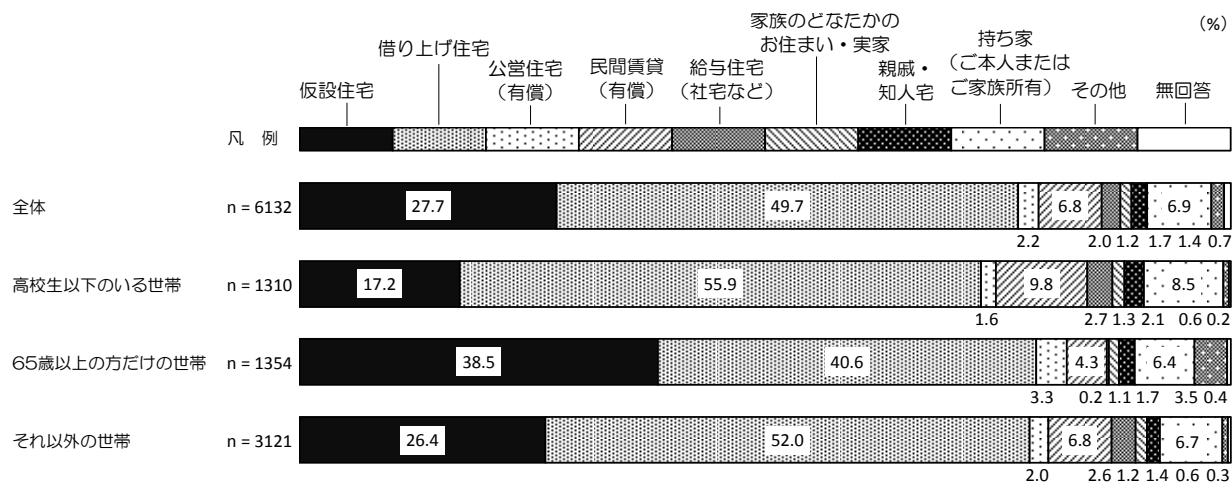


Ⅲ 調査結果

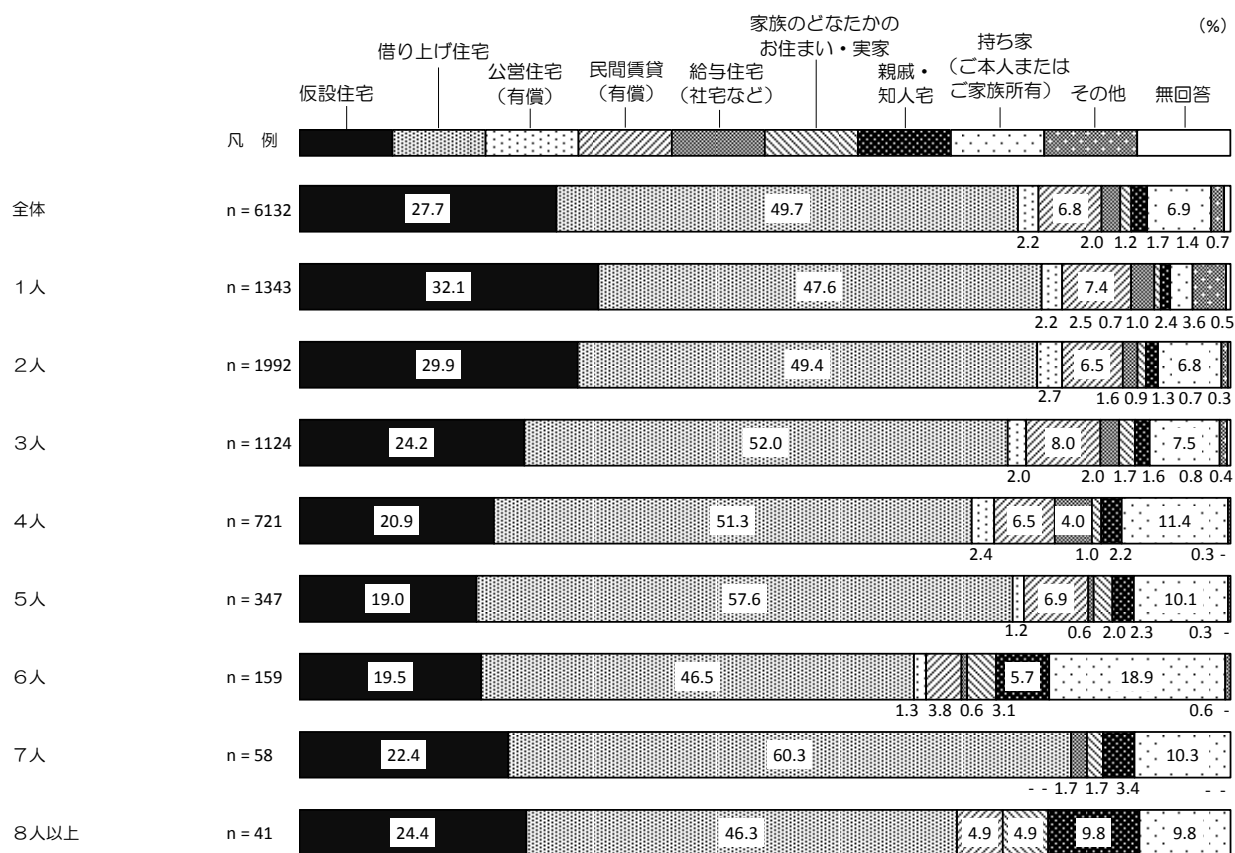
現在の世帯構成別にみると、「借り上げ住宅」がいずれの世帯構成において、最も高くなっている。65歳以上の方だけの世帯では「仮設住宅」（38.5％）が他の世帯と比べて高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、「借り上げ住宅」がいずれの世帯人数でも最も高くなっており、概ね5割程度となっている。

＜図表3-1-4-4 現在の住居形態（現在の世帯構成別）＞



＜図表3-1-4-5 現在の住居形態（現在の世帯人数別）＞



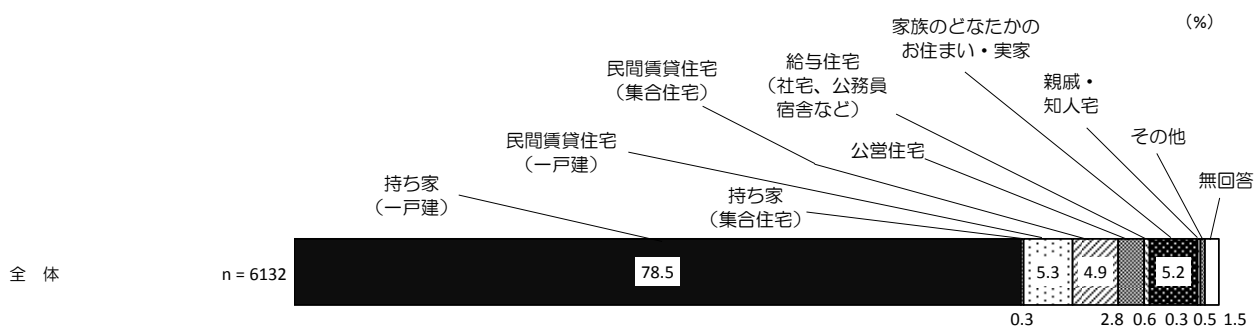
(2) 震災発生当時の住居形態

問 6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

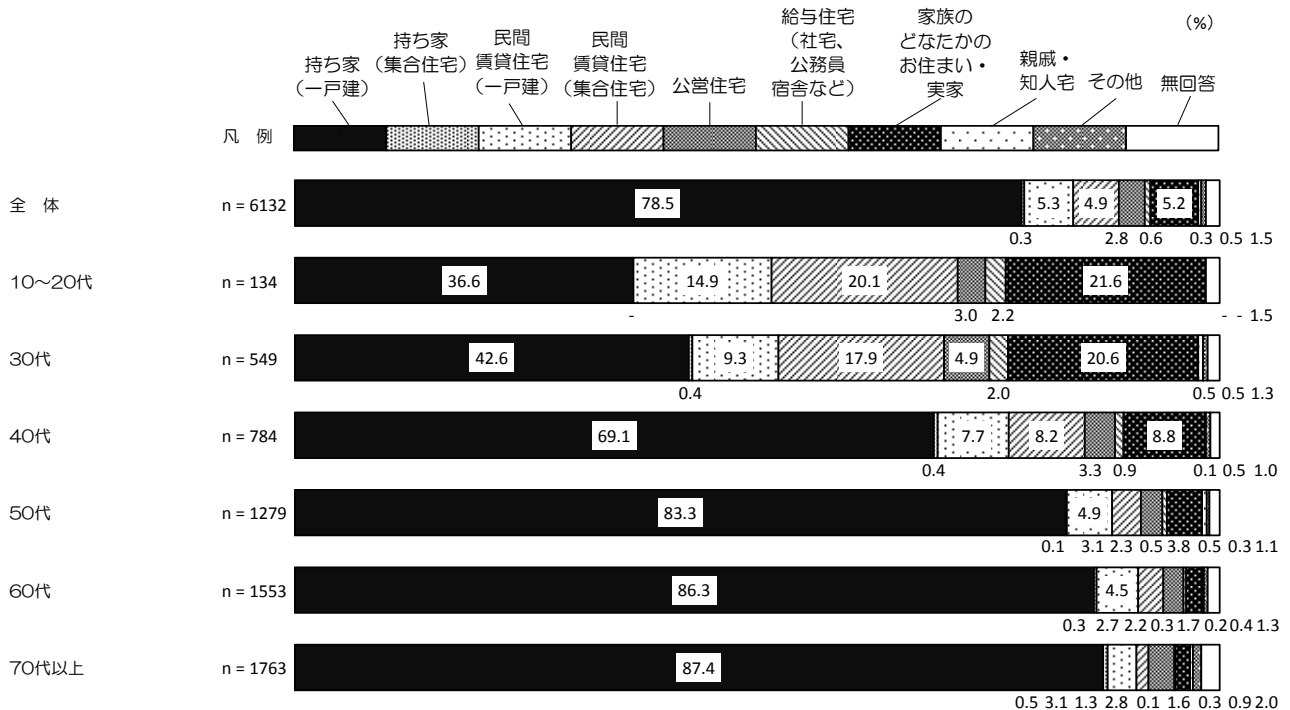
震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が78.5%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.3%)を合わせた<持ち家>は78.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は年齢が高くなるに従って割合も高くなり、60代で86.3%、70代以上で87.4%と9割近くを占めている。一方、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は若年層で高く、10～20代で20.1%、30代で17.9%と約2割となっている。

<図表3-1-4-6 震災発生当時の住居形態>



<図表3-1-4-7 震災発生当時の住居形態(世帯主の年齢別)>



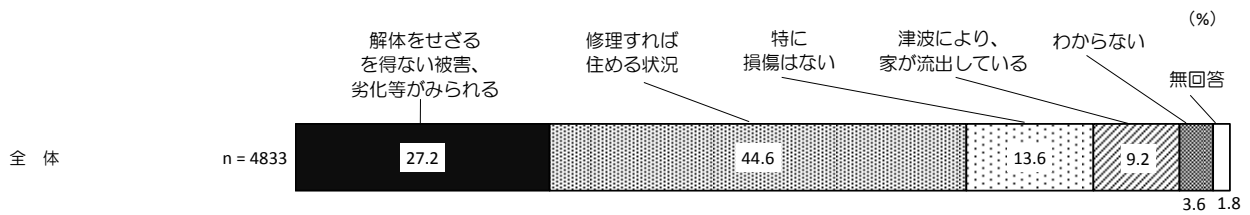
(3) 震災発生当時の住宅の状況

【問6で「1.持ち家（一戸建）」「2.持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。（○は1つ）

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況」が44.6%と最も高く、次いで「解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」が27.2%、「特に損傷はない」が13.6%となっている。

＜図表3-1-4-8 震災発生当時の住宅の状況＞



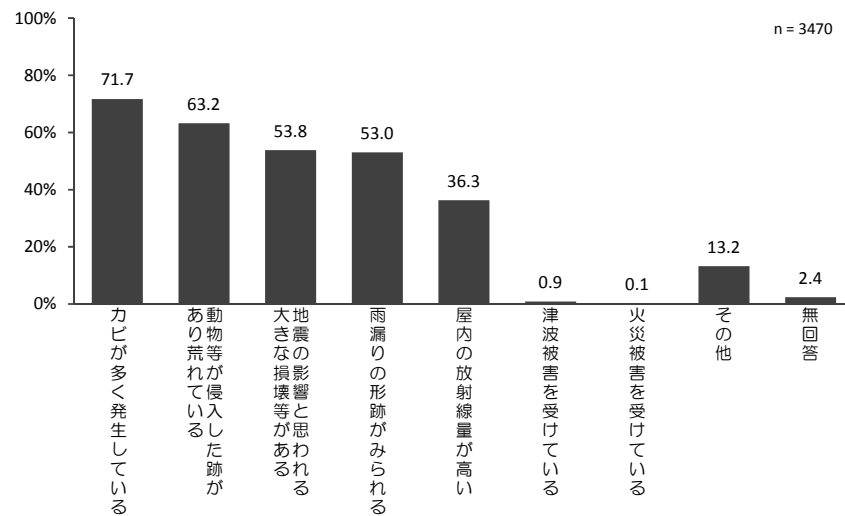
（４）震災発生当時の住宅の具体的な被害内容

【問 6-1 で「1.解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2.修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問 6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。（〇はいくつでも）

震災発生当時の住宅の具体的な被害内容については、「カビが多く発生している」が 71.7%と最も高く、次いで「動物等が侵入した跡があり荒れている」が 63.2%、「地震の影響と思われる大きな損壊等がある」が 53.8%、「雨漏りの形跡がみられる」が 53.0%となっている。

＜図表 3-1-4-9 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容＞



3-1-5 自動車保有

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(〇は1つ)
なお、4台以上の場合は、具体的な台数についてもお記入ください。

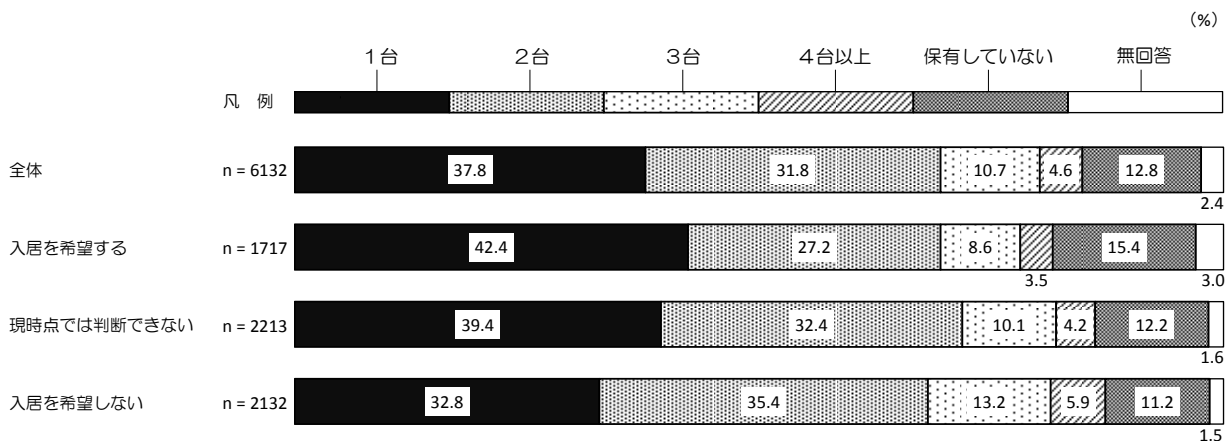
自動車保有については、「1台」が37.8%と最も高く、次いで「2台」が31.8%となっており、「3台」は10.7%となっている。

復興公営住宅への入居希望別にみると、入居を希望する世帯では、「1台」が42.4%となっており、「2台」が27.2%となっている。

<図表3-1-5-1 自動車保有>



<図表3-1-5-2 自動車保有（復興公営住宅への入居希望別）>



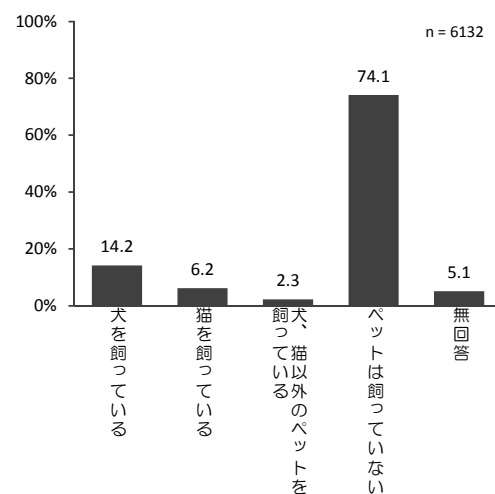
3-1-6 ペットの有無

問 11 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

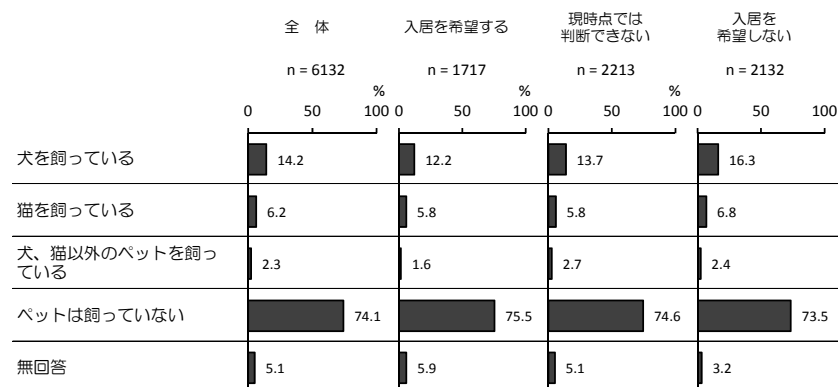
ペットの有無については、何らかのペットを飼っているのは22.7%と2割強となっている。飼っているペットは、「犬を飼っている」(14.2%)、「猫を飼っている」(6.2%)、「犬、猫以外のペットを飼っている」(2.3%)となっている。

復興公営住宅への入居希望別にみると、入居希望により大きな傾向の違いはみられないものの、例えば「犬を飼っている」については、入居を希望する世帯では12.2%であるが、入居を希望しない世帯では16.3%となっており、入居を希望する世帯の割合がやや低くなっている。

<図表3-1-6-1 ペットの有無>



<図表3-1-6-2 ペットの有無（復興公営住宅への入居希望別）>



3-2 復興公営住宅の入居意向

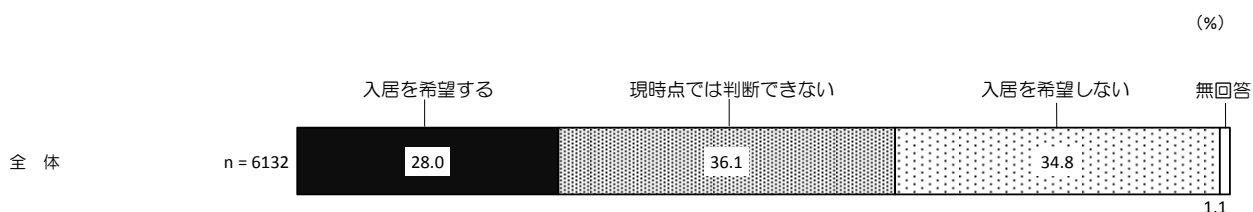
3-2-1 復興公営住宅への入居希望

問 12 現在、福島県は同封資料のとおり、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（〇は1つ）

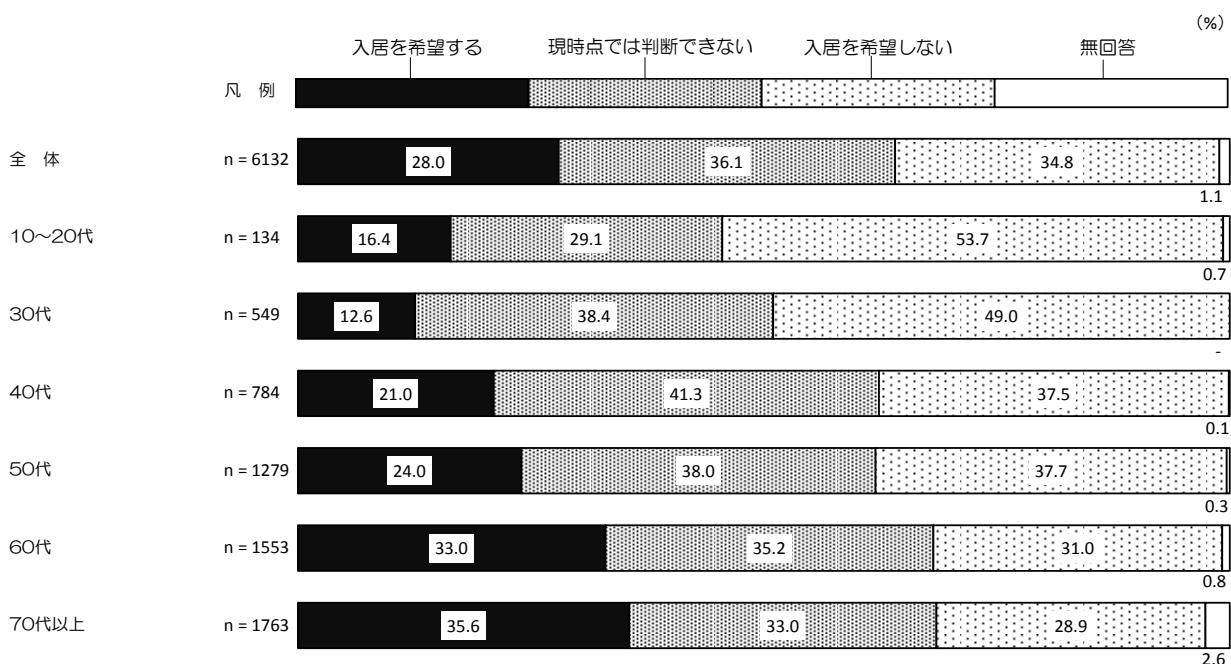
復興公営住宅への入居希望については、「現時点では判断できない」が36.1%と最も高く、次いで「入居を希望しない」が34.8%、「入居を希望する」は28.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「入居を希望する」が30代以上について年齢が高くなるに従って割合も高くなっている一方、10～20代については、「入居を希望しない」が53.7%と過半数を占める。

＜図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居希望＞

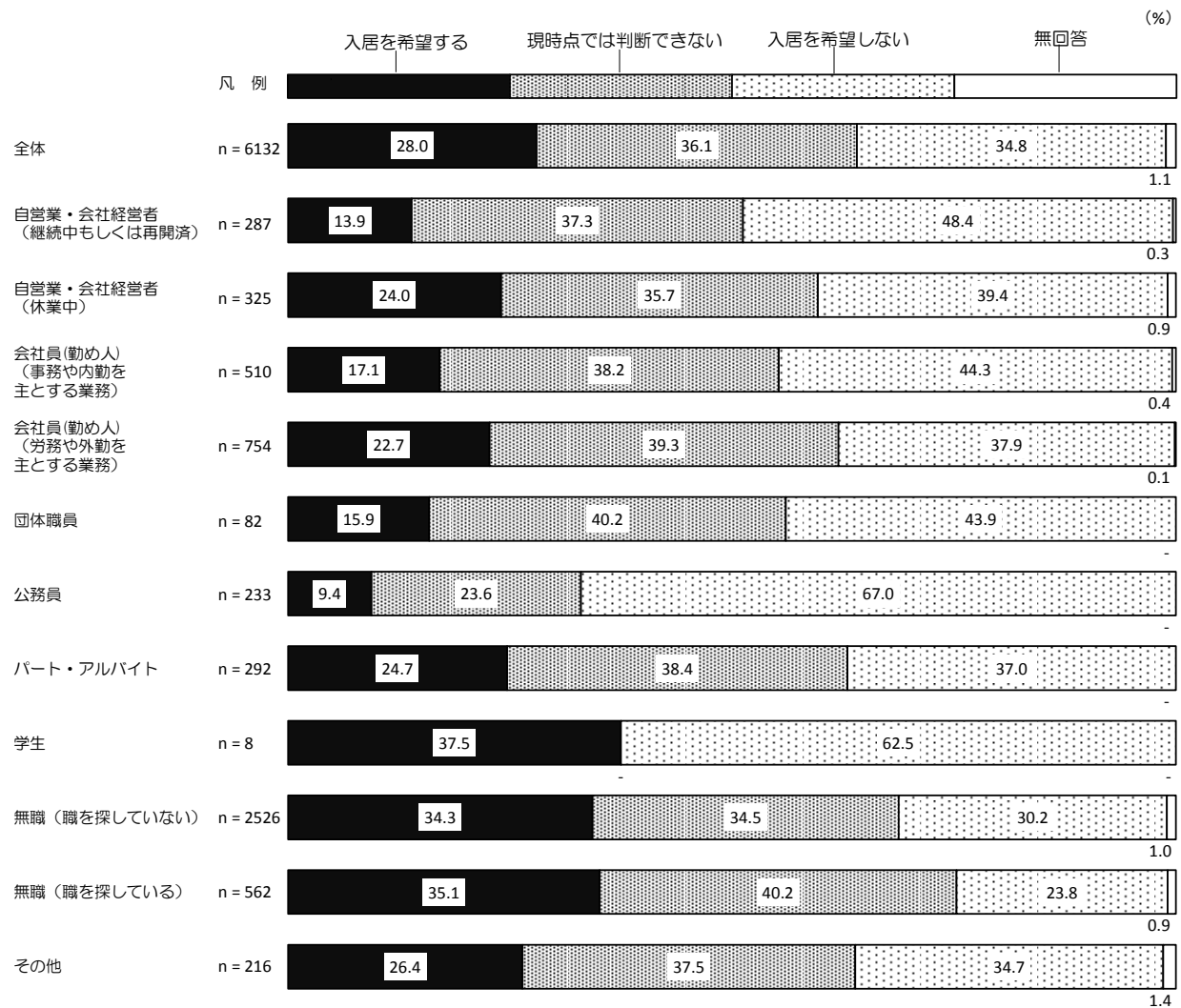


＜図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居希望（世帯主の年齢別）＞



現在の職業別にみると、「入居を希望する」は無職（職を探している）（35.1%）、無職（職を探していない）（34.3%）で3割を超えており、他の職業と比べて高くなっている。

＜図表3－2－1－3 復興公営住宅への入居希望（現在の職業別）＞

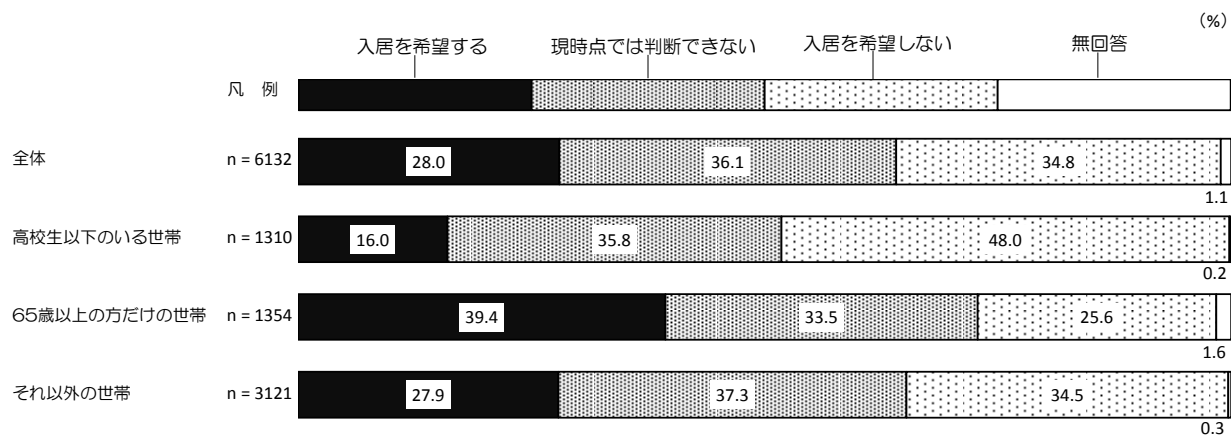


Ⅲ 調査結果

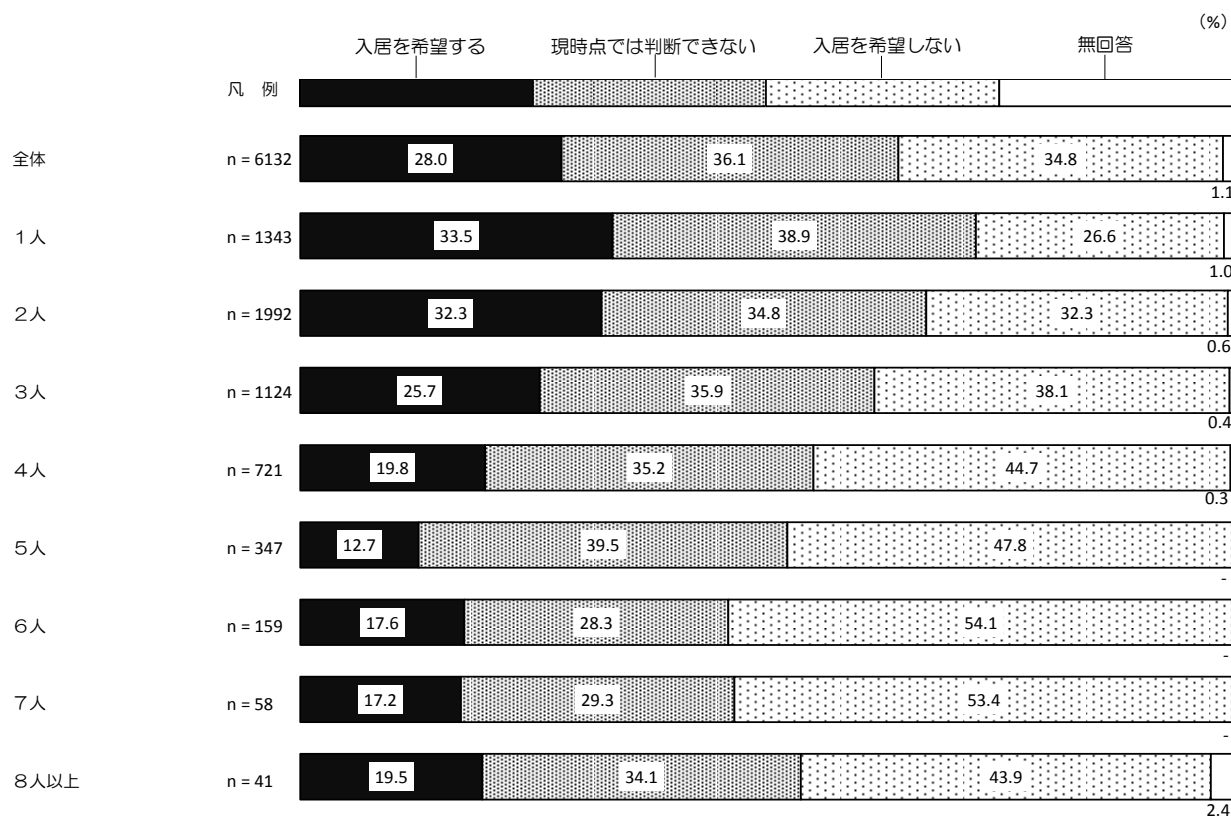
現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯では「入居を希望する」が39.4%と約4割となっており、他の世帯構成に比べて高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、2人以下では、3割以上が「入居を希望する」となっている一方、4人以上では、「入居を希望しない」が4割を超えている。

＜図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯構成別）＞

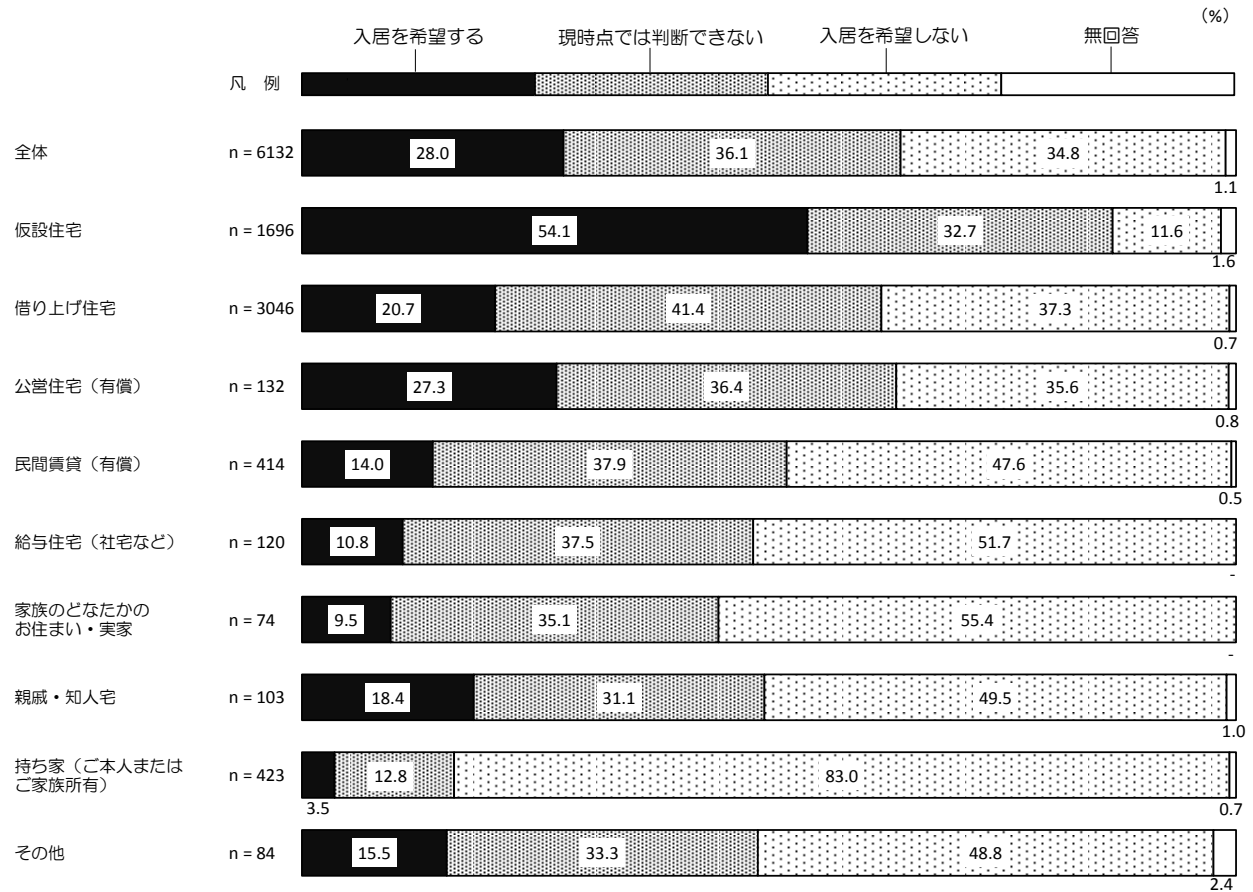


＜図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯人数別）＞



現在の住居形態別にみると、仮設住宅の「入居を希望する」(54.1%)の割合は過半数を占め、他に比べて高くなっている。

＜図表3-2-1-6 復興公営住宅への入居希望（現在の住居形態別）＞



3-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由

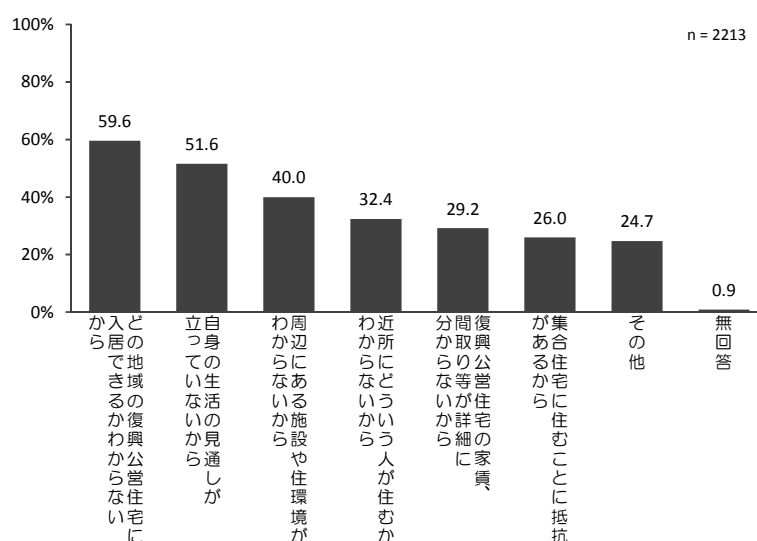
【問 12 で「2.現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。（○はいくつでも）

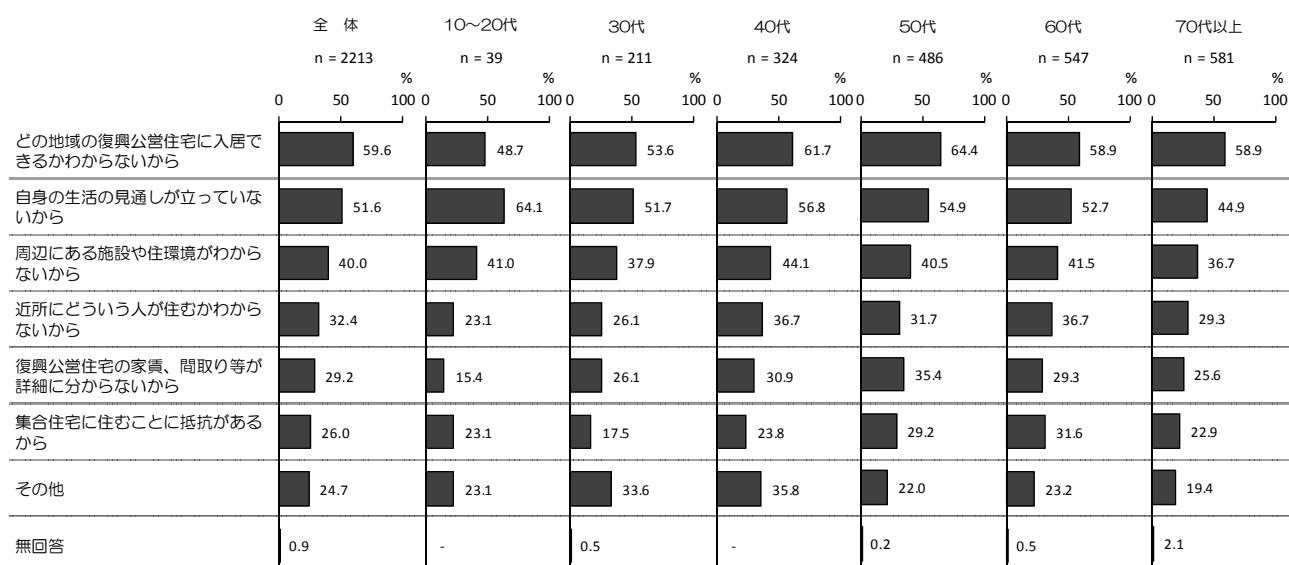
復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由については、「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」が 59.6%と最も高く、次いで「自身の生活の見通しが立っていないから」が 51.6%、「周辺にある施設や住環境がわからないから」が 40.0%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、概ね全体と傾向が同じであるが、10～20 代では「自身の生活の見通しが立っていないから」（64.1%）が6割以上となり、他の年齢層と比べて高くなっている。

＜図表3-2-2-1 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由＞



＜図表3-2-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由（世帯主の年齢別）＞



3-2-3 入居を希望する地域と家族構成

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-2 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。

<1世帯目>および次ページの<2世帯目>のそれぞれについてお答えください。

あなたのご家族が、1か所の復興公営住宅を希望する場合は、<2世帯目>は（3）で「23」を選び、問 12-4 へ進んでください。

<1世帯目>

（1）最も希望する自治体を教えてください。（○は1つ）

（2）家族構成をご記入ください。（人数で回答）※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

<2世帯目>分散して入居を希望しない場合は、（3）で「23」を選び、問 12-4 へ進んでください。

（3）最も希望する自治体を教えてください。（○は1つ）

（4）家族構成をご記入ください。（人数で回答）※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

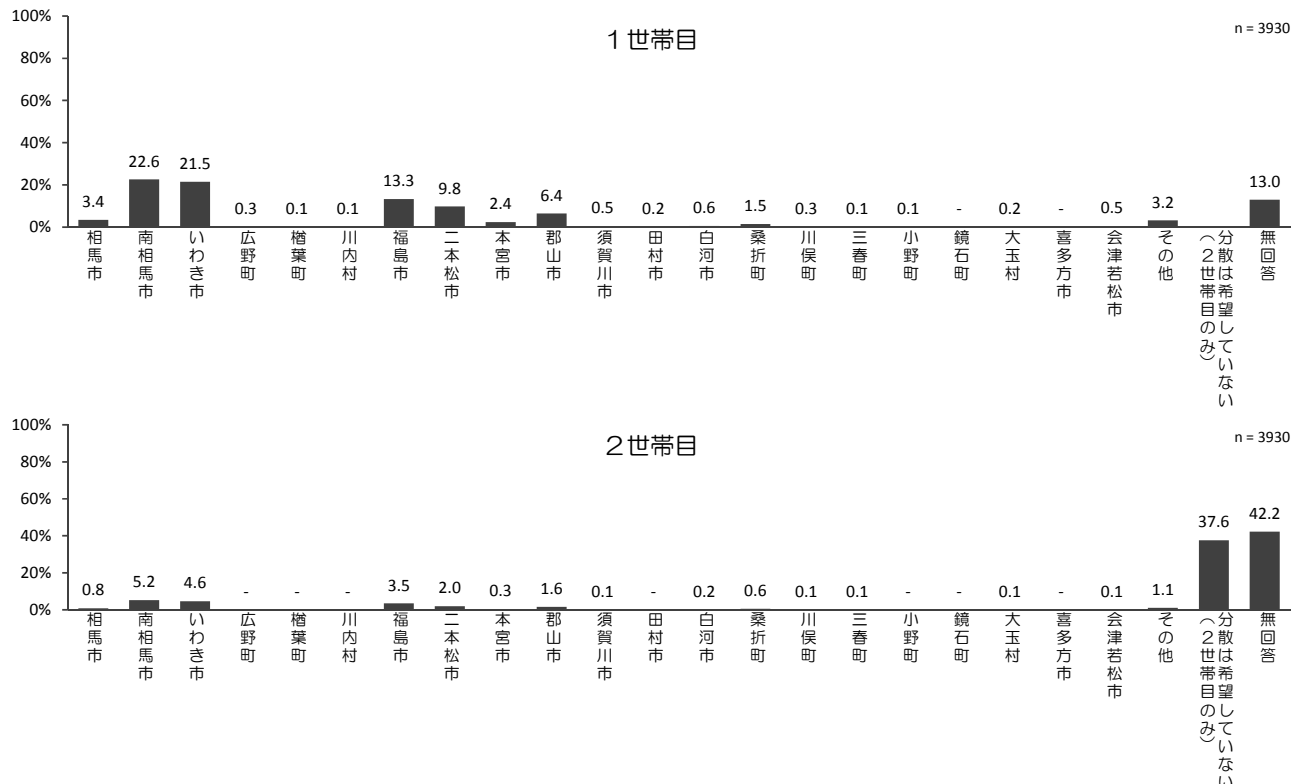
入居を希望する地域<1世帯目>については、「南相馬市」が 22.6%と最も高く、次いで「いわき市」（21.5%）、「福島市」（13.3%）となっている。

<1世帯目>の世帯構成は、高校生以下（「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」）が同居する世帯はそれぞれ1割に満たず、「65歳以上の方のいる世帯」は 47.8%となっている。世帯人数としては、「2人」が 30.9%と最も高く、次いで「1人」が 20.4%、「3人」が 16.5%となっている。

<2世帯目>の入居を希望する地域についても、「南相馬市」が 5.2%と最も高く、次いで「いわき市」（4.6%）、「福島市」（3.5%）となっており、「分散は希望していない」は 37.6%と3割を超えている。

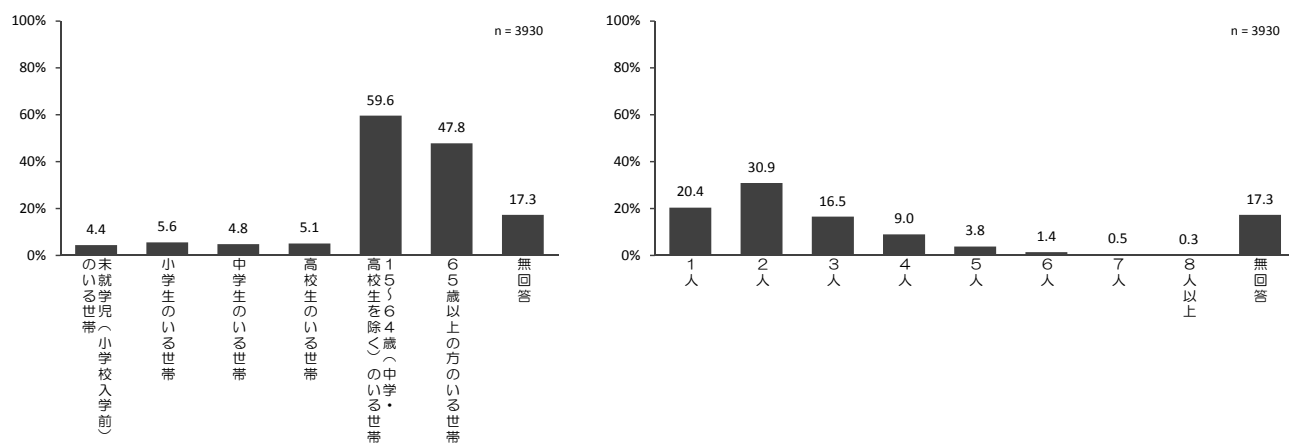
<2世帯目>の世帯構成・人数は、<1世帯目>と同様の傾向にあるが、世帯人数では、「1人」が 24.4%となっており、1世帯目よりやや割合が高くなっている。

<図表3-2-3-1 入居を希望する地域>

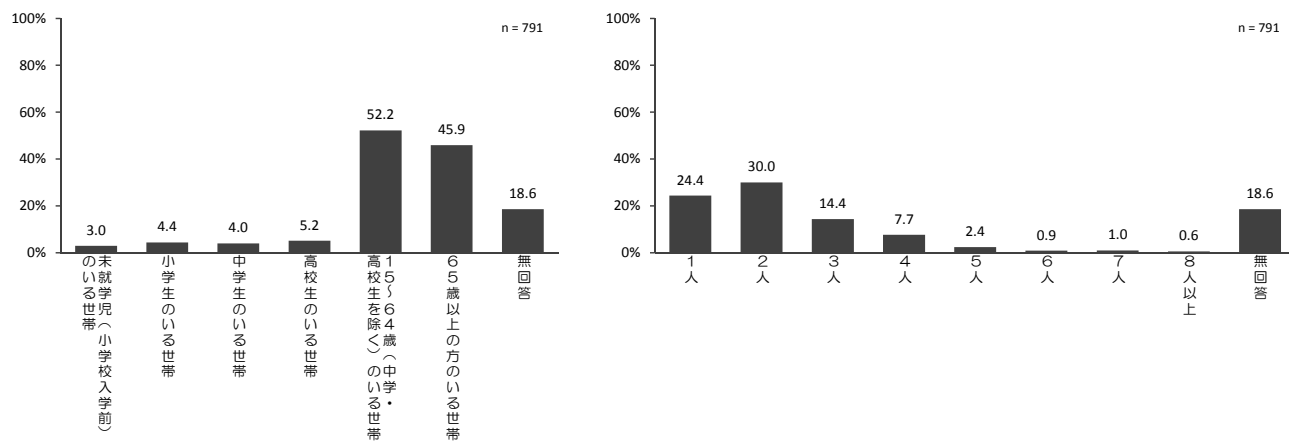


Ⅲ 調査結果

＜図表3-2-3-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）＞

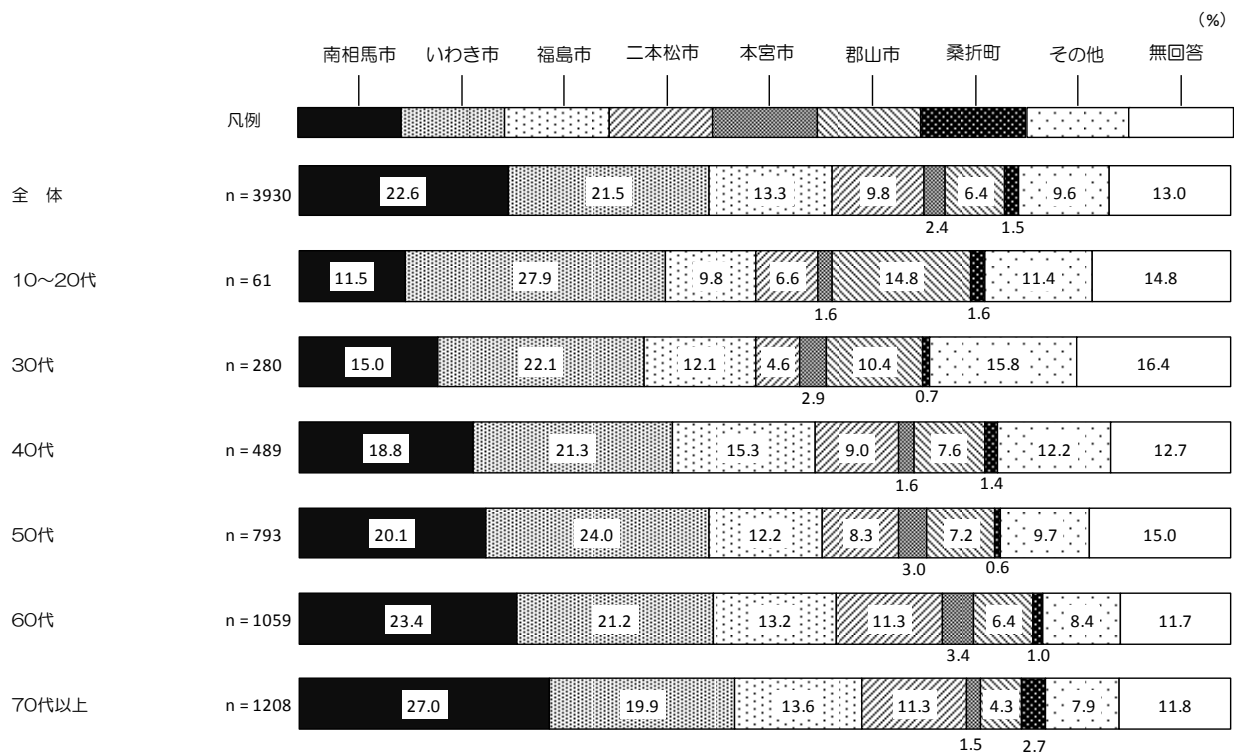


＜図表3-2-3-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）＞



1世帯目の主な入居希望地域について、世帯主の年齢別にみると、60代以上の年齢層では「南相馬市」が最も高くなっている一方で、50代以下の年齢層では「いわき市」が最も割合が高くなっている。

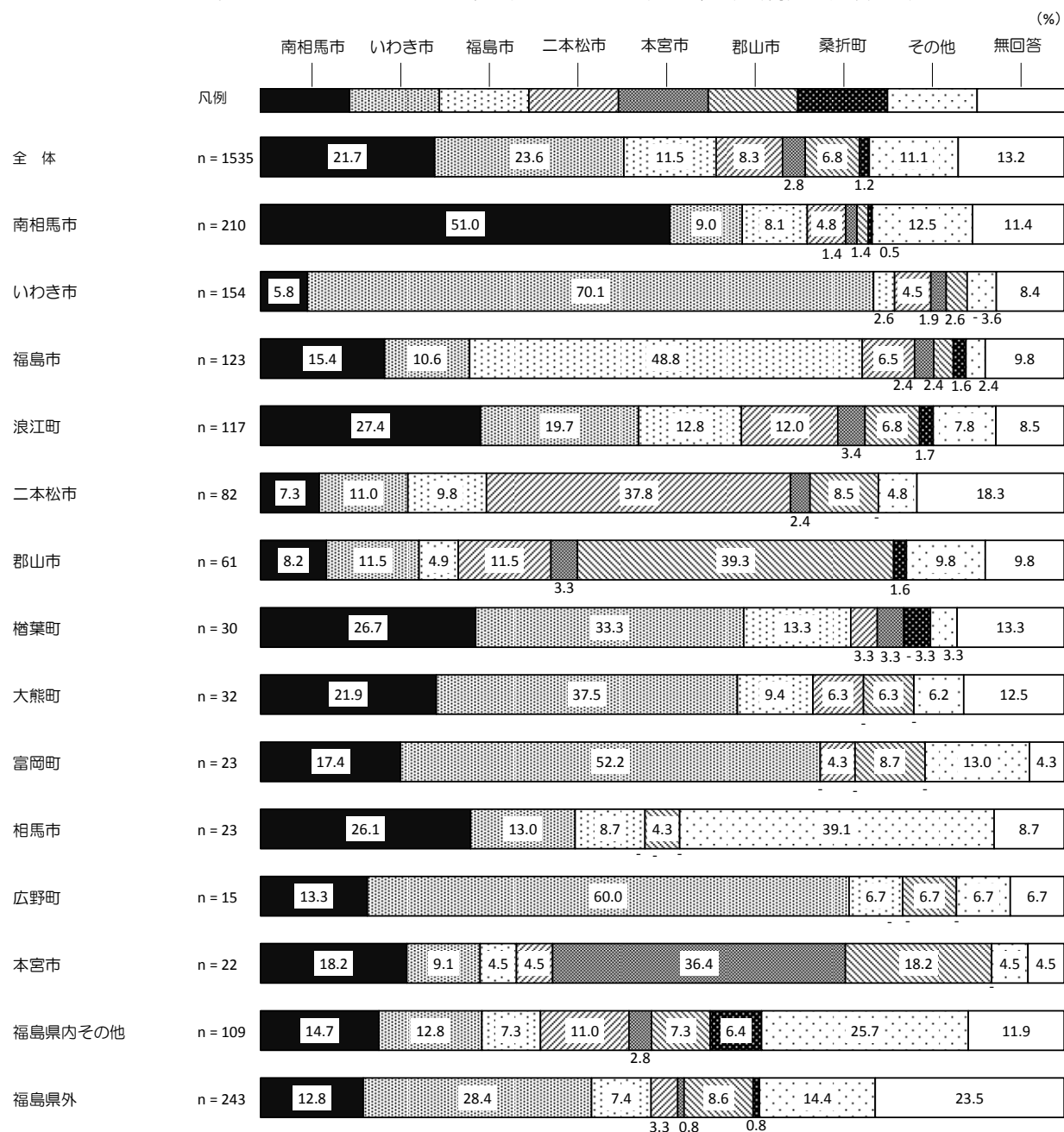
＜図表3-2-3-4 入居を希望する主な地域（1世帯目）（世帯主の年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

1世帯目の主な入居希望地域について、現在の就業先別でみると、全体的に概ね、就業先と同じ自治体の希望が高くなっており、現在南相馬市で就業をしているとした世帯では約5割が「南相馬市」を希望しており、いわき市では7割が「いわき市」を希望している。

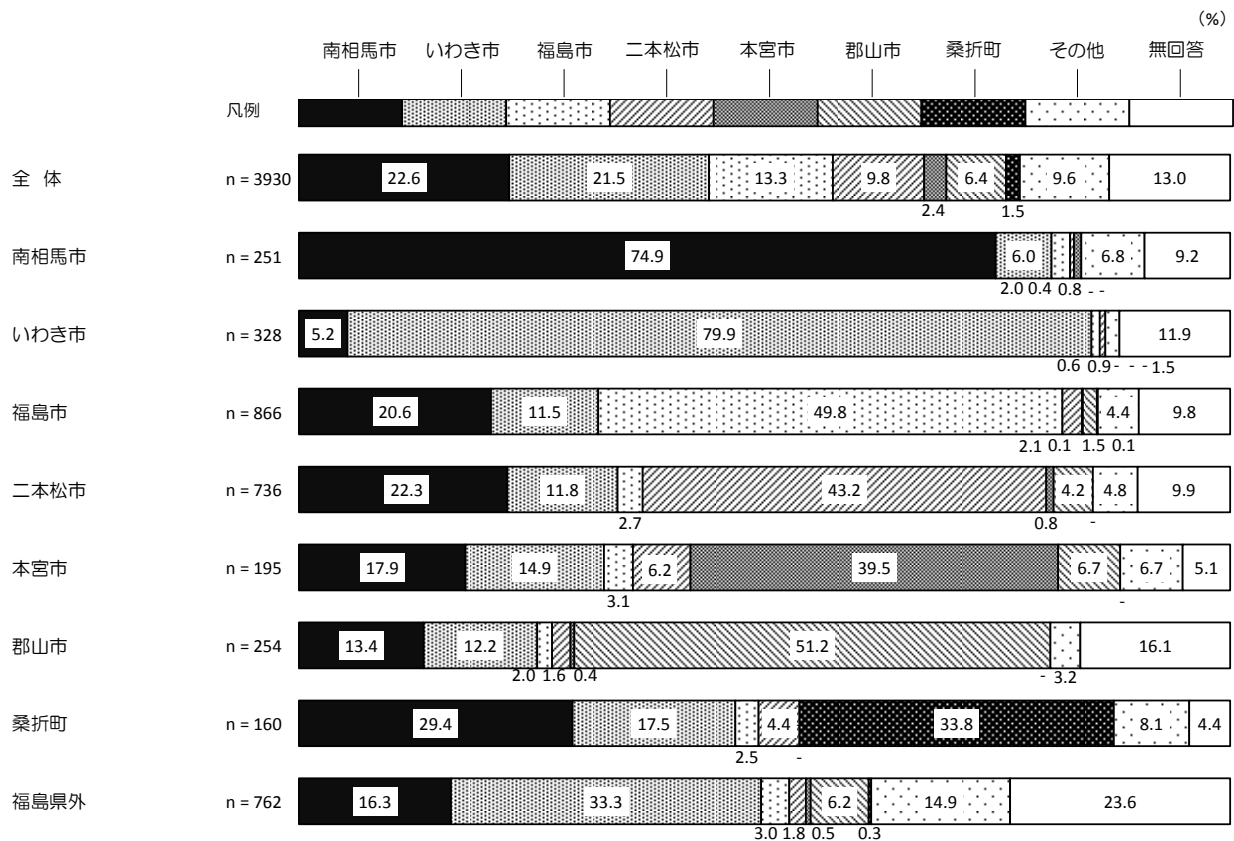
＜図表3－2－3－5 入居を希望する主な地域（1世帯目）（現在の就業先別）＞



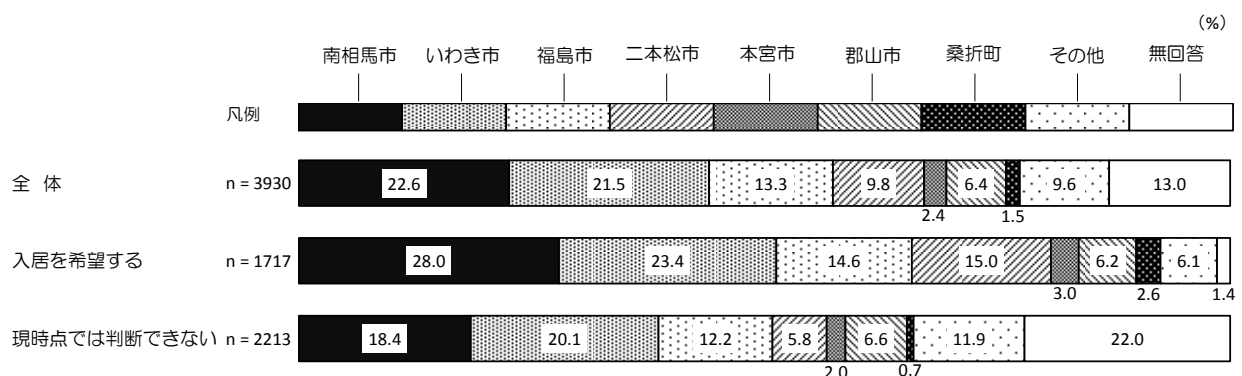
1世帯目の主な入居希望地域について、主な避難先自治体別にみると、「南相馬市」では74.9%が南相馬市を希望しており、「いわき市」では、79.9%がいわき市を希望しており、全体的に避難先の自治体と同じ自治体へ希望する割合が高くなっている。

また、復興公営住宅への入居希望別にみると、入居を希望する世帯は「南相馬市」が28.0%となっている。

＜図表3-2-3-6 入居を希望する主な地域（1世帯目）（主な避難先自治体別）＞



＜図表3-2-3-7 入居を希望する主な地域（1世帯目）（復興公営住宅への入居希望別）＞



3-2-4 分散して入居する場合の住居形態

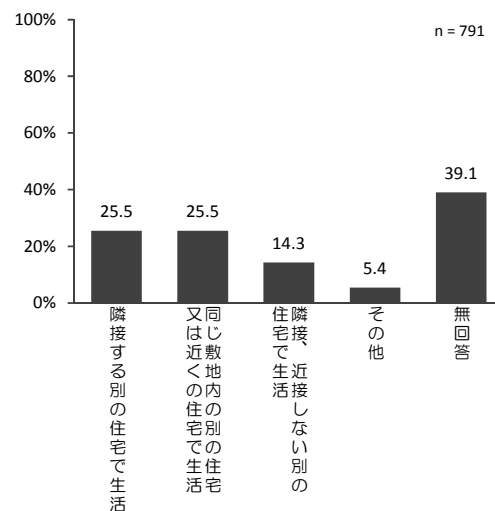
【分散して復興公営住宅へ入居を希望する方（問 12-2（3）で「1」から「22」に回答した方）にうかがいます。】

問 12-3 復興公営住宅へ2戸以上に分かれて入居する場合、現在ご一緒にお住まいの家族との生活について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

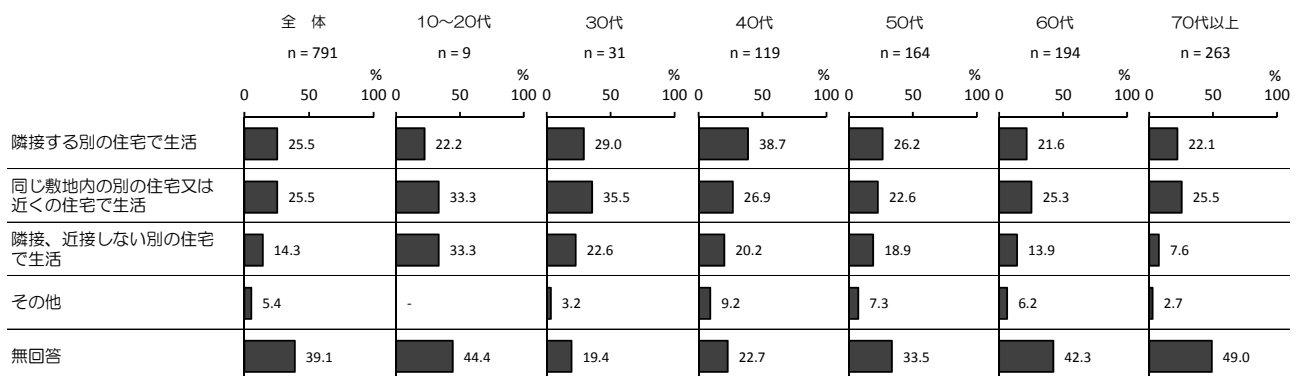
分散して入居する場合の住居形態については、「隣接する別の住宅で生活」と「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」がそれぞれ25.5%と最も高く、次いで「隣接、近接しない別の住宅で生活」が14.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、40代では「隣接する別の住宅で生活」が38.7%と3割を超え、他の年齢層に比べて割合が高くなっている。

＜図表3-2-4-1 分散して入居する場合の住居形態＞



＜図表3-2-4-2 分散して入居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



3-2-5 分散して避難している家族との同居意向

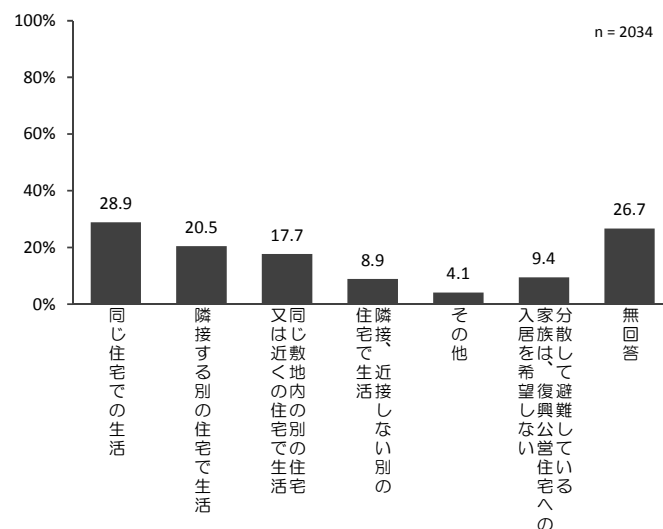
【現在分散して避難されている方（問8（3）で「2」から「4」と回答した方）にうかがいます。】

問12-4 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

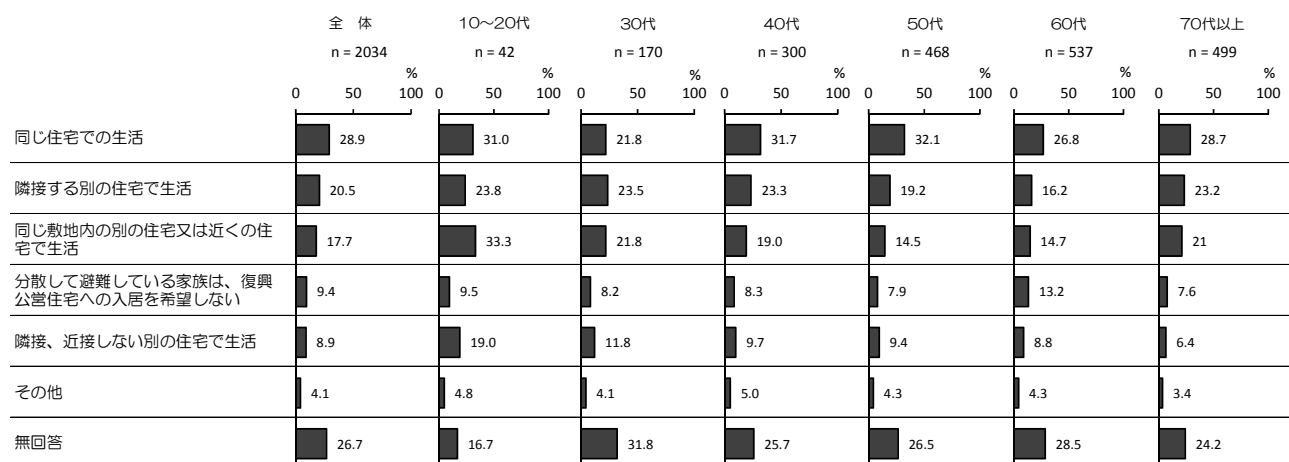
分散して避難している家族との同居意向については、「同じ住宅での生活」が28.9%と最も高く、次いで「隣接する別の住宅で生活」が20.5%、「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」が17.7%となっている。

世帯主の年齢別にみると、どの年齢層でも全体的な傾向と概ね同じだが、10～20代については「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」が33.3%となっており、最も割合が高くなっている。

＜図表3-2-5-1 分散して避難している家族との同居意向＞



＜図表3-2-5-2 分散して避難している家族との同居意向（世帯主の年齢別）＞



3-2-6 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

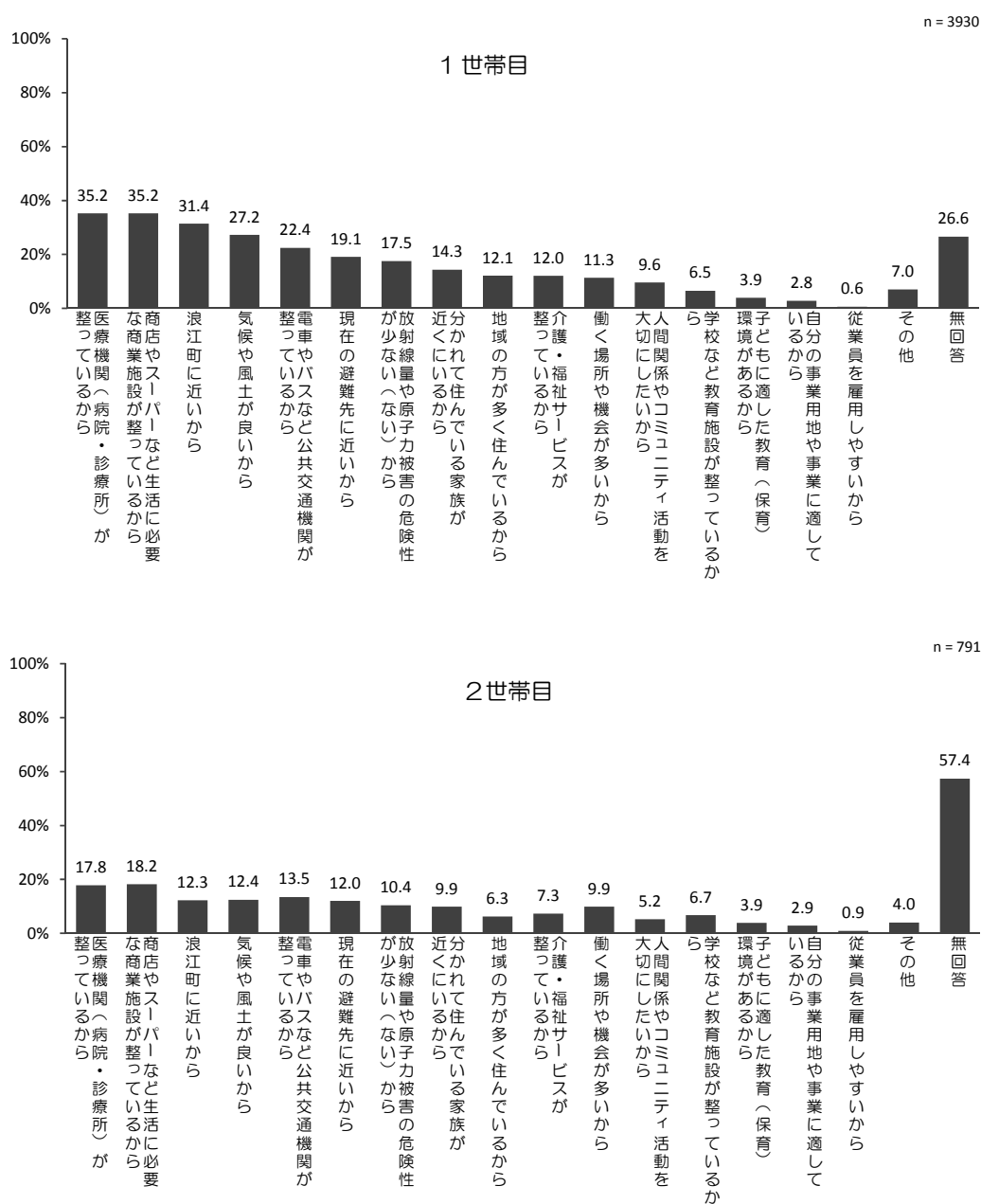
問12-5 あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。

ご家族が分散して入居を希望する場合には、それぞれ番号をお選びください。（世帯ごとに、〇はいくつでも）

復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由については、1世帯目に関しては、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」がそれぞれ35.2%と最も高く、次いで「浪江町に近いから」が31.4%などとなっている。

なお、2世帯目に関しては、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」が18.2%と最も高く、次いで、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」が17.8%となっている。

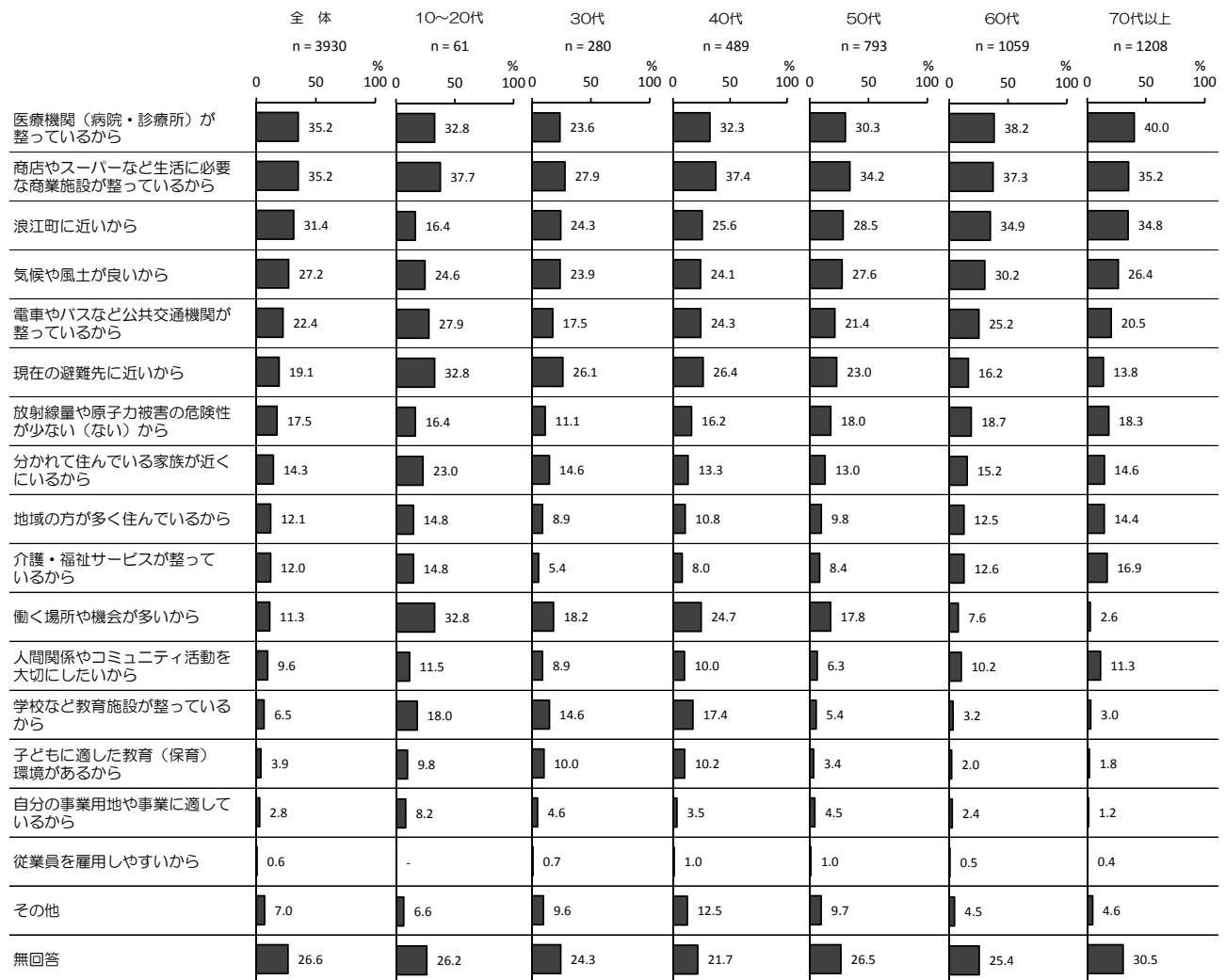
＜図表3-2-6-1 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由＞



世帯主の年齢別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」は、高齢層を中心に全体的に高い傾向にあるが、50代以下では「働く場所や機会が多いから」が60代以上の年齢層と比べて高くなっている。

また、「浪江町に近いから」は、概ね年齢が高くなるに従ってその割合も高くなっている。一方、「現在の避難先に近いから」は年齢が高くなるに従ってその割合も低くなっている。

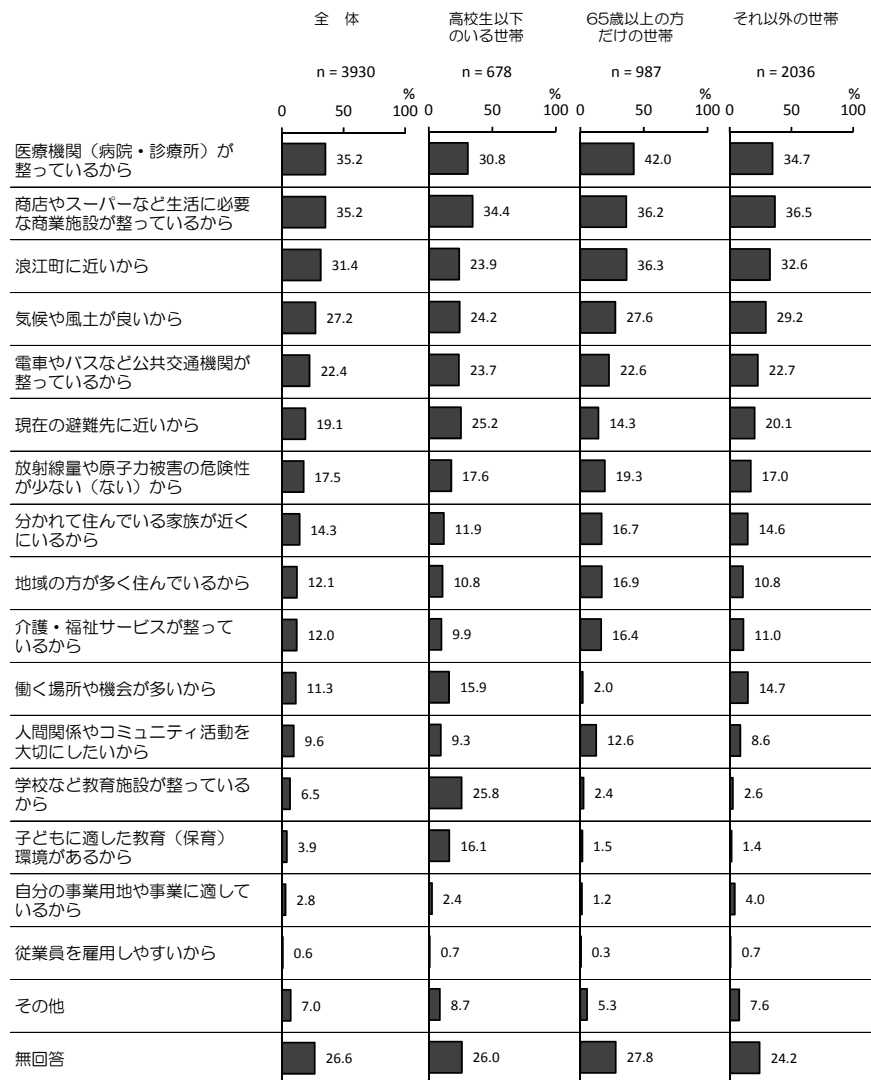
＜図表3-2-6-2 復興公営住宅（1世帯目）に入居を希望する自治体を選んだ理由（世帯主の年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

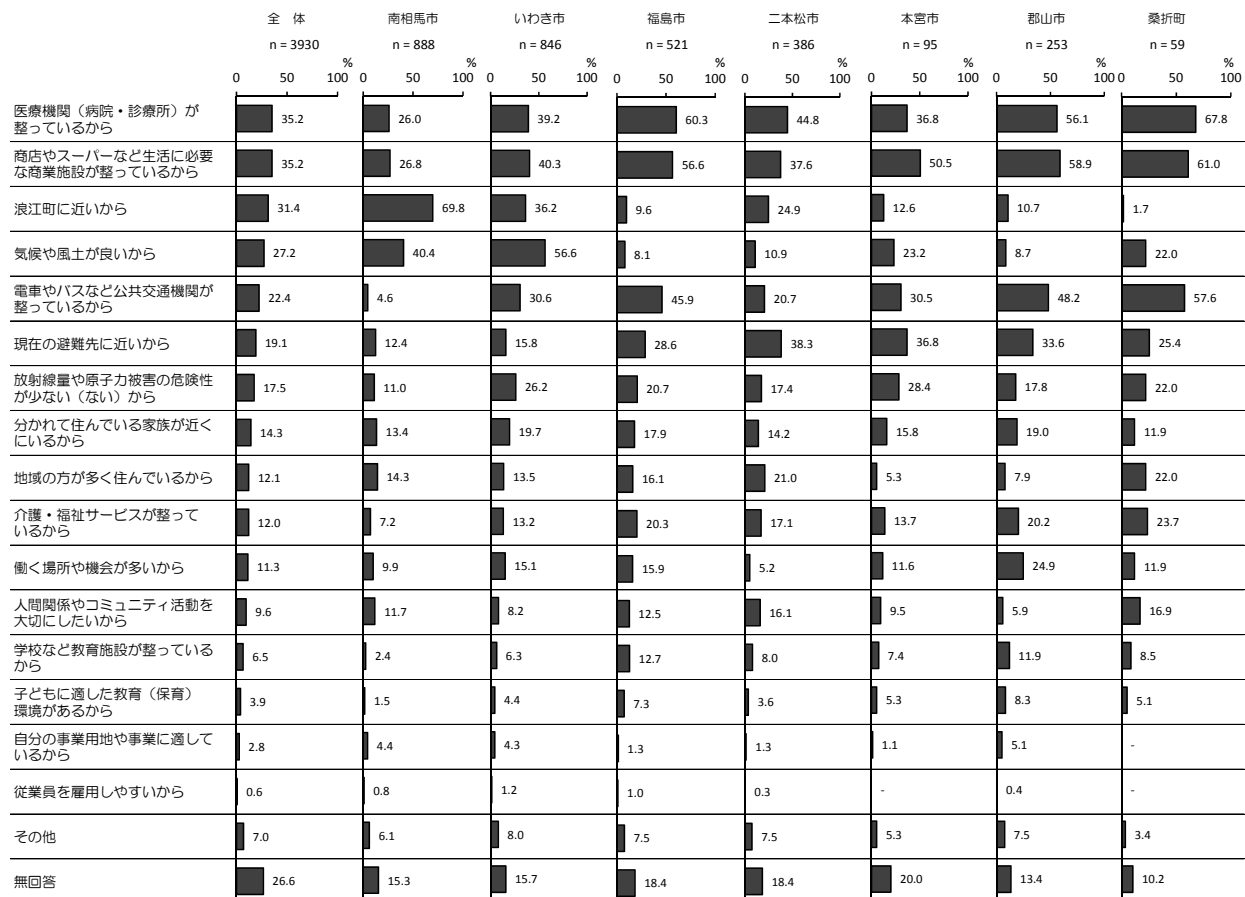
現在の世帯構成別にみると、65 歳以上の方だけの世帯で「医療機関（病院・診療所）が整っているから」が 42.0%と最も高くなっているが、高校生以下のいる世帯とそれ以外の世帯では、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」がそれぞれ最も割合が高くなっている。

＜図表 3-2-6-3 復興公営住宅（1 世帯目）に入居を希望する自治体を選んだ理由（現在の世帯構成別）＞



復興公営住宅に入居を希望する主な地域（１世帯目）別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」は、福島市、桑折町で最も高くなっている。一方、南相馬市へ入居を希望する世帯では、「浪江町に近いから」が約７割、いわき市へ入居を希望する世帯では「気候や風土が良いから」が約６割と高くなっている。

＜図表３－２－６－４ 復興公営住宅（１世帯目）に入居を希望する自治体を選んだ理由（入居を希望する主な地域別）＞



3-2-7 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能

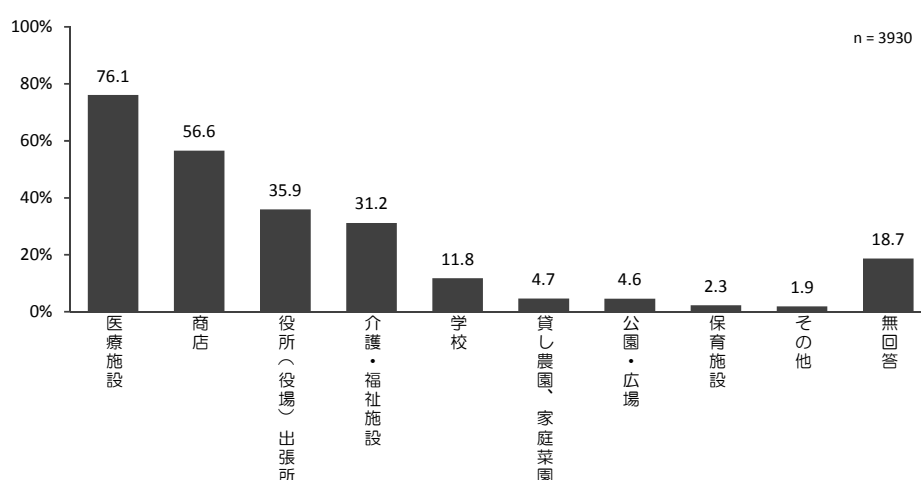
【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-6 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。
（〇は3つまで）

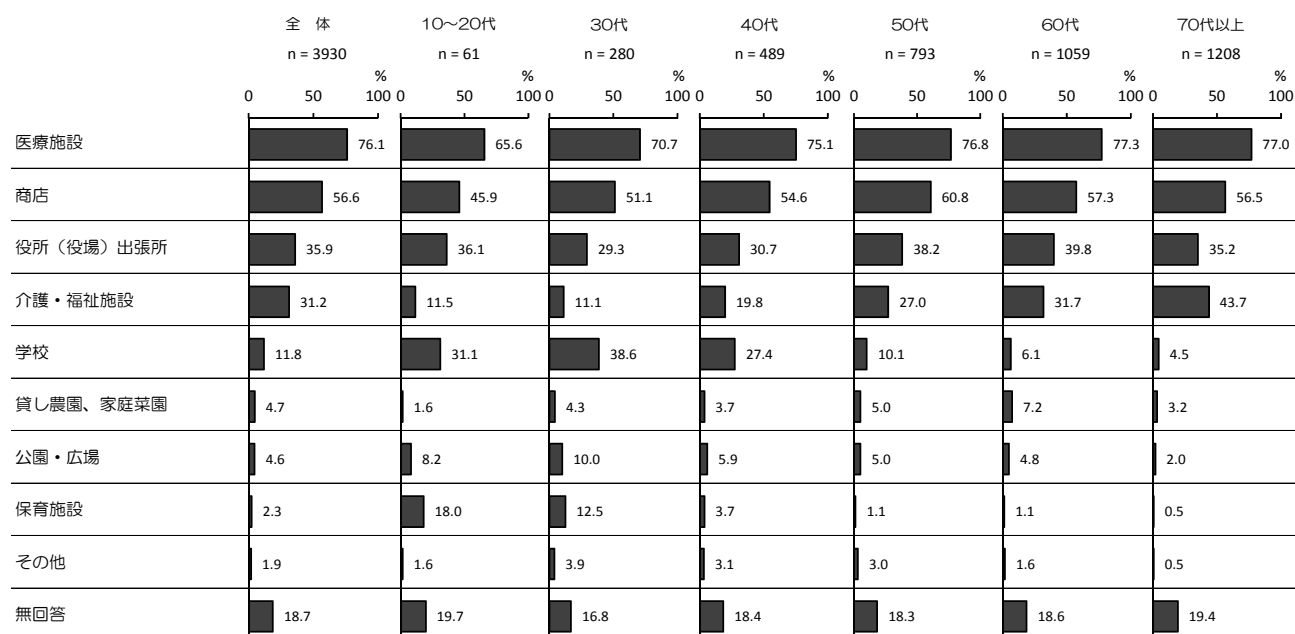
復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能については、「医療施設」が76.1%と最も高く、次いで「商店」が56.6%、「役所（役場）出張所」が35.9%、「介護・福祉施設」が31.2%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「医療施設」がいずれの年齢層でも最も高くなっているが、40代以下では「学校」が約3割と他の年齢層と比べて高くなっている。

＜図表3-2-7-1 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能＞



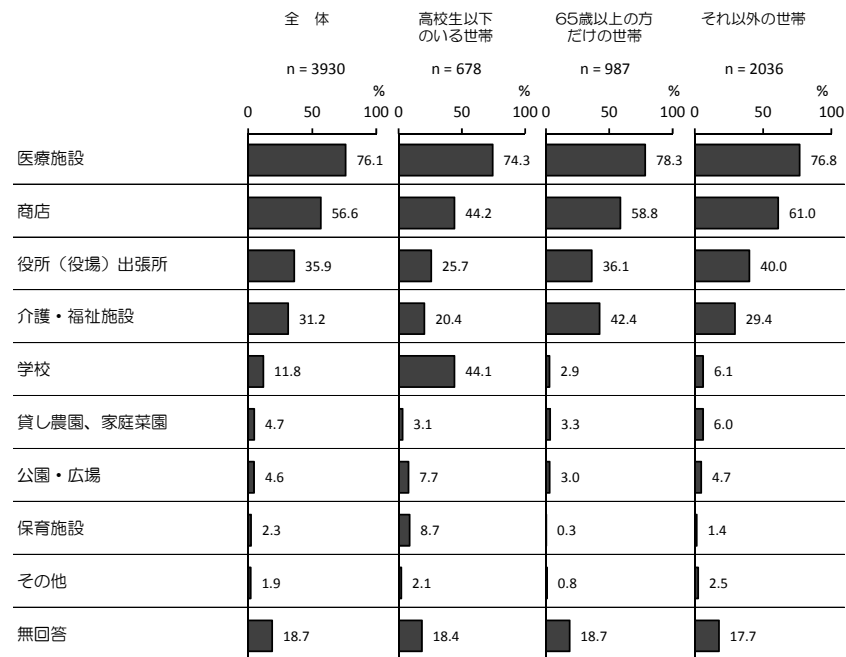
＜図表3-2-7-2 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（世帯主の年齢別）＞



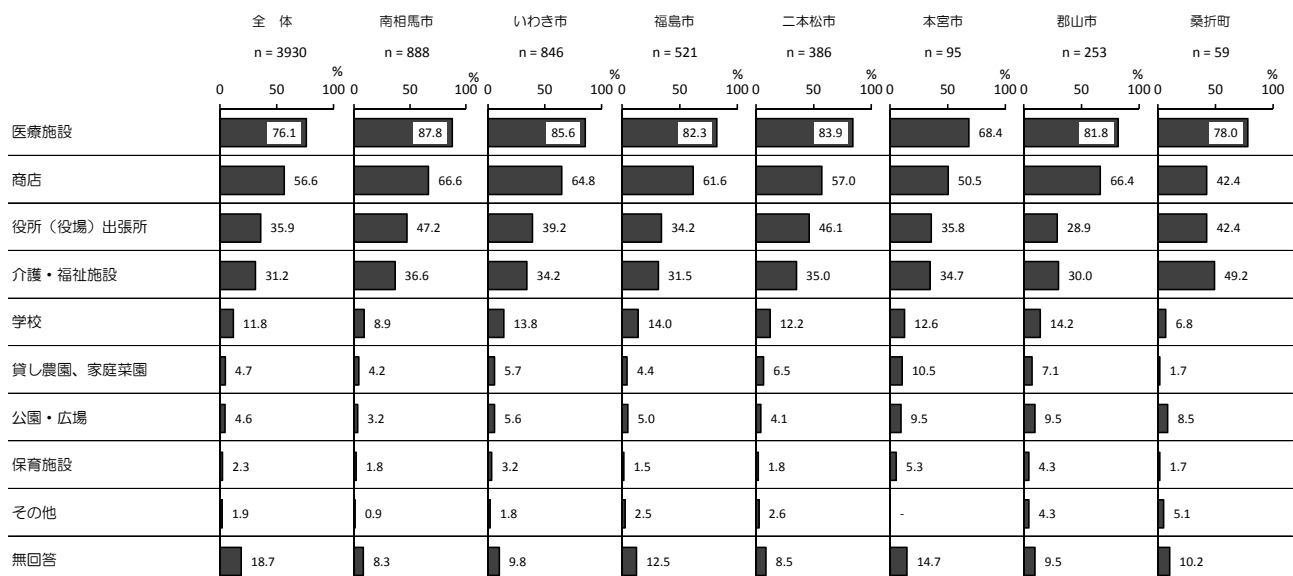
現在の世帯構成別にみると、「医療施設」がいずれの世帯構成でも最も高くなっているが、65 歳以上の方だけの世帯では「介護・福祉施設」（42.4％）が、高校生以下のいる世帯では「学校」（44.1％）が、他の世帯構成と比べて割合が高くなっている。

復興公営住宅に入居を希望する主な地域（1 世帯目）別にみると、いずれの地域においても「医療施設」の割合が高くなっている。

<図表 3-2-7-3 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（現在の世帯構成別）>



<図表 3-2-7-4 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（入居を希望する主な地域（1 世帯目）別）>



3-2-8 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス

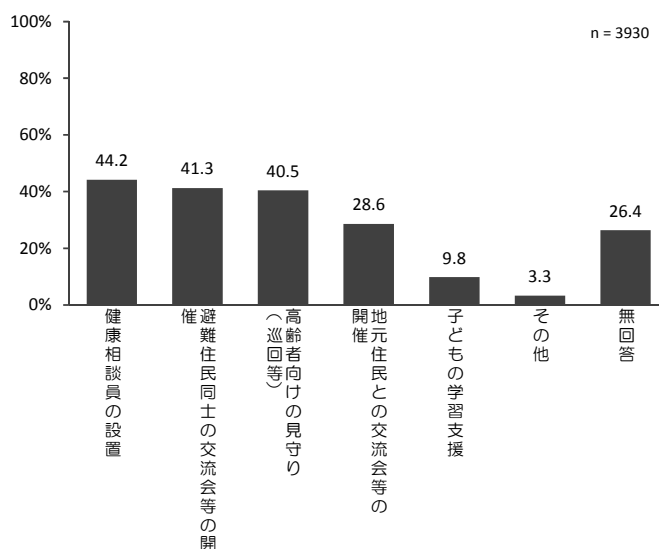
【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-7 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

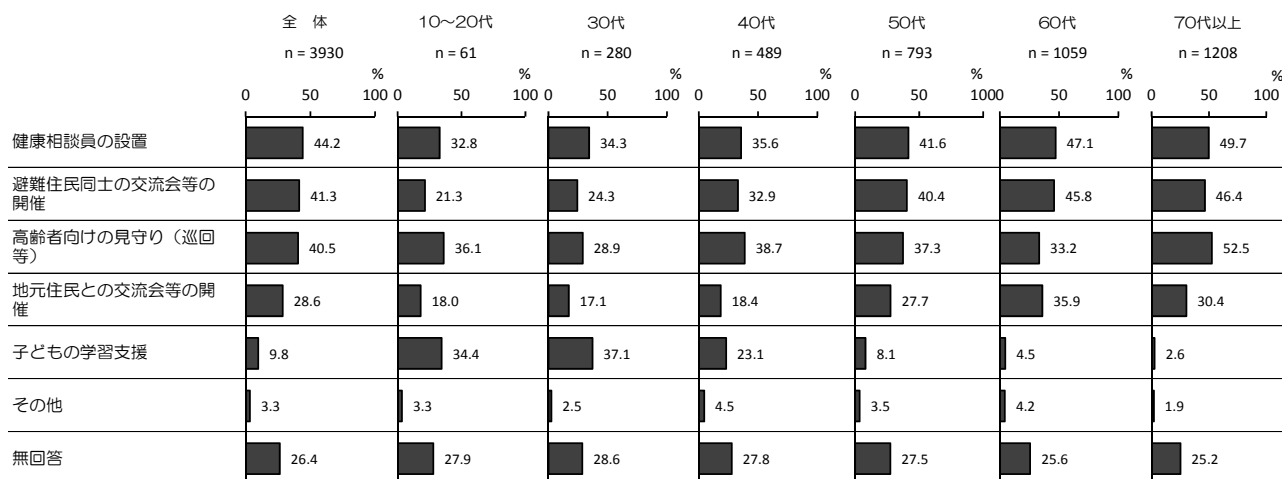
復興公営住宅に入居する場合に必要なサービスについては、「健康相談員の設置」が44.2%と最も高く、次いで「避難住民同士の交流会等の開催」が41.3%、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が40.5%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「健康相談員の設置」、「避難住民同士の交流会等の開催」は、年齢が高くなるに従ってその割合も高くなっている。一方、40代以下では「子どもの学習支援」が他の年齢層に比べて、その割合が高くなっている。

＜図表3-2-8-1 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス＞



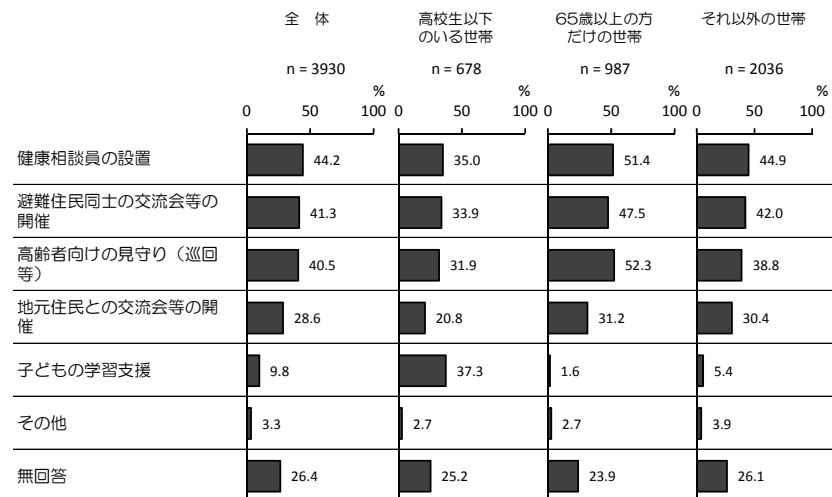
＜図表3-2-8-2 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（世帯主の年齢別）＞



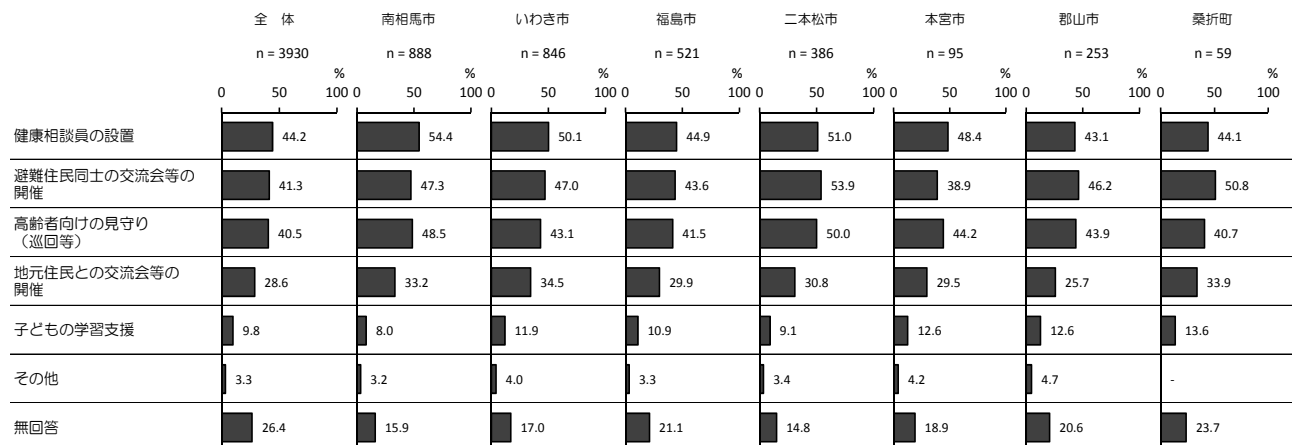
現在の世帯構成別にみると、「健康相談員の設置」、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は、65歳以上の方だけの世帯で5割を超え高くなっている。一方で、高校生以下のいる世帯では「子どもの学習支援」（37.3%）が最も高くなっている。

復興公営住宅に入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、「避難住民同士の交流会等の開催」は、二本松市（53.9%）、桑折町（50.8%）で過半数を占めている。

＜図表3-2-8-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（現在の世帯構成別）＞



＜図表3-2-8-4 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（入居を希望する主な地域（1世帯目）別）＞



3-2-9 復興公営住宅以外の避難期間中の住居

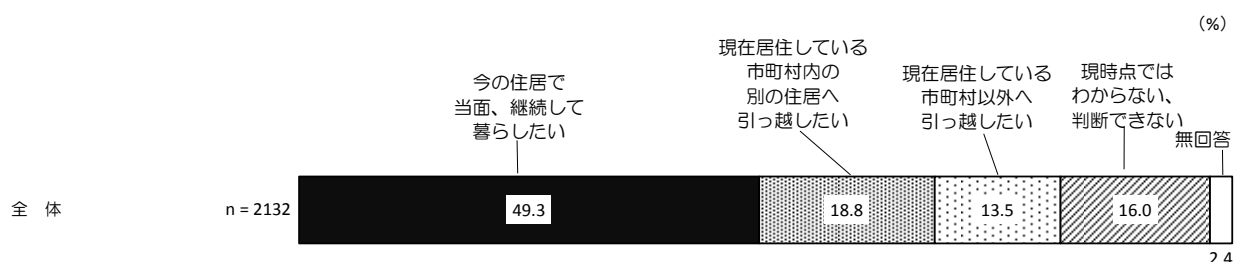
【問 12 で「3.入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-8 あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。（〇は1つ）

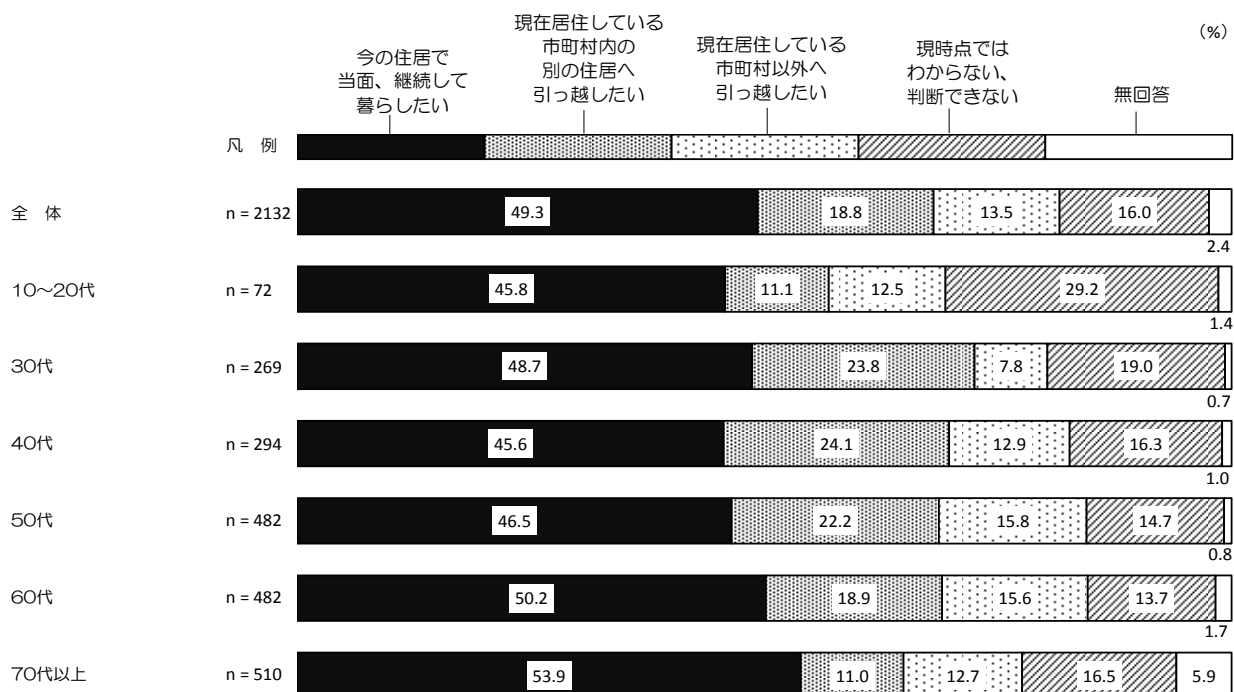
復興公営住宅以外の避難期間中の住居については、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」が 49.3%と最も高く、次いで「現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」が 18.8%、「現時点ではわからない、判断できない」が 16.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いずれの年齢層でも最も高くなっているが、10～20 代では「現時点ではわからない、判断できない」（29.2%）が他の年齢層に比べて高くなっている。

＜図表 3-2-9-1 復興公営住宅以外の避難期間中の住居＞



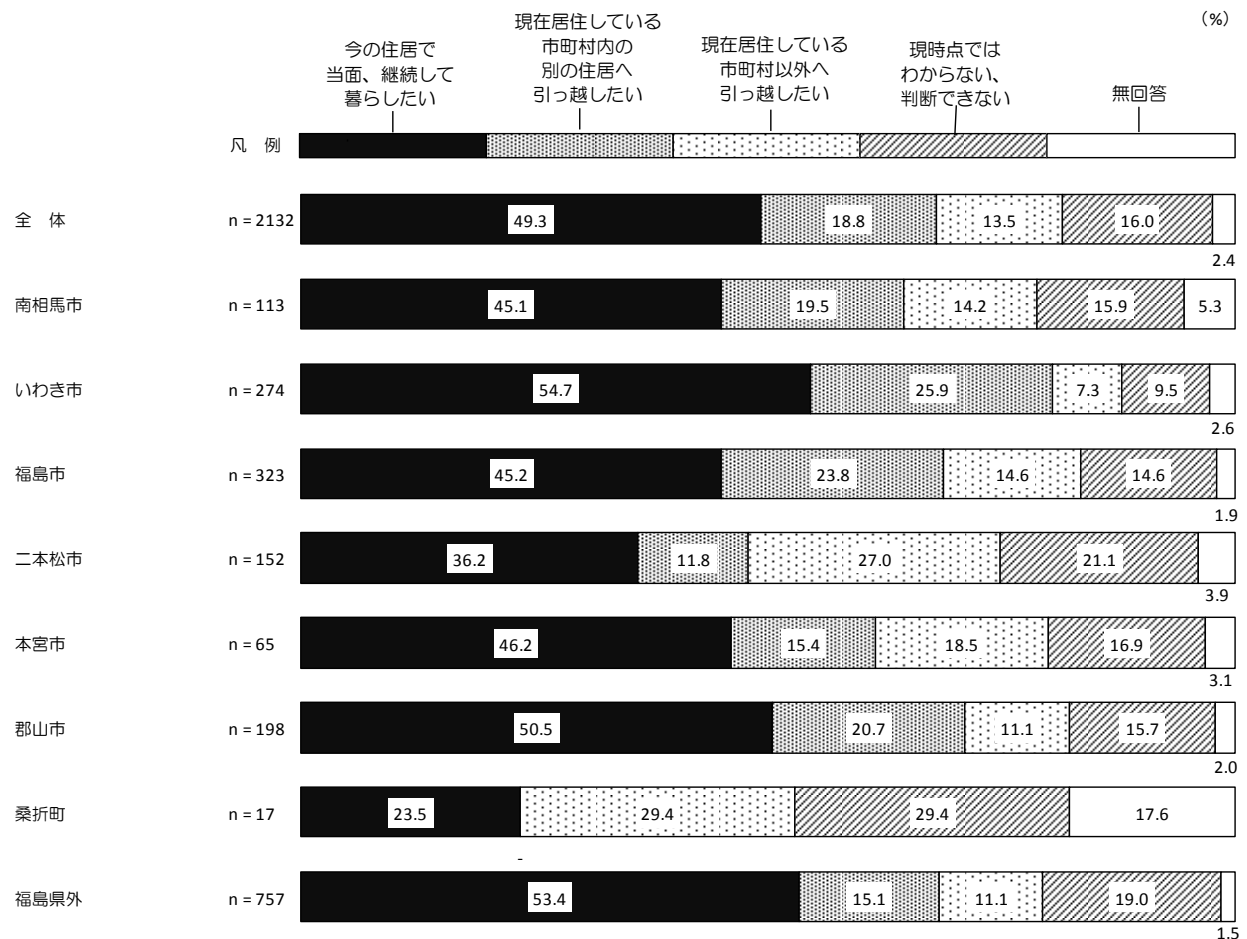
＜図表 3-2-9-2 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（世帯主の年齢別）＞



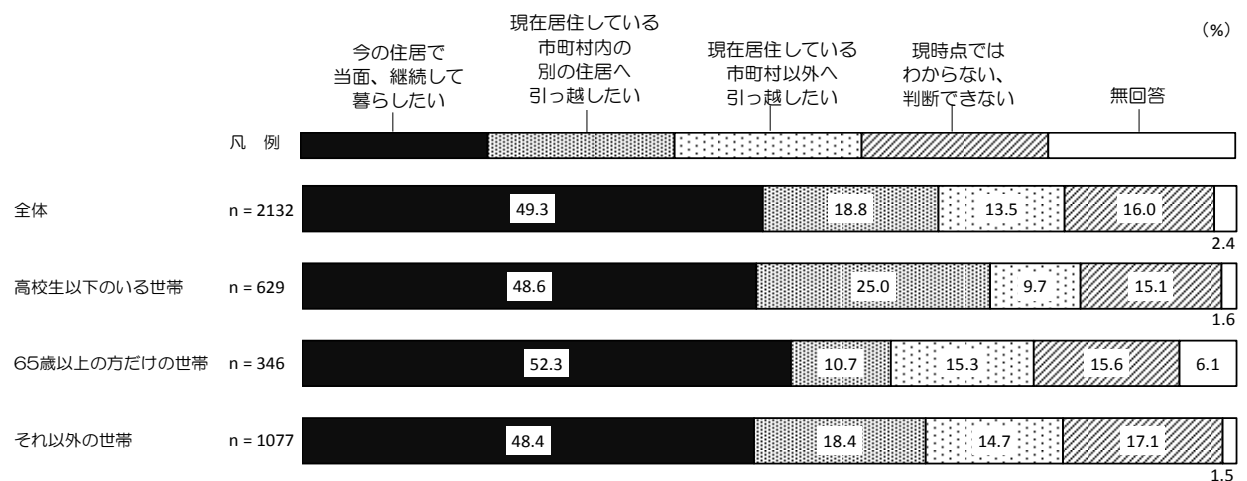
主な避難先自治体別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いわき市（54.7%）、福島県外（53.4%）、郡山市（50.5%）で過半数を占め、他の避難先自治体に比べて高くなっている。

現在の世帯構成別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いずれの世帯構成でも約5割となっており、最も高くなっている。

＜図表3-2-9-3 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（主な避難先自治体別）＞



＜図表3-2-9-4 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（現在の世帯構成別）＞



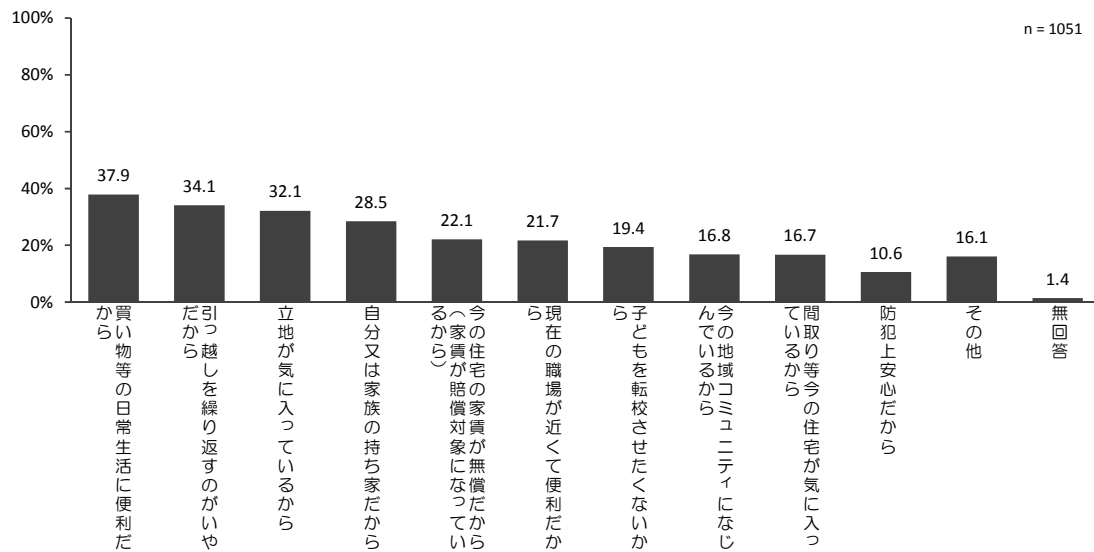
3-2-10 現在の住居で継続して暮らしたい理由

【問 12-8 で「1.今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-9 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。（〇はいくつでも）

現在の住居で継続して暮らしたい理由については、「買い物等の日常生活に便利だから」が 37.9%と最も高く、次いで「引っ越しを繰り返すのがいやだから」が 34.1%、「立地が気に入っているから」が 32.1%などとなっている。

＜図表3-2-10-1 現在の住居で継続して暮らしたい理由＞



世帯主の年齢別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、50代、60代で最も高くなっているが、30代、40代では「子どもを転校させたくないから」がそれぞれ48.9%、51.5%と約半数を占める。10～20代では「現在の職場が近くて便利だから」（51.5%）が最も高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、郡山市が「買い物等の日常生活に便利だから」（49.0%）が他と比べて高くなっている。また、福島県外では「引っ越しを繰り返すのがいやだから」（37.9%）が最も高くなっている。

＜図表3-2-10-2 現在の住居で継続して暮らしたい理由（世帯主の年齢別）＞

	全 体 n = 1051	10～20代 n = 33	30代 n = 131	40代 n = 134	50代 n = 224	60代 n = 242	70代以上 n = 275
	0 50 100 %	0 50 100 %	0 50 100 %	0 50 100 %	0 50 100 %	0 50 100 %	0 50 100 %
買い物等の日常生活に便利だから	37.9	27.3	31.3	35.1	40.2	46.3	34.5
引っ越しを繰り返すのがいやだから	34.1	30.3	46.6	43.3	34.8	33.9	24.0
立地が気に入っているから	32.1	21.2	29.0	26.1	37.5	38.0	28.4
自分又は家族の持ち家だから	28.5	18.2	17.6	16.4	32.6	31.8	35.6
今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）	22.1	18.2	19.8	25.4	21.0	28.5	17.5
現在の職場が近くて便利だから	21.7	51.5	38.9	31.3	33.0	14.5	1.5
子どもを転校させたくないから	19.4	15.2	48.9	51.5	18.3	5.8	2.9
今の地域コミュニティになじんでいるから	16.8	12.1	13.0	15.7	16.1	19.0	18.5
間取り等今の住宅が気に入っているから	16.7	9.1	20.6	14.2	19.2	21.5	10.9
防犯上安心だから	10.6	6.1	7.6	11.2	12.1	11.2	10.9
その他	16.1	18.2	12.2	9.7	14.7	15.3	22.5
無回答	1.4	-	-	0.7	-	1.2	3.6

＜図表3-2-10-3 現在の住居で継続して暮らしたい理由（主な避難先自治体別）＞

		だ 買 い物 等 の 日 常 生 活 に 便 利	引 越 し を 繰 り 返 す の が	立 地 が 気 に 入 っ て い る か ら	自 分 又 は 家 族 の 持 ち 家	今 の 住 宅 の 家 賃 が 無 償 に な っ て い る か ら	現 在 の 職 場 が 近 く て 便 利	子 ど も を 転 校 さ せ た く な い	今 の 地 域 コ ミ ュ ニ ティ に	間 取 り 等 今 の 住 宅 が 気 に 入 っ	防 犯 上 安 心 だ か ら	そ の 他	無 回 答
	n												
全 体	1051	37.9	34.1	32.1	28.5	22.1	21.7	19.4	16.8	16.7	10.6	16.1	1.4
南相馬市	51	31.4	23.5	29.4	23.5	19.6	31.4	7.8	9.8	17.6	7.8	5.9	2.0
いわき市	150	38.0	28.7	32.7	46.7	17.3	25.3	18.0	12.0	18.7	11.3	11.3	0.7
福島市	146	44.5	29.5	38.4	26.0	18.5	11.0	21.2	13.0	19.2	11.0	15.1	2.1
二本松市	55	38.2	38.2	30.9	16.4	40.0	32.7	23.6	20.0	14.5	12.7	3.6	1.8
本宮市	30	46.7	46.7	43.3	13.3	30.0	20.0	26.7	23.3	23.3	20.0	13.3	3.3
郡山市	100	49.0	37.0	43.0	32.0	24.0	21.0	13.0	13.0	19.0	13.0	18.0	-
桑折町	4	75.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-
福島県外	404	33.7	37.9	29.7	26.2	23.0	19.8	19.8	19.8	14.9	10.1	19.3	1.5

Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「子どもを転校させたくないから」（64.1％）が6割を超えており、他の年齢層に比べて高くなっている。

＜図表3－2－10－4 現在の住居で継続して暮らしたい理由（現在の世帯構成別）＞

(%)													
		買い物等の日常生活に便利だから	引っ越しを繰り返すのがいやだから	立地が気に入っているから	自分又は家族の持ち家だから	今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）	現在の職場が近くて便利だから	子どもを転校させたくないから	今の地域コミュニティになじんでいるから	間取り等今の住宅が気に入っているから	防犯上安心だから	その他	無回答
	n												
全 体	1051	37.9	34.1	32.1	28.5	22.1	21.7	19.4	16.8	16.7	10.6	16.1	1.4
高校生以下のいる世帯	306	34.6	37.6	31.0	27.8	22.9	25.2	64.1	16.3	16.3	10.5	11.8	1.3
65歳以上の方だけの世帯	181	38.1	31.5	31.5	28.7	22.7	2.8	-	18.8	13.3	12.7	24.9	1.7
それ以外の世帯	521	40.5	34.0	33.4	29.9	21.1	26.5	1.3	16.1	17.9	10.0	15.7	0.6

3-2-11 避難期間中、転居を希望する自治体

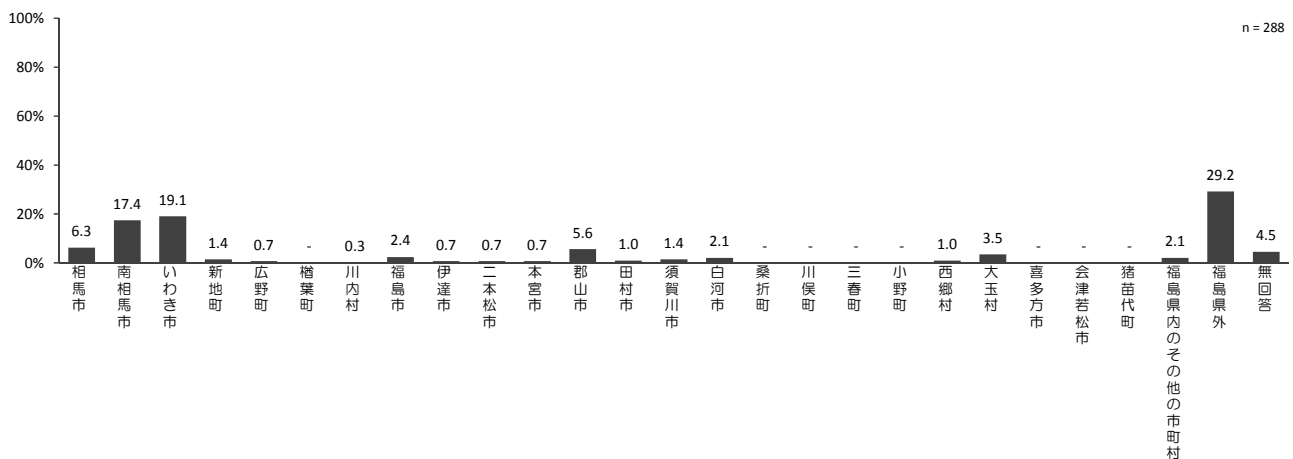
【問 12-8 で「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-10 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

避難期間中、転居を希望する自治体については、「福島県外」が 29.2%と最も高く、次いで「いわき市」が 19.1%、「南相馬市」が 17.4%となっている。

主な避難先自治体別にみると、福島県外に避難している世帯は「福島県外」に転居を希望する割合が 53.6%と過半数を占めて高くなっており、いわき市に避難している世帯は「南相馬市」に転居を希望する割合が 40.0%と4割で高くなっている。

＜図表3-2-11-1 避難期間中、転居を希望する自治体＞



＜図表3-2-11-2 避難期間中、転居を希望する主な自治体（主な避難先自治体別）＞

		(%)					
	n	相馬市	南相馬市	いわき市	郡山市	大玉村	福島県外
全 体	288	6.3	17.4	19.1	5.6	3.5	29.2
南相馬市	16	12.5	-	25.0	-	-	37.5
いわき市	20	5.0	40.0	-	5.0	-	30.0
福島市	47	12.8	25.5	14.9	8.5	-	19.1
二本松市	41	7.3	22.0	24.4	9.8	14.6	7.3
本宮市	12	8.3	25.0	16.7	16.7	16.7	-
郡山市	22	9.1	18.2	18.2	-	-	27.3
桑折町	5	-	20.0	-	-	40.0	-
福島県外	84	3.6	6.0	21.4	3.6	-	53.6

Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では、「いわき市」(23.0%)と「福島県外」(27.9%)が2割以上となっており、65歳以上の方だけの世帯では、「いわき市」が32.1%と約3割となっている。

＜図表3－2－11－3 避難期間中、転居を希望する主な自治体（現在の世帯構成別）＞

		(%)					
	n	相馬市	南相馬市	いわき市	郡山市	大玉村	福島県外
全 体	288	6.3	17.4	19.1	5.6	3.5	29.2
高校生以下のいる世帯	61	9.8	11.5	23.0	4.9	6.6	27.9
65歳以上の方だけの世帯	53	3.8	24.5	32.1	3.8	-	20.8
それ以外の世帯	158	5.7	17.1	13.9	7.0	3.8	33.5

3-2-12 避難期間中、転居する場合の住宅形態

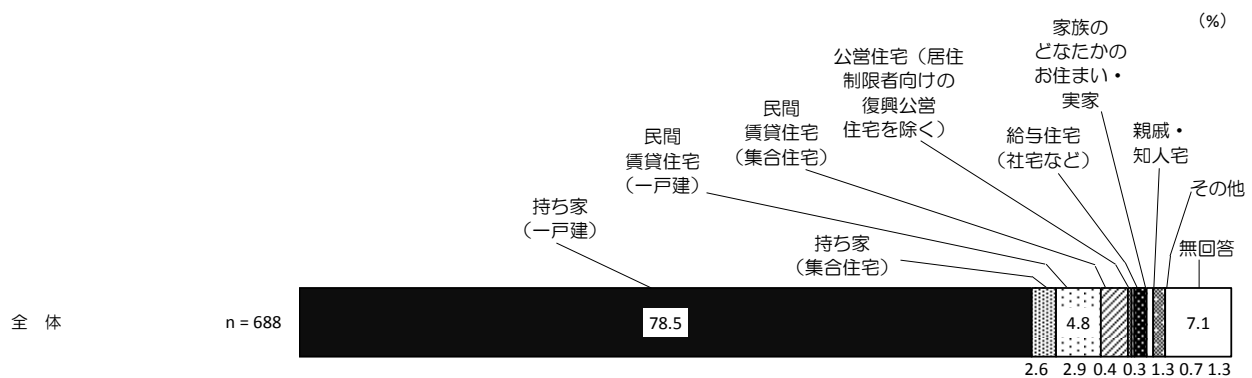
【問 12-8で「2.現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-11 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

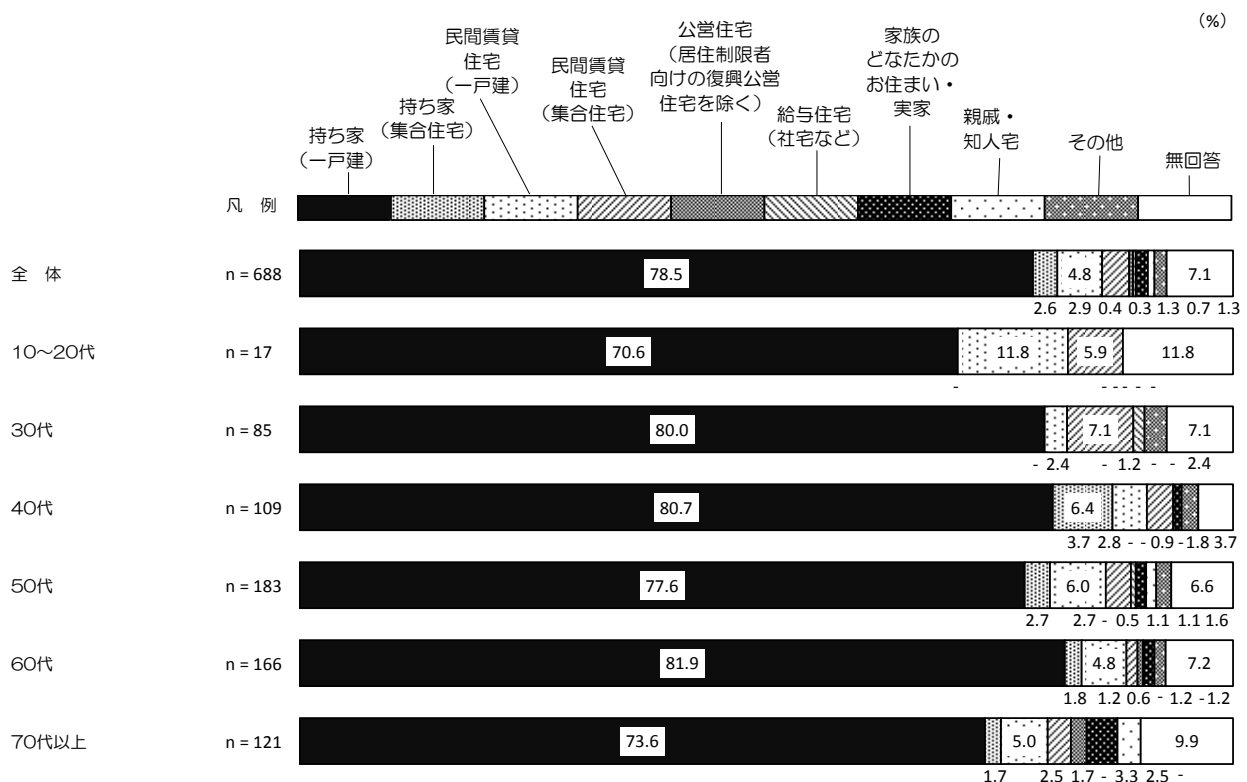
避難期間中、転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が78.5%と最も高く、約8割を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」がいずれの年齢層でも7割を超えて最も高くなっている。

＜図表3-2-12-1 避難期間中、転居する場合の住宅形態＞



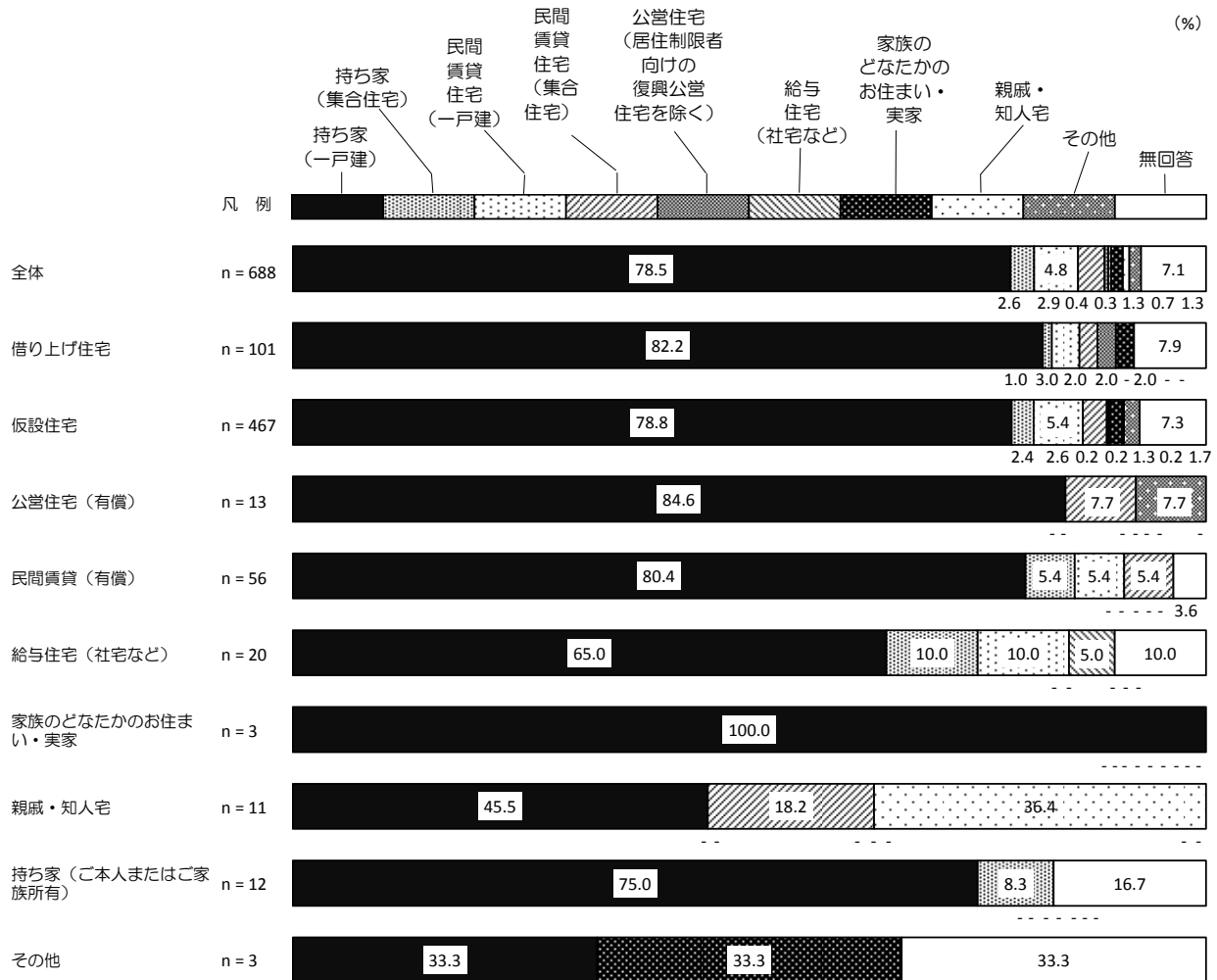
＜図表3-2-12-2 避難期間中、転居する場合の住宅形態（世帯主の年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

現在の住居形態別にみると、いずれの住居形態においても「持ち家（一戸建）」が他の住居形態と比べて高くなっている。

＜図表３－２－１２－３ 避難期間中、転居する場合の住宅形態（現在の住居形態別）＞



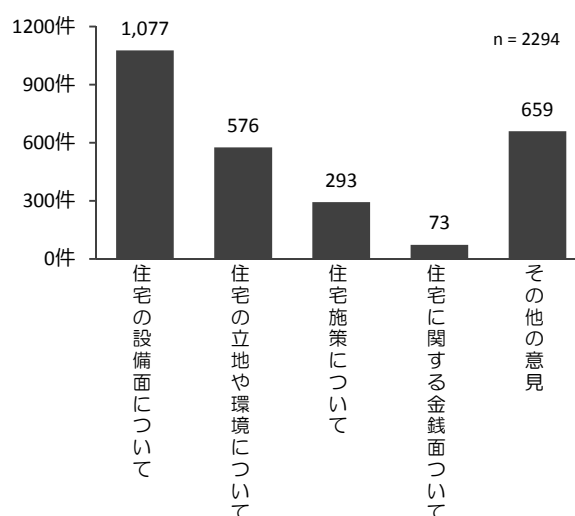
3-2-13 避難期間中の住宅や居住環境についての意見

問 12-12 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

避難期間中の住居や居住環境についての具体的な意見は、2,294 件の回答があった。

意見を内容により分類したところ、部屋の狭さなどの「住宅の設備面について」が 1,077 件と最も多く、次いで医療施設、店舗、居住環境などの「住宅の立地や環境について」が 576 件、復興公営住宅や借上期間などの「住宅施策について」が 293 件などとなっている。

＜図表3-2-13-1 避難期間中の住宅や居住環境についての意見＞



主な意見は以下のとおり。

【住宅の設備面について】

- ・ 隣に住んでいる人の音が聞こえてきたり、夜中、外からけんかの声、話し声、騒音。住んでいる部屋の排水の臭いがひどい。部屋が狭い為、荷物が置くことができない。年頃の子供に勉強部屋を持たせることも出来ない。電話回線の引き込み口がないため、電話が引けない。(30代)
- ・ どこに住んだとしても、浪江にいた時に建てた家ではないから、大なり小なり不満はあると思います。でも、庭のある家に住んでいた人は、避難した先でも庭のある家に暮らしたいと願っています。どんなに素敵なマンションだったとしても土に触れない暮らしは切ないばかりです。みんな復興住宅を建ててもらいたいと思っていたとしても、それは現在、進められているような形で良いと考えているのでしょうか？誰が住むのでしょうか？どうか必要なものにお金を使っていただけます様、よろしくお願い致します。(40代)
- ・ 仕事の関係で、家族が離れて生活をしている。週末には福島県の仮設に集まって、ひとときの家族だんらんの時を過ごしているが、とにかく仮設が狭くて大人5人が寝泊まりするのがかなりのストレスになっている。仮設では入居実態がなく、ただ倉庫がわりに部屋をいくつも借りている人がかなりおり、空いているにもかかわらず、もう一部屋借りたいと申し出たが、ダメだと断われた。入りたい者が入居できない現実に、納得がいかない。即、調査をして何らかの改善をしていただきたい。(50代)

〔住宅の立地や環境について〕

- ・ 借上住宅は狭く運動不足になり、人との関わりも自分から進んでしないと一日中誰とも話をしなかったということもあり、気持ちが落ちこんでしまう。交流会などがあっても交通手段もない年寄りはどこにも出られません。（70代以上）
- ・ ここの仮設は歩いて行ける範囲内に何でもそろっているのととても助かっています。ただ一部の年配の人が「子供達がやかましい」と騒ぐ為、外で遊ぶ子供がいません。できれば次に移動する時、年配の方は年配同士…みたいな感じで振り分けて欲しいです。（40代）
- ・ 当仮設は敷地に余裕がないからだと思うが、バトミントンが出来るようなスペース、ちょっとした広場、また、集会所とは別に談話室などがあれば気軽に集まることができるのではないかと…。（60代）

〔住宅施策について〕

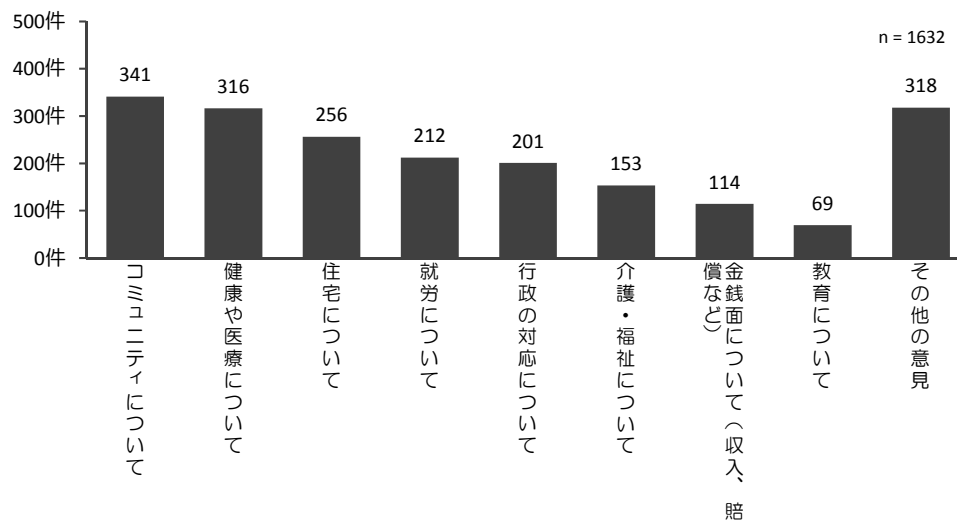
- ・ 被災後に結婚し、子供もできました。変化していく家族構成の中で、一度決めた借り上げから引っ越しできないのはきついです。去年一度引っ越しをしましたが、子供が産まれるとまた環境も変わってきますので。（30代）
- ・ 県内・県外にせよ、避難期間中とみなされる間は、家賃の補助等を、すべての被災者と呼ばれる人々にうけさせるべきであると思う。県内は県内の、県外は県外のそれぞれ苦労は一緒だと思うので。県内だけ特別扱いするのはどうかと考えます。（40代）
- ・ 住宅の無料化（帰宅できるまでの期間）。事故で避難しているのに公営住宅の料金を払うのはおかしい。（無回答）

3-2-14 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること

問 12-13 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めることについて、1,632 件の回答があった。
意見を内容により分類したところ、避難生活の現状やコミュニケーションの困難さなどの「コミュニティについて」が 341 件と最も多く、次いで施設の不足や病気に関する不安などの「健康や医療について」が 316 件、部屋の狭さなどの「住宅について」が 256 件などとなっている。

<図表3-2-14-1 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること>



主な意見は以下のとおり。

【コミュニティについて】

- ・仮設内でのコミュニティが新しく出来ている。これを最初から作り直すことを考えると憂鬱になる。それぞれ支え合って暮している。(40代)
- ・避難生活はとなり近所のコミュニケーションも少なく、浪江町の親しみが無い。今までの人間関係がうまくいかない。家族もばらばらで寂しい。(70代以上)
- ・我家は3人家族で、私達夫婦が日中仕事に行くと、母が一人で家にいます。借上住宅の人達の交流行事もありますが、交通手段のない母は参加できません。町バスでの送迎などがあれば良いと思います。浪江町に住んでいた時の地域のコミュニティ行事などの開催を希望します。(特に高齢者を対象にした)(70代以上)

【健康や医療について】

- ・車もなく医療機関までの距離があり、大変。掛かり付けの医者が遠くなってしまった。(70代以上)
- ・自律神経とストレス、パニック障害病になり仕事に就けず生活に困っている。働きたくても病人は無理と診断を受け東電からの補償もない。昨年妻を亡くし精神的に疲れている。こんな時にいいアドバイス解決方法を教えて下さい。(50代)
- ・暮らし始めると、病院など、どこに行けば良いか分からず困ります。(30代)

【住宅について】

- ・ 仮設住宅では孫が来ても宿泊する事も出来ない。人間関係がうまくいかない(心をゆるす友人がいない)。仮設住宅内で隣人や、すぐに切れる人がいて、常にケンカ等している人が多く、巻きこまれない様常に注意している生活です。それゆえ集合住宅に対して、不安です。(60代)
- ・ 釘も打てず棚もなく、物入れが少なく、全てが不満。隣人に遠慮し音をたてること、TVラジオ音量を気にせず、1日24時間を自分の生活に合わせた住環境でいたい。帰りたいのに帰れない、帰れないのに帰りたい、この気持、被害者全員の気持だ。全て以上に困っている。住みたくなるような計画設計にすべき。個々の住居を返してほしい。(70代以上)

【就労について】

- ・ 仕事も、避難中のため、期間の定めがあるもの(パート、アルバイト)のみで、正社員の仕事に就けない。(30代)
- ・ 今の仕事が臨時雇用で、来年仕事がなくなるので、受け入れ企業などを紹介してほしい。(50代)
- ・ 現在の歳では、就労が見つからない。現在休職中である。(50代)

【行政の対応について】

- ・ 役場機能が近くにあればと思います。(30代)
- ・ 福島市に相談することも多いが、対応が素早くとても親切である。とてもうれしい限りです。(50代)
- ・ 住民票と現住所が違う為、申請関係の際に不便さあり。(20代)

【介護・福祉について】

- ・ 今後、高齢化する両親の介護がすごく心配です。(40代)
- ・ 介護、医療施設とも遠く離れています。(60代)
- ・ 看護師の仕事をしているが、夜間、何かあったら…と思うとすごく不安である。町に対し、一人暮らしの方達への配慮を(年齢を問わず)お願いしたい。(60代)

3-3 将来の意向

3-3-1 今後の職業についての意向

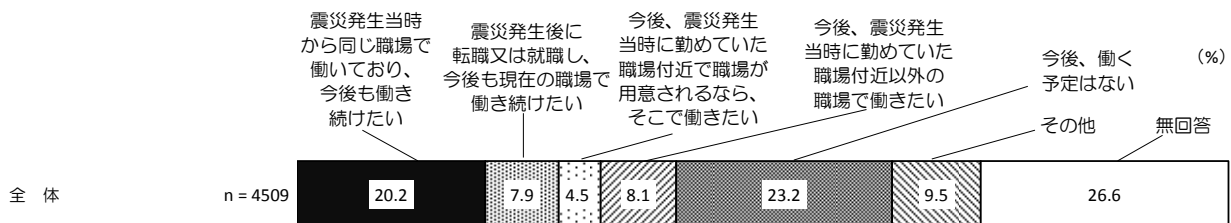
問 13 今後の職業についてどのように考えていますか。(〇は1つ)

(1) 震災時の職業が自営業・会社経営者以外

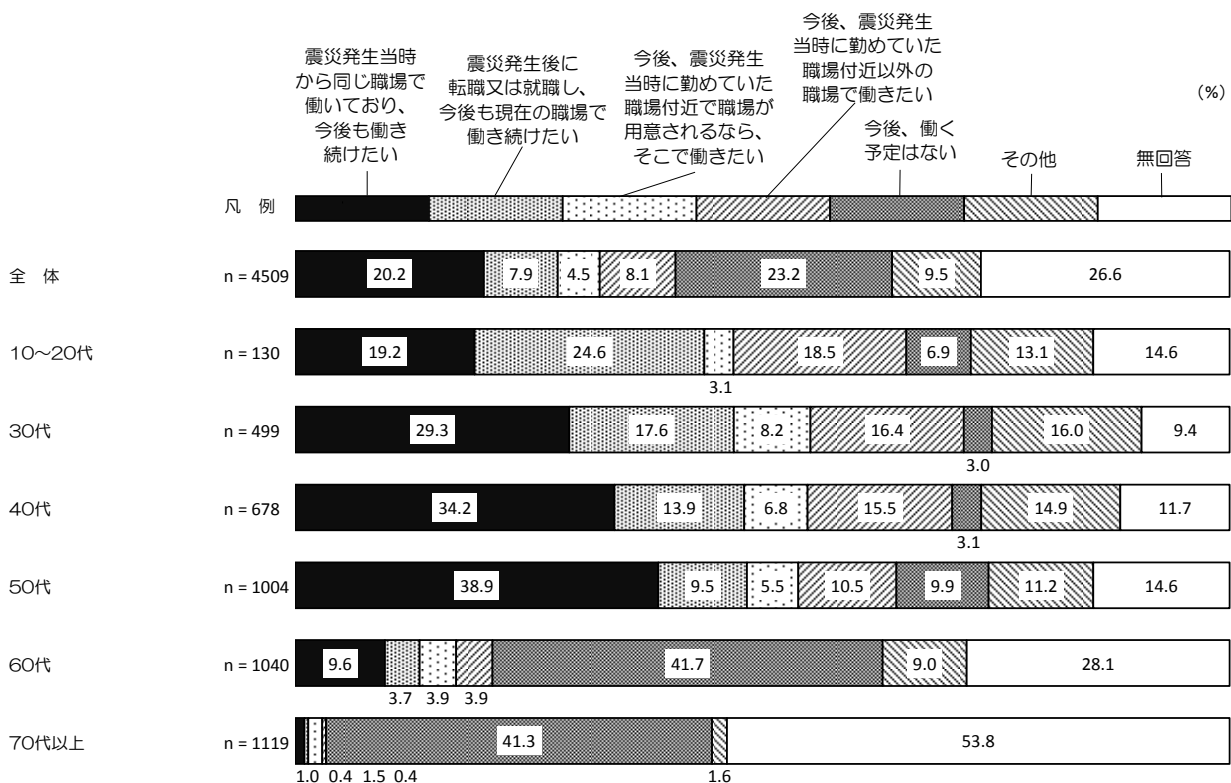
今後の職業についての意向については、「今後、働く予定はない」が23.2%と最も高く、次いで「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が20.2%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、30～50代において最も高くなっており、40代では34.2%、50代では38.9%となっている。

＜図表3-3-1-1 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）＞



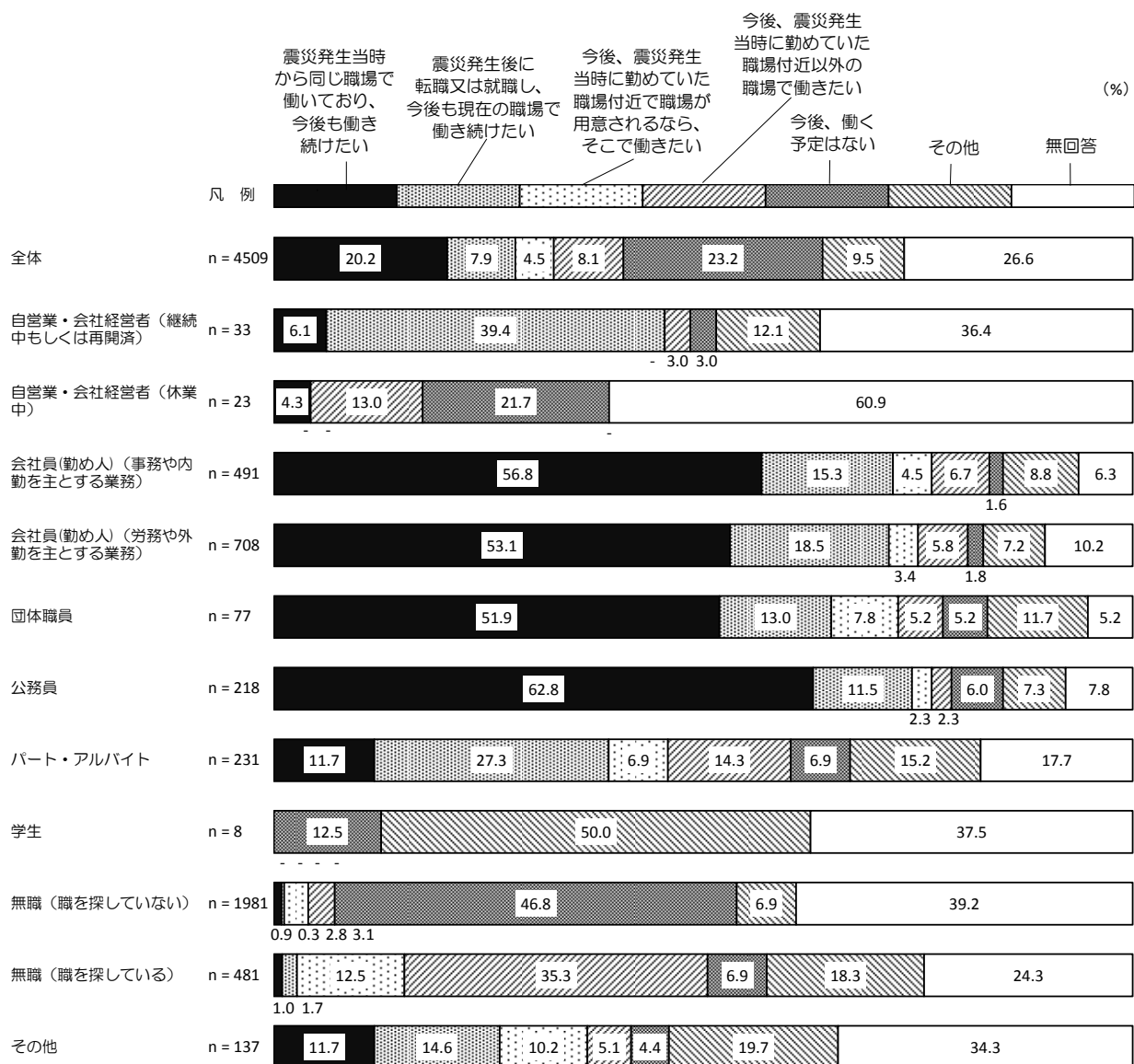
＜図表3-3-1-2 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（世帯主の年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

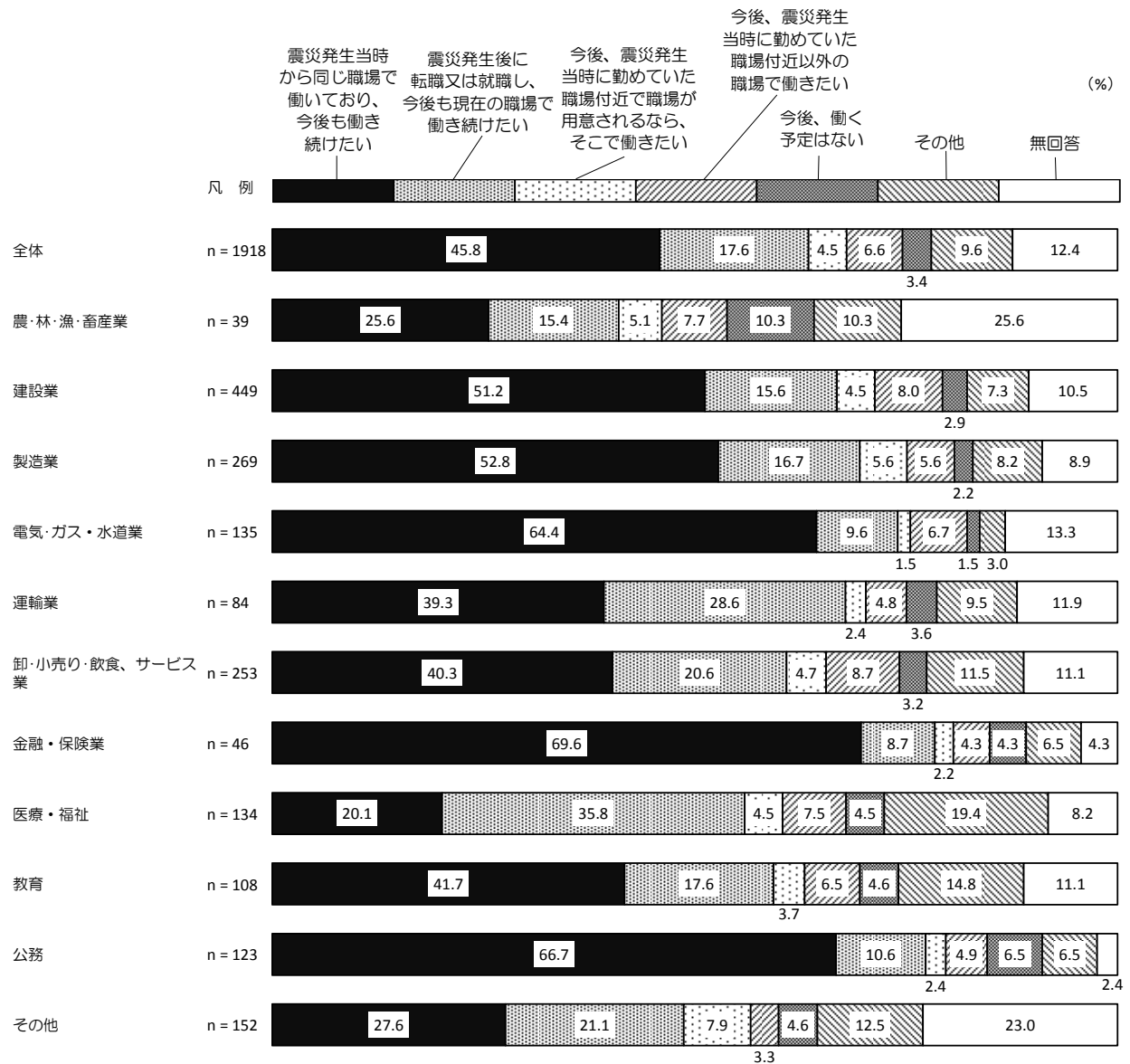
現在の職業別にみると、会社員（勤め人）、団体職員、公務員については、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」が５割以上を占めている。

＜図表３－３－１－３ 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の職業別）＞



現在の職業の業種別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」は、概ねいずれの職業でも高くなっているが、医療・福祉については「震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働きたい」が35.8%と最も高くなっている。

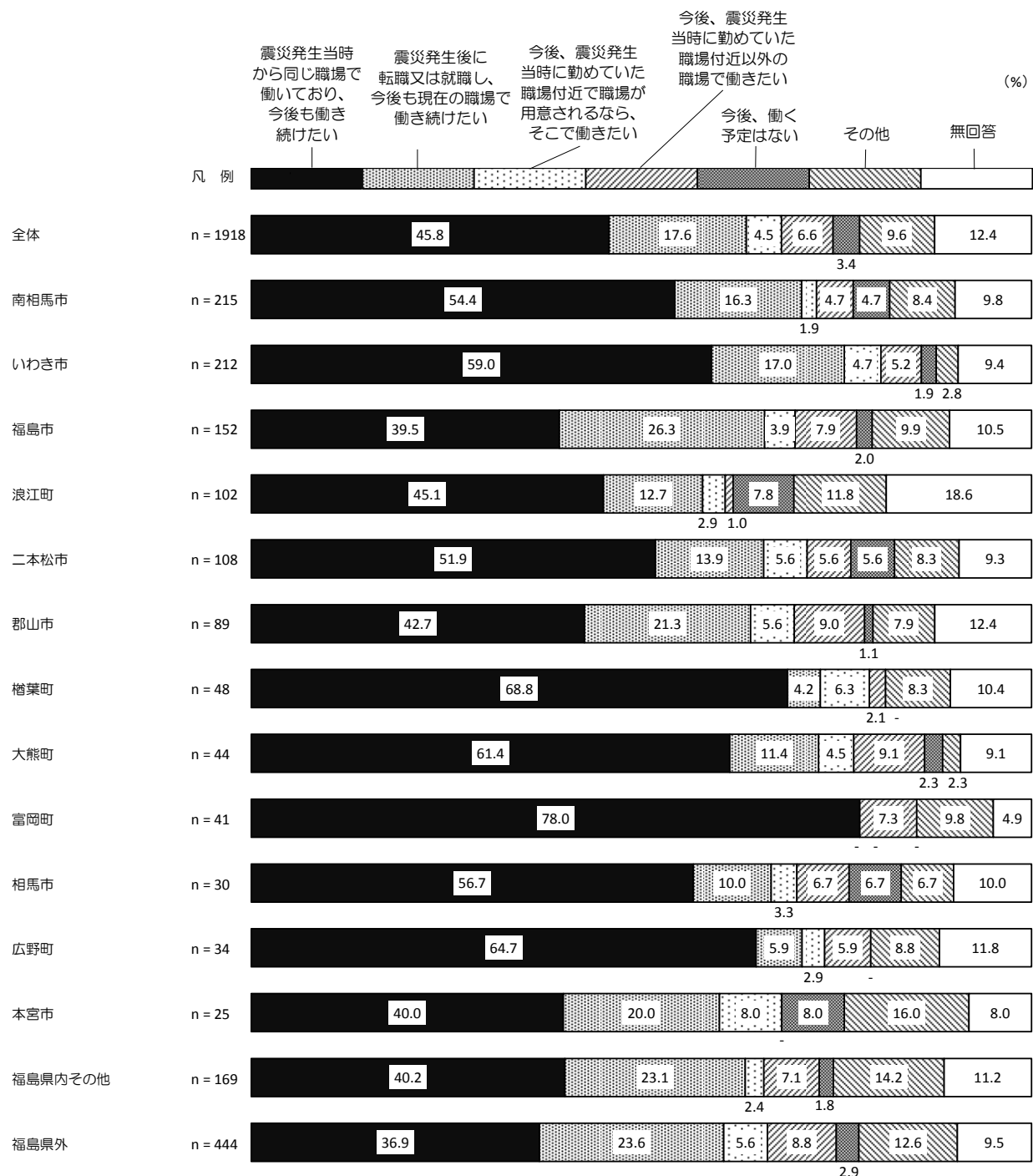
＜図表3-3-1-4 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の業種別）＞



Ⅲ 調査結果

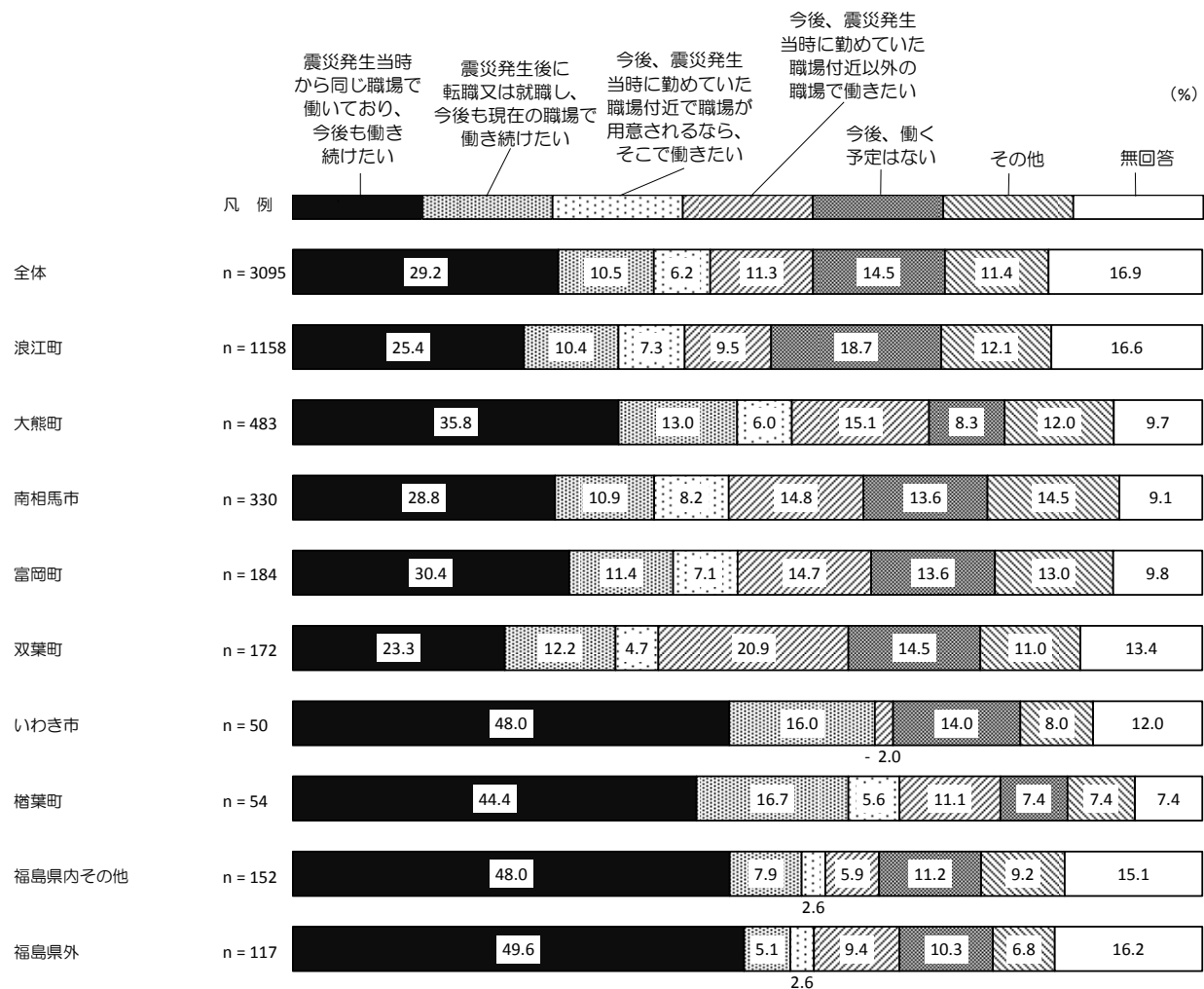
現在の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」がいずれの就業先でも最も高くなっており、富岡町（78.0%）では約8割を占め、榑葉町（68.8%）、広野町（64.7%）でも6割半ばとなっている。

＜図表3-3-1-5 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の就業先別）＞



震災発生当時の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」がいずれの就業先でも最も高くなっており、福島県外（49.6%）、いわき市（48.0%）、福島県内その他（48.0%）、楡葉町（44.4%）では4割以上となっている。

＜図表3－3－1－6 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（震災発生当時の就業先別）＞

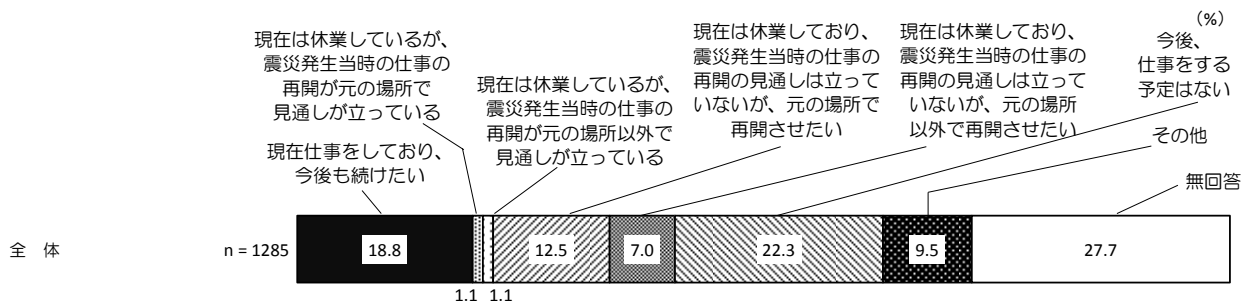


(2) 震災時の職業が自営業・会社経営者

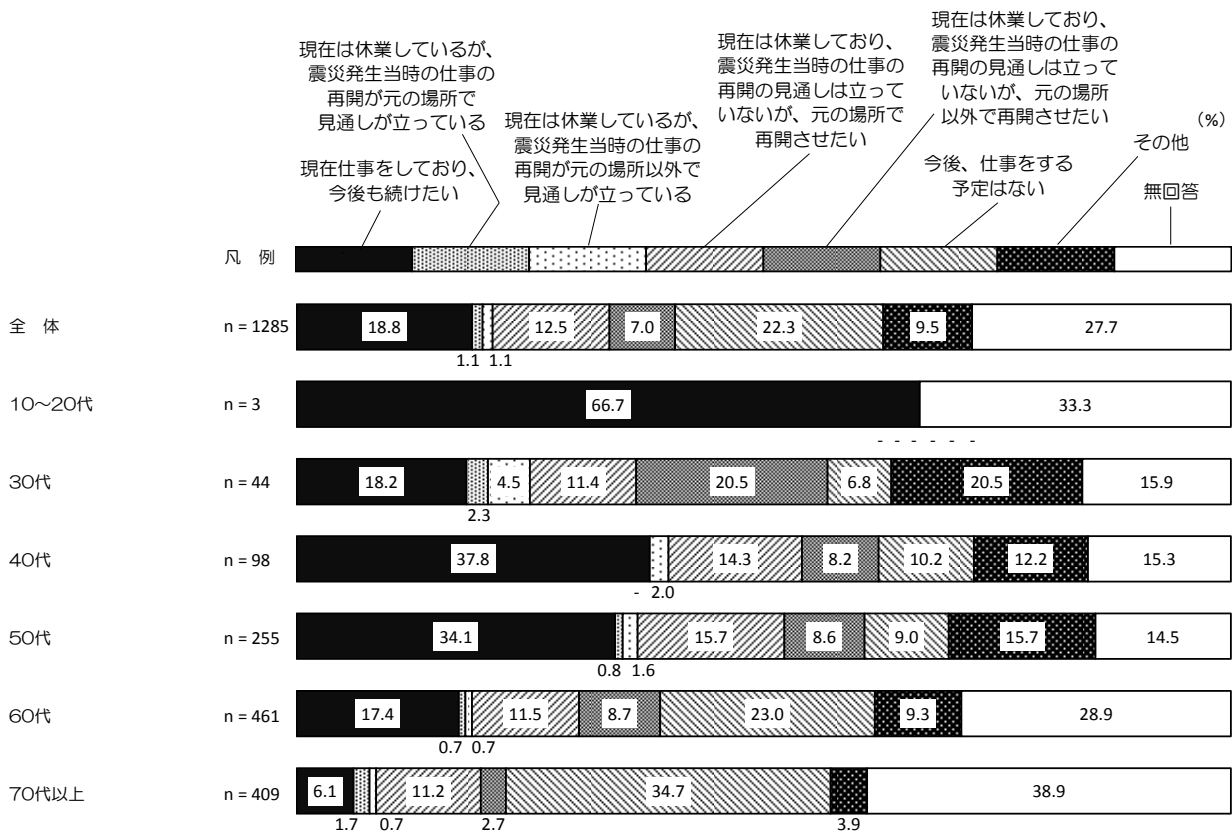
今後の職業についての意向に関しては、「今後、仕事をする予定はない」が22.3%と最も高く、次いで「現在仕事をしており、今後も続けたい」が18.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は、10～50代までの年齢層では割合が高くなっている一方、「今後、仕事をする予定はない」が60代では23.0%、70代以上では34.7%となっており、他の年齢層に比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-1-7 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）＞

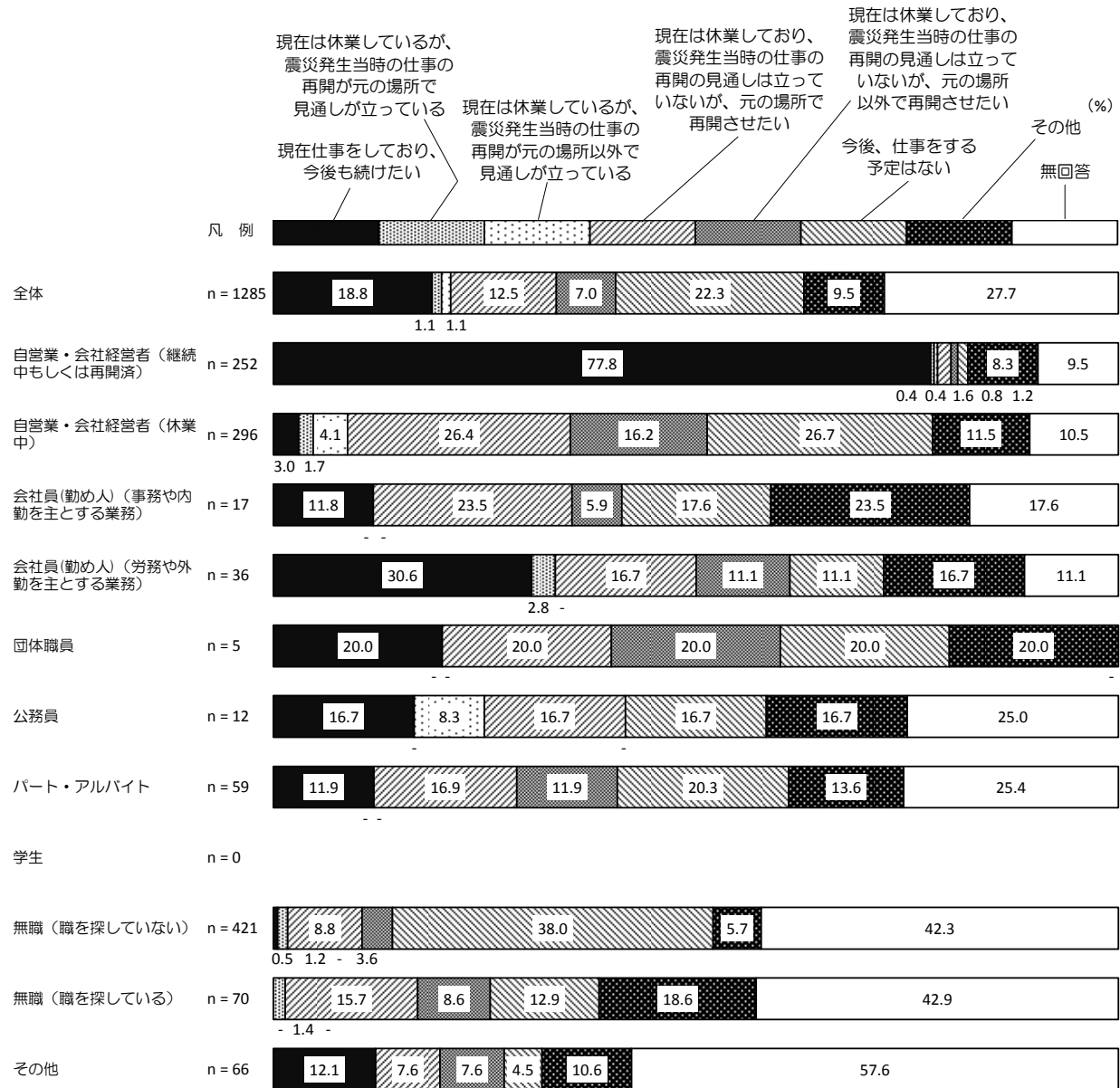


＜図表3-3-1-8 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（世帯主の年齢別）＞



現在の職業別にみると、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）の約 8 割が「現在仕事をしており、今後も続けたい」としており、他の職業に比べて割合が高くなっている。

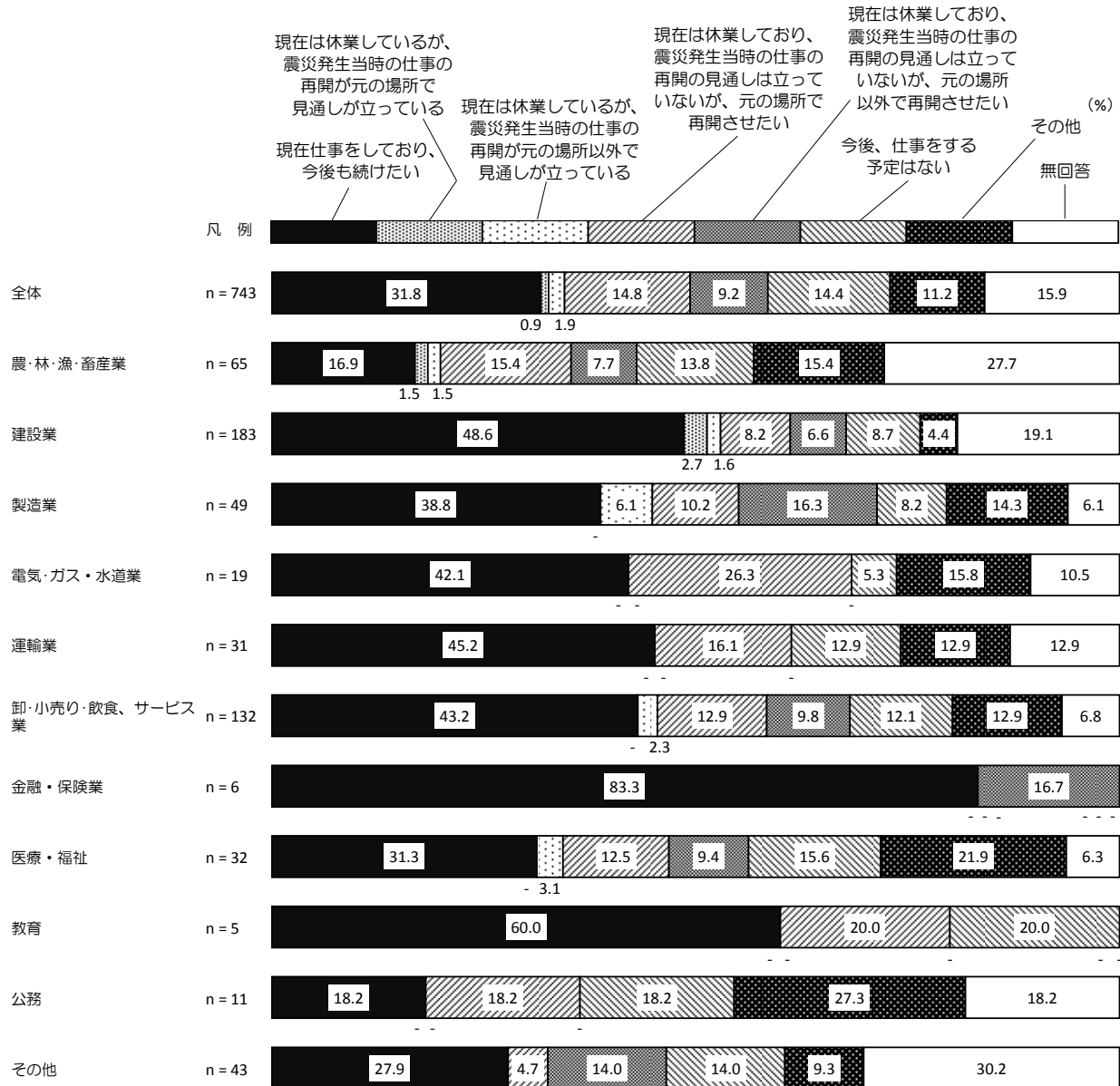
＜図表 3-3-1-9 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の職業別）＞



Ⅲ 調査結果

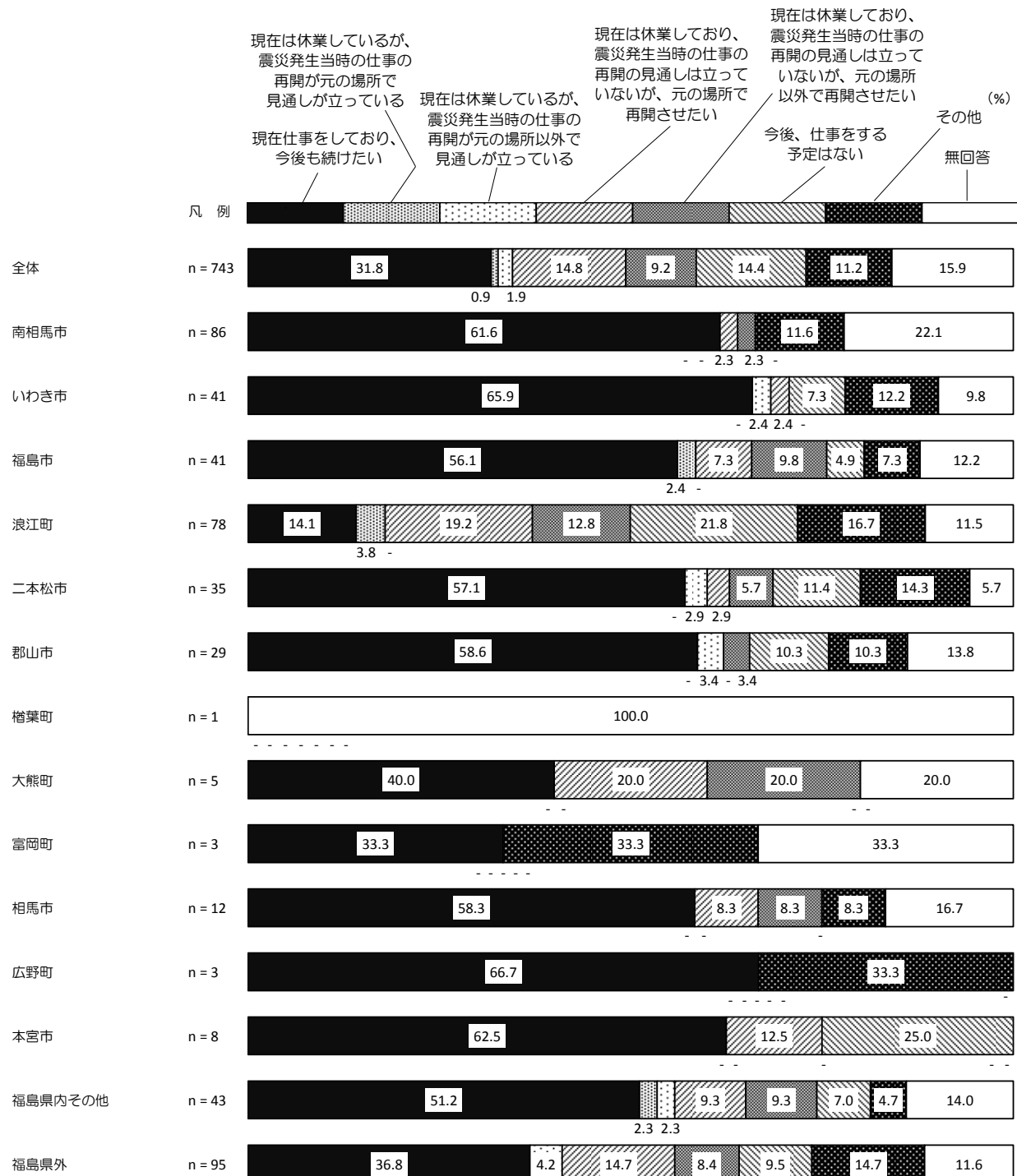
現在の職業の業種別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は、建設業（48.6%）で約5割を占める。

＜図表3－3－1－10 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の業種別）＞



現在の就業先の所在自治体別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」は、いわき市（65.9%）で6割半ばとなっており、他の就業先に比べて高くなっている。

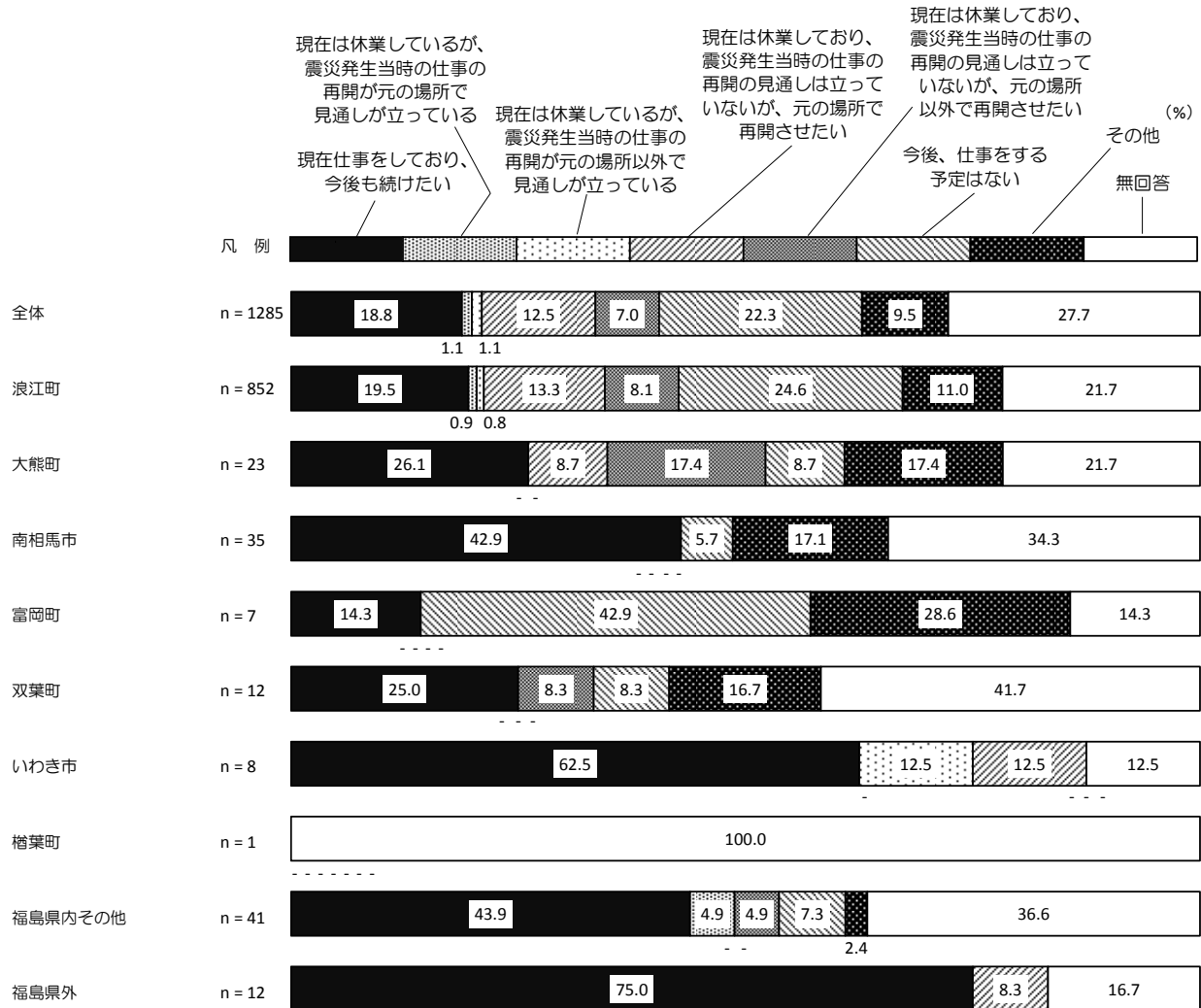
＜図表3－3－1－11 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の就業先別）＞



Ⅲ 調査結果

震災発生当時の就業先の所在自治体別にみると、浪江町では「今後、仕事をする予定はない」が24.6%と高くなっており、次いで「現在仕事をしており、今後も続けたい」が19.5%、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が13.3%となっている。

＜図表3－3－1－12 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（震災発生当時の就業先別）＞



3-3-2 職場を選ぶ際に重要視すること

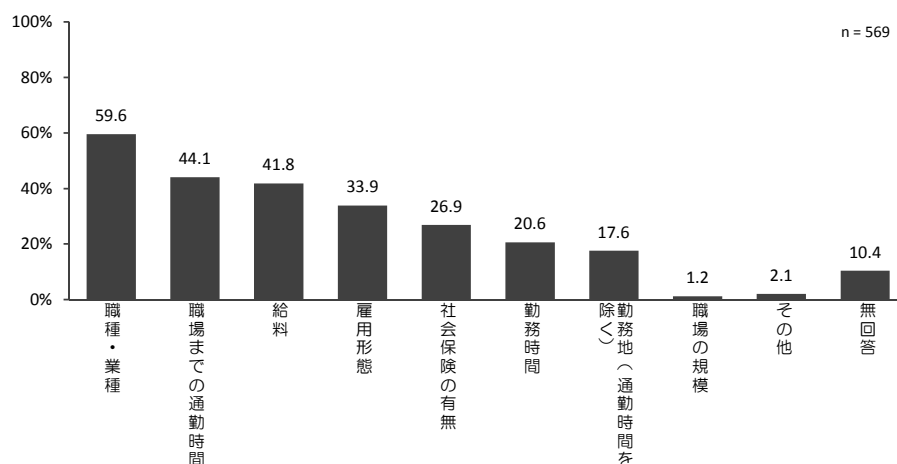
【問 13 で「3.今後、震災発生当時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい」「4.今後、震災発生当時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。（〇は3つまで）

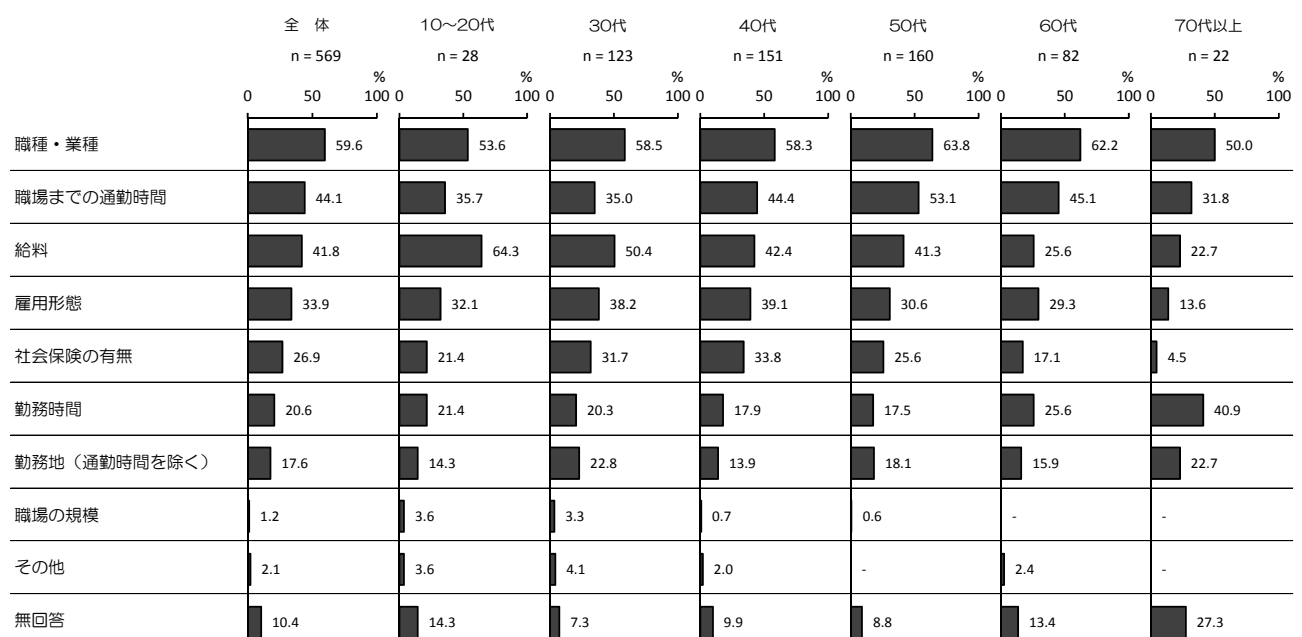
職場を選ぶ際に重要視することについては、「職種・業種」が 59.6%と最も高く、次いで「職場までの通勤時間」が 44.1%、「給料」が 41.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「職種・業種」は、概ね年齢が高くなるに従ってその割合も高くなっている。また、10～30代では「給料」が5割を超え、他の年齢層に比べて割合が高い。

＜図表3-3-2-1 職場を選ぶ際に重要視すること＞



＜図表3-3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること（世帯主の年齢別）＞



3-3-3 浪江町への帰還意向

問 14 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
(現在一緒に住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください)(〇は1つ)

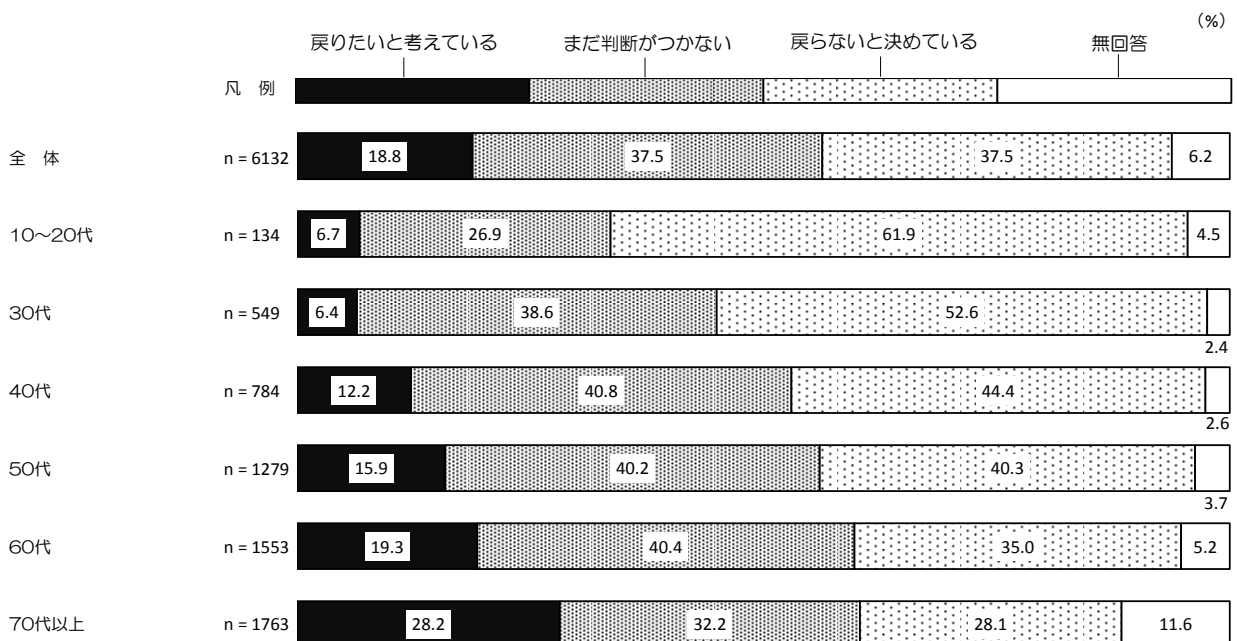
浪江町への帰還意向については、「戻りたいと考えている」が18.8%となっている。「戻らないと決めている」、「まだ判断がつかない」はそれぞれ37.5%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「戻りたいと考えている」は概ね年齢が高くなるに従い割合が高くなっている一方、10～20代では、「戻らないと決めている」が61.9%となっており、他の年齢層と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-3-1 浪江町への帰還意向＞

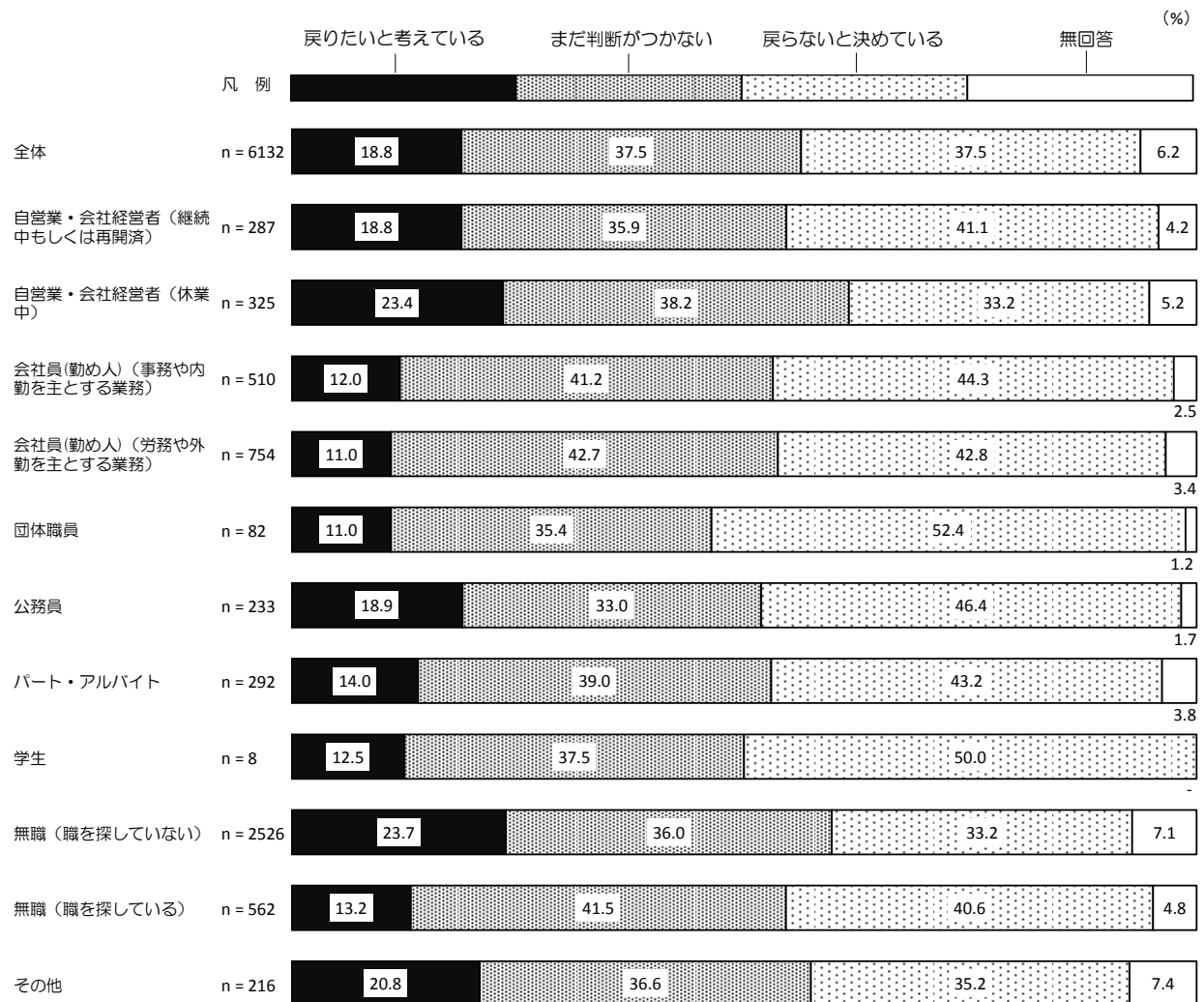


＜図表3-3-3-2 浪江町への帰還意向（世帯主の年齢別）＞



現在の職業別にみると、「戻りたいと考えている」は、無職（職を探していない）（23.7%）、自営業・会社経営者（休業中）（23.4%）で2割を超え、他の職業に比べて高くなっている。

＜図表3-3-3-3 浪江町への帰還意向（現在の職業別）＞



Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、「戻りたいと考えている」はいずれの居住行政区においても概ね1割～3割程度となっているが、両竹（8.1％）と赤宇木（6.3％）は1割未満となっている。

なお、避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域別にみると、概ね全体と傾向が同じである。

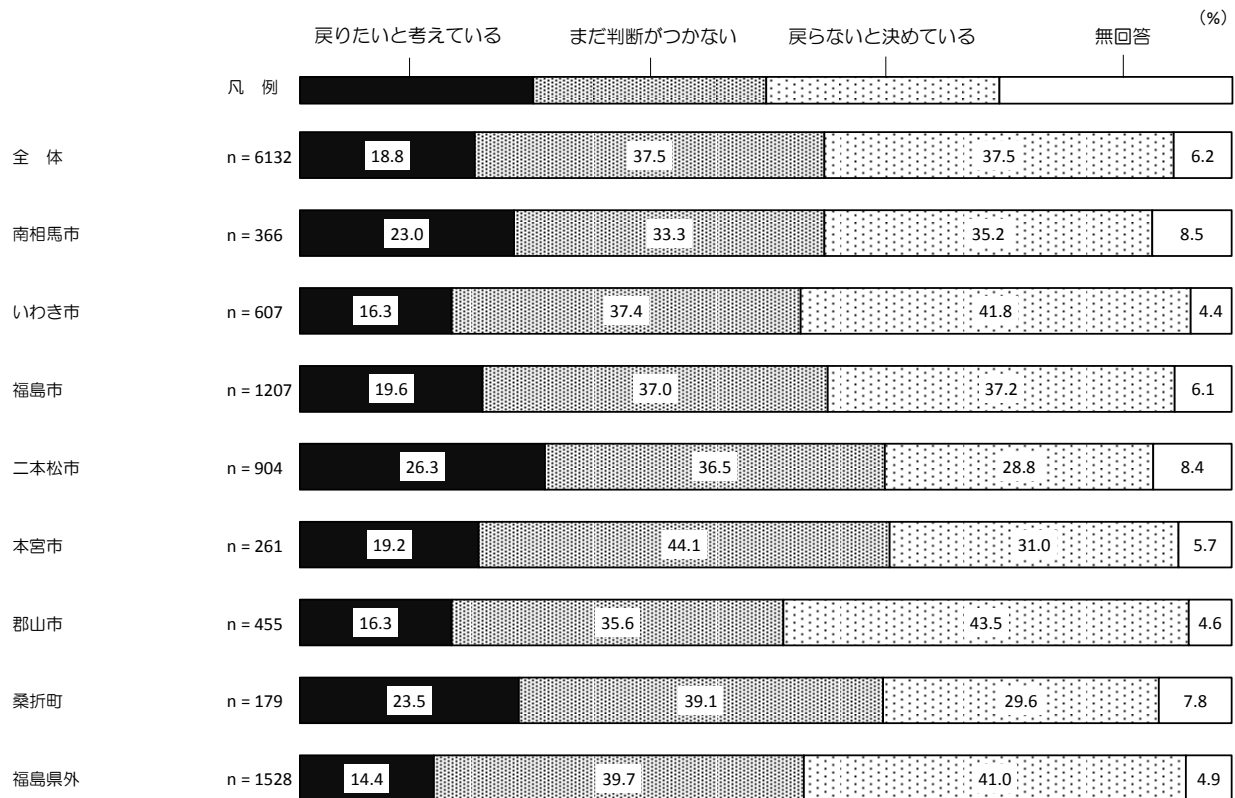
＜図表3－3－3－4 浪江町への帰還意向（居住行政区別）＞

		考 戻 え り た い い る と	つ ま か だ な 判 断 が	決 戻 め ら て な い と	無 回 答
	n				
全 体	6132	18.8	37.5	37.5	6.2
1 区	129	24.0	41.9	29.5	4.7
2 区	56	25.0	30.4	39.3	5.4
3 区	44	22.7	47.7	25.0	4.5
4 区	198	16.2	39.4	40.4	4.0
5 区	135	20.0	38.5	35.6	5.9
6 区	75	26.7	41.3	25.3	6.7
7 区	53	20.8	45.3	30.2	3.8
8 区	131	13.7	42.7	38.9	4.6
佐屋前	154	17.5	41.6	37.0	3.9
川添北	286	17.8	36.0	40.6	5.6
川添南	246	15.0	37.4	43.1	4.5
上ノ原	418	17.7	40.9	33.7	7.7
樋渡・牛渡	341	19.9	39.3	35.5	5.3
高瀬	169	21.9	45.0	26.6	6.5
幾世橋	224	16.5	33.0	45.1	5.4
北幾世橋北	247	23.5	40.9	30.0	5.7
北幾世橋南	28	39.3	28.6	21.4	10.7
北棚塩	61	29.5	44.3	21.3	4.9
南棚塩	87	18.4	33.3	40.2	8.0
請戸北	178	11.8	24.2	56.2	7.9
請戸南	159	15.1	30.8	45.3	8.8
中浜	47	14.9	29.8	51.1	4.3
両竹	37	8.1	40.5	43.2	8.1
小丸	30	30.0	10.0	50.0	10.0
畑川	9	33.3	55.6	11.1	-
井手	105	22.9	29.5	43.8	3.8

		考 戻 え り た い い る と	つ ま か だ な 判 断 が	決 戻 め ら て な い と	無 回 答
	n				(%)
田尻	282	15.6	42.2	37.2	5.0
末ノ森	42	21.4	28.6	38.1	11.9
大堀	112	18.8	27.7	46.4	7.1
小野田	105	24.8	33.3	34.3	7.6
谷津田	102	10.8	42.2	39.2	7.8
酒井	80	21.3	30.0	41.3	7.5
室原	189	20.1	42.9	31.7	5.3
立野上	72	18.1	37.5	38.9	5.6
立野中	78	21.8	41.0	34.6	2.6
立野下	104	27.9	42.3	23.1	6.7
刈宿	97	21.6	38.1	35.1	5.2
加倉	206	19.9	34.5	40.8	4.9
酒田	195	17.9	40.5	35.9	5.6
西台	111	22.5	36.9	36.0	4.5
藤橋	94	23.4	44.7	28.7	3.2
羽附	39	17.9	33.3	41.0	7.7
津島	123	21.1	34.1	36.6	8.1
下津島	46	21.7	26.1	41.3	10.9
南津島上	54	18.5	42.6	35.2	3.7
南津島下	68	20.6	30.9	32.4	16.2
赤宇木	79	6.3	30.4	54.4	8.9
手七郎	25	12.0	44.0	36.0	8.0
大屋	17	11.8	23.5	52.9	11.8
避難指示解除準備区域	2417	19.4	37.9	37.0	5.7
居住制限区域	2532	18.4	39.0	36.8	5.8
帰還困難区域	1018	19.4	33.1	39.8	7.7

主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている」は、いずれの自治体でも1割半ば以上となっており、二本松市（26.3%）、桑折町（23.5%）、南相馬市（23.0%）では2割を超えている。

＜図表3－3－3－5 浪江町への帰還意向（主な避難先自治体別）＞

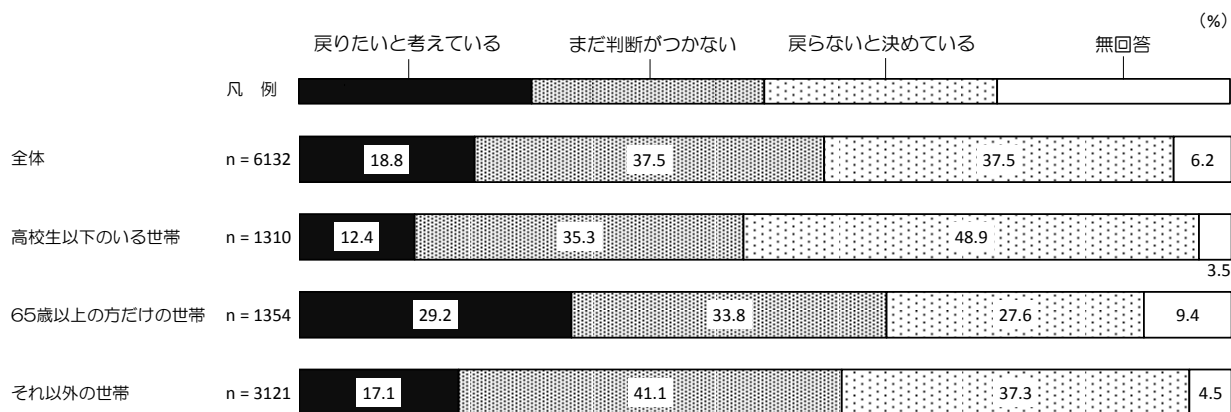


Ⅲ 調査結果

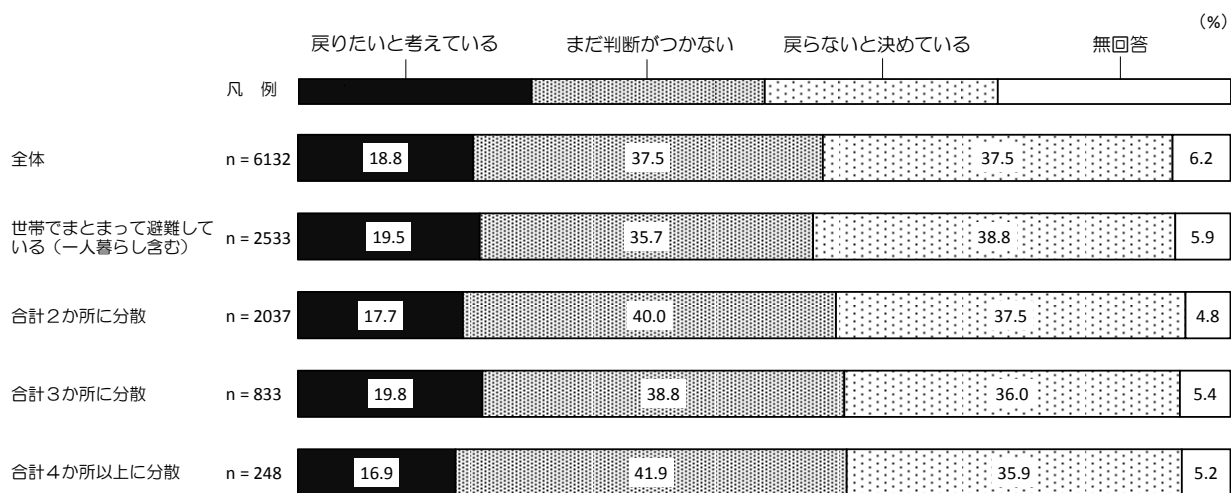
現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯では「戻りたいと考えている」(29.2%)が他の世帯構成に比べて高くなっている。

世帯の分散状況別にみると、いずれの分散状況でも「戻りたいと考えている」は約2割、「まだ判断がつかない」は約4割、「戻らないと決めている」は約4割となっており、全体の結果と同様な傾向となっている。

＜図表3-3-3-6 浪江町への帰還意向（現在の世帯構成別）＞



＜図表3-3-3-7 浪江町への帰還意向（世帯の分散状況別）＞



3-3-4 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問 14 で「2.まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

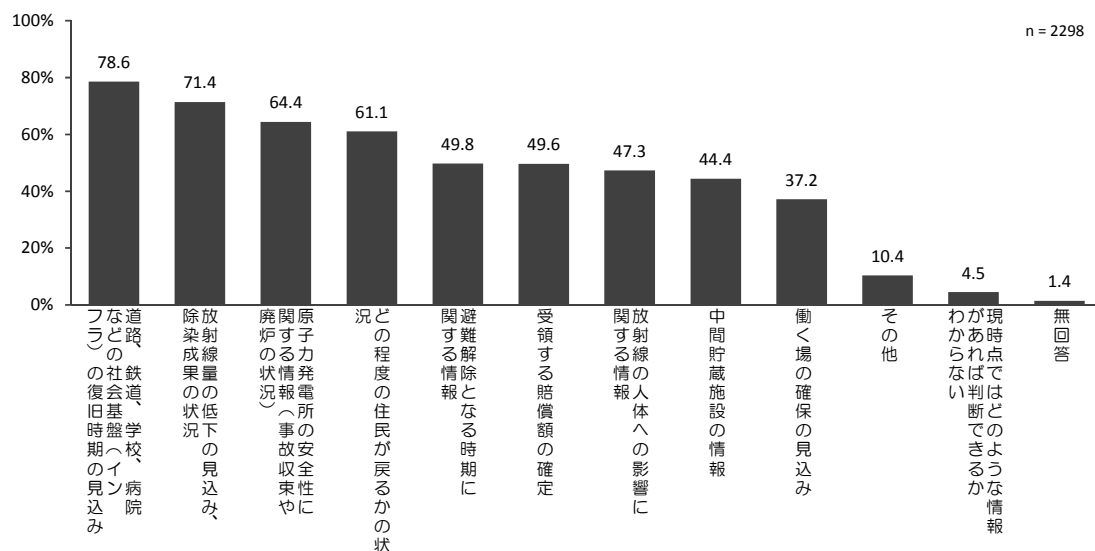
問 14-1 浪江町へ戻ることを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。
(〇はいくつでも)

【問 14-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 上記(問 14-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。具体的な条件の内容をお書きください。

浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見込み」が78.6%と最も高く、次いで「放射線量の低下の見込み、除染成果の状況」が71.4%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が64.4%などとなっている。

＜図表3-3-4-1 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報＞

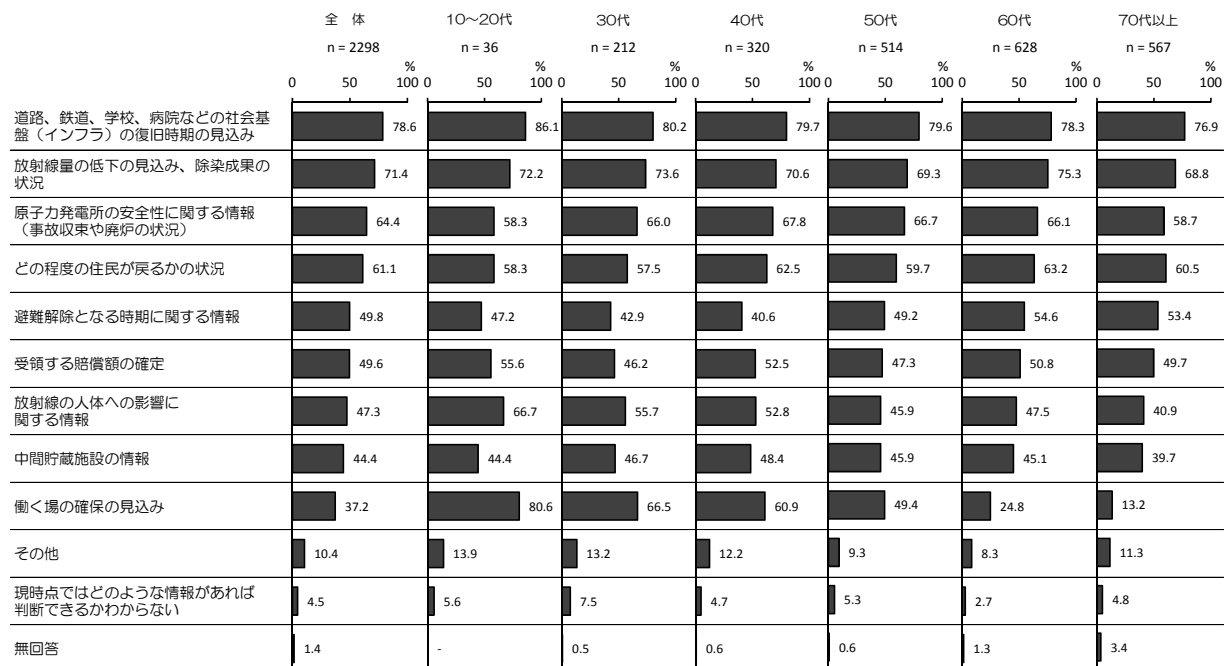


Ⅲ 調査結果

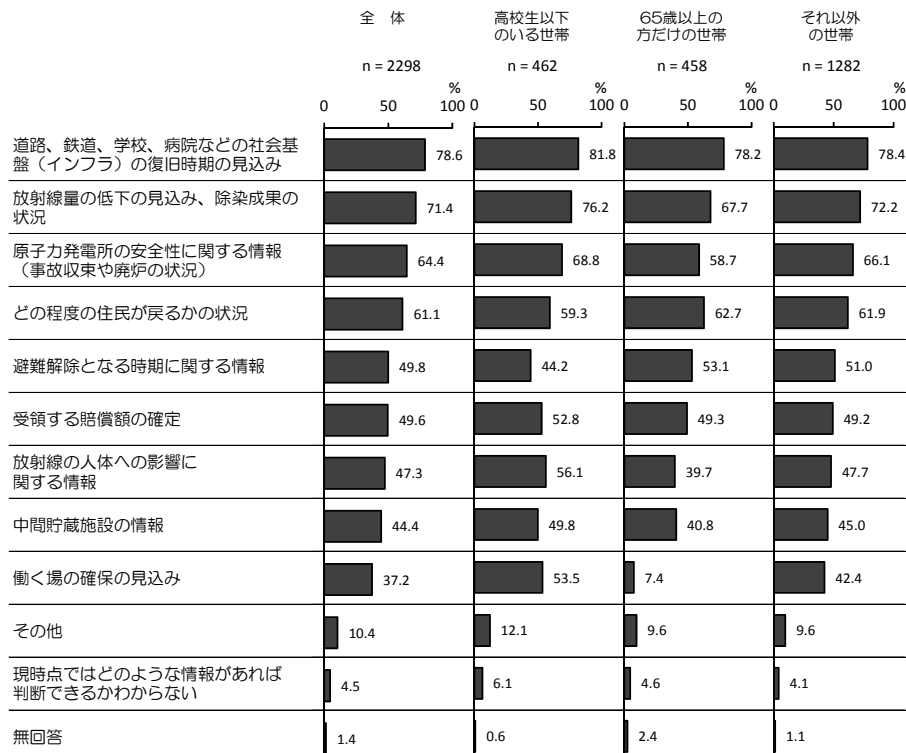
世帯主の年齢別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見込み」が、概ねいずれの年齢層でも最も高くなっているが、10～50代では「働く場の確保の見込み」の割合が他の年齢層と比べて高くなっており、10～20代においては8割となっている。

現在の世帯構成別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見込み」がいずれの世帯構成でも最も高くなっているが、高校生以下のいる世帯では「働く場の確保の見込み」が53.5%と過半数を占める。

＜図表3-3-4-2 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯主の年齢別）＞

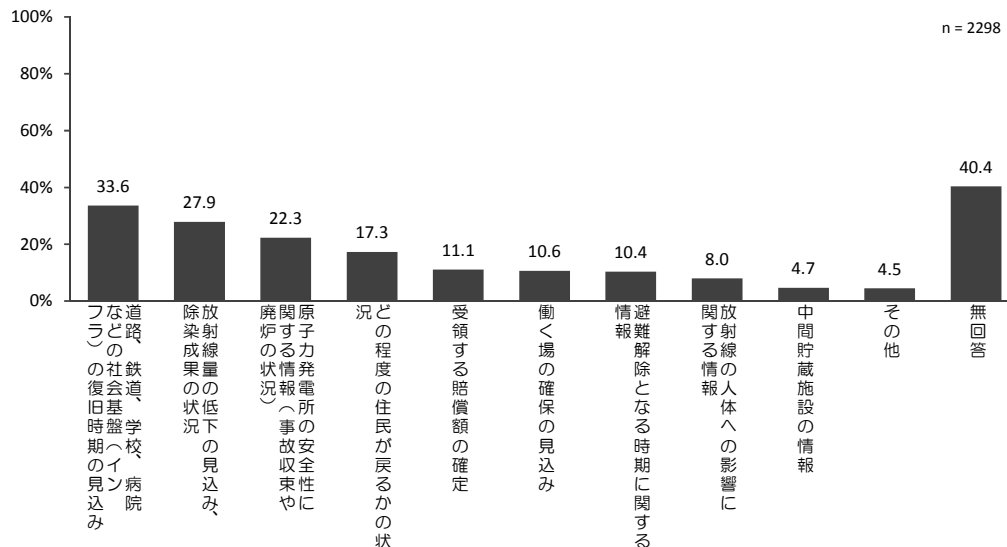


＜図表3-3-4-3 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（現在の世帯構成別）＞



浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（問 14-1）のうち重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見込み」が 33.6%と最も高く、次いで「放射線量の低下の見込み、除染成果の状況」が 27.9%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が 22.3%となっている。

＜図表 3-3-4-4 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（3つまで）＞



上位項目の主な意見は以下のとおり。

〔道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見込み〕

- ・ 商店街が店を開けなければ、食料品や生活必要品の買い出しに、となりの市まで行かなければいけない。（20 代）
- ・ 今は、何年先になるのか見当もつきませんが、もし、今後目立って復旧が進み、元の生活を取り戻せるなら帰りたい。（50 代）
- ・ 元の半分以上復旧していれば。（70 代以上）
- ・ 子供が優先になるので、学校再開がないと困る。（40 代）
- ・ 未成年の子と一緒に生活しても将来、問題がないのであれば。（30 代）
- ・ 高速道路（いわき方面へ）、水道、下水の復旧。（60 代）
- ・ 10 km以内に病院やスーパーなどがあること。（70 代以上）
- ・ インフラの復旧時期が不明なので、明確になれば。（50 代）
- ・ 震災前に近いレベル。（50 代）
- ・ すべてのインフラが震災前と同じく。（50 代）
- ・ 老人に対しての介護サービスが受けられるようであれば。（70 代以上）
- ・ 元の生活環境に近くなるならば。（60 代）

〔放射線量の低下の見込み、除染成果の状況〕

- ・ 事故発生前のレベル。0.04 マイクロシーベルト/h。（60 代）
- ・ 放射線量が元の数値まで下がって安全であれば。（40 代）
- ・ 山の放射線量の低下。（60 代）
- ・ 安心して農作物が作れるようになれば。（30 代）
- ・ 年間 1 mmシーベルト以下になったら（元の基準）。（50 代）
- ・ 事故前の線量になるのであれば。（50 代）
- ・ 家庭菜園や、山菜取りが出来るまで除染できれば。（60 代）
- ・ 子供が安心して屋外で遊べる線量。（50 代）
- ・ 事故以前の汚染・線量のレベルに戻す事。（40 代）

Ⅲ 調査結果

- ・ 人体に影響がない程度に線量が下がること。(20 代)
- ・ 原発の安全が確保され、放射線量が低下するのであれば。(30 代)
- ・ 震災前の放射線量にもどったら。(50 代)
- ・ 事故前の線量になる。(70 代以上)

[原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）]

- ・ 完全廃炉であれば。(50 代)
- ・ 核燃料が残っている状況では戻らない。取り出しは、いつまでかかるか。明確に。(40 代)
- ・ すべてが安心して安全に整えば。(30 代)
- ・ 完全に安定的冷却、廃炉作業が確保されることが条件。(30 代)
- ・ 事故収束と廃炉の状況が安全となった時点。(60 代)
- ・ 事故収束がきちんとできれば。(60 代)
- ・ 事故収束で本当に安全に確保されたら。(50 代)
- ・ 事故が収束し廃炉してから。(30 代)
- ・ 完全に放射線が出ていないという事実、確証。(40 代)
- ・ 国が責任を持って廃炉に向けた計画をたて確実に実行されているか。(40 代)
- ・ 完全に安全であることがはっきりしたら。(60 代)
- ・ 廃炉への確たる道筋が示された時。(50 代)

3-3-5 帰還する場合の世帯構成・人数

【問 14 で「1.戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

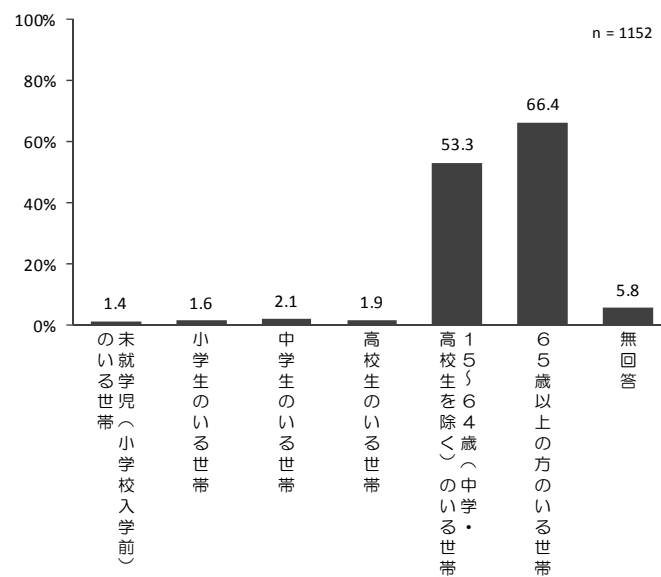
問 14-3 戻る予定の家族の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

①帰還する場合の世帯構成

帰還する場合の世帯構成は、「15～64 歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」で 53.3%、「65 歳以上の方のいる世帯」は 66.4%となっている。

＜図表 3-3-5-1 帰還する場合の世帯構成＞

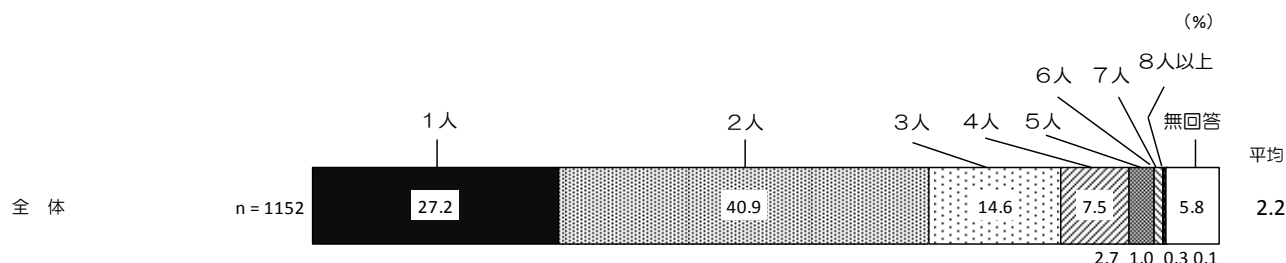


②帰還する場合の世帯人数

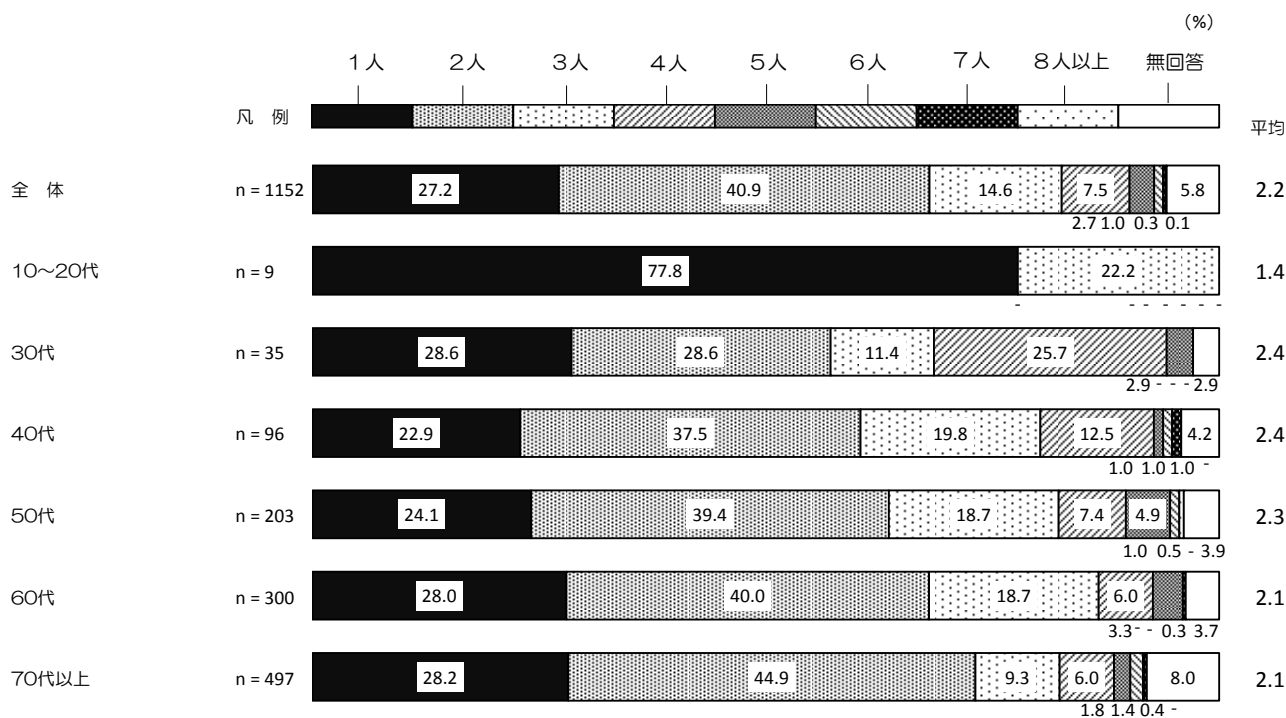
帰還する場合の世帯人数については、「2人」が40.9%と最も高く、次いで「1人」が27.2%、「3人」が14.6%となり、平均人数は2.2人となっている。

世帯主の年齢別にみると、「2人」は年齢が高くなるに従って、割合も高くなっている。また、「4人」は30代で25.7%となっており、他の年齢層と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-5-2 帰還する場合の世帯人数＞



＜図表3-3-5-3 帰還する場合の世帯人数（世帯主の年齢別）＞



3-3-6 帰還する場合の住居形態

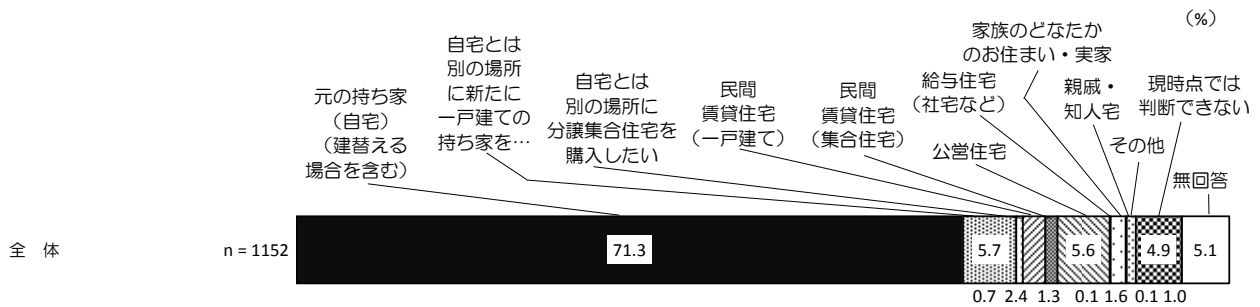
【問 14 で「1.戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

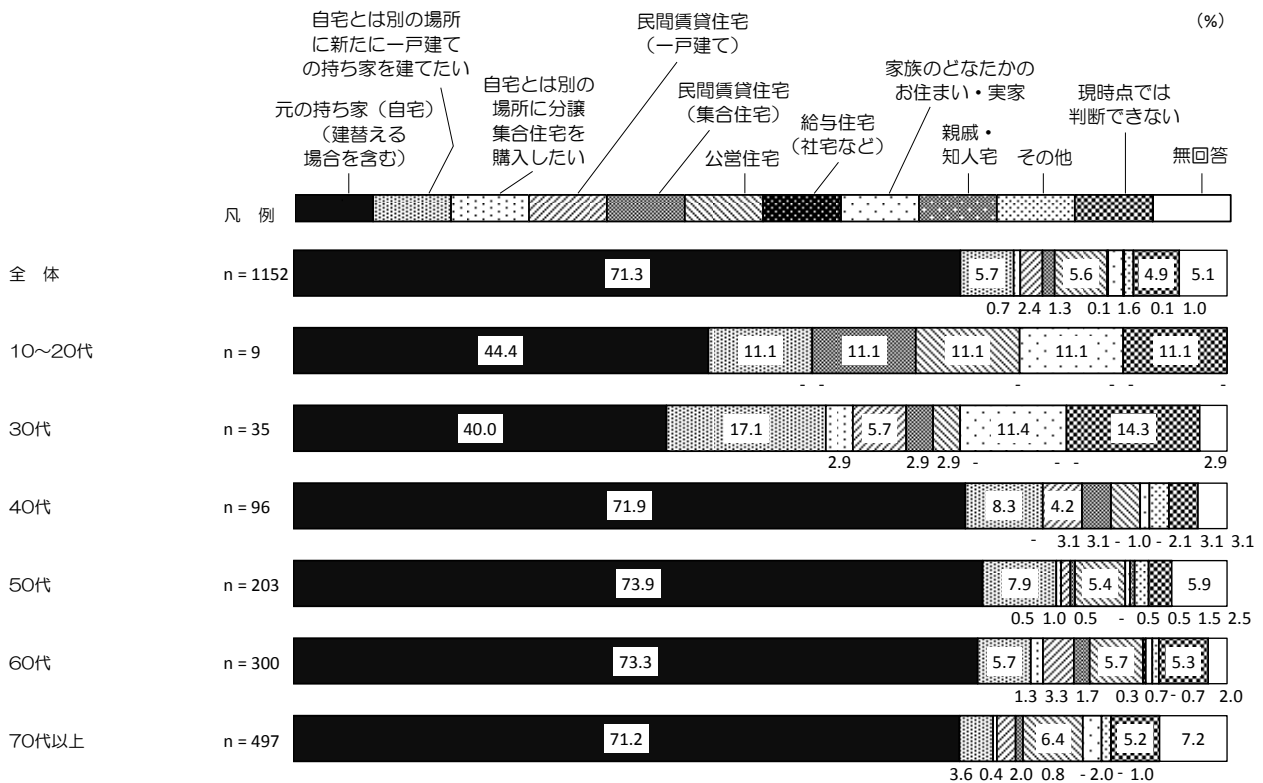
帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」が71.3%と最も高く、全体の7割を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの年齢層でも最も高くなっており、40代以上では7割以上となっている。

＜図表3-3-6-1 帰還する場合の住居形態＞

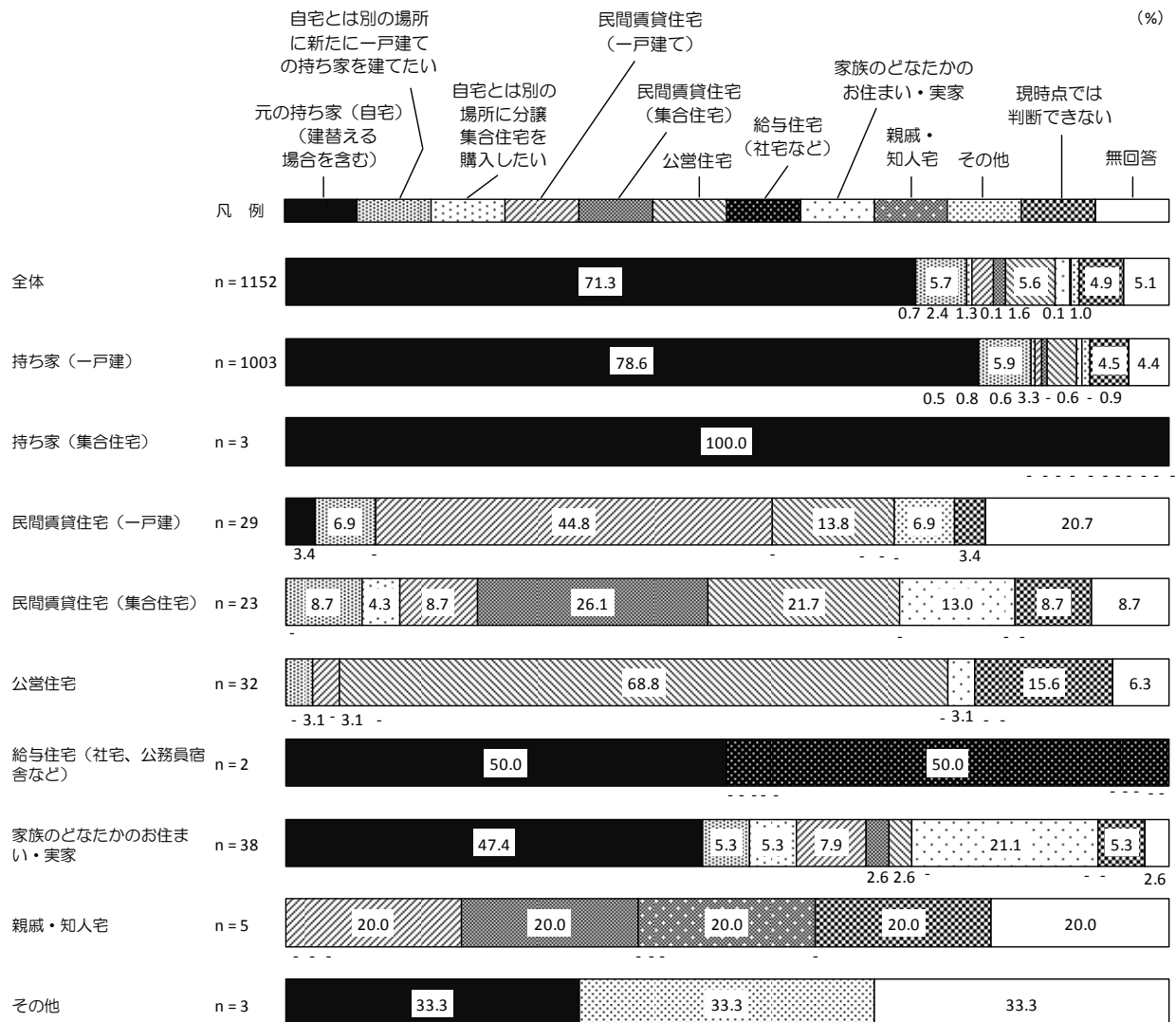


＜図表3-3-6-2 帰還する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



震災発生時の住居形態別にみると、現在持ち家（一戸建）の方については「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」（78.6%）が約8割となっており、最も高くなっている。

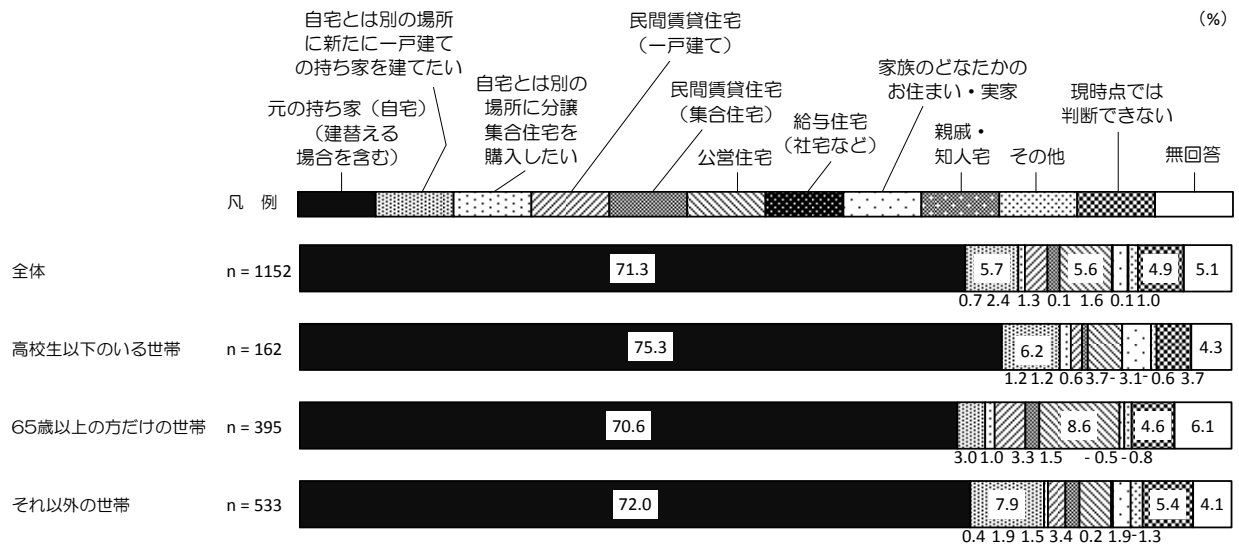
＜図表3-3-6-4 帰還する場合の住居形態（震災発生時の住居形態別）＞



Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの世帯構成でも7割を超えており、最も割合が高くなっている。

＜図表3－3－6－5 帰還する場合の住居形態（現在の世帯構成別）＞



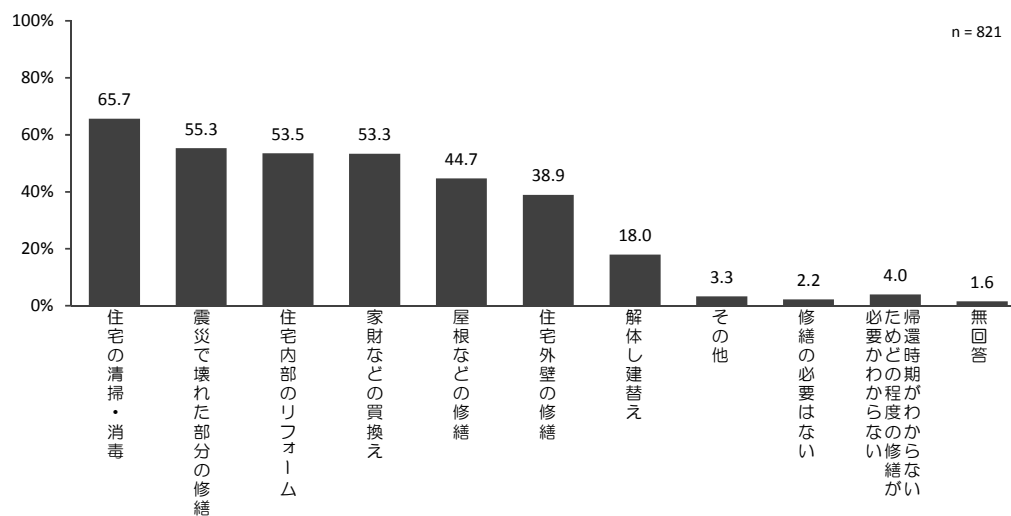
3-3-7 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕

【問 14-4で「1.元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 14-5 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

元の持ち家に戻る場合に必要な修繕については、「住宅の清掃・消毒」が65.7%と最も高く、次いで「震災で壊れた部分の修繕」が55.3%、「住宅内部のリフォーム」が53.5%、「家財などの買換え」が53.3%などとなっている。

＜図表3-3-7-1 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕＞



Ⅲ 調 査 結 果

震災発生時の居住行政区別にみると、いずれの居住行政区においても「住宅の清掃・消毒」と「震災で壊れた部分の修繕」は概ね5割以上となっている。

なお、避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域別にみると、帰還困難区域は、「解体し建替え」が23.8%となっており、他の区域と比べて割合が高くなっている一方、「住宅の清掃・消毒」(52.4%)、「震災で壊れた部分の修繕」(41.5%)、「住宅内部のリフォーム」(44.9%)、「家財などの買換え」(44.9%)などについては、他の区域と比べて割合が低くなっている。

＜図表3－3－7－2 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕（居住行政区別）＞

	n	（％）											
		住宅の清掃・消毒	震災で壊れた部分の修繕	住宅内部のリフォーム	家財などの買換え	屋根などの修繕	住宅外壁の修繕	解体し建替え	その他	修繕の必要はない	程度がわからないため	無回答	
全 体	821	65.7	55.3	53.5	53.3	44.7	38.9	18.0	3.3	2.2	4.0	1.6	
1区	23	91.3	60.9	60.9	60.9	43.5	47.8	4.3	-	4.3	-	-	
2区	8	50.0	62.5	50.0	62.5	50.0	25.0	12.5	-	-	-	12.5	
3区	8	87.5	62.5	87.5	62.5	50.0	62.5	-	-	-	-	-	
4区	24	87.5	50.0	66.7	62.5	25.0	37.5	12.5	12.5	-	4.2	-	
5区	27	55.6	37.0	29.6	48.1	22.2	29.6	11.1	-	7.4	11.1	3.7	
6区	14	71.4	71.4	64.3	35.7	21.4	28.6	7.1	-	7.1	7.1	-	
7区	10	70.0	70.0	40.0	70.0	60.0	30.0	10.0	-	-	10.0	-	
8区	16	62.5	50.0	50.0	43.8	43.8	62.5	18.8	-	-	-	-	
佐屋前	20	80.0	55.0	65.0	75.0	40.0	40.0	5.0	5.0	5.0	-	-	
川添北	33	69.7	60.6	54.5	54.5	48.5	45.5	21.2	3.0	6.1	3.0	-	
川添南	29	75.9	72.4	62.1	55.2	55.2	51.7	13.8	-	-	-	3.4	
上ノ原	48	70.8	66.7	58.3	56.3	60.4	41.7	12.5	4.2	-	2.1	-	
樋渡・牛渡	44	59.1	45.5	40.9	38.6	20.5	25.0	36.4	4.5	-	4.5	2.3	
高瀬	31	61.3	48.4	54.8	45.2	48.4	35.5	3.2	3.2	6.5	-	3.2	
幾世橋	31	61.3	51.6	51.6	45.2	41.9	35.5	12.9	6.5	-	3.2	-	
北幾世橋北	49	59.2	59.2	57.1	55.1	55.1	53.1	24.5	10.2	-	6.1	-	
北幾世橋南	10	70.0	50.0	40.0	60.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	-	-	
北棚塩	17	76.5	64.7	64.7	70.6	47.1	35.3	23.5	-	-	-	5.9	
南棚塩	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	
請戸北	1	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
請戸南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
両竹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
小丸	7	85.7	28.6	71.4	42.9	42.9	14.3	14.3	28.6	-	-	-	
畑川	2	50.0	50.0	50.0	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	
井手	16	50.0	50.0	56.3	62.5	43.8	25.0	37.5	-	-	-	6.3	
田尻	35	77.1	60.0	45.7	57.1	62.9	45.7	11.4	-	-	2.9	-	
末ノ森	7	85.7	42.9	71.4	57.1	28.6	57.1	14.3	-	-	-	-	
大堀	16	25.0	50.0	25.0	37.5	43.8	25.0	37.5	6.3	-	12.5	6.3	
小野田	21	81.0	66.7	61.9	71.4	52.4	61.9	4.8	4.8	-	9.5	-	
谷津田	8	50.0	37.5	37.5	37.5	25.0	12.5	50.0	-	-	-	-	
酒井	13	61.5	69.2	61.5	53.8	53.8	53.8	30.8	7.7	-	-	-	
室原	26	50.0	34.6	38.5	50.0	19.2	34.6	42.3	-	-	15.4	-	
立野上	9	55.6	66.7	22.2	22.2	55.6	11.1	11.1	-	-	11.1	11.1	
立野中	13	53.8	38.5	38.5	38.5	23.1	23.1	38.5	-	-	7.7	-	
立野下	25	64.0	52.0	68.0	56.0	56.0	48.0	12.0	-	-	4.0	-	
刈宿	15	40.0	40.0	40.0	40.0	33.3	6.7	33.3	6.7	6.7	13.3	-	
加倉	32	71.9	59.4	65.6	56.3	71.9	46.9	21.9	3.1	-	-	-	
酒田	24	75.0	70.8	66.7	75.0	50.0	50.0	12.5	4.2	4.2	-	-	
西台	19	84.2	84.2	68.4	78.9	63.2	52.6	21.1	-	-	-	-	
藤橋	19	63.2	68.4	63.2	63.2	52.6	42.1	21.1	-	5.3	-	-	
羽附	6	83.3	50.0	83.3	66.7	50.0	50.0	-	-	16.7	-	-	
津島	23	34.8	30.4	26.1	30.4	26.1	13.0	8.7	4.3	13.0	8.7	8.7	
下津島	7	71.4	85.7	71.4	42.9	71.4	57.1	-	-	-	-	-	
南津島上	8	50.0	-	50.0	25.0	25.0	12.5	25.0	-	12.5	12.5	12.5	
南津島下	11	54.5	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	9.1	9.1	-	9.1	9.1	
赤宇木	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
手七郎	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
大星	2	100.0	50.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	
避難指示解除準備区域	328	69.2	57.6	56.7	57.3	43.6	40.9	13.4	3.7	2.7	3.0	1.2	
居住制限区域	336	67.9	58.6	53.9	53.3	49.7	40.2	19.6	2.7	1.2	3.6	0.9	
帰還困難区域	147	52.4	41.5	44.9	44.9	34.7	31.3	23.8	4.1	3.4	7.5	4.1	

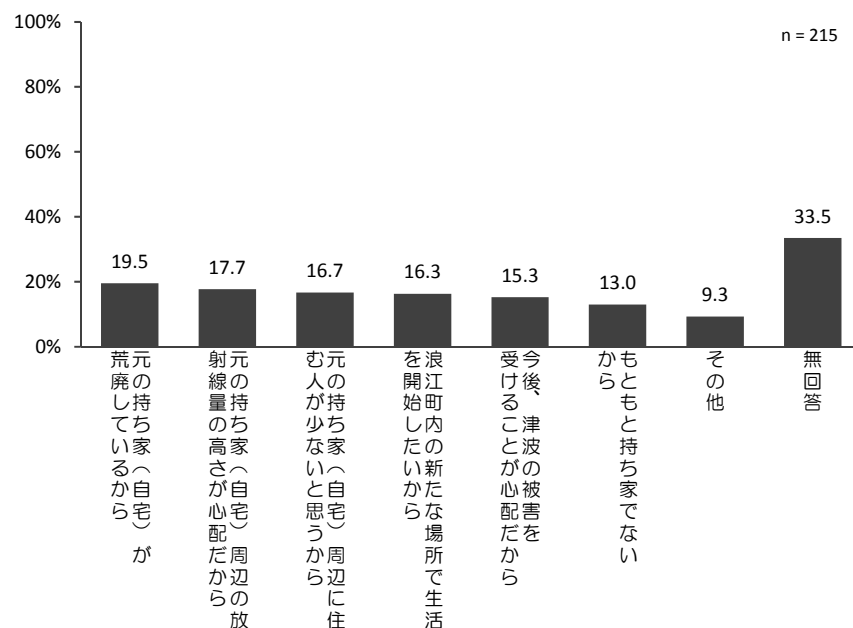
3-3-8 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 14-4 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 14-6 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。（〇はいくつでも）

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が 19.5%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が 17.7%、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」が 16.7%、「浪江町内の新たな場所で生活を開始したいから」が 16.3%となっている。

＜図表 3-3-8-1 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由＞



Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、各居住行政区によって状況は異なるが、避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域別にみると、避難指示解除準備区域では、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が10.9%となっており、他の区域と比べて割合が低くなっている一方、「今後、津波の被害を受けることが心配だから」が31.7%と他の区域と比べて割合が高くなっている。

＜図表３－３－８－２ 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（居住行政区別）＞

		(%)							
	n	元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	元の持ち家（自宅）周辺から放射線量の高さが心配だから	元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから	浪江町内の新たな場所まで生活を開始したいから	今後、津波の被害を受けることが心配だから	もともと持ち家でないから	その他	無回答
全 体	215	19.5	17.7	16.7	16.3	15.3	13.0	9.3	33.5
1 区	4	-	-	-	25.0	-	-	25.0	50.0
2 区	5	20.0	-	-	40.0	-	-	20.0	40.0
3 区	2	-	-	50.0	-	-	-	100.0	-
4 区	6	33.3	-	16.7	33.3	-	16.7	-	33.3
5 区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 区	2	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
7 区	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
8 区	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
佐屋前	4	25.0	25.0	25.0	50.0	-	-	-	25.0
川添北	12	33.3	33.3	25.0	16.7	8.3	25.0	-	16.7
川添南	5	-	40.0	40.0	20.0	-	-	-	60.0
上ノ原	18	16.7	11.1	5.6	5.6	-	38.9	5.6	50.0
樋渡・牛渡	19	15.8	10.5	-	-	-	36.8	5.3	42.1
高瀬	3	33.3	-	-	-	-	-	-	66.7
幾世橋	6	16.7	-	-	16.7	-	33.3	-	50.0
北幾世橋北	7	-	-	28.6	28.6	14.3	-	42.9	14.3
北幾世橋南	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
北棚塩	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南棚塩	14	-	-	14.3	14.3	57.1	-	14.3	21.4
請戸北	13	7.7	-	23.1	-	53.8	-	15.4	30.8
請戸南	19	5.3	5.3	15.8	15.8	57.9	-	15.8	21.1
中浜	5	-	-	-	20.0	60.0	-	20.0	20.0
両竹	2	50.0	-	50.0	-	100.0	-	-	-
小丸	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-
畑川	1	-	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-
井手	7	42.9	71.4	42.9	14.3	-	-	14.3	28.6
田尻	6	33.3	16.7	33.3	16.7	-	50.0	-	16.7
末ノ森	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大堀	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-
小野田	3	66.7	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3
谷津田	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
酒井	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
室原	7	57.1	57.1	28.6	57.1	-	-	-	-
立野上	3	100.0	66.7	33.3	-	-	-	-	-
立野中	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0
立野下	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-
刈宿	3	66.7	66.7	-	-	-	-	-	33.3
加倉	4	-	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	50.0
酒田	7	-	14.3	14.3	14.3	-	-	-	85.7
西台	4	-	-	-	25.0	-	25.0	-	50.0
藤橋	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-
羽附	-	-	-	-	-	-	-	-	-
津島	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-
下津島	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南津島上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南津島下	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0
赤宇木	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
手七郎	2	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
大屋	-	-	-	-	-	-	-	-	-
避難指示解除準備区域	101	10.9	3.0	13.9	17.8	31.7	5.0	14.9	29.7
居住制限区域	85	25.9	23.5	14.1	8.2	1.2	23.5	3.5	41.2
帰還困難区域	25	36.0	60.0	40.0	36.0	-	8.0	8.0	20.0

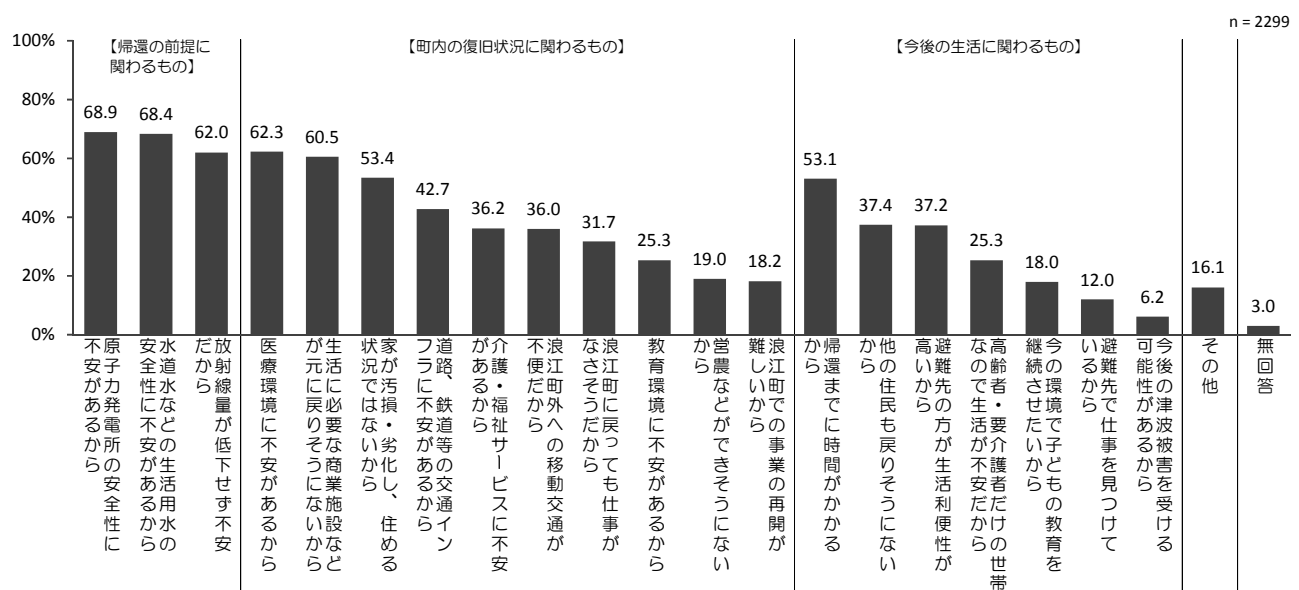
3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由

【問 14 で「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-7 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

戻らないと決めている理由については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が 68.9%と最も高く、次いで「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が 68.4%、「医療環境に不安があるから」が 62.3%、「放射線量が低下せず不安だから」が 62.0%などとなっており、帰還の前提に関わる理由の割合がいずれも6割を超えて高くなっている。

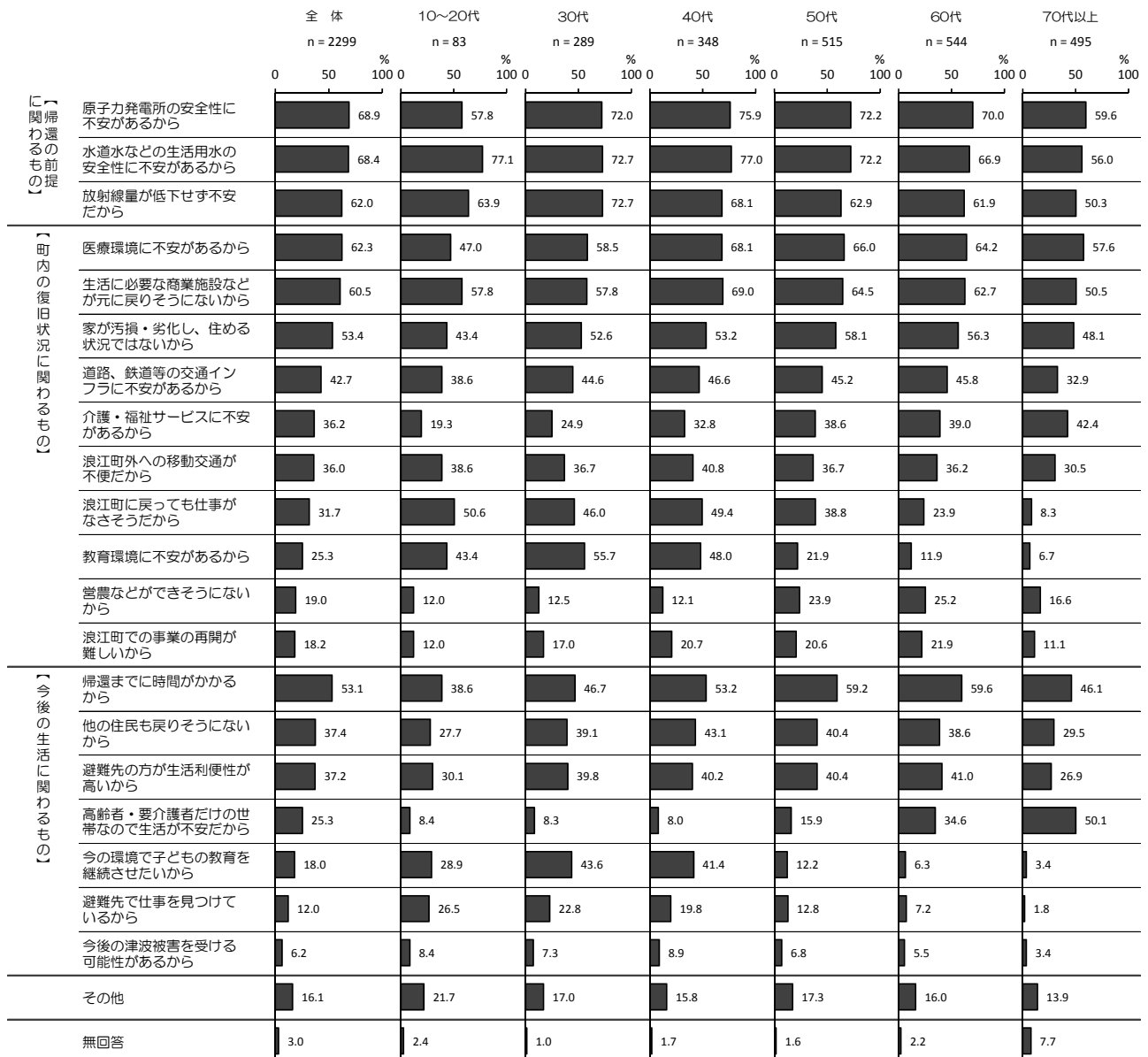
＜図表3-3-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞



Ⅲ 調査結果

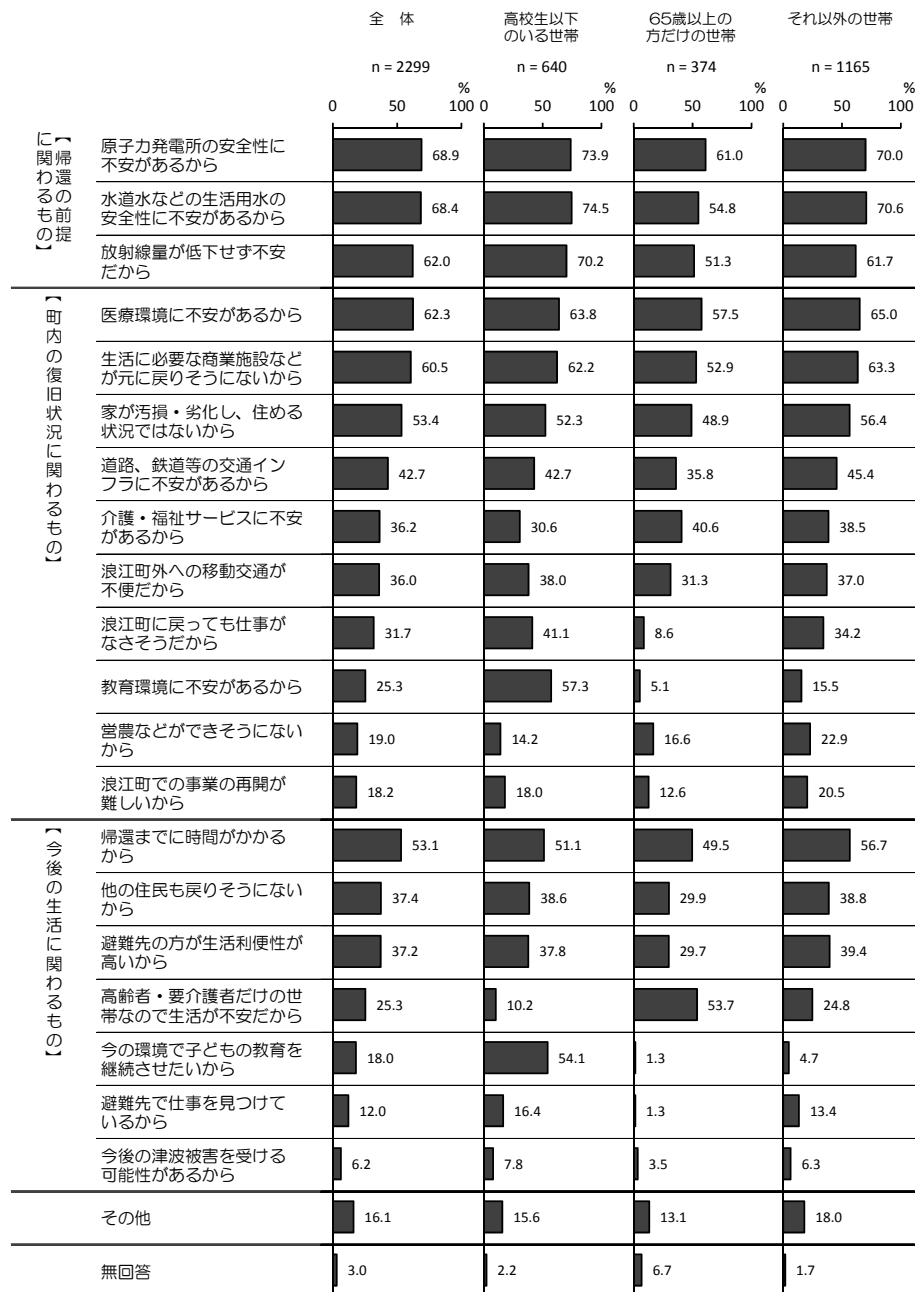
世帯主の年齢別にみると、帰還の前提に関わる理由の割合がいずれの年齢層でも高くなっている。30～40代については、「教育環境に不安があるから」、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」、60代以上では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」が、他の年齢層と比べて高くなっている。

＜図表3-3-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（世帯主の年齢別）＞



現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「教育環境に不安があるから」（57.3%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」（54.1%）が過半数を占める。また、65歳以上の方だけの世帯では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」（53.7%）が他の世帯構成と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-9-3 現時点で戻らないと決めている理由（現在の世帯構成別）＞



3-3-10 帰還しない場合に居住したい自治体

(1) 帰還しない場合の居住予定

【問 14 で「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

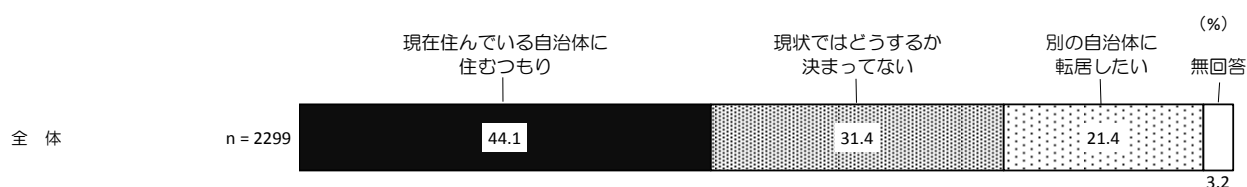
問 14-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(〇は1つ)

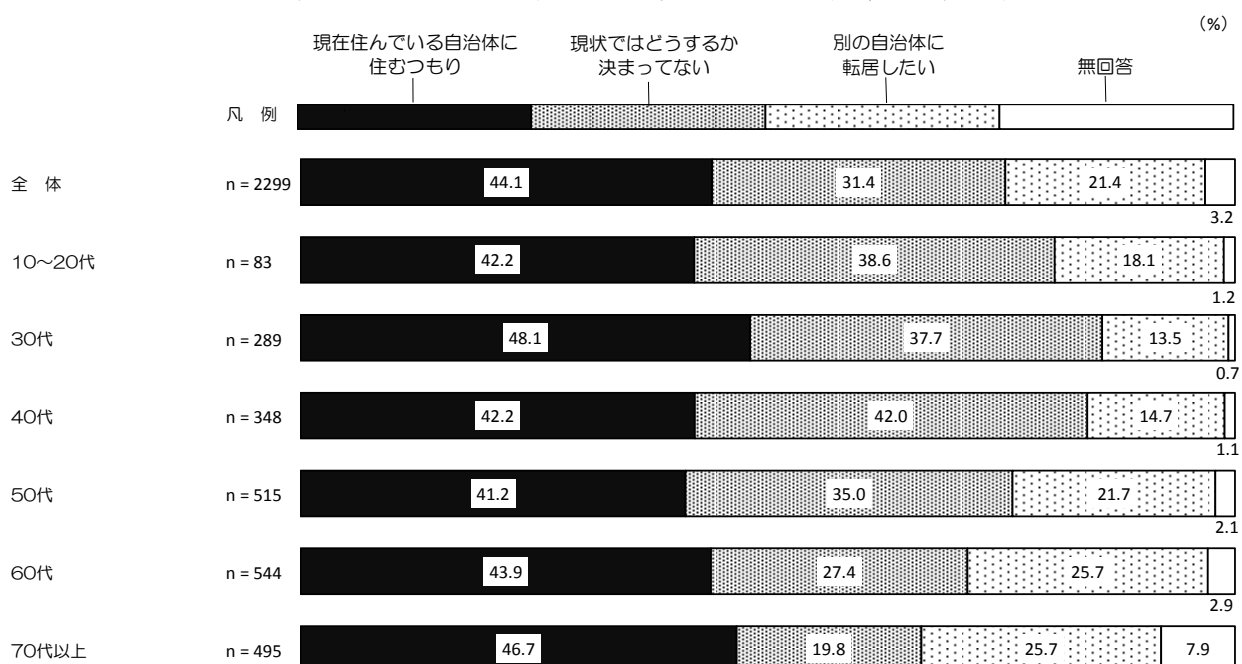
帰還しない場合に居住したい自治体については、「現在住んでいる自治体に住むつもり」が 44.1%と最も高く、次いで「現状ではどうするか決まってない」が 31.4%、「別の自治体に転居したい」が 21.4%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は、いずれの年齢層で最も高くなっている。

＜図表3-3-10-1 帰還しない場合の居住予定＞

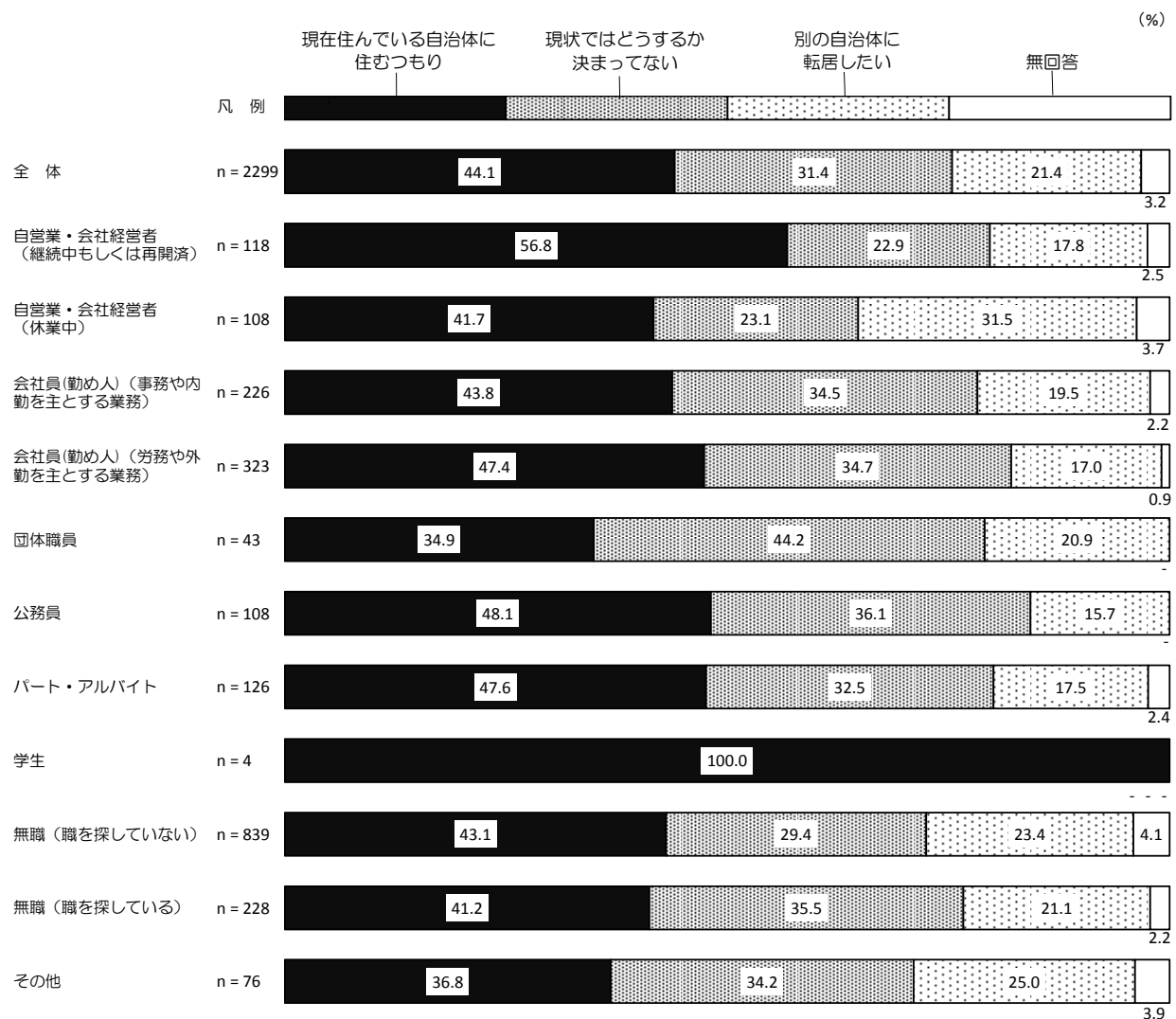


＜図表3-3-10-2 帰還しない場合の居住予定（世帯主の年齢別）＞



現在の職業別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は、概ねいずれの職業でも高くなっているが、団体職員については、「別の自治体に転居したい」が44.2%となっており、他の職業と比べて最も割合が高くなっている。

＜図表3－3－10－3 帰還しない場合の居住予定（現在の職業別）＞

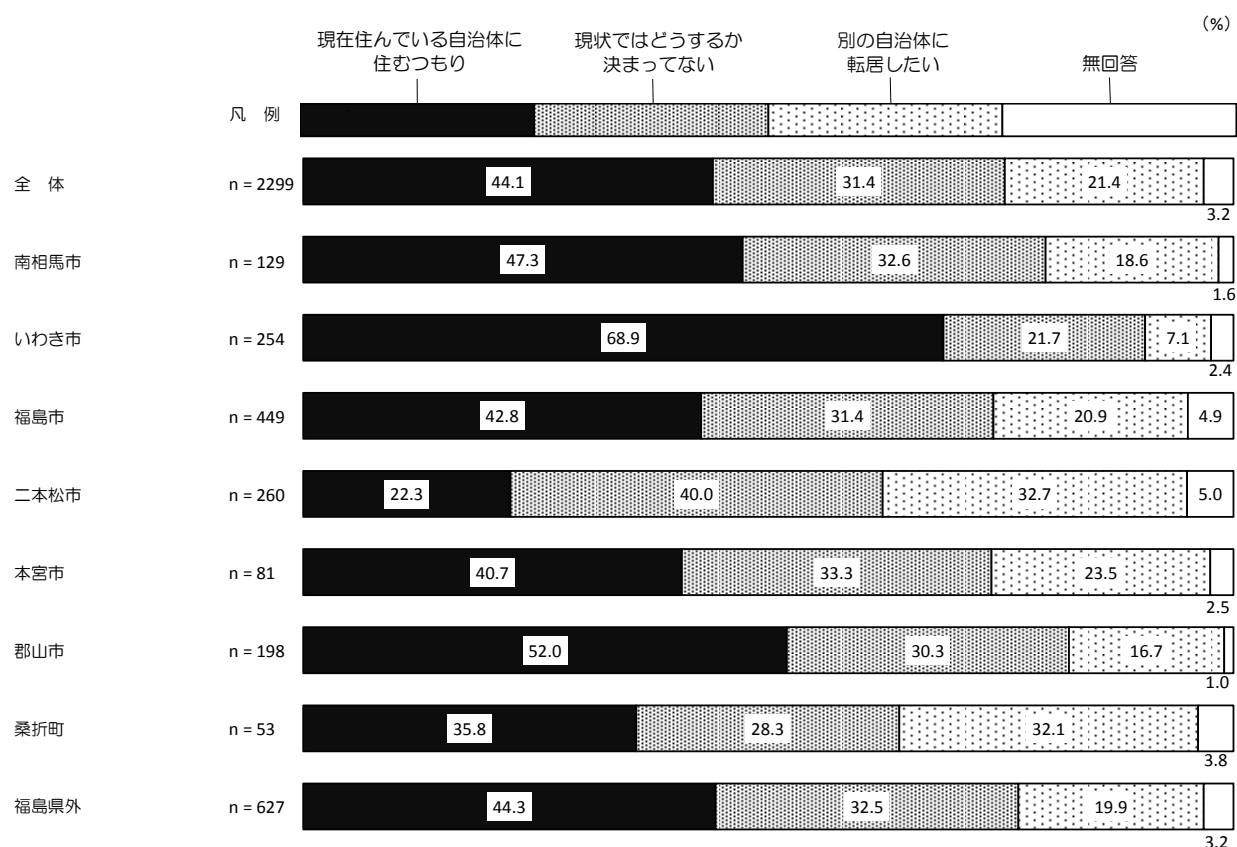


Ⅲ 調査結果

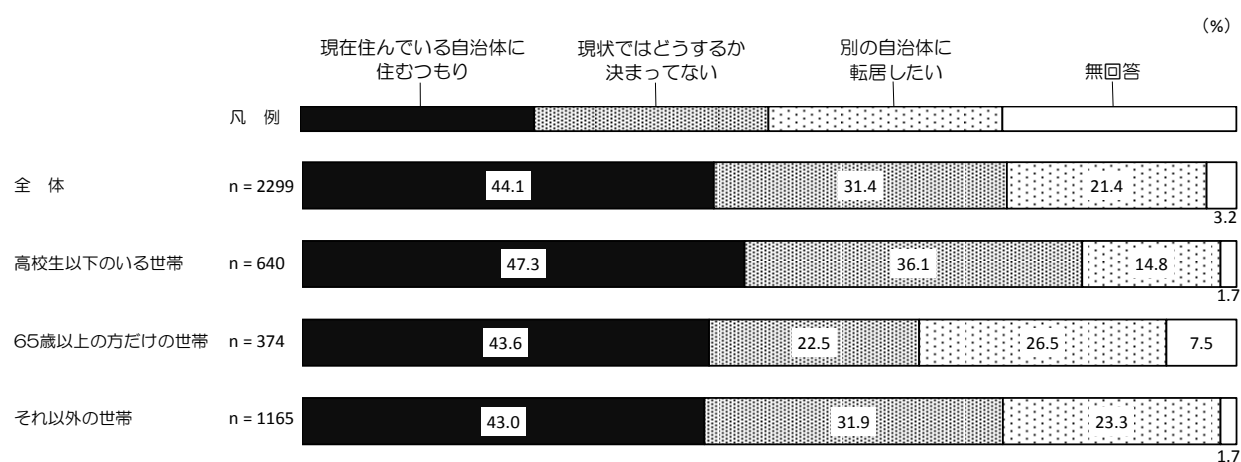
主な避難先自治体別にみると、いわき市、郡山市では「現在住んでいる自治体に住むつもり」が5割を超え、その割合が高くなっている。

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「現状ではどうするか決まってる」が36.1%となり、他の世帯構成と比べて割合が最も高い。

＜図表3-3-10-4 帰還しない場合の居住予定（主な避難先自治体別）＞



＜図表3-3-10-5 帰還しない場合の居住予定（現在の世帯構成別）＞



(2) 転居を希望する自治体

【問 14 で「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

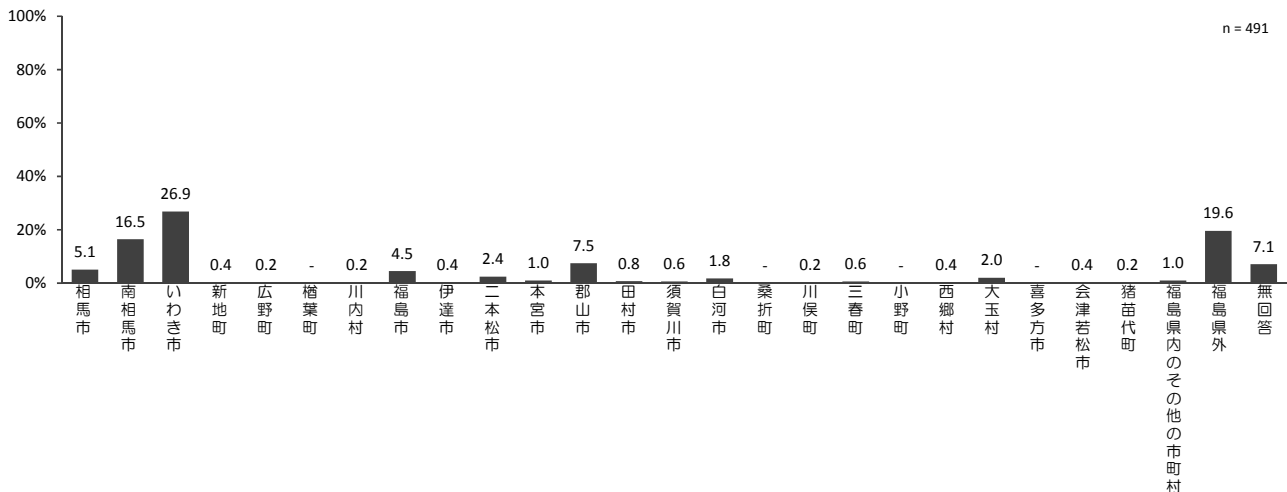
(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

帰還しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」が 26.9%と最も高く、次いで「福島県外」が 19.6%などとなっている。

主な避難先自治体別にみると、二本松市に避難している世帯は「いわき市」を希望する割合が3割を超え高くなっている。

なお、参考として、帰還しない場合の居住予定(問 14-8(1))で「現在住んでいる自治体に住むつもり」とした世帯について、現在の避難先自治体(問 7)の回答を合算して集計した結果が<図表3-3-10-7>の右の表である。これをみると、現在いわき市に避難している世帯のうち9割がそのまま「いわき市」に、現在南相馬市に避難している世帯のうち7割がそのまま「南相馬市」を希望している。

<図表3-3-10-6 転居を希望する自治体>



<図表3-3-10-7 転居を希望する主な自治体(主な避難先自治体別)>

※参考：問 14-8(1)で「現在住んでいる自治体に住むつもり」と回答した世帯も合算した場合

		(%)					
	n	南相馬市	いわき市	福島市	二本松市	郡山市	福島県外
全 体	491	16.5	26.9	4.5	2.4	7.5	19.6
南相馬市	24	-	29.2	8.3	-	-	29.2
いわき市	18	27.8	-	5.6	-	-	22.2
福島市	94	23.4	29.8	-	1.1	6.4	16.0
二本松市	85	17.6	34.1	7.1	-	11.8	7.1
本宮市	19	15.8	31.6	5.3	21.1	15.8	5.3
郡山市	33	21.2	21.2	-	-	-	27.3
桑折町	17	23.5	23.5	11.8	5.9	-	-
福島県外	125	7.2	27.2	2.4	1.6	8.0	33.6

		(%)					
	n	南相馬市	いわき市	福島市	二本松市	郡山市	福島県外
全 体	1504	9.4	20.4	14.2	4.7	9.3	24.9
南相馬市	85	71.8	8.2	2.4	-	-	8.2
いわき市	193	2.6	90.7	0.5	-	-	2.1
福島市	286	7.7	9.8	67.1	0.3	2.1	5.2
二本松市	143	10.5	20.3	4.2	40.6	7.0	4.2
本宮市	52	5.8	11.5	1.9	7.7	5.8	1.9
郡山市	136	5.1	5.1	-	-	75.7	6.6
桑折町	36	11.1	11.1	5.6	2.8	-	-
福島県外	403	2.2	8.4	0.7	0.5	2.5	79.4

現在の世帯構成別にみると、「いわき市」がいずれの世帯構成において最も高い割合となっている。

＜図表３－３－１０－８ 転居を希望する主な自治体（現在の世帯構成別）＞

		(%)					
	n	南 相 馬 市	い わ き 市	福 島 市	二 本 松 市	郡 山 市	福 島 県 外
全 体	491	16.5	26.9	4.5	2.4	7.5	19.6
高校生以下のいる世帯	95	13.7	18.9	6.3	1.1	8.4	23.2
65歳以上の方だけの世帯	99	20.2	40.4	2.0	3.0	7.1	11.1
それ以外の世帯	272	15.4	24.6	5.1	2.9	8.1	21.3

3-3-11 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態

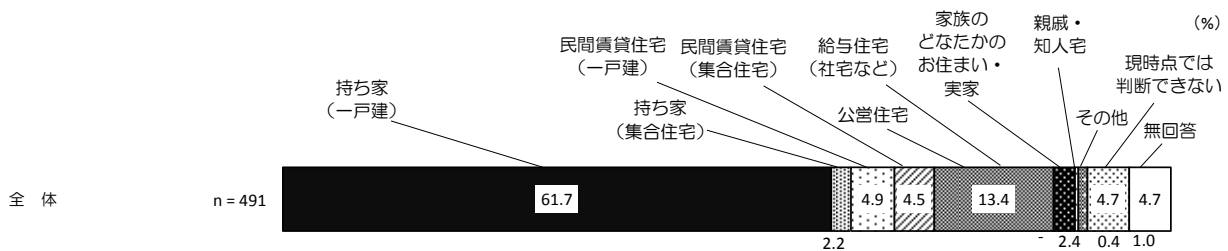
【問 14-8 (1) で「3.別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-9 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

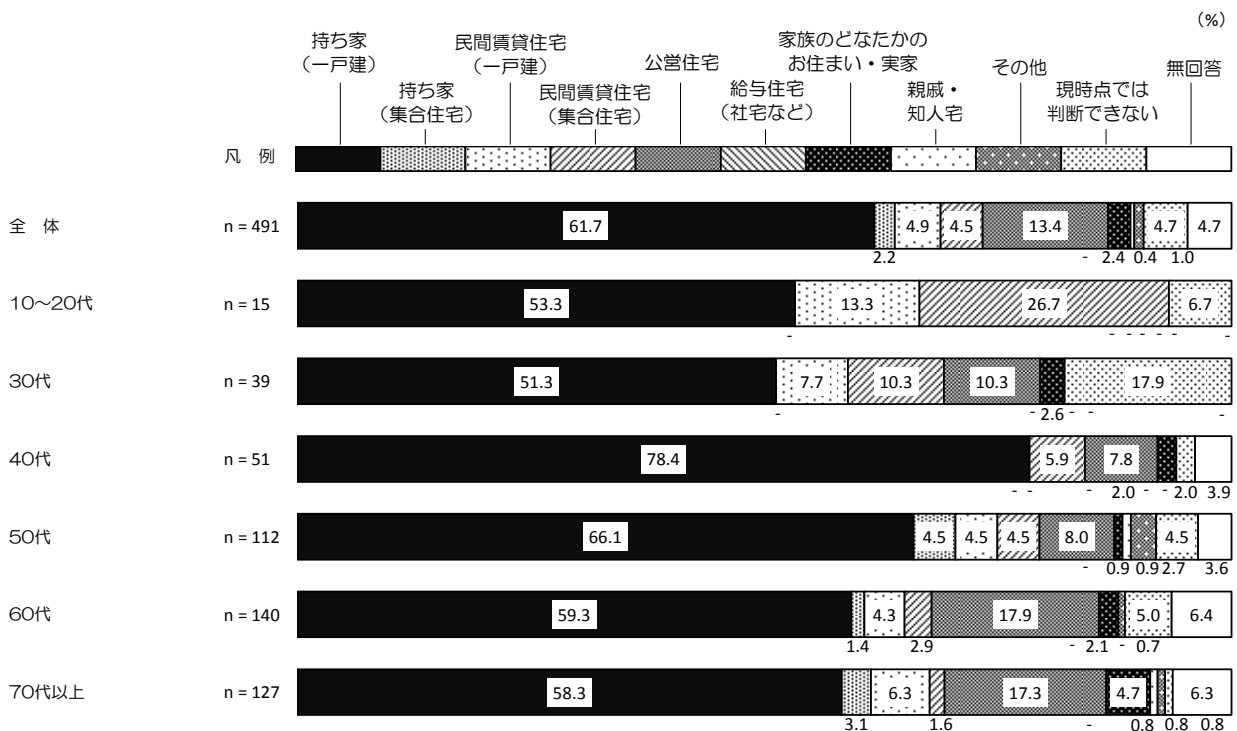
帰還せず別の自治体に転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が61.7%と最も高く、全体の6割以上を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」がいずれの年齢層でも最も高くなっている。また、60代以上では「公営住宅」が他の年齢層に比べて割合が高い。

＜図表3-3-11-1 転居する場合の住居形態＞



＜図表3-3-11-2 転居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



3-3-12 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

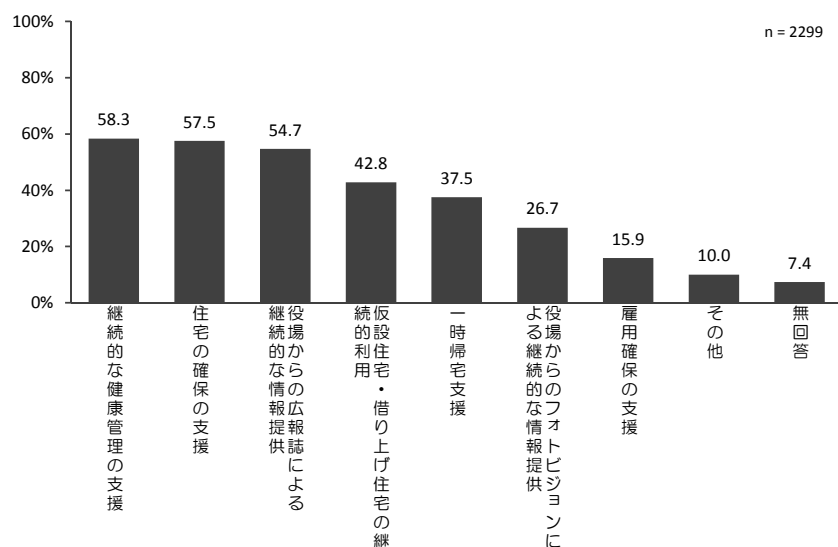
【問 14 で「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-10 震災時に居住されていた浪江町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。
(〇はいくつでも)

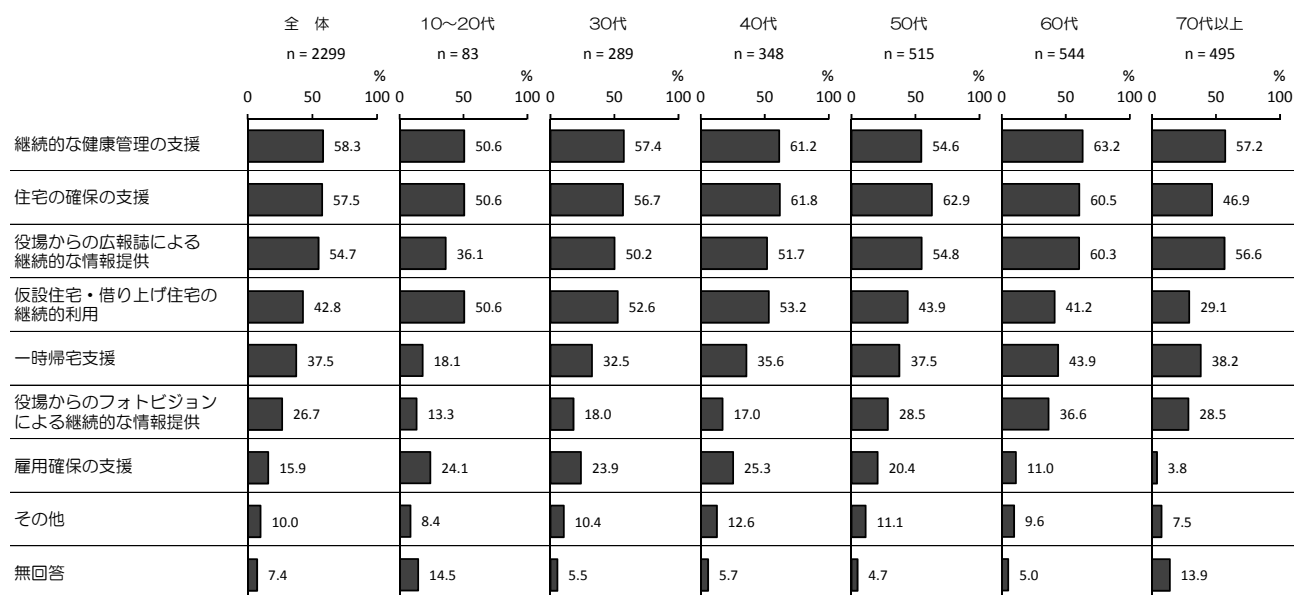
帰還しない場合に今後の生活において求める支援については、「継続的な健康管理の支援」が 58.3%と最も高く、次いで「住宅の確保の支援」が 57.5%、「役場からの広報誌による継続的な情報提供」が 54.7%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「継続的な健康管理の支援」はいずれの年齢層においても5割を超えている。なお「役場からのフォトビジョンによる継続的な情報提供」は、50代以上の年齢層で割合が高くなっている。

＜図表 3-3-12-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援＞

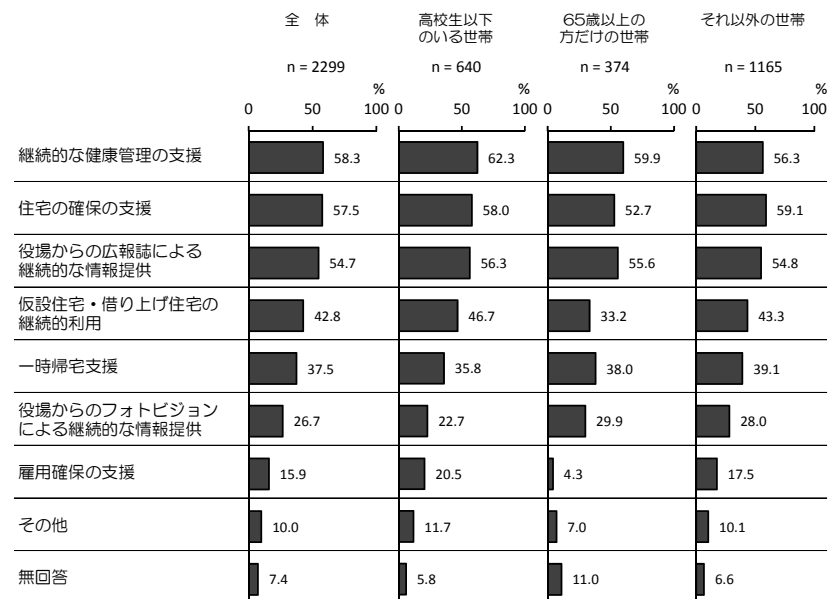


＜図表 3-3-12-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（世帯主の年齢別）＞



現在の世帯構成別にみると、いずれの世帯でもほぼ同様の傾向であるが、「雇用確保の支援」については、高校生以下のいる世帯において20.5%となっており、他の世帯構成と比べて割合が高くなっている。

＜図表3－3－12－3 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（現在の世帯構成別）＞



3-4 意見・要望

問 15 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、2,940 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

●生活について - 避難生活の長期化への不安 - 元の生活が取り戻せるかどうかの不安 - 元の生活、安定した生活の回復 - 元の生活に戻ることにについてのあきらめ - 現在の生活の経済的な不安について - 現在の生活の健康に関する不安について - 現在の生活の仕事・学業に関する不安について - その他現在の生活の不安について - 将来の生活の経済的な不安について - 将来の生活の健康に関する不安について - 将来の生活の仕事・学業に関する不安について - その他将来の生活の不安について - 生活（再建）支援について - その他	●除染について - 除染作業の意義について - 除染作業にかかる費用の他への活用について - 除染作業の効果などについて - 除染作業の実施箇所などについて - 除染作業の早期・迅速・的確な実施について - 除染作業スケジュール明確化について - 中間貯蔵施設について - その他
●震災発生前の居住地について - 帰還困難区域への立入りについて - 帰還困難区域等の設定について - 所有する住まい・土地の買取りについて - 自宅の現状（被害状況）について - 自宅の再建・改築・解体について - その他	●復旧・復興について - 復旧・復興の遅れ、長期化について - 復旧・復興スケジュールについて - 復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について - 町村合併について - ライフライン・インフラの整備について - 社会福祉施設の整備について - 住民の参加・自助努力について - 早期の原状回復・復興実現について - その他
●賠償について - 賠償内容・方法について - 賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について - その他所有する住まい・土地に対する賠償について - その他	●原発の安全性について - 廃炉作業の迅速な実施について - その他廃炉作業について - その他
●帰還について - 帰還への不安 - 帰還可能時期の明確化について - 帰還したい - 帰還しない - 帰還に関する施策について - 帰還を望まない人への対応について - その他	●原発事故に対する対応について - 行政や東電の対応について - 対応の長期化、遅れについて - 情報の開示・発信について - 中長期的スケジュールについて - その他
●避難期間中及び将来の住宅について - 復興公営住宅の早期・迅速な建設について - 復興公営住宅の建設地・形態等について - 復興公営住宅に係る経済的負担について - 復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 - 復興公営住宅への入居について - 居住場所の確保について - 借上げ住宅について - その他	●その他 - 今後のエネルギー政策について - 行政に対する謝意、励まし - その他

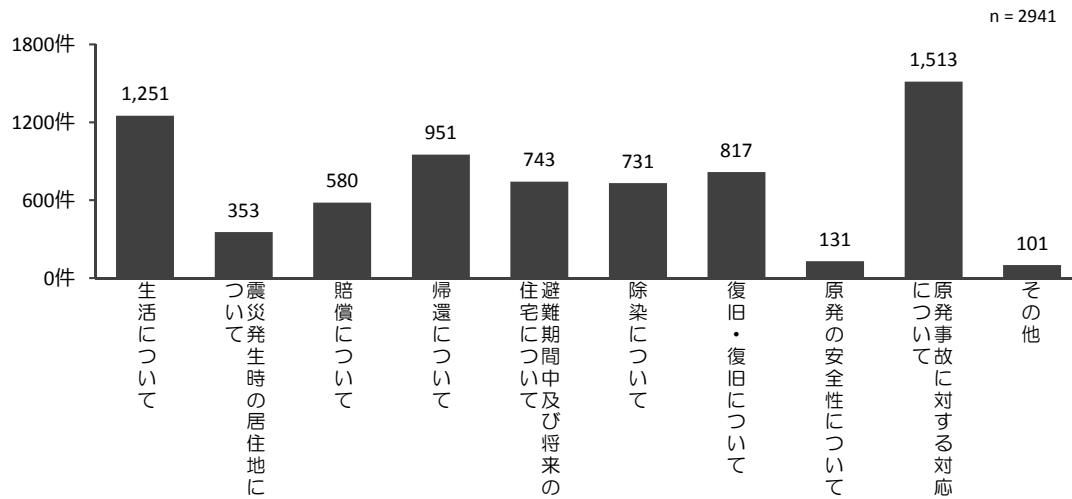
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「原発事故に対する対応について」が 1,513 件と最も多く、次いで「生活について」が 1,251 件、「帰還について」が 951 件などとなっている。

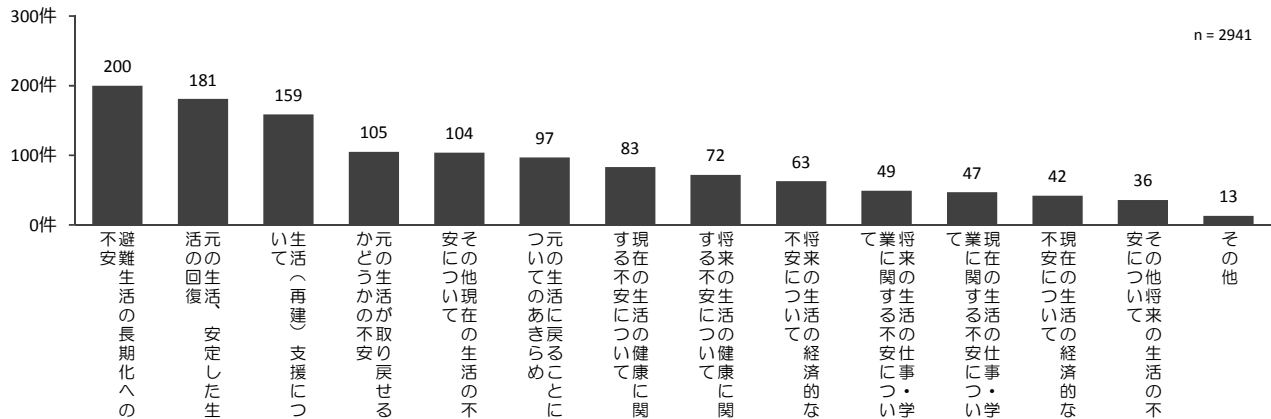
＜図表3－4－1 意見に係る記入内容の分類結果＞



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「避難生活の長期化への不安」が200件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が181件、「生活（再建）支援について」が159件などとなっている。

＜図表3-4-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔避難生活の長期化への不安〕

- ・福島に戻りたくても最終的にどうなるのか先が見えず判断出来ずにいる。本当に住めるのは何年後になるのか、はっきりしてほしい。(40代)
- ・3年近く苦しい生活から落ち着かず、自分の生活が出来ず、なお、50年いた家もなくして、この歳で自分の行く先も居場所もなく、毎日何も手につかず、何をする気にもなれず、心の癒しがありません。(70代以上)
- ・仮設住宅に2年という時がたち、先の見えない中で私達は忘れられている様に思う。先が見えない決まらないのはとても不安で、糸の切れた、風の様です。(40代)
- ・私達はどこに行くのかまだ判断のできない状態です。このままここに留まるのでしょうか。ただ、留まるにしても資金がありません。(50代)

〔元の生活、安定した生活の回復〕

- ・浪江町に帰りたい。でも、もう帰れない。浪江に帰りたい。温かな人情あふれるあの人達に会いたい。(70代以上)
- ・以前、浪江町で住んでいた地域のつながり、交流、コミュニティなどを取り戻して下さい。そして安心して安全で浪江町に住める様にして下さい。(60代)
- ・これ以上私達を苦しめる事ない様、早く早くどうかしてくれと“お願い”するばかりです。落ち着いた生活がしたい。“1日でも早く”と願うばかりです。(50代)

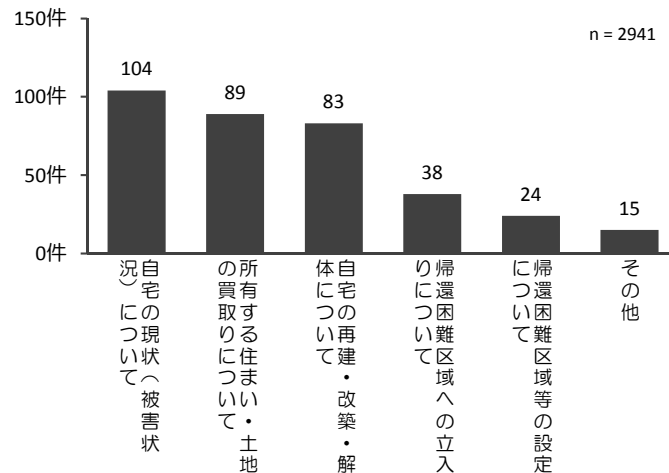
〔生活（再建）支援について〕

- ・実際戻って住むには、外の除染、家の中の掃除他に、賠償等増額してほしい。(60代)
- ・仕事もやめてしまい、ローンも組めません。家を買いたい無職の人のために、ローンを低金利で組めるような特別な制度があれば良いと思います。(40代)
- ・人間と同様、ペットに関しても…もっと支援して欲しい。ペットは物じゃなく、家族です。(40代)

（２）震災発生前の居住地について

居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が 104 件と最も多く、次いで「所有する住まい・土地の買取りについて」が 89 件、「自宅の再建・改築・解体について」が 83 件などとなっている。

＜図表 3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- ・放射能がもれなかったら家も早く修理することが出来たのに…。雨もり・カビ・ねずみなどで家の中が住める状態ではない。これからどうしてよいかわからない。（40 代）
- ・修理すれば住める状況だったが 2 年半の月日は長く、雨もりがひどく解体をせざるを得ない状況になっている。（70 代以上）
- ・一時帰宅するたびに家の劣化がはっきりします。現状を見ても今後の 3 年後に帰っても住めるような状態にするまでは、とても大変な事だと思います。家だけ除染しても生活していくには無理があると思います。（60 代）
- ・一時帰宅で、自宅に戻る度に、住めない状況に心が傾く。放射線量も高く、家屋内が地震で壊れ、物が散乱し、ネズミの糞だらけ。瓦が屋根から落ちて、周囲は雑草が伸び放題。除染しても果たして効果があるのか疑問に思ってしまう。（50 代）

【所有する住まい・土地の買取りについて】

- ・除染しても、どの位下がるかわからない。農地、山林は無理。浪江町はあきらめて全財産を国に買いとってもらって、そのお金で、住みたい所で、生活をした方が、まだ。（40 代）
- ・浪江町にある持ち家を国が買いとってくれば新しい道が開けると思う。浪江にある家のことを考えると、戻りたいと思うが生活していくのはムリ。浪江の家を買いとってくればあきらめがつく。新しい土地で生活をしていく気持ちがうまれると思う。土地を買って家を建てるぐらいの賠償はしてほしい。（40 代）
- ・浪江、大熊、富岡を国で買い取り、住民が住めないように管理し、避難者へも理解をもとめてほしい。もどれるのかもどれないのかうやむやのままよりも、ハッキリと分かった方が、皆も行動しやすいと思う。（20 代）

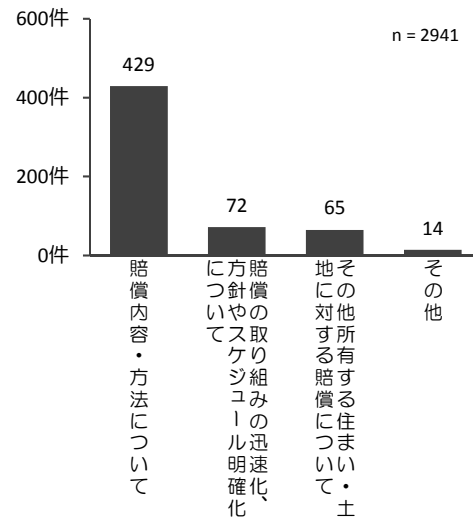
【自宅の再建・改築・解体について】

- ・地震で壊れた家を自治体で解体してほしい。（無回答）
- ・復興後、震災前と同じような状態にしてもらい、以前のように、1 戸建に住みたい。（50 代）
- ・本当に戻れるのか不安。戻れるとしても住居の改修はどうすれば良いのか？（60 代）

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が429件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が72件、「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が65件などとなっている。

＜図表3-4-4 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔賠償内容・方法について〕

- ・不公平感のない賠償や、役場等への手続移動した際の費用等精神的賠償、生活費の増加分として、認められないことに納得できない。国の支援により、負担の少ない形で、土地購入、自宅再建《安価な土地購入への支援等》できるよう、避難前の生活同様の補償を望む。(50代)
- ・復興住宅では、これからも家賃や、色々な面での援助、補助があるでしょう。ローンの支払いもある一戸建てを購入する私達の場合は、何の援助もないという、全く不公平な国の賠償の考え方には納得出来ません。(60代)
- ・原発事故賠償が東電、国の主導で金額が設定されているのはおかしい。本来は被害者側が請求するもののはず。現状の賠償額の少なさ、査定にかかる時間の短縮化はならないものか？(70代以上)

〔賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について〕

- ・なるべく早く定住先が決まるように、賠償も含め、はっきりした結論を出してほしい。(60代)
- ・1日も早い復興、補償をお願い致します。(50代)
- ・復興公営住宅、除染、賠償、等の問題を早く解決してください。(60代)

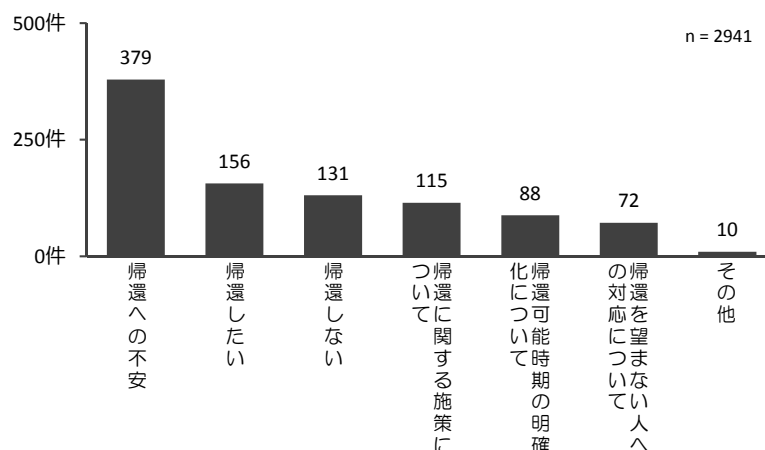
〔その他所有する住まい・土地に対する賠償について〕

- ・10年か20年後では定年を迎える為、早く現在の地に土地・住宅の補償として代替地を用意してほしい。(50代)
- ・浪江には、戻れないという気持ちが強いけれども、リフォームしたばかりの家がもったいないので、まだ、迷っています。国で家を買って取ってもらえないものか？それが出来れば、新しく住める場所を1日も早く求めたい。(60代)
- ・戻りたくても戻れない方々も多く居と思うので、現在の賠償だけではなく、移転補償も選択肢として、盛り込んで欲しい(生活再建の為に)。(50代)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還への不安」が 379 件と最も多く、次いで「帰還したい」が 156 件、「帰還しない」が 131 件などとなっている。

＜図表 3-4-5 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還への不安】

- ・ 浪江に帰って生活は出来るのですか？放射線は大丈夫なのですか？生活しても大丈夫ですか？子供達も生活出来るのですか？（40 代）
- ・ 浪江町に戻る人がほんとうにいるのだろうか？将来的には戻りたい気持ちはありますが、現実的には無理だと思います。（60 代）

【帰還したい】

- ・ 浪江町が好きです。元の環境に近い状態に戻ったならいつでも戻りたい。（20 代）
- ・ 多少、時間がかかっても構わないので、必ず浪江町に帰らせてほしい。まだ 50 代前半なので、もうしばらく待てる。インフラ等、設備を整えて、元の浪江町に戻して欲しい。（50 代）
- ・ 自分が生まれ育った町への愛着は捨てられないし、何よりも、自分が生活した自宅があるから。そういう気持ちで、心の根底にあるから、戻ろうと思った。少しずつでも、町は復興へと進んでいると信じているし、また、信じたいと思うから、待とうと思う。（50 代）

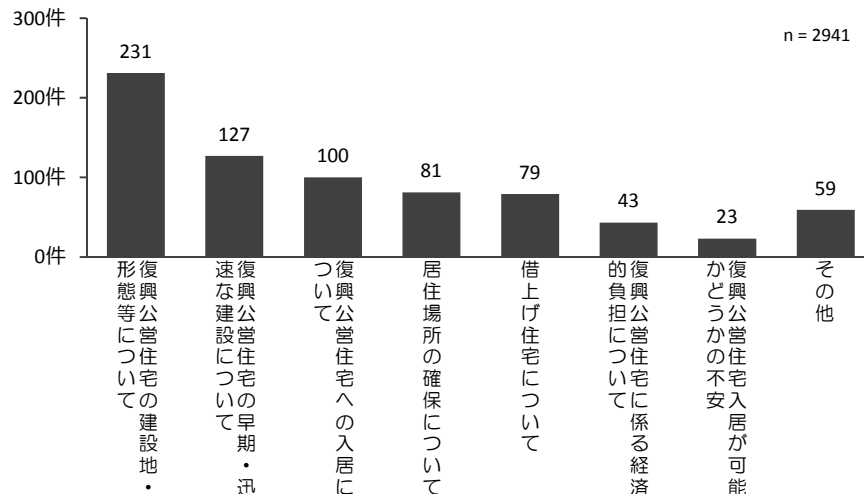
【帰還しない】

- ・ 今、避難先の町に、家を建築しようと計画中です。帰還困難区域という事で、先が見えない避難生活の中で、ようやく辿り着いた決断でした。浪江の家は、主人や、子供達が、生まれ育った家なので「帰らない」と言い切る事は、かわいそうでは言えませんが、ただでさえ、築 80 年ちかい家が、このまま、避難解除になった時、前と変わらない状態で、住めるとも思えず。（40 代）
- ・ 私たちは、もう浪江に戻ろうとは思っていません。残念ですが、月日があまりにも過ぎてしまいました。税金で除染をしなくてよいので、別の場所に永住できるコミュニティを早くつくって下さい。若い世代は、いくらでも自分たちで住まいの確保はできますが、高齢の方々は、本当に大きな問題です。（30 代）
- ・ 家にネズミが侵入、妻が戻る事を諦めた。自分達に戻ったとしても、周りは草だらけの状態です。誰が周囲の管理をするのか不安になった。今の状況を考えると、屋外での趣味は絶対に無理だと思う。娘や孫が来ることができない様な町には住めないと思い、悩み抜いた末に戻らず、新天地に住む事に決心した。（50 代）

（５）避難期間中及び将来の住宅について

住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が231件と最も多く、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が127件、「復興公営住宅への入居について」が100件などとなっている。

＜図表３－４－６ 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- ・復興公営住宅でも、ペットと一緒に暮らしたい。ペットがいる場合には、一階に住まわせてほしいです（トイレが外になってしまいました）。宣しくお願い申し上げます。（60代）
- ・できれば今住んでいる仮設住宅の場所に復興住宅を考えていただきたいです。また違う場所に行っの生活は、ちょっと大変です。（60代）
- ・町内に点在している民家を1ヶ所に集合させ、老人が車いすでも生活できる環境をつくってもらいたい（商店街、金融、病院、役場等も含む）。（60代）

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- ・復興公営住宅の整備は、現時点では、いつになるか分からない。浪江町民の希望者が早く入居出来る事を願っております。（50代）
- ・子どもも日々成長しているので出来れば早く復興住宅を作っていただけるといいですね。押し入れも狭いし、狭いアパートでは限界です…。（30代）
- ・仮設は狭いので、夏、冬はとても辛いです。病院に通院するのも大変です。やはり公営住宅は、一日も早くお願いしたいです。（60代）

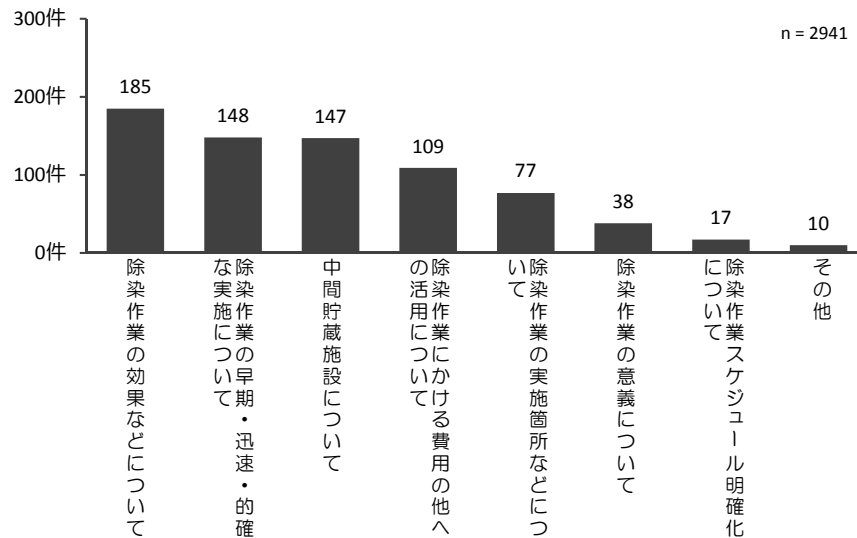
【復興公営住宅への入居について】

- ・復興公営住宅に入居したい。今の家賃を支払い続けるのは、大変です。（40代）
- ・1人暮らしで足が不自由。耳も不自由なので復興住宅では下の階でできれば暮らしたい。（70代以上）
- ・復興公営住宅入居希望者全員が早期に入居し安定生活を始められる事を希望します。（50代）

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の効果などについて」が 185 件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が 148 件、「中間貯蔵施設について」が 147 件などとなっている。

＜図表3－4－7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔除染作業の効果などについて〕

- ・ すべて汚染しているのになぜ住民を帰したいのか。除染をしても無駄ではないのか、くり返し同じ事を毎年するのか。と思うと、戻って生活する事に対しても考えてしまう。不安だけが残る。(30代)
- ・ 家や建物の外を除染しても、家の中の物すべて汚染されています。そんな家に本当に帰れと言われるのでしょうか。(50代)
- ・ 町内の除染作業は無駄ではないでしょうか。現在でも東電からの汚染水もれ等で日々放射線もれがある町にいくらお金をかけて除染しても無駄です。(30代)

〔除染作業の早期・迅速・的確な実施について〕

- ・ 一日も早い除染を希望します。除染を実行していただき、自分の生まれ育った自宅へ戻りたいと考えております。(50代)
- ・ とにかくそっくりそのまま、元の状態にもどしてほしい。海や川の底まで除染して完全に放射線がなくなってから帰ることにしてほしい。家も土地もそっくりそのままもとのように…。それだけが願いです！！(50代)
- ・ 1日でも早く帰りたいので上下水道の整備並びに医療機関を整えてもらいたい。除染を早急にお願いしたい。(70代以上)

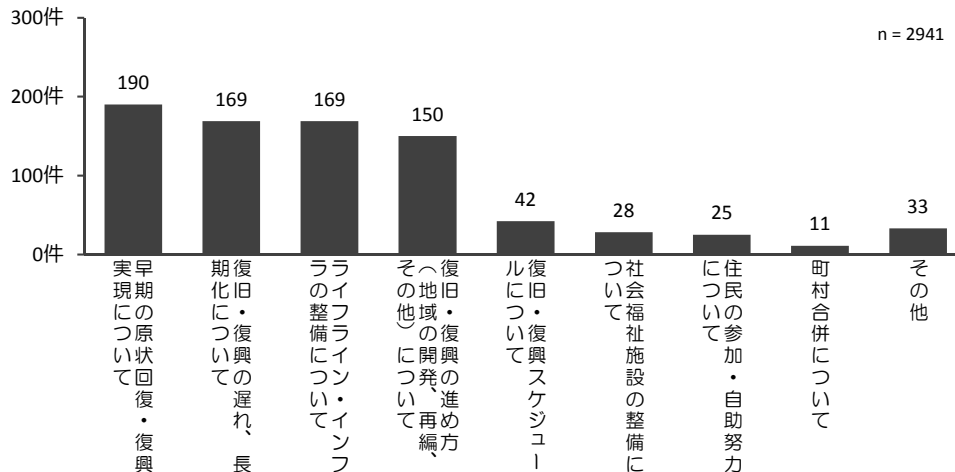
〔中間貯蔵施設について〕

- ・ 川から海への放射性物質の流入問題があっても、海を見ないでの生活は出来ないのでは、何年待っても帰るし、帰りたい。そのためには近くに、中間貯蔵施設を作ってもらいたくない。(60代)
- ・ 中間貯蔵が双葉などに作られたら、汚染されたゴミ等を運ぶ車両が往来します。何が起きても不思議じゃない状況になると思います。私達を帰すことだけ考えないでほしい。帰りたい気持ちは人一倍あるけど、客観的にみれば、無理というのが多数派だと思います。(40代)
- ・ 中間貯蔵は受け入れる県が他にあるとは思えない。汚染された土地で受け入れるべきだと思う。(60代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「早期の原状回復・復興実現について」が190件と最も多く、次いで「復旧・復興の遅れ、長期化について」、「ライフライン・インフラの整備について」が169件などとなっている。

＜図表3-4-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【早期の原状回復・復興実現について】

- ・復興はこれから何年かかるかもわからないでしょうが、それに関わる人達には、頑張ってもらって、1日も早く、元にもどれるようにしてもらいたいと思っております。(50代)
- ・『復興に向けて、国、県、自治体は全力で取り組んで行くこと』を求めます。(60代)
- ・一日も早く元の浪江町に戻れる様国と自治体には早急に復興に向けて対処してほしいです。(50代)

【復旧・復興の遅れ、長期化について】

- ・2年半近くも町の除染も進まず、町内の個々の住宅、道路の荒れはてた姿を一時帰宅のおりに目に見ると我が古里はもう元の姿にはもどらないと帰宅の回数が重なる程に思いが強くなっております。(70代以上)
- ・浪江町にはまだ何年も戻れないので、この歳では戻れるかどうか……。復興が遅すぎます。残念です。(70代以上)

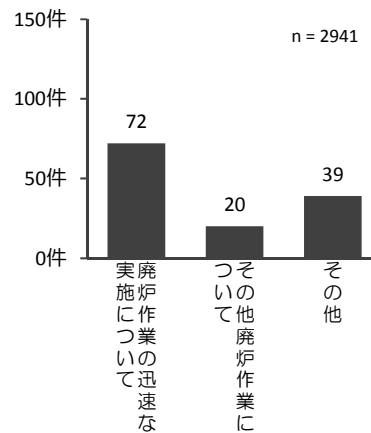
【ライフライン・インフラの整備について】

- ・町内のライフラインの整備を早急をお願いしたい。特に上水道、下水道の整備を！！家の中の整理をするにしても、掃除するにしても、水が無くては何もできません。ただ朽ち果てて行くのを見ているだけでは悲しすぎます。(60代)
- ・鉄道、国道、高速は、早く全面開通にして欲しい。特に鉄道はJR東日本まかせではなく、国が補助して早期復旧を手伝って欲しい。電車はつながってこそ便利なので。(40代)
- ・ライフライン。特に上下水道の復旧計画が、帰還へのすべて。どの程度の被害があり、復旧にどの程度の期間がかかるのか、そして、問題点は一体何か。町民に提示してほしい。(50代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が 72 件、「その他廃炉作業について」が 20 件となっている。

＜図表 3-4-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業の迅速な実施について】

- ・ 原子力発電所内に燃料があるかぎり、安心、安全とは言えないのでは？いつも不安は消えないと思う。国、県、自治体が復興・復旧に金をつぎ込んでも、安心して元通りに生活出来ると思えない。(60 代)
- ・ とにかく早く第一原発を治めて下さい。(60 代)
- ・ 東電だけに任せずもっと国が積極的（主導権を握って）にかかわって早く事故を収束させて欲しい。(40 代)

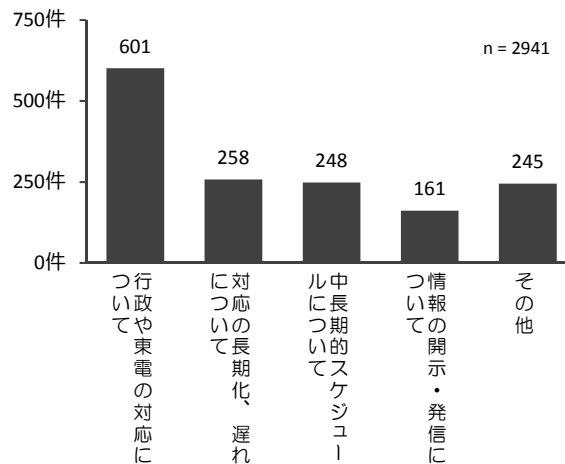
【その他廃炉作業について】

- ・ 本当に廃炉出来ますか？廃炉が出来なければ帰ってもいずれ追い出されるので、帰っても仕方がないのではないか。(70 代以上)
- ・ 原発施設の廃炉を始めとする作業について、東電任せにするのではなく、国が主導となって、今後進めてほしい。(40 代)
- ・ 原発を廃炉にしてからの復興だと思う。(50 代)

（９）原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が 601 件と最も多く、次いで「対応の長期化、遅れについて」が 258 件、「中長期的スケジュールについて」が 248 件となっている。

＜図表３－４－１０ 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- ・ 最近東京電力で汚染水の問題がニュースで取り上げられている。国、県、東京電力にいままで以上に不信感が増している。もう、東京電力は信用できない。国、県は何をしているのか。環境調査、汚染状態、除染状態、不明確でよくわからない。（60 代）
- ・ 国、東電が無責任なのは、良く分かったし、何もしてくれないので、当てにしないから早く自立できるように賠償して下さい。政治家もまったく信用出来ない。（40 代）
- ・ なにを書いても言っても無駄だと、この二年以上の生活で悟りました。国も県も町も東電もなにもししてくれない。（60 代）
- ・ 補償センターに電話しても、委託の方が電話に出て、「ちょっとお待ち下さい」とばかりで、話にならない。（30 代）
- ・ はっきり言って国、県、町には期待できません。国に訴えても国民の声なんて届かないのだと諦めています。（60 代）
- ・ 原子力発電所の事故後、収束どころか、不安になることばかり続いています。避難生活がいつまで続くのかと思うと眠れない毎日が続きます。東京電力まかせではなく、もっともっと国で力を入れなんとかならないものかと思えます。（70 代以上）

【対応の長期化、遅れについて】

- ・ とにかく遅い。国・自治体をもっと強制力を持って決定できるシステムをつくって仮置場・中間貯蔵・最終処分場まで決定し、原発事故の収束を早めるべき。（60 代）
- ・ アンケートや復興計画の会議ばかりで先が見えない。これだけ遅れていくと、帰りたいと思っている人も帰らなくなる。帰ることができない。または復興できないのであれば、早く結論をだしたほうがよい。（60 代）
- ・ 対応や復興に時間がかかりすぎる。国や東電は今後の事をいつまでも延ばし延ばしせず、一日も早く、住宅の確保や最終賠償をして、避難している人達を自立させないと若い人など、だめになってしまうと思います。（50 代）

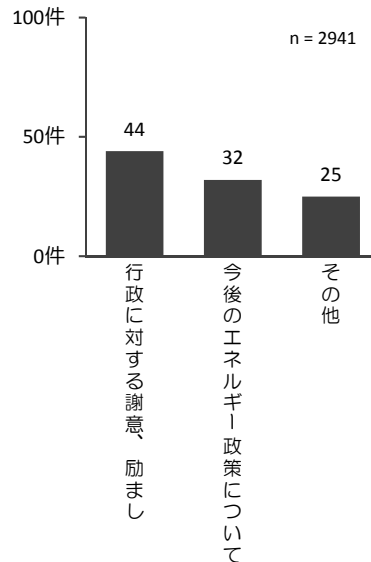
〔中長期的スケジュールについて〕

- ・ 自宅に住める状態ではありません。今後、何年後かは分かりませんが住むとすれば建替えをしなければならない。どうしたらよいか不安です。どうしたらよいか、方向性を指導してほしい。(60代)
- ・ 津波にあった地域の人を町はどうしたいのか早くきめて下さい。津波で亡くなった人の遺骨をいつになったらどういうようにできるのかを早急に連絡下さい。(40代)
- ・ 国は震災から、2年5ヶ月もたっているのに、ぜんぜん前には進んでいないように感じます。スピード感を持って一日も早く復興してほしいです。ハッキリとした決断を望みます。(40代)
- ・ 帰還を判断するための情報は、“～かもしれない、～だろう。”というようなグレイな表現ではなく、具体的な情報提供をお願いしたい。スピード感をもった展開をお願いしたい。理屈よりも、具体的な行動・実施を希望いたします。(50代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が 44 件、「今後のエネルギー政策について」が 32 件となっている。

＜図表 3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔行政に対する謝意、励まし〕

- ・ 町長さん始め、町の行政に携っておられ、ご苦労なさっておられる方々には、心から感謝申し上げます。(60代)
- ・ 事故後の原発で働いている方や他県から来てくれている警察官の方、自衛隊の方ボランティアの方、地元で頑張ってくれている方々には感謝の気持ちでいっぱいです。(30代)
- ・ 多くの町民の要望、気持等を整理、進めて行く事は大変な事と思います。それが仕事とは言え、誠にありがとうございます。(60代)

〔今後のエネルギー政策について〕

- ・ 将来に向けてのエネルギー政策を早急に確立して頂きたい。(70代以上)
- ・ 国には原子力を使ったエネルギー活用やめてほしい。(20代)
- ・ 最終処分も出来ない原発はやめて、今回の事故をきっかけに、エネルギーの転換をすべきであると思う。国の責任で、次の世代に、負の遺産をおしつけるべきではない。(40代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

浪江町住民意向調査

～今後の住宅・町外コミュニティのご希望などについて～

この調査について

●調査対象者：各世帯代表の方

※現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、それぞれの場所にお住まいの代表者の方

●実施主体：復興庁・福島県・浪江町

●提出期限：8月23日（金）まで

記入済の調査票を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。
（切手は不要です）

●ご回答について

記名式でお願いしています。

最初のページに「住所」、「氏名」、「連絡先(電話番号)」の記入をお願いします。

ご回答にあたっては

- ・当てはまる番号を選び、その番号に ○ を記入。
- ・その他に ○ をされた場合は、（ ）内に具体的な内容を記入。
- ・ 内には具体的な内容（地名、数など）を記入。

※この回答により、

- ・ 復興公営住宅への入居の確約となるものではありません。
- ・ 町内に戻ることを求めるものではありません。

ので、現在のお考えをご記入ください。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-955-961

設置期間：8月12日（月）～8月30日（金）
平日 午前10時～午後5時（土・日・祝を除く）

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見や要望などをおうかがいすることを目的として実施しております。今後、改めて、復興公営住宅について、詳しくご意向をお聞きする場合がありますので、現在のご住所とご連絡先のご記入をお願いいたします。

なお、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

《個人情報の取り扱いについて》

- ・ 調査票に記載いただいた個人情報は、浪江町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
- ・ また、回答はすべて統計的な処理を行い、個別内容が公表されることはありません。

F1 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F2 あなたの氏名

F3 あなたの連絡先(電話番号)

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ～19歳 | 8. 50～54歳 |
| 2. 20～24歳 | 9. 55～59歳 |
| 3. 25～29歳 | 10. 60～64歳 |
| 4. 30～34歳 | 11. 65～69歳 |
| 5. 35～39歳 | 12. 70～74歳 |
| 6. 40～44歳 | 13. 75～79歳 |
| 7. 45～49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問 3 へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問 3 へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問 3 へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 (具体的に) |
| 6. 公務員 | |

【仕事に就いている方(問 2 (1) で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に) |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

【仕事に就いている方(問 2 (1) で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

東日本大震災発生当時の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|-----------|---------|----------|
| 1. 1区 | 13. 樋渡・牛渡 | 25. 畑川 | 37. 荻宿 |
| 2. 2区 | 14. 高瀬 | 26. 井手 | 38. 加倉 |
| 3. 3区 | 15. 幾世橋 | 27. 田尻 | 39. 酒田 |
| 4. 4区 | 16. 幾世橋北 | 28. 末ノ森 | 40. 西台 |
| 5. 5区 | 17. 幾世橋南 | 29. 大堀 | 41. 藤橋 |
| 6. 6区 | 18. 北棚塩 | 30. 小野田 | 42. 羽附 |
| 7. 7区 | 19. 南棚塩 | 31. 谷津田 | 43. 津島 |
| 8. 8区 | 20. 請戸北 | 32. 酒井 | 44. 下津島 |
| 9. 佐屋前 | 21. 請戸南 | 33. 室原 | 45. 南津島上 |
| 10. 川添北 | 22. 中浜 | 34. 立野上 | 46. 南津島下 |
| 11. 川添南 | 23. 両竹 | 35. 立野中 | 47. 赤宇木 |
| 12. 上ノ原 | 24. 小丸 | 36. 立野下 | 48. 手七郎 |
| | | | 49. 大昼 |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 当時世帯主だった | 2. 当時世帯主ではなかった |
|-------------|----------------|

【すべての方にうかがいます。】

問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者 | 7. 学生 ⇒問 6 へ |
| 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 8. 無職(職を探していなかった) ⇒問 6 へ |
| 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していた) ⇒問 6 へ |
| 4. 団体職員 | 10. その他 (具体的に |
| 5. 公務員 | |
| 6. パート・アルバイト |) |

【仕事に就いていた方(問 5 (1) で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

【仕事に就いていた方(問 5 (1) で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 公営住宅 |) |

▼【問 6 で「1. 持ち家 (一戸建)」「2. 持ち家 (集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる |
| 2. 修理すれば住める状況 |
| 3. 特に損傷はない ⇒問 7 へ |
| 4. 津波により、家が流出している ⇒問 7 へ |
| 5. わからない ⇒問 7 へ |

▼【問 6-1 で「1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問 6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 地震の影響と思われる大きな損壊等がある | 6. カビが多く発生している |
| 2. 津波被害を受けている | 7. 屋内の放射線量が高い |
| 3. 火災被害を受けている | 8. その他 (具体的に |
| 4. 動物等が侵入した跡があり荒れている |) |
| 5. 雨漏りの形跡がみられる | |

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 7 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. 相馬市
2. 南相馬市
3. いわき市
4. 新地町

【 会 津 】

19. 喜多方市
20. 会津若松市
21. 猪苗代町

【 中 通 り 】

5. 福島市
6. 伊達市
7. 二本松市
8. 本宮市
9. 郡山市
10. 田村市
11. 須賀川市
12. 白河市
13. 桑折町
14. 川俣町
15. 三春町
16. 小野町
17. 西郷村
18. 大玉村

22. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)

→ (市・町・村)

23. 福島県外(具体的にご記入ください。)

→ (都・道・府・県) (市・町・村・区)

Ⅳ 参 考 資 料

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(2) 震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(3) 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む) | 3. 合計3か所に分散 |
| 2. 合計2か所に分散 | 4. 合計4か所以上に分散 |

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 仮設住宅 | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 借り上げ住宅 | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸(有償) | 9. その他 (具体的に) |
| 5. 給与住宅(社宅など) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(○は1つ)

なお、4台以上の場合は、具体的な台数についてもご記入ください。

- | | |
|-------|------------------|
| 1. 1台 | 4. 4台以上(台) |
| 2. 2台 | 5. 保有していない |
| 3. 3台 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 11 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 犬を飼っている | |
| 2. 猫を飼っている | |
| 3. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に) | |
| 4. ペットは飼っていない | |

ここからは、①避難期間中の住居②将来に関するご意向について、二段階でお聞きします。

まずは、避難期間中の住居についてお聞かせください。

ここからの設問は、同封の「浪江町からのお知らせ」、「復興公営住宅について（福島県資料）」をよくお読みになってからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12 現在、福島県は同封資料のとおり、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（○は1つ）

1. 入居を希望する ⇒問 12-2 へ
2. 現時点では判断できない ⇒問 12-1 へ
3. 入居を希望しない ⇒問 12-8 へ

【問 12 で「2. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 集合住宅に住むことに抵抗があるから | 4. 周辺にある施設や住環境がわからないから |
| 2. どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから | 5. 近所にどういう人が住むかわからないから |
| 3. 復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細に分からないから | 6. 自身の生活の見通しが立っていないから |
| | 7. その他（具体的に） |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-2 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。

＜1世帯目＞および次ページの＜2世帯目＞のそれぞれについてお答えください。

あなたのご家族が、1か所の復興公営住宅を希望する場合は、＜2世帯目＞は（3）で「23」を選び、問 12-4 へ進んでください。

＜1世帯目＞

（1）最も希望する自治体を教えてください。（○は1つ）

【 浜 通 り 】 1. 相馬市 2. 南相馬市 3. いわき市 4. 広野町 5. 楢葉町 6. 川内村	【 中 通 り 】 7. 福島市 8. 二本松市 9. 本宮市 10. 郡山市 11. 須賀川市 12. 田村市	13. 白河市 14. 桑折町 15. 川俣町 16. 三春町 17. 小野町 18. 鏡石町 19. 大玉村	【 会 津 】 20. 喜多方市 21. 会津若松市 22. その他 （具体的に）
--	---	---	--

（2）家族構成をご記入ください。（人数で回答）※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

ア) 未就学児 (小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳 (中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

Ⅳ 参 考 資 料

<2世帯目>分散して入居を希望しない場合は、(3)で「23」を選び、問 12-4 へ進んでください。

(3)最も希望する自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】 1. 相馬市 2. 南相馬市 3. いわき市 4. 広野町 5. 楡葉町 6. 川内村	【 中 通 り 】 7. 福島市 8. 二本松市 9. 本宮市 10. 郡山市 11. 須賀川市 12. 田村市 13. 白河市 14. 桑折町 15. 川俣町 16. 三春町 17. 小野町 18. 鏡石町 19. 大玉村	【 会 津 】 20. 喜多方市 21. 会津若松市 22. その他 (具体的に) 23. 分散は希望して いない
--	--	--

(4)家族構成をご記入ください。(人数で回答)※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【分散して復興公営住宅へ入居を希望する方(問 12-2(3)で「1」から「22」に回答した方)にうかがいます。】

問 12-3 復興公営住宅へ2戸以上に分かれて入居する場合、現在ご一緒にお住まいの家族との生活について、どのような形を希望しますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 隣接する別の住宅で生活 | 3. 隣接、近接しない別の住宅で生活 |
| 2. 同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活 | 4. その他(具体的に) |

【現在分散して避難されている方(問 8(3)で「2」から「4」と回答した方)にうかがいます。】

問 12-4 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1. 同じ住宅での生活 | 4. 隣接、近接しない別の住宅で生活 |
| 2. 隣接する別の住宅で生活 | 5. その他(具体的に) |
| 3. 同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活 | 6. 分散して避難している家族は、復興公営住宅への入居を希望しない |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-5 あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。

ご家族が分散して入居を希望する場合には、それぞれ番号をお選びください。

（世帯ごとに、○はいくつでも）

	1世帯目	2世帯目
放射線量や原子力被害の危険性が少ない(ない)から	1	1
気候や風土が良いから	2	2
浪江町に近いから	3	3
現在の避難先に近いから	4	4
人間関係やコミュニティ活動を大切にしたいから	5	5
地域の方が多く住んでいるから	6	6
分かれて住んでいる家族が近くにいるから	7	7
電車やバスなど公共交通機関が整っているから	8	8
医療機関(病院・診療所)が整っているから	9	9
介護・福祉サービスが整っているから	10	10
学校など教育施設が整っているから	11	11
子どもに適した教育(保育)環境があるから	12	12
商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから	13	13
働く場所や機会が多いから	14	14
自分の事業用地や事業に適しているから	15	15
従業員を雇用しやすいから	16	16
その他(具体的に)	17	17

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

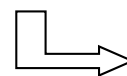
問 12-6 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

1. 医療施設 2. 介護・福祉施設 3. 学校 4. 保育施設 5. 商店	6. 役所(役場)出張所 7. 公園・広場 8. 貸し農園、家庭菜園 9. その他(具体的に)
--	---

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-7 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

1. 避難住民同士の交流会等の開催 2. 地元住民との交流会等の開催 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) 4. 子どもの学習支援	5. 健康相談員の設置 6. その他(具体的に)
---	------------------------------



問 12-12 へ
お進みください

Ⅳ 参 考 資 料

【問 12 で「3. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-8 あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 今の住居で当面、継続して暮らしたい ⇒問 12-9 へ
2. 現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい ⇒問 12-11 へ
3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい ⇒問 12-10 へ
4. 現時点ではわからない、判断できない ⇒問 12-12 へ

【問 12-8 で「1. 今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-9 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1. 今の地域コミュニティになじんでいるから | 7. 子どもを転校させたくないから |
| 2. 立地が気に入っているから | 8. 自分又は家族の持ち家だから |
| 3. 間取り等今の住宅が気に入っているから | 9. 今の住宅の家賃が無償だから
(家賃が賠償対象になっているから) |
| 4. 現在の職場が近くて便利だから | 10. 引っ越しを繰り返すのがいやだから |
| 5. 買い物等の日常生活に便利だから | 11. その他 |
| 6. 防犯上安心だから | (具体的に |

問 12-12 へお進みください

【問 12-8 で「3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-10 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. 相馬市
2. 南相馬市
3. いわき市
4. 新地町
5. 広野町
6. 楡葉町
7. 川内村

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 伊達市
10. 二本松市
11. 本宮市
12. 郡山市
13. 田村市
14. 須賀川市
15. 白河市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 三春町
19. 小野町
20. 西郷村
21. 大玉村

【 会 津 】

22. 喜多方市
23. 会津若松市
24. 猪苗代町

25. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)

→ (市・町・村)

26. 福島県外(具体的にご記入ください。)

→ (都・道・府・県) (市・町・村・区)

【問 12-8 で「2. 現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」
「3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-11 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他 |
| 5. 公営住宅(居住制限者向けの復興公営住宅を除く) | 〔具体的に〕 |

【すべての方にうかがいます。】

問 12-12 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12-13 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。
(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

次に、将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 今後の職業についてどのように考えていますか。(○は1つ)

震災時に自営業・会社経営者以外の方は 下記にご回答ください。	震災時に自営業・会社経営者の方は 下記にご回答ください。
1. 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい 2. 震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい 3. 今後、震災発生当時に勤めていた <u>職場付近</u> で職場が用意されるなら、そこで働きたい 4. 今後、震災発生当時に勤めていた <u>職場付近以外</u> の職場で働きたい → 希望地があれば、具体的にご記入ください (都・道・府・県) (市・町・村・区) 5. 今後、働く予定はない 6. その他 (具体的に)	1. 現在仕事をしており、今後も続けたい 2. 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が <u>元の場所</u> で見通しが立っている 3. 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が <u>元の場所以外</u> で見通しが立っている → 具体的にご記入ください (都・道・府・県) (市・町・村・区) 4. 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、 <u>元の場所</u> で再開させたい 5. 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、 <u>元の場所以外</u> で再開させたい → 具体的にご記入ください (都・道・府・県) (市・町・村・区) 6. 今後、仕事をする予定はない 7. その他 (具体的に)

【問 13 で「3. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい」「4. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(○は3つまで)

1. 職場までの通勤時間	6. 雇用形態	
2. 勤務地(通勤時間を除く)	7. 社会保険の有無	
3. 職種・業種	8. 勤務時間	
4. 給料	9. その他 (具体的に)	
5. 職場の規模		

すべての方にうかがいます。】

問 14 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。（現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください）（○は1つ）

1. 戻りたいと考えている
⇒問 14-3 へ

2. まだ判断がつかない
⇒問 14-1 へ

3. 戻らないと決めている
⇒問 14-7 へ

【問 14 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-1 浪江町へ戻ることを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも）

1. 避難解除となる時期に関する情報
2. 放射線量の低下の見込み、除染成果の状況
3. 中間貯蔵施設の情報
4. 原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）
5. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の見込み
6. どの程度の住民が戻るかの状況
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の見込み
9. 受領する賠償額の確定
10. その他（具体的に
11. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない ⇒問 15 へ

【問 14-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 上記（問 14-1）で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。

そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。
具体的な条件の内容をお書きください。

選択肢番号	具 体 的 な 内 容
(例) 2	元の人口の半分でも戻ってくるのであれば

問 15 へお進みください

【問 14 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 戻る予定の家族の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

ア) 未就学児（小学校入学前）	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳（中学・高校生を除く）	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【問 14 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む) | 7. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | 9. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) | 10. その他 (具体的に |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 6. 公営住宅 | 11. 現時点では判断できない |

「1.元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む)」を選んだ方 ⇒ 問 14-5 へお進みください

「2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」から
「10.その他」を選んだ方 ⇒ 問 14-6 へお進みください

「11.現時点では判断できない」を選んだ方 ⇒ 16 ページ 問 15 へお進みください

【問 14-4 で「1. 元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む)」と回答した方にうかがいます。】

問 14-5 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 1. 震災で壊れた部分の修繕 | 7. 解体し建替え |
| 2. 住宅外壁の修繕 | 8. その他 (具体的に |
| 3. 屋根などの修繕 | |
| 4. 住宅内部のリフォーム | 9. 修繕の必要はない |
| 5. 家財などの買換え | 10. 帰還時期がわからないためどの程度の修繕が必要かわからない |
| 6. 住宅の清掃・消毒 | |

問 15 へお進みください

【問 14-4 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 14-6 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから | 5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | 6. もともと持ち家でないから |
| 3. 浪江町内の新たな場所で生活を開始したいから | 7. その他 (具体的に |
| 4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから | |

問 15 へお進みください

【問 14 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-7 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|--|
| <p>【帰還の前提に関わるもの】</p> <p>1. 放射線量 0 が低下せず不安だから</p> <p>2. 原子力発電所の安全性に不安があるから</p> <p>3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから</p> <p>【町内の復旧状況に関わるもの】</p> <p>4. 浪江町に戻っても仕事になさそうだから</p> <p>5. 浪江町での事業の再開が難しいから</p> <p>6. 営農などができそうにないから</p> <p>7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから</p> <p>8. 浪江町外への移動交通が不便だから</p> <p>9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから</p> <p>10. 医療環境に不安があるから</p> <p>11. 介護・福祉サービスに不安があるから</p> <p>12. 教育環境に不安があるから</p> <p>13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから</p> | <p>【今後の生活に関わるもの】</p> <p>14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから</p> <p>15. 他の住民も戻りそうにないから</p> <p>16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから</p> <p>17. 帰還までに時間がかかるから</p> <p>18. 避難先で仕事を見つけているから</p> <p>19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから</p> <p>20. 避難先の方が生活利便性が高いから</p> <p>21. その他 (具体的に</p> |
|---|--|

【問 14 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 現在住んでいる自治体に住むつもり | } ⇒問 14-10 へ |
| 2. 現状ではどうするか決まってない | |
| 3. 別の自治体に転居したい | |

【問 14-8(1) で「3. 別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|--|--|---|
| 【 浜 通 り 】
1. 相馬市
2. 南相馬市
3. いわき市
4. 新地町
5. 広野町
6. 楡葉町
7. 川内村 | 【 中 通 り 】
8. 福島市
9. 伊達市
10. 二本松市
11. 本宮市
12. 郡山市
13. 田村市
14. 須賀川市
15. 白河市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 三春町
19. 小野町
20. 西郷村
21. 大玉村 | 【 会 津 】
22. 喜多方市
23. 会津若松市
24. 猪苗代町

【 その他 】
25. 福島県内のその他の市町村
(具体的にご記入ください。)
→ <input type="text"/> (市・町・村)
26. 福島県外
(具体的にご記入ください。)
→ <input type="text"/> (都・道・府・県)
<input type="text"/> (市・町・村・区) |
|--|--|---|

【問 14-8(1) で「3. 別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 14-9 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他(具体的に) |
| 5. 公営住宅 | 10. 現時点では判断できない |

【問 14 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-10 震災時に居住されていた浪江町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 住宅の確保の支援 |) |
| 2. 継続的な健康管理の支援 | |
| 3. 雇用確保の支援 | |
| 4. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用 | |
| 5. 役場からの広報誌による継続的な情報提供 | |
| 6. 役場からのフォトビジョンによる継続的な情報提供 | |
| 7. 一時帰宅支援 | |
| 8. その他(具体的に | |

Ⅳ 参 考 資 料

【すべての方にうかがいます。】

問 15 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
8月23日（金）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

**浪江町 住民意向調査
報告書**

**平成26年3月
復興庁**

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター